明治三十五年十二月廿四日
第三種郵便物認可

女學世界

第三巻第六號

口繪



Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN



Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

女學世界 第拾卷第六號 目次

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

最上　元祖

醬油

登錄商標

千葉縣銚子町

釀造元　濱口儀兵衛

は開業二百五十九年
は品質の吟味嚴重也
は風味他品に超絶す
は最高の賞牌を有す
は日本一の釀造高也
は全國到處に販賣す

●醬油の鑑定法

素人や御婦人方に手輕なる醬油の良否判別方は二箇のカラス德利へ二種の醬油を入れ沸騰せる湯の中に五分間浸し置くときは鷄卵の白味が固形すると同じく醬油に含みたる滋養分も凝結して蛋白質を示す此量多き醬油は良品と識らるべし

●醬油の保存法

最上の醬油は決して腐敗する事なけれども夏季に置場所よろしからざる時は稀に白カビの發生する事あり之れを防ぐには醬油を攝氏七十度にて四五分間溫め置けば去る氣遣なしあまり高き溫度は風味と滋養分を害すべし

荷扱所　東京北新堀町七番地

濱口支店

（電話浪花二五九四）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

氷山白熊



京都西村總左衛門製 刺繡

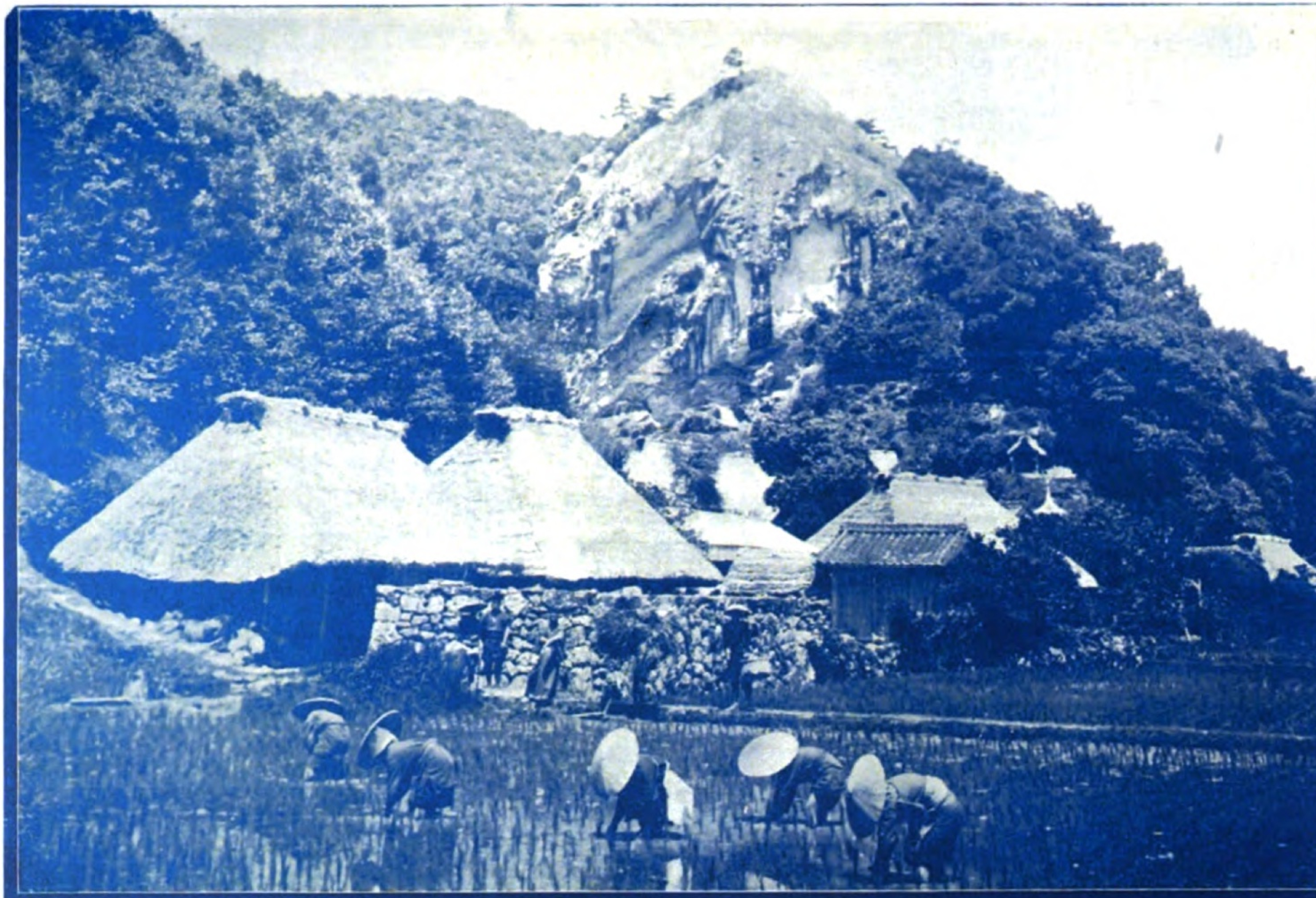
（博進社工場印行）

第五回內國大博覽會出品

Digitized by Google

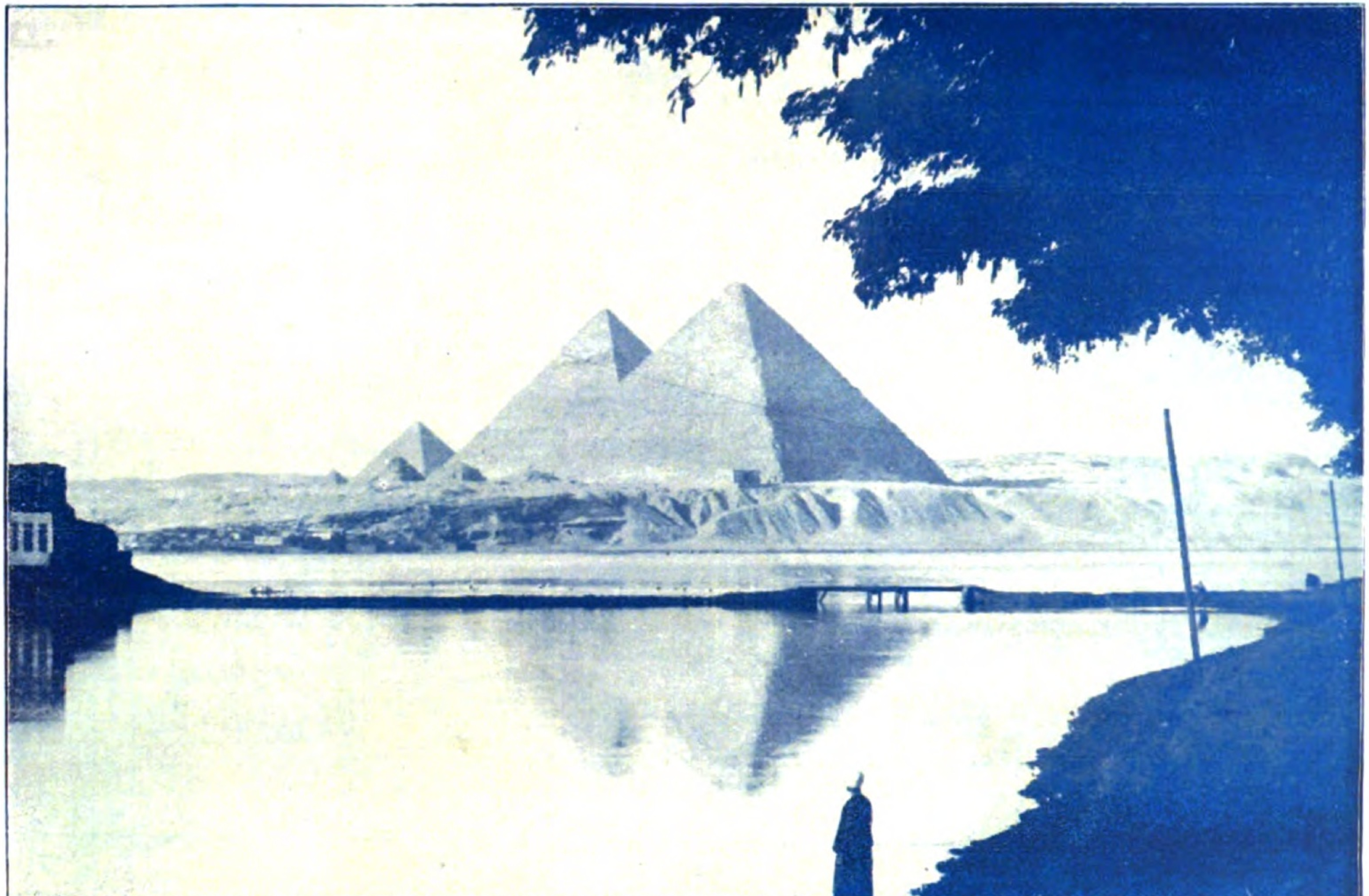
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

歌題（首夏田家）



Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

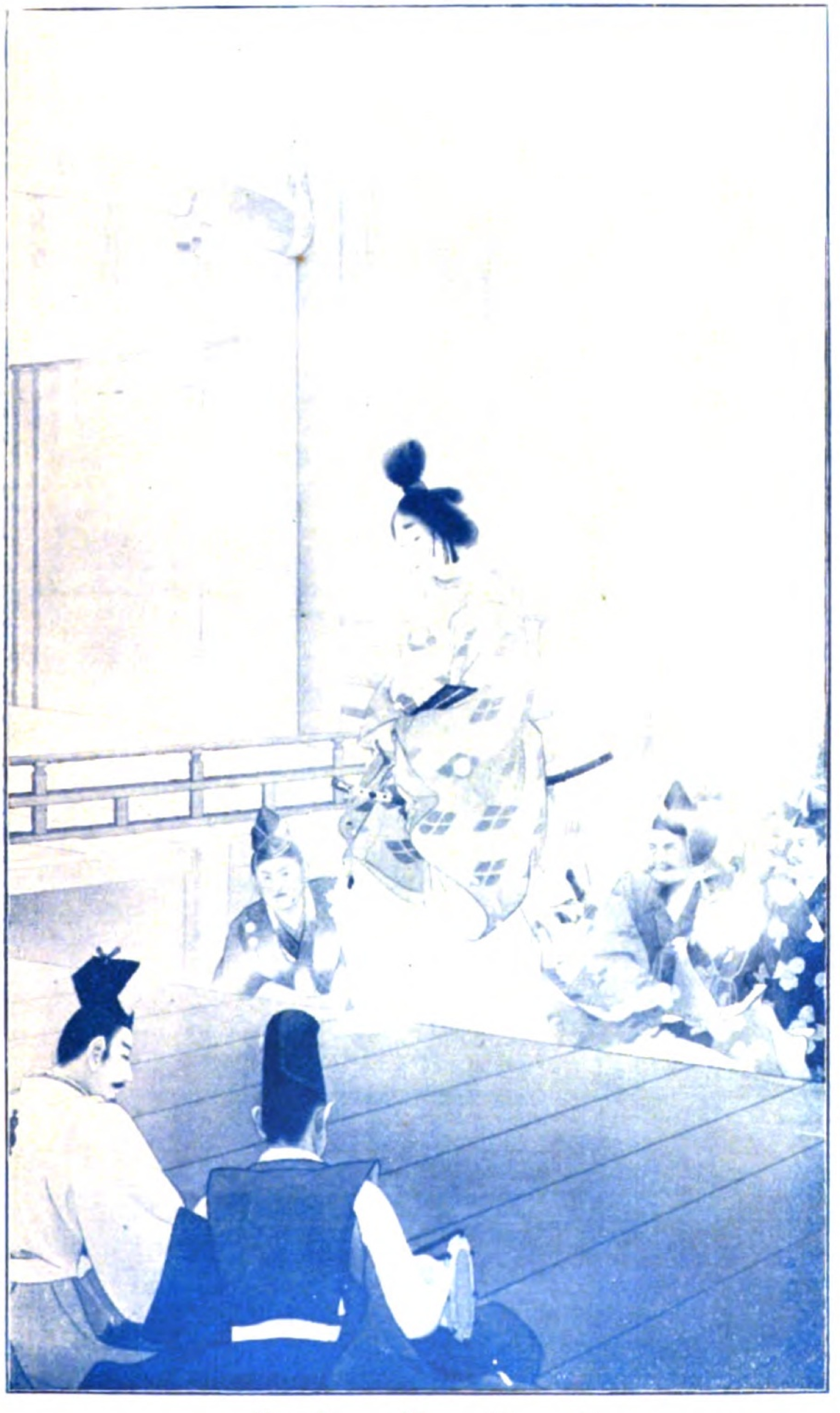
泰西風景



埃及の三角塔

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

靜御前



繪畫共進會出品

北上俊山筆

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

婦德修養婦人必讀之良書

フランツボナイゼン原著
日本齊木仙醉先生譯
海老名彈正夫人序

新刊

噫有情

洋裝美本定價卅錢　郵稅四錢

誤解する勿れ本書は決して淫靡なる小說に非ず、光明の婦人の福音也、樂しき家庭の鼓吹也、原著者は聲名嘖々たる獨乙の文學者フランツ、ボナイゼン氏にして、獨英佛其他各國各時代の大文學者の婦人の美德と、戀愛の美德と、婚姻の美德とに關する、理想を集めたる理想集也、此の書獨乙の文壇に百花爛熳の花園なりと評せられ、淑女青年の愛讀書也、本書を讀める高潔なる一女史評して曰く、此れ世俗の多くの婦女子に關して書かれたる書に似ず、何となれば彼は其の思想地につけるの書にして此は其思想天につけるの書なり此書は亦鏡也、以て淑女の姿を映すべしと以て、其の一斑を悟るべし誠に此の書は婦德修養者必讀の書たり、女學生の文を作る者の好參考書たり家庭の珍品たるは謂ふ迄もなく、詩人は此に慰安の盃を酌むを得べく、求道者は此の中に愛の哲學を聽くことを得ん、敢て江湖の讀者諸君の御愛讀を請ふ

發兌所　東京神田區裏神保町五　東華堂

賣捌　東京堂　岡崎屋

狩野探幽畫　（出版發賣）

探幽百富士

全四冊

◎和裝上製　正價壹圓　郵稅十四錢

狩野探幽は本邦屈指の畫聖なり曾て海內を遍歷し足跡の至らさる所なし常に富嶽の中天に聳え好景所によりて變するを見各所につきて其眞景を描寫し累積遂に百數に達す超風脫俗の筆よく八朶玲瓏の眞景を寫し展觀の下併せて當年の風俗を詳知せらる眞に欠くべからざる閑窓の雅友といふべし

順石軒翁編　（出版發賣）

盆山百景圖

全四冊

◎和裝上製　正價壹圓　郵稅十四錢

一塊の石一握の沙之を盆上に置布して名山勝景を作る其妙技自在なるに至りては觀て圖せさるなく聽て作らざるなし順石軒翁本編を編して鬼飛神馳を示す蓋し斯道の上乘なるもの今や盆山の流行都鄙に盛なり然れとも之れか師友たるべき良書なきに獨り本書を得たるは斯道の鴻幸といふべし

發兌元　東京日本橋本町三丁目　博文館

新刊豫告

文學士 久保天隨先生著

東洋通史

分本十二册

一册紙數二百八十頁
總計三千五百ページ

隔月一回
發行和綴
菊判美本

（甲の二）

天隨先生、年少氣銳、才力雄傑、研鑽すでに久しく、蘊蓄又頗る深く、學は天人の際を貫き、識は古今の表に出で、加ふるに、雄文宏辭、一世を籠盖するの槪あり。先生曩に四書新釋、文章軌範精義の二書を出され、今又此書を著はさる。上は漢族の移動、三代の興亡より、下は日清の葛藤北京城の攻圍に至り、黄禍の豫測を以て之を結ぶ。上下五千年、縱横八十五萬方里、先づ上下兩卷を分ち、四大時期を劃し、章を連ぬる無慮數百。治亂興廢の跡、必ず原委を考へ、終始を綜べ、鉅、囿せざるなく、細、函せさるなく、坤輿の半面にその文化を被及し、印度歐羅巴の人文と相並んで鼎足の勢を爲せる東亞ツラン人種の起伏消長は、實に本書に於て、之を審かにするを得べし、刻下の學界、稀に見るところの一大撰述なり。且其文の如き瑰麗雄奇の趣を極め、光焔萬丈、善く人の眉目を燭す。かの『天爲めに粟を雨らし、鬼爲に夜哭す』といふもの豈に獨り蒼頡の造字のみならんや、本書に於て亦た然り。敢て學者文士及び經世家に一讀を勸む

發兌元 東京日本橋區本町 博文館

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

古錦繪各種珍書珍郵劵精々高價に讓受候故御送附を乞ふ直に送金す照會は往復端書

相模葉山にて　大橋光吉

肺病

私儀多年肺病にて九死の際偶々一奇法發明の爲め全治せる故世の同病者を救ひたき志願に付望の方は郵劵封入にて御照會あれ

千葉縣安房郡曉村千倉　川名助次郎

治肺新法

附錄　肺病全快實歷談

此書は拙者肺病全快に付其實地經驗の方法を詳記したる物郵劵三錢封入申込者に無代施本致すべし

東京下谷上根岸町百十一　藥學得業士　金澤巖

（電話本局二二五九番）

◎東京府教育會に於て女子諸君の爲めに講義錄を發行す◎

高等女學校女子諸君の好參考

一種獨特の通信教授　各科解釋付

女子學術講義

◎新學期開始會員募集

會長子爵岡部長職君

講師◎修身、篠田教授◎國語、佐方教授◎地理、伊藤校長◎日本歷史、高木教諭◎理科、林校長◎家政、下田學監◎裁縫、喜多見舍監◎禮法、小笠原講師◎兒童心理、松本文學士◎女子衞生、鷲山校長◎割烹、赤堀講師其他名家論說、會員の文章和歌等

一ヶ年半卒業　●初號二號既刊　●三號四月三日

目下入會の好時機

◎講義中難解の文字には別に注釋を加へあれば女子の讀み易く了解し易き講義錄

◎入會金廿錢◎會費三ヶ月七十五錢六ヶ月壹圓五拾錢壹年三圓一學期間四圓五拾錢

見本郵劵卅錢

◎入會者に會員證◎卒業者に卒業證書を授く

女學世界へ廣告中の　割引券　入會金特に拾錢に減ず　但し四月中

東京神田一橋通町帝國教育會内　東京府教育會附屬　女子講學會

高等女學校女子諸君の良教師

（甲の三）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

大景品一千圓

中學文藝　婦女文藝

月一回三日發行定期增刊年四回 ※ 月一回十日發行定期增刊年四回

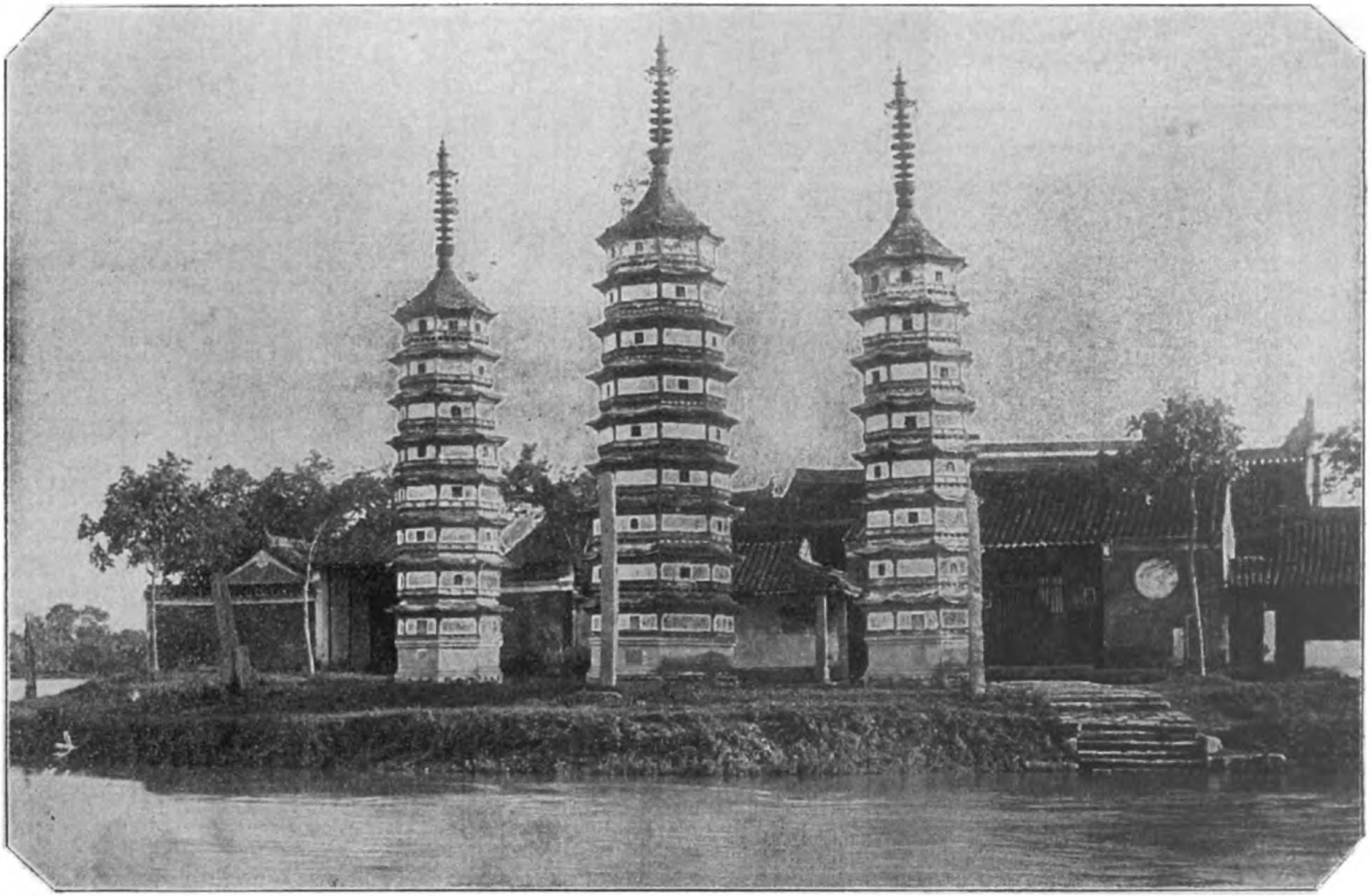
當舍發行の中學文藝婦女文藝の兩雜誌は**男女學生**の師友として最も**好評**を博し愛讀せられつゝある事は既に世人の知る所なるが猶ほ今回其內容は勿論紙質釘裝に至るまで**大改良**を加ふると同時に新購讀者**五千人**を限り募集し五月一日より六月三十日まで二個月間に於て兩雜誌中いづれかの半年分八冊前金八十錢(一冊定價十二錢)を拂込みたる者に對して特に抽籤法を設け**一千圓**餘の價格ある**大景品**を呈する事とし一年分十六冊前金一圓六十錢を拂込む者は二本の籤を抽く權利を有するものとす其大景品は**第一等**五人**銀側**無双**懷中時計**(價格金十五圓)**第二等**五人**金緣眼鏡**(價格金十圓)**第三等**廿人**雙眼鏡**(價格金五圓)第四等廿五人**柱時計**(價格金二圓五十錢)第五等一百人**置時計**(價格金一圓五十錢)とし其他の諸君は一人も洩無く兩雜誌の主筆大澤天仙子の小說集**美吟**(價格金十二錢)と題せる美本一部づゝを呈す可し細則は五月三日發行の中學文藝、同十日發行の婦女文藝に詳なり郵券十二錢封入申込次第直に見本を發送す可し

發行所　東京日本橋區本石町四丁目　**秀英舍**

(電話本局三三四六番)

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

清國風景



抗州運河の三寶塔

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

內國大博覽會美術館全景



同臺灣館正面全景





同臺灣館中庭

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

內國大博覽會正面入口



同停車場



同東京工業別館



同愛知縣賣店



同美術館前泉



Digitized by Google

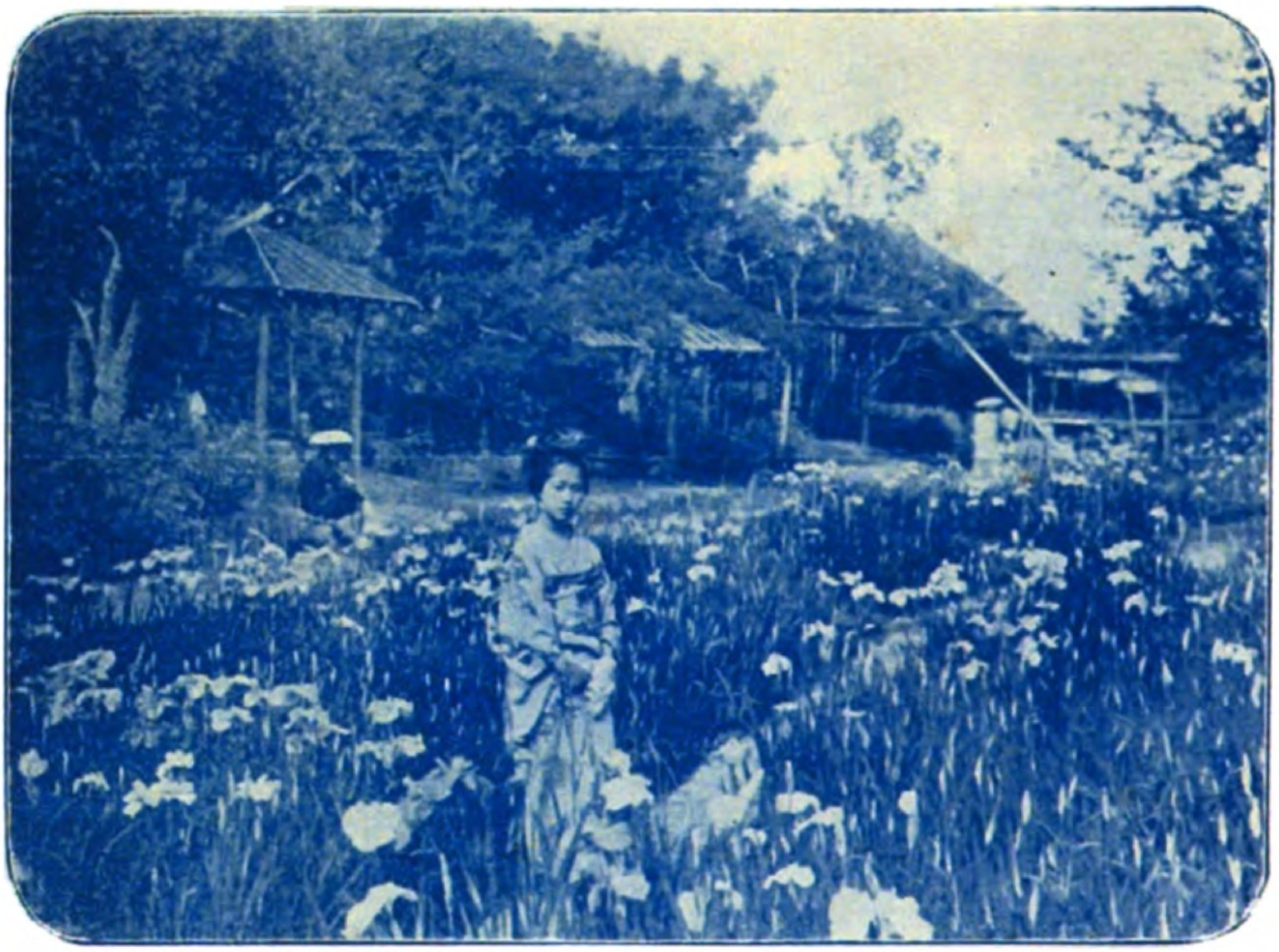
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

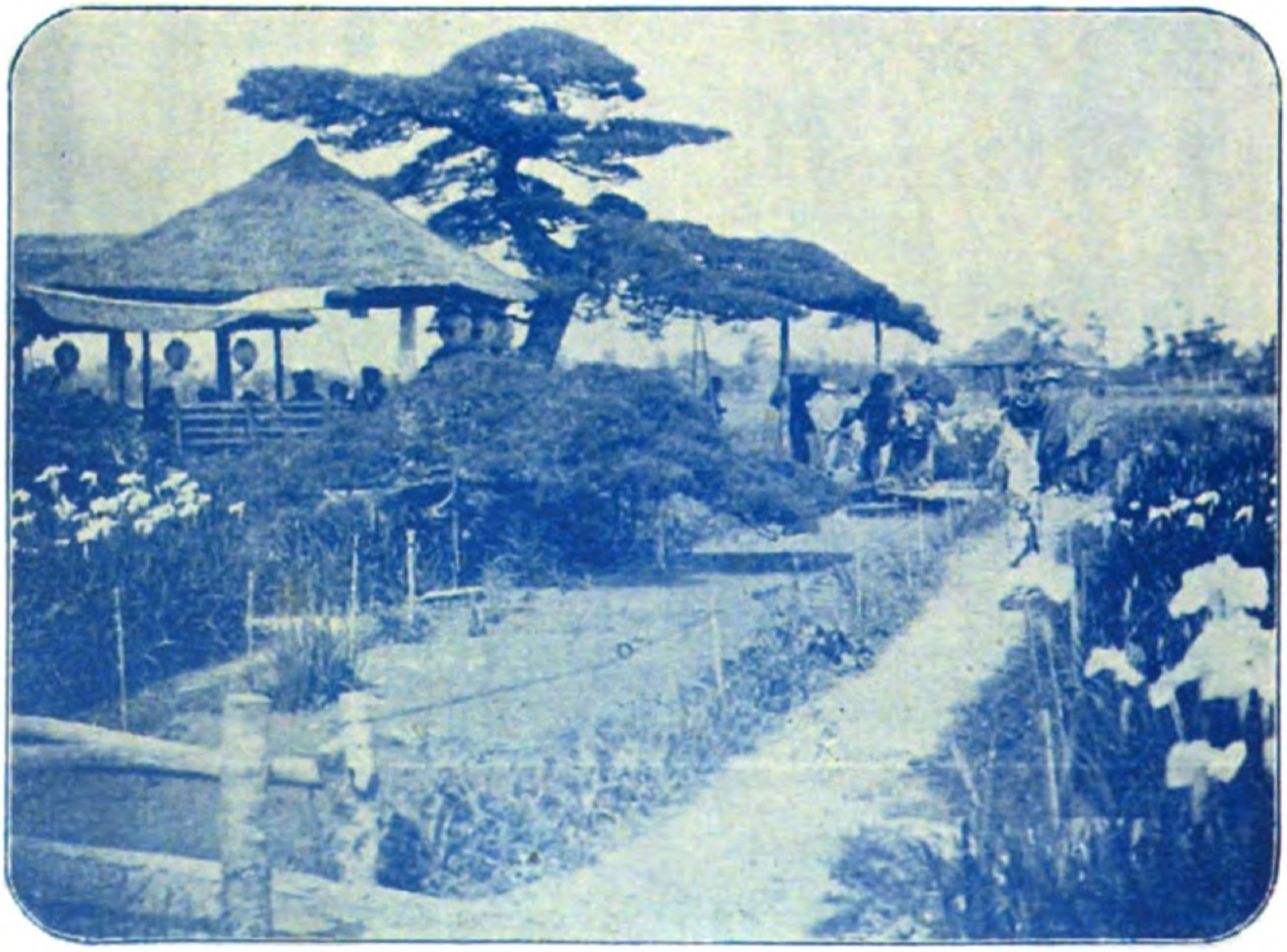
Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

花菖蒲

小梅引舟通り吉野園





堀切小高園

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

續帝國文庫

山下庵水蔭君校訂

（第四十九編　近刊）

佛教各宗 續高僧實傳

全壹冊洋裝背皮
正價六十錢
郵稅十六錢

曩に本館より發行せる佛教高僧實傳は、高僧中の高僧、祖師中の祖師のみにて、其他に及ばざりしは編纂の都合によるなるべしと雖、本館の大に遺憾とする所なり、故に今回例の江見水蔭に請ふて彼編に洩れたる、諸高僧の實傳を古文書中に探り、校訂して之を公にせり、其行文は謹嚴にして、言々句々、法るべく、奉すべく、仰ぐべく、尊むべきものあり、大方の讀者出版の日を待て、是非一讀あれ。

帝國文庫
第四拾四編

◎佛教各宗 高僧實傳

全壹冊洋裝背皮金字入
正價六十錢郵稅十六錢

博文館編輯局校訂

●龍樹菩薩傳　●傳道大師傳　●傳教大師傳　●親鸞上人傳
●天親菩薩傳　●源信僧都傳　●弘法大師傳　●元三大師傳
●曇鸞大師傳　●源空上人傳　●道元禪師傳　●慈眼大師傳
●道綽禪師傳　●聖德太子傳　●日蓮上人傳　●祐天上人傳

發兌元　東京日本橋區本町　博文館

（乙の二）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

若松賤子女史遺稿

櫻井彥一郎君編集　武內桂舟君意匠畫

三宅花圃女史序　戸川殘花君序　木村熊二君序
島崎藤村君序　湯谷紫夢序　巖本善治君跋
肖像（寫眞版）中島湘煙女史追懷書畫（寫眞版）

忘れかたみ

新刊發賣 再版出來

（四六判）紙數六百餘頁
洋裝全一冊總クロース
金彩色表装、製本優美

正價 **金壹圓** 郵便税拾四錢

若松賤子女史異材を抱いて白玉樓中の人となりしより春風秋雨既に七星霜文界落寞の今日女史を追懷する無き能はず生前の述作今にして編輯せずんば散逸に歸せんことを憂へ。彼『小公子』と共に永く我文學史上の珍たるべきもの、收むる所左の如し。

○忘れ形見○雛嫁○せーら、くるー物語○我宿の花○波のまに〳〵○いなつ、あーでん物語○入學前○ひろひ兒○林のぬし○鼻で鮐○邪推○榮公の誕生日○淋しき岩○病母と小悴○砂糖の隱所○着物なる木○けんつく踊○黃金機會○ろーれんす○女房演説○お向の離れ○おもひで以上

若松賤子女史著書

◎**小公子** 全一冊 正價卅五錢 郵稅八錢

◎**英文集** 全一冊 正價三拾錢 郵稅四錢

元良博士評論戸澤文學士譯述

◉小説 **愛と心**（第四版）正價金參拾五錢 郵稅四錢

櫻井鷗村君編著

◉現代 **女氣質**（第二版）正價金參拾五錢 郵稅四錢

讀賣新聞記者關如來君著

◉**明治の令孃**（第二版）正價金參拾錢 郵稅四錢

◉**明治閨秀美譚**（第七版）正價金拾錢 郵稅貳錢

發兌元　東京日本橋區本町 **博文館**　東京神田表神保町 **東京堂**

（乙の三）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

●文科大學々長 文學博士 井上哲次郎先生序 木村鷹太郎先生著

東洋倫理學史

上卷

●菊判洋裝 ●背皮美本 ●紙數一千頁餘 ●正價貳圓八拾錢 ●小包送四百匁

下卷近刊

東洋倫理學史の著は**世界上**本書を以て**嚆矢**とす。本書は**著者數年間研究**の末に成れる者にして**叙述詳密、引用正確、説明親切、着眼卓絶、**其挿む所の**評論**は**鋭利**にして**議論**は**大膽**而も條理整然たり。**諸家**の**傳記**は十分**興味**を含ましめて、**雄健**なる**筆**を以て之を叙す。世間の倫理學書の術語字彙然として平々凡々乾燥無味生硬難解にして而も一讀の後實際何の得る所なき者と全く趣を異にす。實にこれ研究的大著述なり。本書倫理の學史と云ふと雖亦**嚴然一個の倫理**の**學説**の書なり。世人は本書に由りて始めて**眞の倫理學**の如何なるものなるやを知り**此學科の興味**を覺ゆべし。眞にこれ**世界の學界に貢獻**せんとするものなり。

發行元 東京市日本橋區本町三丁目 **博文館**

(乙の四)

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



築地女子語學校生徒及職員

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



[illegible]子裁縫學校生徒

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

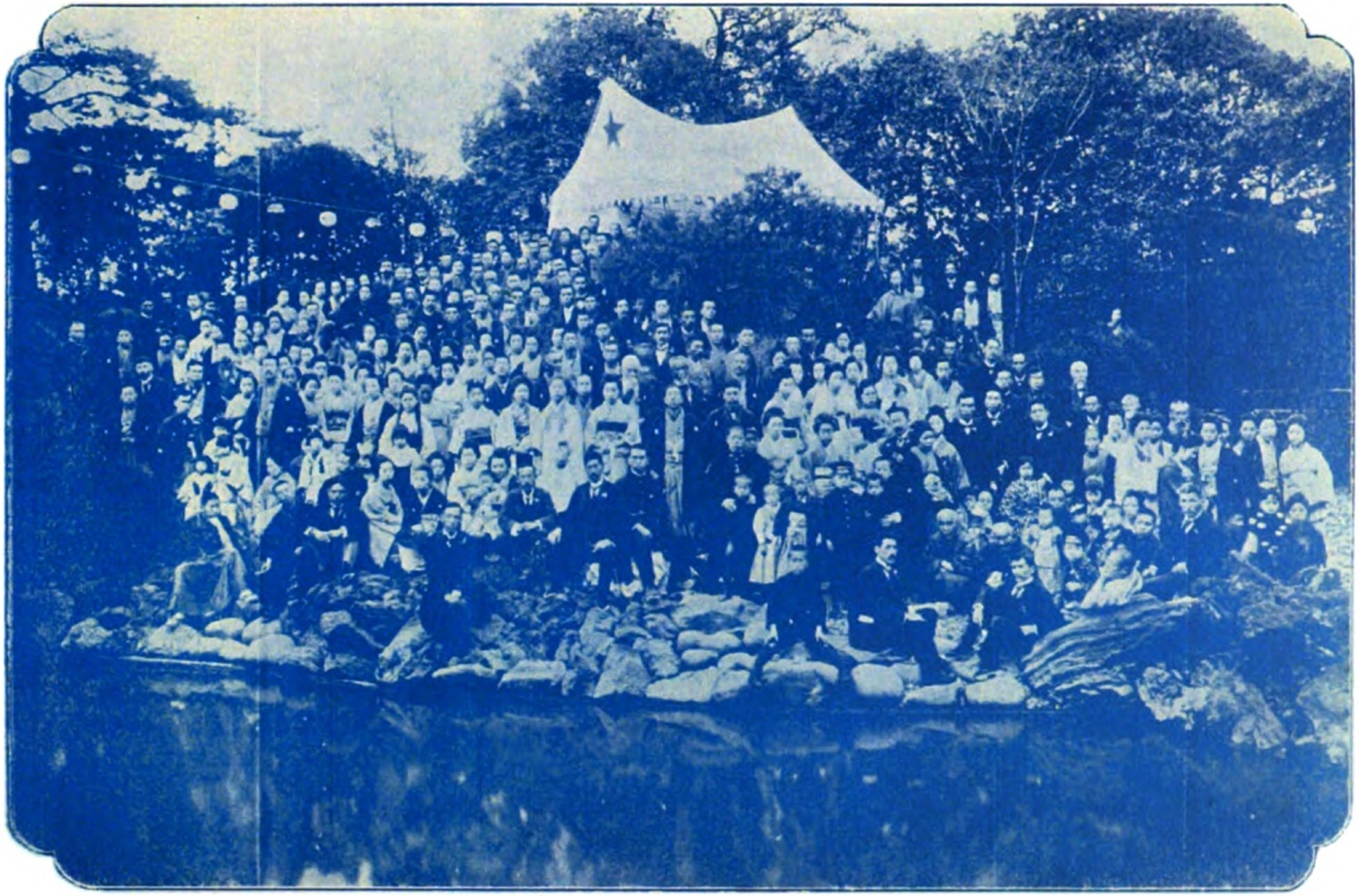


（齋藤紫白撮影）

淺草觀世音開帳の盛況

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN



竹柏會園遊會

日本橋倶樂部に於て

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

少年世界定期増刊

巖谷小波君
武田櫻桃君　合
木村小舟君　作
片山春帆君畫

お伽小説 海陸大王

五月十五日發行

發兌元　東京本町　博文館

正價拾錢
郵税壹錢五厘

これまで随分お伽小説の作も多い事ですが、籤引で各自が受持を定め、脚色、趣向共に嶄新、海と陸との冒険奇談を、やさしく書いたばかりでなく、一篇のお伽小説、こんなまた長いのは珍らしい仙人は巖谷小波氏、海の太郎は武田櫻桃氏、山の次郎は木村小舟氏の理想から出た奇態の人物、附録には又櫻桃氏が『お伽噺についての私見』あり。さア讀み玉へ！讀み玉へ！

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

少年商業文庫

第貳編

天城米海君著　大羽畫

（寫眞挿入）

商業の栞

全壹冊

洋裝美本
正價十五錢
郵税四錢

商業の思想を養ひ商業學の大意を説き少年者をして商業に入るの捷徑たらしめんとするもの即ち本書の目的なり僅々百餘頁の小册子に此目的を達すべき總ての材料を網羅し而も趣味津々覺えず快を呼はしむるの結構は本書の特色なり一夜に商業の全体に通し直に活商人たらんとする者は必ず本書を讀むべし商家子弟の夜學讀本として補習學校の課外讀本として又一般少年の實益讀本として之に償するもの世未だこれあらず

第參編

天城米海君著　大羽畫

（寫眞肖像入）

世界金傑譚

全壹冊

洋裝美本
正價十五錢
郵税四錢

古今歐米の富豪三十餘家を一編の中に收めて毎章肖像繪畵を挿み著者獨得の妙技を以て家々立志成効の徑路を描出す實業立志編として眞に空前の好著なり少年者は固より讀まざるべからず青年老年の實業家亦讀みて意外の利益を得べし本書一たび出て從來の類書忽ち顏色なからん

發兌元　東京日本橋區本町　博文館

（丙の二）

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

新刊圖書廣告

村井弦齋居士著

繪入下女讀本

小峰大羽君書

全壹册洋装美製本
正價郵税未定

本書目次

第一▲台所の心得
第二▲料理の心得
第三▲拭掃除の心得
第四▲洗濯の心得
第五▲衛生の心得
第六▲行儀の心得
第七▲子守の心得
第八▲平生の心得
第九▲證明書

今や教育の聲盛なり。然れども未だ一家の經濟と衛生とに大關係ある下女教育の必要を説くものなし。著者本書を著はして下女が執るべき任務の秩序と心得とを説き旁ら之に經濟衛生禮義道德の事を懇切平易に敎へ。以て下女の改良より延て家庭の改良に着手せんとす是亦方今社會の急務といふべし

村井弦齋居士著 ●

繪入小僧讀本

全壹册洋装美本正價拾貳錢郵税四錢

本書目次

第一 惡い小僧
第二 小僧の禁物
第三 小僧の心掛
第四 小僧の行儀
第五 小僧の貯蓄
第六 小僧の風儀
第七 小僧の勉学
第八 主人の撰擇
第九 小僧の辛抱

（丙の三）

東京 發兌元 博文館 本町

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

新刊 工業叢書 豫告

工學士 河原一郎君著

染色法

（近刊）

全壹冊洋裝上製
紙數五百余頁
正價 未定
郵稅

我國の織物は近時著しき進歩をなし精巧なるもの續々製出するに至りしと雖其染色法に至りては頗る幼穉にして不完全極まれり蓋し織物と染色の二は恰も手足の關係の如し相共に進歩の實を擧けさるべからず**染色の粗惡**なるは獨り**輸出品の信用**を失ふのみならず內國需用すら非難攻擊に包圍せらるゝ今日なれば染色界の改良は最大急務といふべし著者玆に鑑みる所あり能く學理と實驗とを調和して以て**染工の缺損**を補ひ工業界に一大精彩を放つ說述懇倒揷圖細說加ふるに卷頭に**絹綿羅紗の染色**標本を添へたるを以て**斯業者の便益**に實に**多大**なりといふべし此種の書冊は實に本書の外他に需むべからず

續刊

- 織物法……工學士 町原駒君著
- 硝子製造法……工學士 饗田猪太郎君著
- 水理一斑……工學士 久野末五郎君著
- 舶用機關學……工學士 增田知藏君著

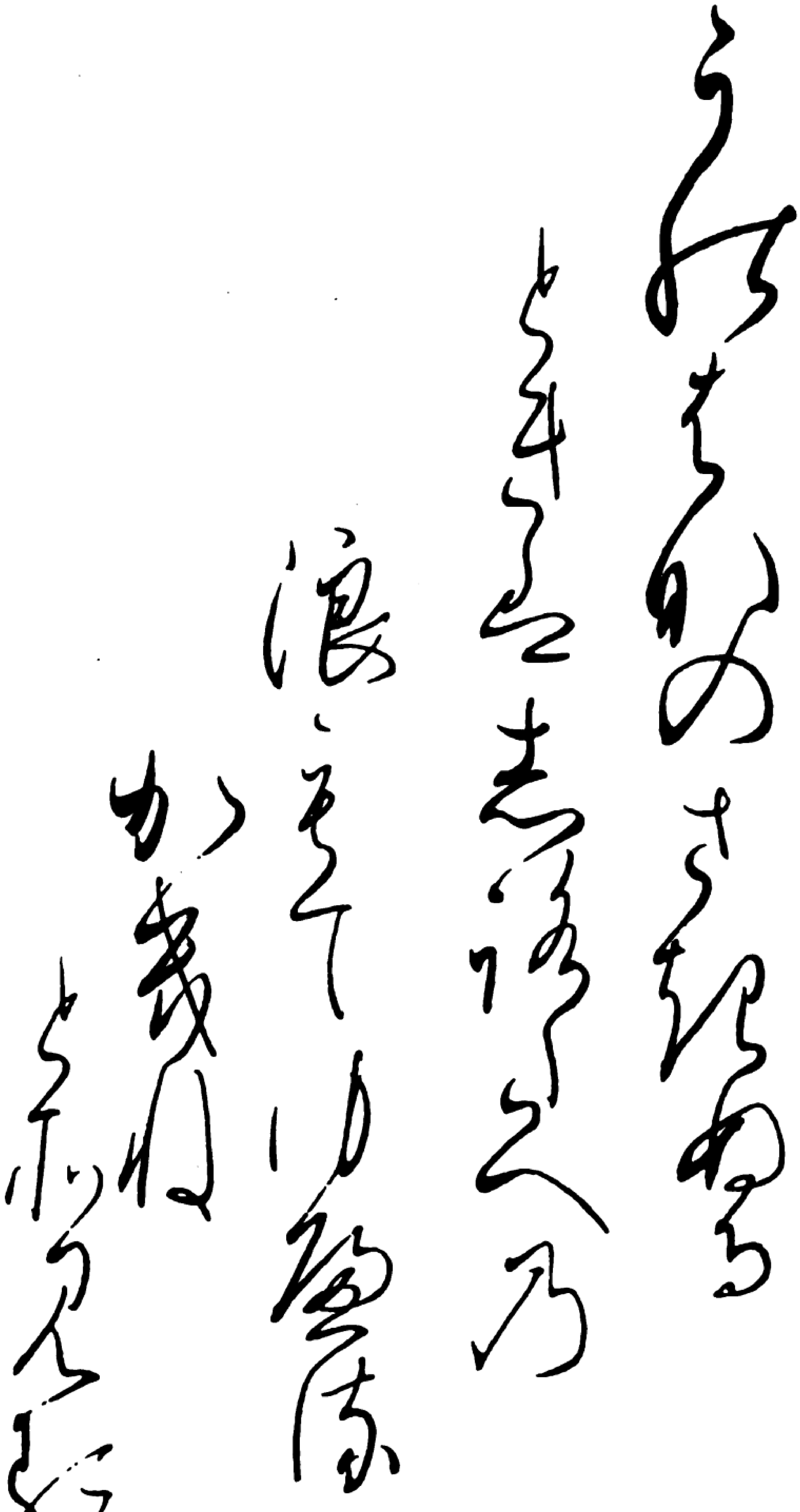
發兌元 東京日本橋區本町 博文館

（丙の四）

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

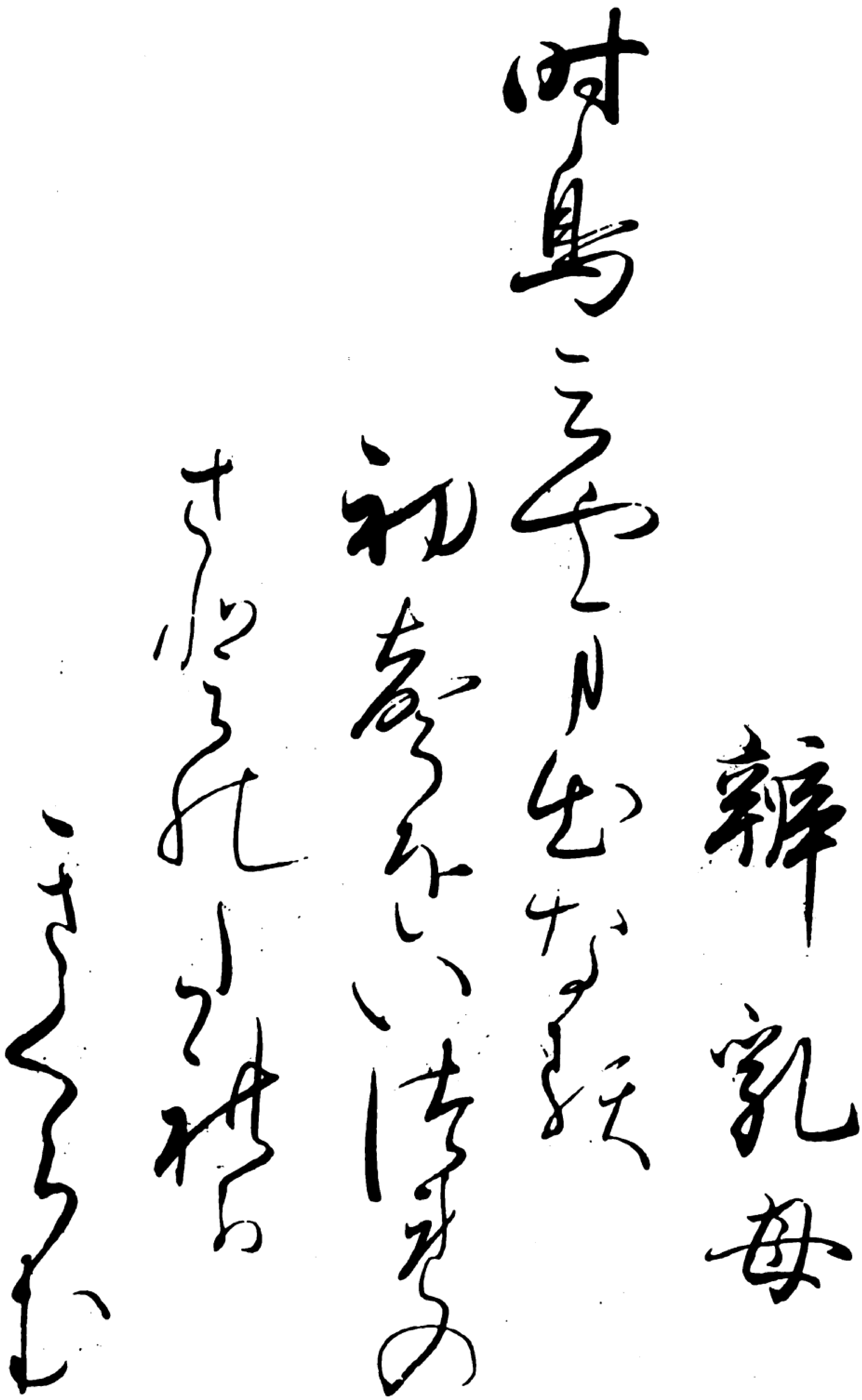
多田親愛先生筆

太宰大弐重家



Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

多田親愛先生筆



Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

坂正臣先生筆

立夏　粽　柏餅

菖蒲湯　わか葉

牡丹　芍薬　藤

つりしのぶ　書畫

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

坂正臣先生筆

昨日の園遊會おもひいづる
物語まで此姿を見えし
末の世まで〳〵なく場をも傳へ
承りけれ此頭何事法名紙は
此書てこゝめいつゞきたくれしこ

Digitized by Google

Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

燕と藤



Digitized by Google

Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

牡丹

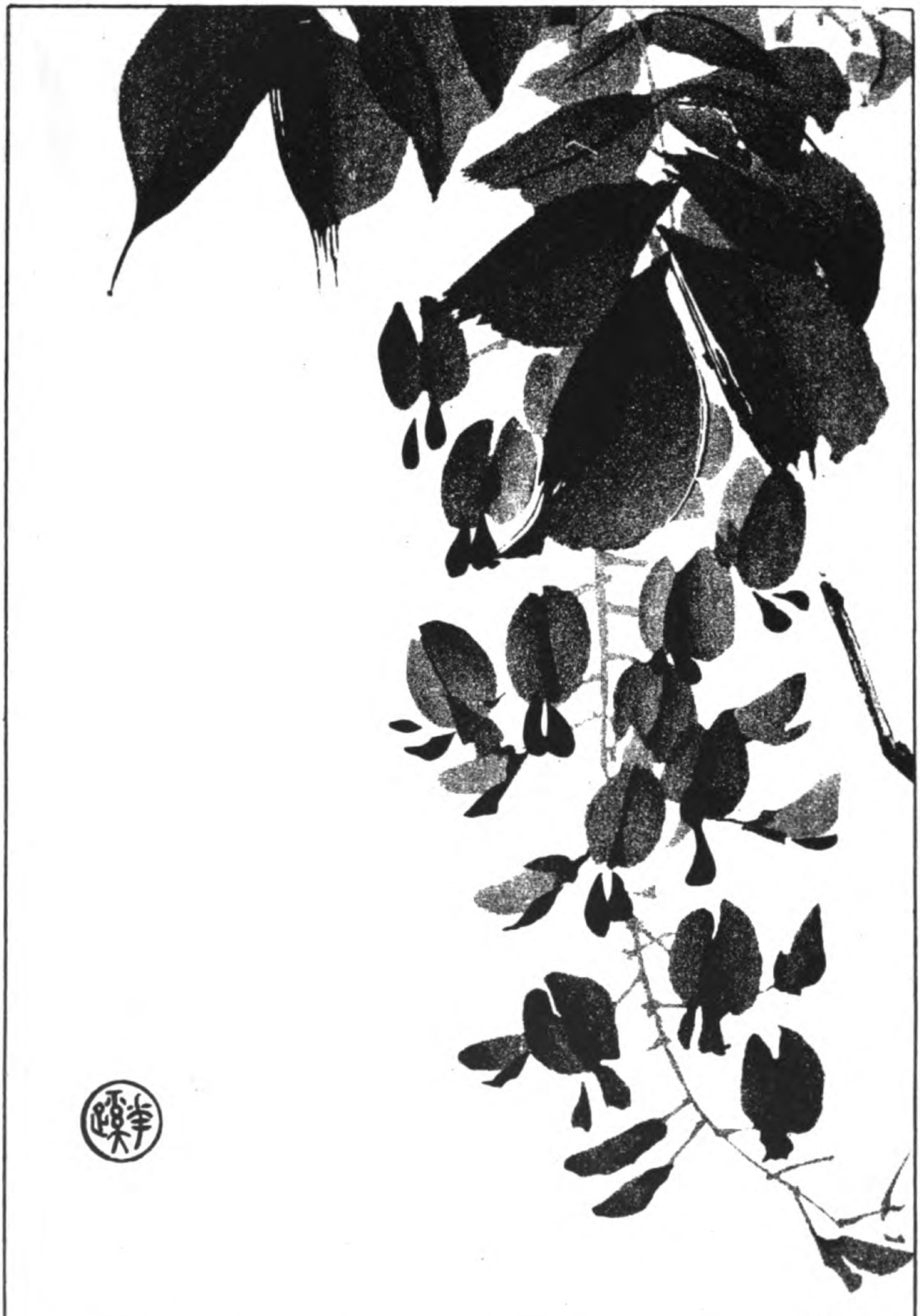
野口小蘋女史筆



Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

ふぢ



跡見花蹊女史筆

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

麥秀

跡見花蹊女史筆



Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

幸田露伴先生校訂

（近刊）



上卷

和裝上製紙數四百五十餘頁正價郵稅未定

狂言記目次

續刊

中卷……續狂言記五十番

下卷……狂言記拾遺五十番

東京 博文館發行 本町

（丁の二）

Digitized by Google

Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

第二高等學校教授理學士安田篤先生編著（製本既成）

増訂再版 植物學汎論

全壹編

洋装上製総クロース背皮金文字入紙數七百余ページ
正價金二圓
小包送料四百匁

方今科學の**大勢**は月毎に進み年毎に改まり從來唱導せられたる學説の今日既に訂正せられ**未知**の中に葬られたる**事項**の今や明瞭となり或は是まて學者の豫想せさりし**新事實**の更に發見せらるゝ等舊來の面目を一新したるもの二三にして止まらず而も此傾向は植物學に於て甚しとなす茲を以て斯學の進歩に伴はんが爲めには此種の書に絶へず**幾多**の**補正**増訂を施すの必要あり是れ本書の再版に際し内容章節の補正を試みたる所以なり挿圖の如きも其誤を正して新しきものを加へ紙數を増し校訂を密にする等大に舊面目を改めたり諸子前版に倍し續々御購求あらんことを

類書

理學士飯塚啓君著
植物學新論（全一册）
上製五十錢 郵税十錢
並製三十五錢 郵税八錢

農學博士稻垣乙丙君著
植物營養論（全一册）
上製五十錢 郵税十錢
並製三十五錢 郵税八錢

發兌元 東京市日本橋區本町 博文館

（了の二）

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

志賀重昂先生著書

增訂拾五版
日本風景論
洋裝美本全壹册
正價金八拾錢
郵稅拾四錢

本書は審美的と學理的とを調和し、以て日本の風景の洵美なる所因を親切に立論せるものにして獨り日本人のみならず、外國人の批評に據るも日本近代期の稀有なる名著述として普く世に知られ世に歡くと既に五萬部、版を改むること拾五、一版毎に材料と圖書とを新に補加せり、今や新樹空に連り青翠水の如くなる季節に當りて此書を繙讀せば殊に趣味の言ふべからざるものあらん。

增訂拾貳版
地理學講義
洋裝全壹册
正價金卅五錢
郵稅六錢

本書は東西在來の地理學講究の方法に全く別機軸を出したるものなり、"東京早稲田大學其他各種學校にて或は敎科用に、或は參考用に、或は敎師用に擧りて使用するのみならず、清國福建省の首都福洲府の學校にても同國人は專ら此書を使用せり。ジャパンメール記者評して曰く、"地理學を講究するには眞に適當なる著述なりと、亦た以て本書の眞價を知るべし。

增訂第五版
山水叢書 河及湖澤
洋裝全壹册
正價金四拾錢
郵稅六錢

是れ『河と人文』との關係を立論せるもの、第四版までは河と人生、日本史、朝鮮史、支那の三大河の文學、西洋史、米國史と十三章に敘說せしも、更に、河と破壞、濠洲史、湖と人生等の新篇十一章を加へ、新に百多の材料を補充し舊版よりは紙數正しく二倍となれり。

●發兌元 東京日本橋區本町 博文館 東京神田表神保町 東京堂●

（十の三）

●賣捌 全國各地書林●

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



太平洋臨時增刊

博覧會

題目	執筆者
博覧會の審査に就て	大島男爵
博覧會の方針	村田保君
博覧會の教育出品	辻新次君
大坂市と博覧會	小山健三君
協賛會の由來	土居通夫君
博覧會の鑛業出品	田中隆三君
博覧會と特許品	柳谷謙三郎君
博覧會と水產業	松原新之助君
博覧會の會計	松田事務官
大阪商船會社と博覧會	中橋德五郎君
博覧會に就て	手島精一君
博覧會の工業出品	横井博士
博覧會の經過	織田事務官
博覧會の洋畵	黒田清輝君
博覧會の日本畵	橋本雅邪君
博覧會と圖案	井上教授
堺の水族館	西川館長
博覧會と商品	佐藤顯理君
博覧會の林業出品	松波林學課長
大坂の設備	菅沼助役

▲**寫眞銅版**＝各館の內部及外部餘興賣店飲食店等の實況を極めて美麗に印刷し特にイルシ子ーションの壯觀各部長諸氏廣告塔及大阪市と博覧會場內の地圖（四六二陪四頁大）

▲**各館記事**＝無慮九十餘頁各館出品の說明及批評悉く公平無私の筆特に專門學術的の記事の如きは他に其類を見ざるべく一讀博覧會の眞髓を窺ふに足れり

▲**雜錄**＝霞亭南翠浩々歌客木崎好尙佐藤政次郎水谷不倒奧村不染菊池幽芳春秋原左文寺田成友坪谷水哉前田曙山濱田四郎諸氏の漫筆其他

▲**彙報**＝博覧會に關して大阪市及場內に於ける出來事を漏れなく報導し法令には博覧會に關する一切の法令を網羅し出品者の參考に供す

四月二十五日發行
正價金貳拾五錢
郵稅金貳錢五厘

發兌元 東京本町 博文館

（丁の四）



第参巻第六號

夏の植物に譬へし教訓

藤の花といふものは近く見ると美しいものであるが、餘り近く見ると蕪りのよくないもので、花やかに咲くかと見れば。末まで開き得ずに居る、殊に自分獨りで立つことは出來ず、必ず他の樹木に寄つて高く勢ひを示してゐるが、その寄り添ふた木の枝も葉も見へぬ位に我儘を張り通して居て、どうかするとその木を枯らして仕舞ふ、それ故一朝嵐などに遭ふた時には元より枯された木であるから一時に倒ほれて高く見へた花もついには草叢に埋もれて仕舞つて世に顧られないのであると、これは寛政時代幕府の賢相と言はれた白河樂翁が藤の花に譬へて時の小人を諷した言葉であるが、獨立の出來ない人間はいつの代にもこの藤の花のやうなもので、高木に寄つて一時の盛りは見するけれどもやがて一朝の嵐に遭へばもろく打倒れて草叢に埋もれて仕舞ふといふ事を言つたのであります。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

女子教育時言(一)

女學記者

(高等女學校の教授要目私見)

現代女子教育の發展に際して文部省が高等女學校教授要目を編纂して教育當事者にその注意を下したるは確かに時代の要求を解したるものにして吾人の贊成を表する處なり、而してその教授要目なるものは理論を離れて專ら應用を旨とし、學理を解せしむると同時に大に居家處世の材を養成せしむる事に務めたるの精神を見るべし。勿論教育の實効は規則にあらずして人にあり、如何に教授要目をして燦然の美を成すと雖も教師にしてこれを活用するなくんば折角の妙案も遂に空文徒法たるに過ぎざるべし。されば今回の教授要目をしてその實効を收むると收めざるとは主としてこれを活用する學校長并に教師の運用の妙如何に存するものと知るべし。依て今その要目に就て聊か所感を記さん。

教授の要目は修身、國語、外國語、歷史、地理、數學、理科、圖畫、家事、裁縫、音樂、體操、教育、手藝の十四目に區別されたり。まづその實施上の注意として

一　高等女學校に於ける教授は常に訓育と相待ちて高等なる普通教育の目的を達せんことを期すべし云々

抑も女子は男子と社會上に於ける地位を異にし、多くの女子は高等女學校を卒業すると共に家庭を組織するものなるを以て、同年齡に於ける訓育は是を男子に比して一層重きを置かざるべからず是に於てか學校教育は家庭教育と相待ちてその目的を達せざるべからず、然れども女子が十六七歳に及び、既に高等女學校の門に入るに及びては、既に家庭教育の時代を經過し、專ら學校教育にその全身を委ぬるものなれば、家庭に於て爲すべき訓育の精神を學校に移し以てその目的を達せざるべからざるなり。

二　教授は各學科目固有の目的を失はざると同時に相互の連絡を保ち且つ小學校の教科と關聯して

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

三　全體の統一を圖るべし

教授は漫に幾多の事項に渉り又は形式に流るゝ事なく生徒をして正確に理會し應用自在ならしめんことを期すべし。

是れ吾人が年來の希望なり。教授の事項の繁雜に渉りて單純なる頭腦を困しめ、又は徒らに形式に流れて妙齡の女子をして教育の目的を誤解せしめたるは、從來學校教育に免れざる所ろの弊なり、蓋し學問の目的は事物を正確に理會してその應用を自在ならしむるにあれど、不幸にして我國に女子教育を開きたるの紀元甚だ新らしく。爲めに婦人の頭腦は未だ多くの學理を解するの力に乏しく、是を以て一時に雜多の學問智識を注入するも大槪は不消化にして畢るを常とす。學校の教育既に不消化たり、奈何んぞよく是れを應用して自在ならしむるを得ん。妙齡の婦人、學校を出でゝ他家に嫁ぐ、姑舅をして常に遺憾を懷かしむるもの職として此の一事にありと言はざるべからず、されば今回の訓令に於ては確かに詰込主義の不可なるを悟りたる當局者の意見を伺ひ見るべし。

四　學科目の性質上止を得ざるもの丶外は教科書を用ゐて之を教授すべし、教科書は常に之を活用せんことに留意し之が爲めに箝束せられざらんことを力むべし。

教科書はその選擇を愼み、濫に之を變更することとあるべからず。

學校にて教科書の選擇を愼むべきは無論の事なれども、さればとて教科書を教授上の虎の卷として何もかも一切これに賴るは不可なり。元來教育の精神は事物を理會せしむるにあれば、その方法は死せる書物を以てするよりは、活きたる教師を以てする方効力あり。即ち教科書にあらずして、教授の方法にあり、教師の說明の巧妙、教師の着眼の奇警、教師の引例の適切其他學識に富み、經驗あり、智能あるの良教師が熱心忠實を以てよく生徒を提醒せば、縱へ其の教科書は左程完全ならずとも、よく教育の實効を收め得べく、若し是に反して、教鞭を把るもの無識にして徒らに形式に

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

泥み、或は不熱心にして唯御務め主義を以て教室に臨まんか、その教科書は何程立派ならんも、生徒は何の得る處ろなくして畢らんのみ。教育の効は書物にあらずして人にあり、故に當局者も又此に悟る處ありけん學科目の性質上止むを得ざるもの丶外は教科書を用ゐしめ、及ぶべき丈け實例に就て教ふるの方法を取らしめたるものならん、然も又教科書を活用するは、忠實にして熱心なる良教師ならずんばあらず

六　生徒の自修を要する學科目に就きては豫め其の時間の標準を定め自修をして一二の科目に偏し若くは過度に陷るの弊なからしむべし。

八　教授用備品は教授上差支なき限り必ずしも正式精緻のものたるを要せず、成べく日用品を利用し又は教員自ら製作して之に充てんことを力むべし

自修の時間を定めたるは甚だよし、生徒をして徒らにその好む處ろに偏せしめざるの用意は一般普通教育の時期に於て必要なるべし。又教授用の備品になるべく日用品を利用するの方法甚だよし。譬へば地理を教授するに、地圖、地球儀に依るもよけれど、なるべく教師自から土砂を取り來りて山嶽の高低、地皮の凹凸を造りて眼前にその實形を示すの勝れるに若じ、理科を教へ、博物を教ふる又皆この如き方法を取り、茶碗、マッチ、炭、油の如き日用眼前の品を以て事物を理會せしむるは徒らに耳目に遠き物品の摸造品などを以て教ゆるよりも遙かに効益あるを信ず、すべて教育の要は既知の事物を推して未知の事物に及ぼすものなれば、平素諸生の耳目に慣熟せるものを利用するは實に教育上の捷徑たるべし。

九　學校所在地に圖書館、博物館、工場試驗場等の設ある時は之を利用することを怠るべからず。

是又、實物教育の趣旨たり、從來博物館試驗場圖書館等へ學校生徒の參看を許し、是れに依つて學生の智見を開かしむるは一定の教室に於てするよりも遙かに効能ありしを知るべし、されど參看をして徒らに形式的ならしむるは不可なり、なるべく、之を利用して生

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

徒の智見を弘め、且つ平素の敎授上の事項を工場、試驗場等に於て說明、開示の材料を取り、敎室の學理をして實際的に理會せしむるやう務むるは敎師の責任にして、又敎育の趣旨を活用するものといふべし。

以上は實施上大體に就ての注意なるが、更らに敎授の要目たる、修身、國語、歷史、地理以下の項目に就て逐次その詳細を記すべし。

修身の要領

高等女學校に於ける修身の項目は、道德の要領と、作法の二項にして生徒の心得、衛生幷に修學に關する心得、起居動作に關する事、家庭、朋友、國家幷に社會に對する心得を始めとして、自個に對する責務、家族に對する責務、社會幷に國家、乃至人類に對する責務等の數項に別ち、初學年より四學年に至るまで、その年齡に應じ、學力に應じ、時機に應じて簡より繁に入り、粗より密に入り。道德の要領を說明し、諸ろの責務を知らしむるものなり、その敎授上の注意として示されたる所ろ左の如し

一 格言例話を引用するには必らずしもその多きを求めず、務めて現代の時勢と生徒の境遇とに適切なるものを撰むべし、詭激なる例話は成るべく之を避くべし云々

文部當局者が女學校の德育に就て現代社會の要求を容れたるの一斑は、是を以て知るべし、修身敎育の弊害は嘉言善行を濫造して是れを濫注するにあり、嘉言善行は甚だよしと雖も、これを濫造するに至ッては、最早その有難味はなし、況んやこれを濫注するに於てをや、古への賢哲が種々なる境遇を經、種々なる變故に遭遇して始めて得たるその格言を執へ來ッて直ちに無垢の少女の頭腦に入れんとす、到底その眞意を了解する能はざるのみならず、強いて是れを了解せしめんとすれば、無垢の少女は徒らに世相の多難なるを見て失望するに至らん。且つ歷史傳記に顯はれたる烈婦、孝女の談の如き、如何にもよき敎訓には相違なきも、抑

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

もその烈婦孝女たる元々現代の時勢と甚だ懸隔せる世に在りて、その境遇を異にし且つその事柄の不自然なるに加へて、更らにその行跡のあまりに詭激なる、到底常識を以て解すべからざる行爲にして徒らに少女の好奇心を挑發せしむるに過ぎず、是を以て德育の稗益たらしめんと欲す、到底その目的を達する事能はざるべし、彼の貞操といへば必らず劍に伏してその身を潔ふするものとなし、彼の孝行といへば必らず、飢餓と伴ふて虐待に甘んずべきものとなすがごとし、此の如き修身例話は、常識の發達を妨げ、天眞を害ひ、遂には變人奇物となり畢らしむるに至らん。當局者が此の點に向ッて警戒せしはよく敎育の應用を得たるものといふべし。

二　責務を授くるには土地の風俗、習慣、生徒の地位、職業等の差別あることに注意し、その各方面に亘りて之が應用を知らしむべし。

三　第二學年又は第三學年に於ては生徒の身躰及び精神漸く變動を起し、内外の誘惑に陷り易き傾向あるを以て特に此の時期に注意し、堅固の志操を養ひ、良習慣を作らしめんことを力むべし。

四　敎訓に資すべき事件の偶發したるとき又は、式日紀念日等に際しては全校又は一部の生徒を集めて臨時敎訓するを可とす

此の段は敎育上臨機應變に處するの注意を與へたるものなり、敎育は死物にあらず、活物なり、既に活物ならば、これを授くる常に活作用を要す、古るき事柄、定まりたる事柄を敎ゆると共に又、新らしき事柄、變りたる事柄に就て敎ゆるを要す。而してその新らしき事柄幷びに變りたる事柄に就き　偶然社會　上に發現して萬人の耳目を聳　動したる時を利用するをよしとす、譬へば星亨氏の暗殺されしに就て、世間の耳目を聳　動せば、その聳　動したる耳目を利用して人間の踏むべき正當なる道德的敎訓を示すべし。又丁汝昌(支那の名將)の陣歿に就て世間に是非の議論起らばその議論に就て公平正直なる判斷を與ふべし。其他、式日、紀念日等に際して各々その敎訓の餘地綽々たるべし、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

斯くして自己の人格を知らしめ、他人の名譽を知らしめ、恩誼を解せしめ、秘密を解せしめ、約束を解せしめ、社會の秩序を解せしめ、國體を解し、皇室を解し遂に人類一般に對するの責務を解せしめ、私徳の狹きより公徳の廣きに及ぼし、自己の迷信を排して常識を養ひ、情慾を制し、節操を養ひ、他人の權利を重んじ、他人の感情を重んじ。以て人としての責務を完ふせしむべし。

倫敎の家屋

女子教育家下田次郎氏が倫敎の教育觀と題して教育實驗界に記載された事柄は極めて趣味ある記事に付是に其一節を紹介しやう曰く倫敎は商業の中心であるから、何所も商家ばかりであらうと考へられるが其實大違ひて その住民の五分の四は商工業と關係ない人で、英國の各市は勿論、印度、アフリカ濠洲等の殖民地からも商人、政治家、軍人、役人何でも其の晩年を送らうと倫敎に入込む者が非常に多くあるので、倫敎は商業の外、王國の社會的中心であるから暇な人が多く素人家が大部分を占めてゐる、それで通例の人家は長屋風で、一軒〳〵鐵柵で仕切り入口は石段を上り戸にハチッケンスのクリスマスカロルの主人公スリールジが其死だ友人の顔を見たといふノッカー、即ち來訪の節叩く簞笥の抽手の如きものと、鈴の引金が必ず附て居る、それから窓には植木鉢を並べ、少し偏鄙になると前に小さい花など植ゑた庭があり、すべて地下には廚がついて居る、そして一家族で一軒を持つてゐるのが多い、是も大陸では見ぬことである、併亞米利加には此流儀の家がある、詰り英國の家は全体の郷に同化されないで、一軒〳〵思ひ〳〵に其特色を發揮して居る、それで他の都會に於けるが如く、人道、車道の區別があつて、人道には所々に一尺ばかりの蓋をした圓い穴が開いて居る、是から石炭なり、其他の材料を廚や物置に移し込むので頗る便利である、又大きな通りは一種の橋であつて、道の下には電信、電話、水道或は地下鐵道が通じてゐるから空虛になつて居るのが多い日本の如く電柱が不細工に町に立つてゐる所はない、地下が皆屋根の上に架つてゐるのである、家の開閉は各々鍵を以て勝手にやるので佛蘭西のやうに家番があるのではない。

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

洋行の話(二)

巖谷小波

▲洋行の手段

洋行の用意が出來たら、今度は手段の段に成る。手段とは、即ち滊船の便を借る事である。

その滊船に外國船と內國船とあり。外國船に、英、佛、獨の三種あり。內國船にも、郵船、東洋滊船、の二會社がある。

余は一回より往復せぬから、多くの種類は知らぬけれと、獨乙船と日本郵船とは、往と復りとに便乘して、實際經驗して居るから、是等を一通り話さうと思ふ。

まづ獨乙船に就いて云はうなら、兎も角もその船の大なるので、大に人意を强うする感がある。余の乘つたのは、北獨ロイド會社の、ハンブルヒ號と云つて、一萬噸の大船であつたが、此會社の東洋通ひでは、これとケエマヒ、アルベルト號とが一番大きく、次いでサクセン號だのバイエルン號なども、皆五千噸內外であるから、之を郵船會社の船に比して、決して小さくは無いのである。

食事は其代り、獨乙流の辛口料理で、初度の航海の者には、甚だ難有く無いが、その代り盛は隨分よい方だ。で、一日三飯の他に、早朝に茶若くは珈琲とパンと、朝午の間にブイヨンと云つて、スープの一種とサンドヰッチが出る。尤もこのブイヨンは、印度洋航海の熱帶に至ると、レモン水と代るのだ。それから午後の三時頃と、夜の九時頃とに、又茶、珈琲に菓子が出るのであるから、何の事は無い、起きるから臥るまで、食ひ詰め飲み詰めと云つてもよい。

其上に、喫煙室へ行つて見ると、何時でも酒保が開いて居るから、名物のビーヤでも葡萄酒でも、ラムネでもブランデイでも、何でも飲み度い放題である。但しこれは代を取られるので。飲む度に小さな札へ名を書いて置くと、一週間に十日目に、勘定を取りに來る樣に成つて居る。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

それから獨乙船の特色としては、朝、晝、晩と、日に三回宛音樂がある。是はスチユマード、即ち船中の給仕人等が勤めるので、初めの中は甚だ愉快だが、遂にはやゝ五月蠅くも成る。これも無料の樣で無料では無く、航海中に勸進帳が廻はつてこれに乘客が、思ひ〳〵に寄進するのだ、其相場が、一人三麻から十麻内外。一麻は日本の五十錢弱である。

船室は上等が一人乃至二人詰、中等が二人乃至四人詰。(下等は知らない)寢臺の他にソーハがあり。洗面器は中等にも二ケ所宛附いて居て、別に衣服入れの戸棚が出來て居るから、室内の整理には頗る便利が好い。

かう云ふ風の船室が、上中で三四十もあらうか。それも一々係りのスチユマードが附いて居て、朝夕に掃除してくれる。このスチユマードには、無論心付けをせねばならぬ。それにも額があるだらうが、余は同室者で二人で、一週間に四麻宛遣つた。

尤も心付けはこれに止まらず。食堂の支配をする、給仕長、風呂番のスチユマード及び船婢にも遣らねばならない。

船婢とは、上等、中等に各一人居て、乘客の子供の守りをしたり、又シヤツ、ズボン杯の繕ひも引請ける女の事で。余も此の者に、時々衣服の世話をして貰つたから、上陸前に三麻ほど取らせた。

尤も洗濯物は、船中の洗濯屋に與へて、相當の賃錢を拂ひさへすれば、差支無く便じるのであるが、これはなか〳〵割が高く そして手際はあまり宜しく無い。

入浴は前にも云つた、風呂番のスチユマードに誂へれば、何日でも、何回でも出來る。然し「ながし」は仕てもらへないのだ。

斷髮、髭刈も心配には及ばず。船中に立派な理髮所があつて、何時行つてもやつてくれる。この代が、斷髮二麻、髭刈一麻。これも仕事の割に廉く無い方。

病氣の時も決して驚く事は無く。船中にちやんとドクトルが居て、これが親切に診てくれる。余は幸にして、一度も御厄介に成らなかつたから、從つてその藥禮の事は、玆に話す事が出來ないのである。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

船中に又圖書室があつて、その目錄が喫煙室に出て居るから、退屈な時にはその本を借り出して、誰でも自由に讀む事が出來る。

又遊戯品としては、トランプ、將棊、の室內遊戯から、輪投、甲板玉突、などの備付があるから、時には之を使用して、無聊を慰める事もある。

その上に、更に興を催す時には、船客申合はせて、臨時に藝盡しの會を開く事もあり、又毎日の航程を、前の日に各々豫測して、それで賭をする慰みもある。

かう云ふ風で、進航中は毎日殆んど同じ事を繰り返へして居るのだが、さて途中の港へ着くと、上陸遊覽と云ふ愉快がある。

其時には舷門の所に、次に出帆の時間が、黑板に書いて出されるから、それをよく覺えて出ないと、乘り後れの失態を演じないとも限らぬ。

尤も余の經驗によると、この揭示は天氣豫報と同じく、決して信憑の出來たもので無く、多くの場合には、二時間、三時間、甚しきは半日位後れて、初めて船は纜を解くのである。

時としては、この上陸前に、檢疫と云ふ事がある。これは時疫の輸入を防ぐ手段に過ぎ無いが、運が惡いと此爲めに、三日乃至一週間も、上陸の許されぬ事もある。然し大抵の場合は、只檢疫の醫吏が乘客をズラリと整列させて、一々顏色を見る位に止まつて居る。

以上は余が往きに乘つた、獨乙船の時の話であるが、復りに便乘した日本郵船の方は、元々客船では無い、貨物船の事であるから、構造も、速力も、將た待遇も、自づから異ならざるを得ない。隨つて賃錢も亦差があるから、よし食事が不味だとて、船室が麁末だとて、決して之を咎むべきで無い。其代り余等日本人の爲めには、便宜な點が頗る多い。

これが外國船だと、言語が十分に通じないから、勢ひ繼子あつかひを受ける感がある。その上服裝などゝ、食事の度に衣紋を調へ、晩餐には禮服に着更へるなどの、小面倒な事が多いが、日本船は其點が寛であるから、大ひに其心がよいのである。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

然し其の心のよいのは、一面に自墮落な意を含んで居るから、一端歐米の、規律正しい生活に馴れた者には、萬事が何と無くぢゃむさく見えて、寧ろ居心の惡い事もあるのだ。

して見ると、復よりは往きに、まづこの日本船を利用し、復りに外國船の便を借るのが、大ひに至當な手段であらう。

まだ精養軒のテイブルにも就かぬ中は、三橋亭の辨當にも舌鼓を打つが、一旦彼の美味を知つては、所詮此の龜肉に我慢が出來ない。

此理から云ふと、余の如きは當初にその手段を誤つたものなのである。

序に云ふが、試みに余の如く、印度洋の航路を取ると、途中の諸港に入る度に、土人が產物を賣りに來るその產物が、何しろ初めて異國を見る目には、一々珍らしくて成らぬから、どうもそれが欲しくて成らぬ。加ふるに懷中都合も、往には多少好い方であるから、つひそれを買ひ込んでしまふ。否、寧ろ賣り付けられてしまふ。

が、是を歐羅巴迄持ち込んだ所で、さてその割に役に立つ物は無い。却つて段々眼が肥へるにつれて、初め惚れ込んで買つた品も、甚だ感服出來なく成り、果は人にも贈られないので、遂に荷厄介に持てあぐむに至る。是も余の實驗から、後の渡航者を戒めておく。

それから途中の小遣ひや、船中の雜費には、何の金が一番よいかと云ふと、これには多數の實驗者が、等しく英貨を主張して居る。上海は上海、香港は香港、新嘉坡は新嘉坡、古倫母は古倫母と、それ〴〵通貨は異つて居るが、英國の貨幣さへ持つて居れば、何所へ行つても用は便じ。又佛、獨の如き他の國の船中でも、英貨なら、喜んで之を受取られる。

されば先づ横濱を出る時、金子は一切英貨に換へて行くがよい。が、それも途中の雜用丈、小かひ貨幣に・づして置き、他は五ポンドか十ポンド宛の、兌換券にして行く事を勸める。

然し船中は、なか〳〵物騷なものであるから、碇泊

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

中は無論の事、進航中も決して油斷は出來ない。既に余の如き、幸ひに歸途で、且つ小額ではあつたけれどズボンの衣兜に入れて置いた錢入を、船室の窓から何者にか拔き取られて、爲に一文無しに成つた事がある。返へす〲〜御用心〲〜!

大隈伯の女子處世論

日本女子大學校附屬高等女學校の卒業式に於てせられたる大隈伯の演説は青年女子處世の方法を說いて頗る痛切を極めたるものあれば、玆に聊かその梗概を記すべし、伯はまづ卒業と關する意義に就て異說を唱へ、卒業とは業を畢るにあらずして、將さに是より世に出づるものなれば、恰も勇士の出陣のごとし決して業を終りて引込むの謂にあらず云々と扨て日本も維新後三十年間に非常の進歩をなして法律は婦人に權利を與へ、家の權利は減じて個人の權利が重くなつたが然し日本では家が本位である、人間の上からは父子が本位である、けれども英米には家といふ本位が無い即ち夫婦が本位で夫婦あつて家庭あるのである然るに日本には家といふ權利の惰力的勢力が強く所謂忠孝主義で父子の關係に頗る重きを措いて居る諸君が卒業後第一大切なるは婚姻である、而して此新夫婦が直ちに新家庭を作る事が出來るかといふに多數は事情が許すまいと思ふ、そこで私が勇士出陣の有樣を以て諸君を送るのは劍を提げて陣に臨むに勇ましいが、サテ銃火轟く場合になると中々容易でない、ツマリ日本の家庭は英米よりも一層六ヶ敷い、といふのは風俗も敎育も理想も時々變遷するので敵地の偵察十分ならずして兵を向けるやうなものだ、要するに女子は男性と違ひ種々の特性を有つて居る第一に優美である美的性質を有つて居る、しとやかなる性質で文學美術などが適當する譯である此性の本性を充分發揮すればよいが此本性を失ふと直ちに傲慢になる、家族が古い學問だからイケぬとて自分の理想を行はうとすると家庭に風波が起ッて忽ち離婚沙汰になる而し女性は忍耐力が男子より強いから之を利用して氣長に理想を行はねばならぬ、仍て敎職員諸君にも理想ばかりイクラ高くても仕方がない敎育と家庭とを十分結び付ければならぬから此點に深く注意あらんことを私が一日の長を以て老婆心からお願ひする云々。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

婦女雜觀

大町桂月

後悔錄

一

豆屋の娘、美衣をつけたる藝者を見て、羨んで曰く、藝者になりたきもの哉。

既にして、その家商賣に損じて、止むを得ず、藝者となれり。さて、いよ〳〵藝者になつて見れば、思つた程に面白きものに非ず。藝者は、疊の上の乞兒なり、三味線もちたる地獄也。一枚の着物も、ひと通りの苦辛では出來ず。歎じて曰く、早く泥をわらひ落して、堅氣の女になりたし。

その娘、顏美なるにあらねど、世の中には、物好きもあるものにて、一商人之をうけ出して妻とせり。その商人金のまはり少しよかりしは、放蕩し居りし間にて、藝者をうけ出す頃は、はや左前也。貧乏世帶ひきうけて、金の指輪もゆるくなれり。その指輪もやがて質屋の庫にとびゆけり。衣服もなくなれり。止むを得ず、また藝者になれり。夫はなほつきまとへり。もとの藝者時代よりは荷が重くなりて、今は我身を養ふの外、意氣地なき夫をも養はざるべからず。歎じて曰く、女房もいやなり、藝者もいやなり、もとの豆屋の娘になりたし。

記者曰く大町先生の文いつも乍ら旨い哉、この旨味に付て多く言ふを須ゐず、只金の指輪もゆるくなれりとの一句寸鐵殺人たり。市井の娘子を氣死せしむ

二

家とめるにあらねど、貧しからず、殊に女の子は、われひとりなれば、蝶よ、花よと愛せられ、何をしても叱られた事なく、ねだるとは、すべて聞かれ、學問をよそに、藝能をよそに、したい放題な事して、二十年をおもしろ可笑しく過せり。喜んで曰く、難有き父よ、母よ。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

いよ〳〵人に嫁して見れば、我身にこれ一つ取柄なし。禮義を知らず、作法を知らず。琴はならひたれど人の前に歌ひ彈くほどにはなり居らず。着物を縫ふことを知らねば、料理もろくに出來ず。夫に代筆をせまられて、見るもうらめしきは、蚯蚓のたくりたるやうなる我が水莖の跡。夫に對し、姑に對し、人に對して穴にも入りたき心地す。歎息して曰く、うらめしき父よ、母よ。

記者曰く有難き父母うらめしき父母兩々相對して述懷、世相の變轉手の裏を返すがごとしいましむべきは家庭敎育なる哉、

三

豪農の娘、澁皮のむけた顔付にて、學校の成績も常に優等也。親には自慢の種となり、先生にほめられ、一村の人々にうらやましがられぬ。かくて、高等小學校を卒業せり。村の若者言ひよるもの少なからざれど、みなはねつけたり。父母、婿をすゝむれども、かぶり振りぬ。最後に、さる豪農の息子の嫁にと懇望せられたれど、それも斷りぬ。以爲へらく、われの如き才色才學、むなしく草深き田舍にとざすべけむや。駿馬、痴漢をのすべくもあらず、われ豈に土臭き百姓風情の妻とならむやと。親に強請して、都に遊學せり。

都にのぼりて、はじめて悟りぬ、身はこれ鳥なき島の蝙蝠なりしことを。太郎作、次郎作の娘どもの中にありてこそ、われは美女なりけれ、才女なりけれ。都の貴孃たちの中に伍しては、物の數ならずと。いたく落膽せり。さればとて、今更すご〳〵田舍にかへるも殘念なりとて、うか〳〵と學ぶ程に、たのもしくなる學生あり。口もうまし、樣子も立派也。學問も出來さう也、智惠もありげ也。以爲へらく、かゝる人こそ將來勢力ある紳士となるべけれ。われもしかゝる人の妻とならば、ゆく〳〵は交際場裏の女王となるを得むと。遂にちぎりかはしぬ。

さて慣れあひて見れば、學問も智惠もなき人なりけり。女の前に口がうまきのみにて、物の役にたちさうにもなし。たゞ好むは酒と女。長ずるは、小歌うたふこ

Digitized by Google

Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

とばかり。有望の人士とは思ひの外の、のらくら者也。しくじりたりと後悔するほどに、その男も我をすてゝ去れり。故郷にかへるも面目なし。如何はせむと困まり居たるに、親迎ひに來りぬ。かくて、無事に故郷に歸りは歸りたるものゝ、生意氣娘のはてを見よとて、人に後指さゝるゝとの苦しや。われを所望したりし豪農の息子は、既に妻を迎へたり。鄕黨の評判よく、縣會議員にまで選擧せられたり。あゝ、くやしや。

後悔錄青春身を過ちし婦人の後悔を錄す、いたづらに世の外觀に迷ふもの、身のほどを知らぬもの、取つてもつて戒めとせよ

女子と高等教育

賢母良妻、これ今の社會の大多數の要求する所、余輩も同意也。賢母良妻とならむには、學問の方は、まづ高等女學校を卒業すれば、十分なるべし。されど、女子がすべて中等教育以上の學問を學ぶに所なきやうにては、随分窮屈な話し也。

今の世に、紫式部、和泉式部、清少納言のやうな才女なしとも限らず。否、亡き稅所敦子刀自は、其の歌の力拔群也。之を他の御歌所の高崎、小出の輩に比するに、むしろ優りたり。亡き一葉女史は、その小說、男子の作家に比しても二流以下には下らず。時に第一流の男子の作家にまさる節もあり。その他、學問に、教育に、普通の男子よりも遙に傑出せるもの少なからず。かゝる才力を有する人をして、中等以上の教育をうけざらしめむとするは、餘りに無情也。

普通大多數の女子は、中等教育を終れば、良妻となるべし、賢母となるべし。されど、秀才の女子にして特志あるもの、五六年嫁期をおくらすも、よしや、一生嫁せざるも、大に其所長を發揮すると、却つて社會の爲めになるべし。これ特例として許すべし。決して、女子一般を律すべからず。

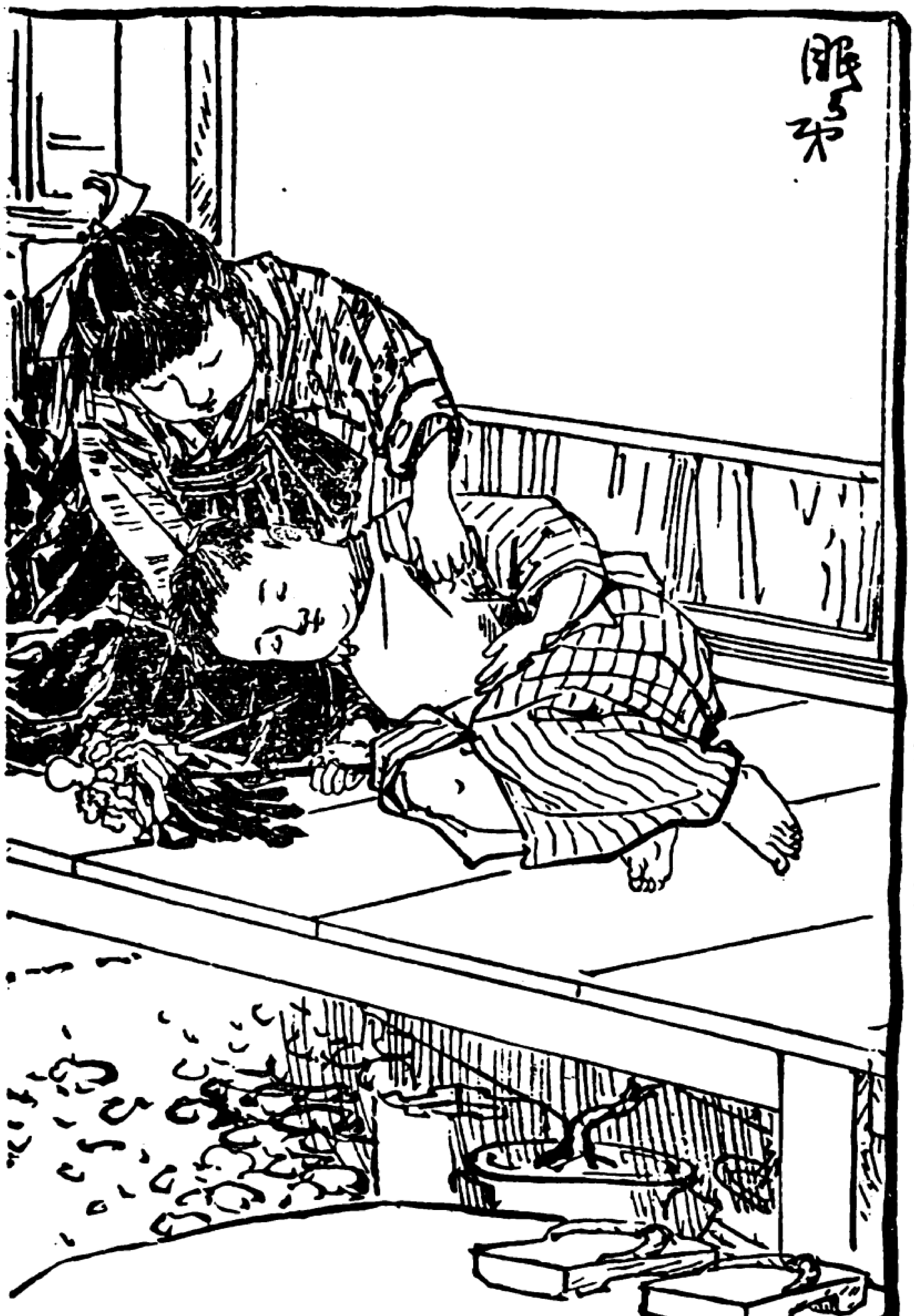
また中等教育を終はるも、家の貧なるものや、顏の醜なるものは、容易に賣れざることあり。賣るゝも、

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

よき所には賣れざることあり。かゝる人は、奮發して大に學んで自活せむとするも面白かるべし。自活せずとも、嫁入の一資格を得むとするも、亦妨げず。

女子が男子にすがり、依賴する間は、いつまでたちても、男子の奴隷也、男子の玩弄物也。さまで結婚をあせらずとも、ゆつくりと自活自營の道を講ずべきなり。

これ賢母良妻の教育主義に反對するものに非ず、また結婚する眞



れと強ふるものにあらず。余輩は、例外あるべきことを認め、少數不幸なる女子のために、斯く言ふもの也。

所論一々尤と申すの外なし但し家の貧なるもの、顔の醜なるもののみ必らずしも賣れぬとは限らず、そては人の命運如何にありて存す、獨立自營は如何なる婦人も覺悟せではは叶ふまじ妻ある女、富ある女も

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

又大に奮ふべし、妾と富とを恃みにして氣を許すべかなず。毎度ながら賣るの字義は賣買の賣にはあらじ。

〰〰〰〰

もとの妻正直

もと娶りし妻、これと云ふ長所もなけれど、甚しき缺點もなし。顔も美なるにはあらねど、醜なるにはあらず。されど、今少し賢なる女、美なる女をとて追ひ出せり。次に娶りし妻、智惠ありて、働にはぬかりなし。されど勝氣にして權着なり。言ひ爭ひ絶えず。終に自から見限りて、出でゆけり。次に娶りし妻、容貌は此上もなし。されと、ぐず也、なまけ者也、寢坊也、おつくりがすきで、仕事が嫌ひ也。腰重く、尻長くしておしやべりがすき也。見よげなるは、たゞその顔ばかりにて、座敷も、臺所も、箪



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

笥の中も、常にとりちらして、狼籍たり。亭主には、常にはころびた衣服を着せ、よごれたものは、押入に堆くして、洗濯せうともせず。それでも顏にめんじて家に置きしに、よからぬ風聞ありければ、終に追ひ出せり。その後幾人となく、妻を娶りたれど、氣に入りしもの一人もなし。今となりて戀しきは、一番初の妻也。されど、如何せむ、今は人の妻なり。我よりは地位もよく、財產も遙に多き人の妻也。二三人の婢女にかしづかれて、身なりも、我家にありし頃よりは、遙によくなれり。もとよりは利口げ也、顏も綺麗になれり。戀しい哉。

女にも、またかゝる悔少なからざるべし。よしや、かくまでに實行せざるも、心中竊に不平にて、良人が氣にくはず、いやで〳〵たまらず、年が年中、少しも心の安慰を得ざるもの少なからざるべし。

すべて、現在は、醜也。過去は、美也。未來は、益々美也。さらでだに、人は慾に限りなきものなるに、女は殊に人を羨むもの也。少時の遊仲間が零落し居ればとて、さまで氣の毒とも思はざれど、出世して居れば、羨ましくてたまらぬが常也。羨しさの餘りに、ねたましくまでもなるが常也。友の良人の地位高く、勢力あるにひきかへて、我良人の働なく、意氣地なきが、くやしくてたまらぬことあるべし。友の良人は、その妻によき衣をきせて、芝居や花見につれゆくに引きかへて、我良人は我に衣服買つてくれる餘裕なく、家にのみくすぼらせて、下女の代理のみさするに、益々腹立だしくてたまらぬことあるべし。かくて、斷然見限りて去る薄情女もあるべし。去るの勇氣なくして、居るには居れと、良人をみくびりて、笑顏一つ見せぬ人もあるべし。

人は、事業の點には、多慾なるがよけれど、心の安慰を得むには、足るを知らざるべからず、分を守らざるべからず。運に甘んせざるべからず。餘りに慾ふかく、自惚つよくしては、何處にゆくも、安心は得られざるべし。佳人才女が、ろくでもなき男に身を任せたと思はゞ、くやしく思ふの情も起るべけれど、ろくで

Digitized by Google

Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

もなき男を憐んで夫にしてやりたりと思はゞ、それで可なるに非ずや、必ずしも、夫が主にして、婦が従なるに非ず。古来偉人の妻に愚婦あり、才子の妻に醜婦あり、それでも甘んじ居りし也。女も、そのやうな氣になれぬものにや。

二人の妾

昔者、楊子、宋にゆきて、やどりけるが、その旅店に、二人の妾あり。一人は美にして、一人は醜なり。さるに、その醜なる者を上とし、美なる者を下として待遇し居りければ、楊子其の故を問ひけるに、宿の主人、答へけらく、美なる者は、自から美とす、われその美を知らざるなり。醜なる者は、自から醜とす、われ其醜を知らざるなりと云ひけりとかや。

これ韓非子といふ書物に出でたり。われ少しく脚註を加へむ。路上酒前、女をながめむには、醜なるよりは、美なるがよし。されど、妻たり、母たらむには、顔の美は、心の美に如かず。殊に、われは美女なり、賢女なりと云はぬばかりにふるまはれては、鼻持ちのなつたものに非ず。自から醜なり、ふつゝかなりと卑下して、殊勝にふるまへば、人世に之を愛憐せざらむや。

容貌談

君子は聖德ありて、容貌愚なるが如しとは、恐らくは、老子が、孔子を馬鹿にしたる言なるべし。概して、人物の如何は、容貌にあらはるゝもの也。教育あり、修養ある人の容貌は、どこかしまりたる所あり。しからざるものは、どこか間が抜けたるもの也。目口の大小配合の如何は、生れつきにて、いたしかたなし。生れ付は不格好にても、智惠ある人ならば、容貌も自から氣がきゝて、こゝろよく見ゆ。器量のよしあしと、品位のあるなしとは、自から別也。目の活動や、唇の活動や、首全體の活動や、手の活動や、體のこなしや、

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

實に人品に關し、愛嬌に關し、器量にも關係す。如何に美衣をつけたりとて、着こなしが悪ければ、幾んど人形と異ならず。顔はかり美なりとも、體のこなし悪ければ、見おとりがするもの也。

余輩は、必ずしも美衣をまとへよ、白粉をつけよ、おしやれをせよと勸むるものに非ず。たゞ男も女も、それ相當の禮容あらむことを望むもの也。人に媚ぶるを要せざれとも、人をして悪感情を起さしめざるやうにしたきもの也。男の事は、暫く措きて、女の容儀に就いて一言せむ。

顔容の如何、髪の色、髪の多少などによりて、髪の結ひ方を變せざるべからず。島田は、あだつぽし、十七八までに結ふべし。二十歳以上は不可也。束髪ぶざまなものなれと、細面にて白色き女には似合ふものなり。さればとて、顔丸くして愛嬌ある女にも似合ふことあり。色黒くして、美人に縁遠き女は、ねんを入れた島田よりも、いきなりの束髪が目にたゝずして、却つてよき事あり。概して束髪は、平服か海老茶袴に似合ふものにて、紋付の禮服には、不似合也。

おしろいの香はよきものなれと、むしろつけぬがよし。つくるも、こて〳〵と塗るべからず。赤黒き顔に白粉つけたるは、化物のやうにて、却つて醜也。顔のぶざまな女、色の黒き女は、白粉つけぬを可とす。

禮服つけたる時には、おくれ毛一つもさがらぬがよけれと、普通は、おくれ毛のさがれるが、却つて風情あるもの也。目に目やにのつき居らぬやう必ず注意すべし。歯はきれいにみがくべし。歯くそのつかぬやうにすべし。口の臭からぬやうにすべし。歯に物のはさかり居るは、人の氣持を悪くするものなれば、注意して物のはさまらぬやうにせざるべからず。

からだ全體の活動、優雅にして、活氣ありたき者也。からだのこなしよきとは、貴婦人の一要素也。否、美女の一要素也。茶の湯を習ふか、女禮式を習ふか、踊を習ふかすれば、自然にこなしがよくなるものなれども、少し注意して熟練すれば、ひと通りのこなしは、出來得るもの也。着こなしといふとは、わけがなさゝ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

うで、馬鹿にはならぬもの也。こは體格の如何に關し、裁縫の如何にも關すれとも、また着る人の注意如何に關す。着こなし悪ければ、折角美衣をまとふも、猿がころも着たるごとくなるべし。

話しする塲合にも、唇ばかりを動かさずに、目の活動、手の活動をよくすべし。首の活動もよくせざるべからず。生き〳〵するやうにありたきものなり。

お山役者、腰以上は女になり得るもの多けれとも、腰以下まで女になる得る者は稀なりとかや。歩く時の姿は、美醜に關し、品位の如何にも關す。さればとて餘り内輪蹈みすぎて、あひるの歩くやうなるも、見よきものに非ず。やさしくして、活氣あるべし。

精しく說きゆけば、一部の女禮式ともなるべく、化粧法ともなるべし。要するに、智惠ありて、注意ぶかき女ならば、容儀も自から氣が利きて、見よきものなり。凝りて、かたくなりすぐるも不可也。すましすぐるも不可也。氣取るも不可也。さればとて、ばかんとするも不可也。媚態にすぐるも不可也。

女子と美術心

左の文は過日女子美術學校卒業式に於てせられし岡部子爵の演說の大要なり、曰く、凡そ學術を修むるにはその研究の材料は種々澤山なり、併し其中にて美術程參考となし得る範圍の廣く且つ種類の澤山なるものなし。即ち日月星辰草木山川、吾々人類が生活する種々狀態より鳥獸蟲魚の類に至るまで皆美術の參考物となすに足る。此無限の參考物を美術的に觀察して能く之を味ふとは誠に困難にして其人に十分の素養なき時は假令眼前に其物を見るも尙ほ十分に之を用ゐるを能はざるもの也。故に此校に於て學び得たる知識を以て美術的の思想と外物の關係を会す親密に研究するとを期せさるべからず。次に美術を進むるに最も大切なるものは愛の心ならん、美術上の製作品は其形如何に美に、如何に巧に出來たりとも、若し愛の精神が十分にこもり居らざる時は其作品の靈妙を現はすと難からん。美術品の靈妙の現はるゝとは古來其例あり、左甚五郎の刻みたる猫は鼠を捕へたり抔稱せり、是れ果して然るか知るべからずと雖、其術の靈妙神に入りたるとを稱するものならん即ち美術は斯の如く靈妙ならざるべからざる也。即ち拙手は拙手だけ、上手は上手だけに其心をこめて作品せば、其心の籠りたるだけの妙味を現はし得べきものなれば、決して自暴自棄するとなく、大に自信力を固めて其術を勵まざるべからず云々

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

社會の進歩と家庭及婦人

國府種德

其一　有益なる文字

このごろ「國際教育叢書」第十六、獨逸ヘレチー、ランゲー女史の近著「歐洲婦人の高等教育」をば、米人クレーム博士の英譯したるを得、燈火親まるゝ長き夜をこめてそを讀み畢りし時、端なくも卷頭に載せたるハルリス氏の叙言に心付き、そを讀みたるに、器械進歩の影響を受けて、婦人の業務も、家庭の心得も、いたく舊態を改めたる旨をば、反覆丁寧に論述したる者なりき。

世界の大勢が、器械の發明の爲めに、商工業に驚くべき進歩をなさしめしより、社會の組織は根底より其形を改めぬ。されば社會を組織せるその單位ともいふべき家庭、及家庭の主長たるべき婦人に關しても、いかに大ひなる影響を與へ、從來の狀態にいかなる變形を與へたるかは、婦人として殊更に注意せざる可からざる重大の問題也。今ハルリス氏の論旨により、其有益な文字の概略を玆に記さん。

其二　教育と社會との變遷

ハルリス氏は、力めて教育を社會の方面より研究せんとせり。故に先づ教育と社會との變遷を述べ、推して婦人教育及家庭教育に論及せんとせしに似たり。

「」の括弧を附するはハルリス氏の所論を其儘載せしことを示す

「人生に一の目的あり、教育は之に達する準備の一進路たるべき者也。されば教育の問題は、人生の業務と責任とを離れて論ずべからず。婦人教育といへば、婦人が日常用務の常理を含むと勿論也」教育はかくも人生に深き關係を有す。故に教育には社會教育と個人教育との二種あり。社會教育にては、各個人が凡ての人類と共有せる責任を知らしめ、人類が幾年代を經て積

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

み來りし經驗と知識との遺產をば、凡べての人類と共に分配せしめんとする也。個人敎育にては、個人として占むべき當然の地位を敎ゆる也。二種共に人生の必要事也。」

「社會の發達、國民の發達に關する硏究は、過去に於ける婦人敎育の基礎がいかにして立てられしやを明にすべく、又現在及將來に於ける社會の新狀態が、婦人の高等敎育を要求しつゝあることをも明らかに證明すべし。婦人敎育を論ずるには、先づ社會の變遷を硏究するの要あり。」

「國民としての敎育が、全く近世に始まりしは事實也。器械の應用盛んに行はれ、生產事業は天然を壓するほどの勝利を得たるは、個人及國民の自由が發達したるに由り、自由の發達もまた器械生產が進步せる結果、爾來益〻發達をなせり。」

「未開の社會に在りては、嚴しく族制の隔絕を守りて働かずでは、人各〻食物衣服を得ず、又防衛や敎化やの要事をも辨ずることを得ざりき。物理學發達して天然力の利用漸く敎えられ、人類をして稍賤役の狀態を脫せしむるに及び、族制の階級は自ら消滅に歸しぬ。そは上級の低落したるにあらず、下級の漸く地位を高めたるによれり。」

「現今の文明は、かゝる進路をたどりて到達せし者也。個人をば下級より上級に昇らしむるの方法は、敎育に外ならず。されば文明には敎育の最も重要なること、いふまでもなし。」

「職業に於ける階級の撤去せられたるからには、從來男性女性の間に設けられたる階級の制限をも取除きて、婦人をば男子と同等に解放すべき也。婦人敎育の問題はかくて起るべき者也。」

其三　婦人業務の三時代

「今少しく詳しく社會の變遷を觀察するを要す。現今に問題となれる婦人の高等敎育が、いかに必要なるかを知らんには、歷史の變遷、社會の進化に就て、概略三期の時代を分ち、仔細に觀察を試むるの要あり。」

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

（一）　家事生計彙務の時代

「未開の社會に在りては、男女兩性は兩極端の業務に從事せり。男子は悉く戰士にて、婦人は凡べて賤役者なりき。此時代にては、婦人の敎育といふとも、初歩なる技術手工の知識とにて事足りしかど、家族の食物衣服を用意すると、及家族の經營管理を辨ずると一切をば其主要の業務とせり。されば婦人は、家政の外に衣服食物の供給をなし、家事生計をば彙務したりし也。

「男子は之に反して全力をば戰鬪と狩獵とに注ぎて、家族の一切を婦人に一任せり。男子平時の用務は唯だ狩獵の一事あるのみ。それさへ戰鬪の練習の爲めにしたれば、片時も戰鬪以外の事に顧みるを得ず。部落の領內狹うして、中心と境外とは甚だ遠からず、周邊の諸族と交誼を結ぶほどに外交も發達せず、いつ何時外族の來襲を受けんとも測らず。されば男子は一夜たりとも安眠するを得ず。かくて間斷なく戰鬪の術を練り、晝夜といはず來襲を迎へ戰はん用意に透き間もあらず。かゝる有樣にて、未開時代の男子は、防戰者にして又命令者なりき。婦人は家族の管理者にて、又生計の賤役者たりし也。」

（二）　勞働分業の時代

「種族が集團して國民を形成せるは、社會發達の第二期也。此時代となりては、男子悉く戰士也との狀態を脫し、男子の大多數は兵役より解放せられ、領內廣くして境界線も遠隔となり、戰士は一の特務となりて、少數の男子之に從事し、境界線を守るに過ぎず。されば大多數の男子は、今や平時の業務技術に從事するとゝなり、勞働分業の時代は始まりぬ。」

「されば婦人は彙務せる工藝商事の生業を捨て、此分業極めて多き諸業務を擧げて男子に讓り、退いて家族の範圍を守り、生產經營には一切關係せずして、專ら日用直接の消費に就いて其調理をなし、料理割烹、織繊裁縫、其他所謂家政の諸事、及老幼の保養に從事せり。」

（三）　器械應用の時代

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

生產工業の新時代は、更に分つて之を二期となし得べし。(一)器械手工分業の時代、(二)勞働節減の器械盛用時代、是れ也。

「第一期に在りては、分業極端に走りて業務の専門を生じ、大仕掛の粗造は器械之をなし、器械の造りたる者に對し、たゞ手工の小細工を要することとなり、勞働者は凡べて専門の手工に從事し、器械の粗造品を精製するに止まりぬ。」

「第二期に至りては、勞力節減の器械盛用せられて、手工さへ大部分は要なきを致せしかば、勞働者は一轉して器械使用、器械督理の職業に從事し、僅かに業務の程度を高めり。此時に及んでは前にたゞ筋力を用ゐし者も、今は腦髓を用ゐて、知力才能を使用するに至りぬ。

其四　手工不要の大勢

「器械手工分業の第一期にては、限りなき分業の傾向を生じ、各専門の業務は、更らに分業せられて細別せられ、純然たる器械的勞働の外、全く知力的使用を失ふに至らんとせり。分業専門の細別益甚しくして、單一の勞働益其數を增し、其極天然力の利用益盛にして、諸種の専門器械さへ發明せられ、手工は益其用なきに至りぬ。蒸氣力、水力、電氣力、瓦斯力、等、動力を使用する職業のみ盛大となり、其外にはたゞ粗造品精製の諸器械を使用する一種の職業を剩すのみにて、手工は全く業を失ふに至りぬ。

「第一期の器械應用にて、猛烈なる强力を要し又多くの器械使用に要したる人力の勞働は、先づ第一に敗北せり。かくて手工より移されて器械力に依ることとなりしかど、手工の大部分はなほ轉じて器械使用に用ゐられて存せり。器械發明の進歩が益盛となるにつれ、手工は益多く解放せられ、前述の如く粗造物精製の諸器械使用のみに限られぬ。」

「かくて個人はたえず單なる手工勞働より解放せられ、又たえず器械的熟練を要する職業より轉せられて、知能の變通を要する職務に移らんとの傾向を生せり。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

筋肉の强力、手工の熟練は、勞働者が永き間從來の修業を積んで得し所なれど、勞力節減の器械盛用せらるゝ第二期となりては、最早や用なき徒勞となりし也。されば時代はたえず徒弟期間の短縮を要求し、簡易なる敎育によれる實用の知能を要求すると、著しく有力となれり。」

其五　手工衰頽の結果

「現時代に於ても、勞力節減の器械により、生產工業の發達第一步を始めとし當初にありては、單なる手工勞働よりも、敎育ある知能の活用が、最も必要なるべしとは、早くも認められし所なりき。七年の徒弟、二十年の雇職工を歷て習ひ得たる手工は、敎育ある知能の活用に及ばざると遠し。いかに熟練にて又いかに勉勵するとも、手工勞働者はたえず貧窮の境に墜落され、すべて其業を失ひたり。既にして新器械益〻發明せられ、手工者等は社會の一隅に僅かに生存し、衣服にさへ窮するほどの慘狀に陷れり。」

「手工を繼續せる個人に對して剩す所何物ぞ。かくなりしからには勢ひ新に活路を求めて轉業するの外はあらず。されど二十年三十年の徒弟雇工を經て練り來りたる筋肉は、もはや當時必要なりし專門の手工に限られたれば、當時手工を習得せしときの如く、さほど容易く新しき業務に就き新しき熟練を得ると能はず。加之ず知力を用ゐて之を練るの要なかりしかば、今乃ち器械使用に必要なる知能の活用と技倆とを有せず。」

「かくては業を失ふて貧困に陷るの外はなし。器械の應用に先鞭を着けたる英國の如きは、これが爲め百五十萬人の貧困者を出し、これに食物を供給せしときには、殆んと戰時の準備をなせりとぞ。生產工業に於て英國唯一の競爭者たる米國が、幸にしてかゝる否運に會はざりしは、主として學校敎育の功により、手工の業を失ひし勞働者が、轉業の知能を有せしが故なりき。未開墾の國境地方へ移住するの便ありしも一の理由なれど、主なる理由は全く學校敎育が普及したるの賜なりき。」

（完）

Digitized by Google

Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

家庭

家庭の規律

塚本はま子

家庭を整理せんには、まづ第一に家庭の規律を正しくする事肝要ならん。家庭の規律立たざれば、何事にも多くの人手を要し、下婢下僕の類を多人數召使はざれば、普通の用事をも便せざるに至り、隨つて不經濟の事のみ出來、時間を空しく費し、交際上不體裁の事を生ずるのみならず、爲に家内の親睦を害し、平和を破るに至るべく、ことに恐るべきは兒女の教育をも過るに至るべき事なり。小兒はもとより天稟の性情もあるべきなれども、古人がいへる如く「性相近し習相遠し」といへる如く、本能はさして異らざるも、其周圍の事情ことに家庭の感化の爲に、習慣上極めて相違せる點を生ずるに至るべければ、家庭不規律ならば、よく兒女を教育する事能はざるは明かならん。

併しながら主婦が家庭の規律を正しうせんとするに、困難なる事情あり。元來我國にては、婦人の位置高からざる爲か、主婦はほと〳〵上婢と異らず、家長に事ふる小間使もしくは賄ひ婆々の類とみなされ居り、家庭の女王として、家庭内の事は、その命令に依りその指揮に服從するが如き事少ければ、家庭の規律を立つるにも、又極めて困難なり。さればまづ、家長にして吾が家の規律正しく、秩序たち、婢僕少くしてよく諸用の滯る事なく、時間も經濟に浪費も少からんことを望まば、多少は己が自由を束縛され、我儘を壓へらるゝが如き感じありとも、辛抱してまづ試みにその規律に服從してみられよ、習慣となるにしたがひ、規律あるかた却て自由を得、却て便利を感ずるに至る

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

べし。もとより公の要務ある者、おのれの職業を執れる人々なれば、時としては食事の時間にもおくるべく就寐の時刻をもはづすことあるべしといへども、そは例外として普通には、一定の規律を守ること難きにはあらざるべし。家長にして若し斯く家庭の規律を重んじ、進みてこれに服從せんとせば、その他の家族は敎へずしてこれを守り、誡しめずして整ふに至らん。まことに主人は全家族の模範なれば、家庭を整理し規律を立つるには、たとへみづから一々その面倒を見、その監督をなさずとも、なるべく主婦の立てたる規律を破らざるやう、家庭の秩序をくづさゞらん事をつとめ、萬事便利にして經濟に、冗員冗費をはぶき簡單にして規律をとゝのへ、眞に文明的の家庭たるに背かざるやう、勉めなば兒女の敎育にも少からぬ利益を得、一家よく整ひ、幸福なる生涯をおくる事を得べし。

　家庭の規律を立つるにも都合よきは小人數の家なり。「いかに心のあへる友と居るも一人には如かず」と誰れやらのいへる如く、人數少ければ、自然に規律のたつものなれば、この點よりは、なるべく下婢雇人をも少くし、出來得るかぎりは水いらずにて暮らすをよしとす。されども家族多き家なれば、生計の度高きが爲に、止むを得ず複雜なる家庭となることあり。又我國の習慣として、舅姑弟妹等と同居し、これにおのが子女數人を加へて、遂は下婢等をも數人雇はざれば、各々の所用を便じがたきほどの場合となり。いひ難き混雜を起こすに至る事珍らしからぬありさまなり。またいかほどよく和合せる家族にても、かく大勢にてしかも一定の規律なく、各々勝手に起き、臥し、各々我儘に食事の好みなどなさば、平和を保つこと實に困難ならん。されば家内の人數、多ければ多きほど、規律を立つる事必要なり。元より數十人の僕婢を使用する、貴顯富豪の家に在りては、一定の監督者も備はり居るべく、主婦はたゞ監督者の監督をなすに止まるべければ敢てこゝにいはず。こゝにはたゞ、普通中等の生計をいとなむといはるゝ、主人數人にして僕婢三四人を要する程度までの、家庭につきて述べんとす。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

▲僕婢

こゝに僕婢といふ僕は通例車夫の類をいふ。中等の家計に於て、車夫を雇ひおく事不經濟の極なりといへども、我國現時の如く、市內交通の機關不便にして、道路も亦泥濘なる塲合には、勢ひ止むを得ざる塲合もあるべし。されば主人の職業によりては、車夫を雇ひおく方、却て經濟にして便利なる事もあれば、強て批難すべきにもあらざるべし。

婢はなるべく人數少きをよしとす。三人を要する家庭にては、二人に節約し、二人を要すると思はゞ一人にて事を濟ますやう工夫すべし。これたゞそが給金、食料等を惜しむの念よりにはあらず。諺にも「人と入れ物はありしだがひ」といひて、多人數を召し使ひたりとて、さのみ萬事心ゆくまで整頓するものにはあらず、却て混雜を增し面倒を來たす事多かるべければなり。されども小人數にて多勢の代用をせしむるには、比較的給金を高く拂ひ、取扱ひをよくするの心掛肝要なり。勿論撰擇の際意を用ひて良きものを雇ふべきはいふまでもなき事なり。良き下婢にして高き給金を貰ひよき取扱を受けなば、假令用事多くとも、喜びて働く事普通の人情なり。不十分の下婢を多く雇ひ置くとも、規律立たざる時は互に用事をゆづりあひて、割合に手落多く、器具の破壞、食品の浪費等につきて責任を感ずる事少きをもて、家內は不經濟の事多くなり行くものなり。

撰擇、上記の目的を達する爲には撰擇の際特に意を用ふべき一事あり。即ち他にあらず身體の强壯なるものにして、毫も勞働を辭せざる性質の者たるべきことなり。この外正直なるべき事、從順なるべき事等は、無論必要の條件なれども、正直なればとて、身體の弱きものを雇ひ、從順なればとて一人前の働をだになし得ぬ者を置きて、前に述べたる目的を果たさん事は、到底出來がたき事なるべし。雇婢に對して、十分なる希望を擧ぐれば、機敏なるものも欲しく言葉少きものも嬉しく、料理などの上手なるも調法に相違なく、諸

Digitized by Google

Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

事清潔を好みて洗濯も叮嚀に、掃除も行屆ける等、實に有難きものなれども、身體强壯にして勞働を厭はざれば、自然に無性にもならずして、家の内も清潔になり易く、正直にして從順ならば、性れつき愚鈍ならぬ限り敎ふるに從ひ、料理裁縫も熟達し、多辯なるも寡默を守るに至るの時あるべし。もと〳〵人の下婢として働かんとするほどのものに、極めて完全などいふ者はなきものぞといふ事は、よく心に留めてあまり高き望みをかけざるをよしとす。さればとていひきかする理解もわからず、事の輕重、物の善惡など、普通の事がらだに分からざるものも、まことに不便なるものなれば、ほどよき處にて滿足し、徐々に敎へ導き、いひきかせなどして、使ひならす事肝要なり。

婢を撰む事を述べたる序に、猶一の注意すべき事を說かん、奉公を望む女子の十中八九は、家計の不如意なるもの、或は兩親を滿足に有たずして繼しき母との折合わしきとか、幼きより親に別かれ、伯父伯母などの許にて厄介となり居るもの等多く、割合に所謂世の辛酸は味ひ居るも、人の慈悲情誼など、くみ分くる心に乏しく、僻める心、曲れる考など人には增して發達し、親切なる敎訓も、さのみ有難しとは感せず、疑ひ恨みなどの惡德に染めるもの亦少なからねば、良家の子女を敎訓すると同じ手段にては、彼れらを矯むる事難儀なるものなり。されば比較的に扱ひよきは田舍より一度都の中をもみせ、他人の中の生活をもさせたしといふ親の慈悲ある眞心より、奉公に出したる者の中より柔順にして多少の敎育あるよき下婢は得らるゝものなり。併し一利あれば一害にて、斯かる奉公人の多くは、永くも二年か三年にて緣談などの爲、暇をとりて鄕里に歸るを普通とす。この點よりいへば不幸なる家庭に人となりたるもの丶中には、永年勤續して家にかへらんなどの念なきもの多ければ、よくしてみて永く召使はんとする者には便利なる事も多し。

そはともあれ、萬卒は得易く一將は得難しの諺に洩れず、かく下婢の撰みかたはむづかしきものとはいへ、よく敎育みよく使ふ夫婦は、よき下婢の稀なるよりも

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

稀にして、下婢の方よりいへばよき主人こそ、撰むことのむづかしきものならめ。さればとて、人を使ふほどの夫人、ことごとく無智なり無情なり、我儘なりといふにはあらず。人は何人といへども、聖ならぬかぎり、わが目上の人、憚るべき人の面前にては、言語動作を愼しみ、顔色態度をも崩さぬものなれども、目下のものに對しては多少心のゆるみもあり、我儘もゆるさるゝかの如く感じ、愼しみを去り、天眞を表はすの傾きあるを免れず。されば良人の叱責を蒙り、舅姑の不待遇を受くるや、そが面前にては却て謹愼をよそほひながら、臺所に臨みて罪なき下婢を不理屈に罵しり懲らす類なしとも保しがたく、かゝる時の一言は、平素の千萬言を繰りかへして、敎訓したる下婢の敎育を打こはして猶餘りあるべく、百日温めて一時冷やすとは、かゝる事をいふなるべし。

されば人を使はんとするものは、喜怒哀樂の情を我儘に表出せず、心の平ならざる時は、極めて緘默を守りて、輕々しく口を開かず、命令を出さぬやう心がけ、なるべくわが心中の秘事を下婢等に覺られざる用意すべし。よしや彼れ等が忠實なりとも、元より敎育なく、心淺き者多ければ、家庭の秘事を打明け、相談すべきものにあらず、かゝる相談などなさば、よき附込み所と思はれゆゝしき事を引き起すに至るべければ、十分注意すべきなり。

予は家庭の規律につきて述ぶる目的なりしも、端なく僕婢の談を始め、存外に横道に外れたる感あれども、暫らく忍びて聞かれよこは規律の基なればゝ

予は西洋に行きたる事なけれども、常に人より彼國々の家庭に規律ある有樣をきゝて、眞に羨しく思ふ事切なり。我國にては住居の工合、衣服の形などの點より起居億劫になり、極めて無性になり、一度座すれば再び起たぬ習慣あり、全くおのが獨立を缺き、隨てわが身の所用は悉く他人に命じて行はしむるの傾あれば、下婢は定まれる仕事を專心一意に爲す能はずして、絶えず主人夫婦の召の至るべき事に注意を向けざるを得ず。主人主婦のみならず

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

そが家族として老人及び子女弟妹のある家に於ては、また皆おのが勝手なる仕事をいひつくるの弊害を免れず、これらの命令は毎も定まれる事ならねば、用事は常に不時に起りて、時〳〵の命によりて、臨機の處置をすべき事多かるべし。さればたま〳〵責任を負はしめて、毎日爲すべき事と定めたる仕事も、其の都度命令せ



ざればなさゞるが如くなり、おのが役目としおのが職分と考ふる事までも、主人の命の下るまで一寸逃れに事を延ばし、遂には不手廻り、不行届をもて一日追ひ廻はさるゝに至らん。されば子女弟妹はいふに及ばず主人夫婦みづから率先して、なるべく不時の用事に下婢を呼びたて使はざるやう工夫すべし。これを完全に行

Digitized by Google

Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

上には、住居衣服を改良すべき要あれども、今茲にはいはず。

朝起の規律時の必要に應じ、日の長短を考へ、夜の明け放るゝ頃までに、一定の時間を定めて、下婢の起き出づる樣其寢室には豫じめ目覺し時計を備へ決して主婦が毎朝呼び起すが如き不規律の事なきやうすべし。かくて下婢は朝食の準備をなす傍、時計に



注意して、家人を起てすべき一定の時間には、鈴を振り若しくは拍子木を打ちて其時間を報ずべし。主人主婦を始め子女弟妹等の家族は老人幼者を除くの外、悉く起いで各自床を揚身じまひを終へ、室の掃除をなして、朝食の時間の來るを待つべし。尤も家族多き家にて、一里以上二里近くの行程を毎日通學すべき學生などあ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

りて、授業時間の一時間もしくは二時間前に、食事を了へ家を出づべき必要ある家庭に於ては、その者に限り特別に朝起朝食も早くせざるべからずといへども、其他は必ず一定すべし。一家の主人は最もこの規律に服從すべき義務あるものとす。

　食事の規律普通朝食の時間は、七時より八時までとすべく、八時と定めたる家にては、下婢は八時に食卓の準備萬端を了へ、鈴又は拍子木によりてこれを報ずべし。この音をきかば、各時間を違へず食卓に就くの義務あるものとする事肝要なり。食事の時間を守る事は、朝食に限らず總て同じ。正午に晝食を供へ、午後四時半より六時頃までのうち、一家の都合よき時に、夕食を終るべきやう食事の時間を定むべし。されどこれも亦主人の職業によりて、必らず日々夕食の時間までに歸宅し得ぬものもあるべければ、止むを得ざる場合には、二回にするを要すされども、なるべく晩食は一家團欒の時とし、共に食卓に就くべし。されども老人及び幼少のものは、概して早く寢所に入らしむる必要あれば、五時半よりおくれざるやう食事を了へしめ七時頃までに寢所に入らしむべし。

　予は又こゝに繰り返して、一家の主人たるものはいふも更なり、家族の者も、なるべく夕食の時間に遲れざるやう歸宅すべし。とはいへもとより家外の職務を取るものは、家門を過ぐるも入るを得ざる、火急の用務に食事の時間に考へ及ばざる事もあるべく、時としては先きより先きと、用事の出來て時間に遲くるゝ時もあらん。されどわが國の紳士等が、食事の準備を徒らにせしむる原因の多くは、爰に非ずして却て他にある事多く爲に子女をして、家族團欒の樂を失はしむる事少からざるのみならず、不用の膳部に無用の浪費をかさましめ、汁を暖ため湯を沸らす爲、炭薪の費幾許なるかを知らざるは、まことに節儉の意義に背けりといふべし。社會に對する義務を辨へ、知巳朋友への情誼に厚き人、獨家庭に薄き理あるべしとも思はれず。これ實は家庭の規律立たず、各自の我儘に任せて、五人は五通り、十人は十通りの食事をなし、規律を立て

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ざるに因るか、抑も主婦に家庭の女王なる權利なく、憚らるべき見識あらざるが爲か。家に食卓を圍んで、家長の歸りを待つ家族あるを知りつゝ、猶料理屋の樓上に醉を呼び、美味に飽く紳士あらんとは、心ある者の考へ及ばざる所なれども、しかも事實は心あるものの心に反すときく、まことに苦々しき世の風潮、痛むべき家庭の有樣といふべし。

職務の規律なるべく人の助力を借らずして、家族各が身の廻り仕度萬端を整へ得べきやう、小兒の時代より習慣をつくる事肝要なり。世の慈愛ある母親は、可愛きその子をして、勞少なからしめんが爲、衣服を着るよりも一層複雜なる惡戯をなし得べき健全なる手足を有てる小兒にも、猶顏を洗ひ、鼻をかみ衣服を着せやるなどの手數を要し、家の用事は增え、下婢の不時なる役目多くなり行きて、家務の整頓を缺き、混雜を來たし、而して得たる所は健全なる小兒をして、己が身の廻りの事は自分にては爲ぬものぞといふが如き習慣をつけ、無器用にして不自由なる、人間を作り出すに外ならず。まことに憐れむべき次第といふべし。

小兒と雖、五歲以上に至らば、自顏を洗ひ、手足を拭ふが如き事、衣服を整へ容儀を正す事を敎へ、整はざる時は幾度も敎へて後、食卓に就くを許すやう監督をなすべし。八九歲に至らば、自分の寢具を片附け、十歲にも達せば、その室を掃除せしめ、又は家の外など適宜の時間だけ掃除させ水をまかせ又はおのが靴を掃除し、學校服の塵を拂はせ、玩具繪本などを整頓せしめなどする事、一は家務を助け一は身體の運動を補ふべく、小兒も亦悅びてこれを行ふものなり。幼より尊大にして侍女を頤使し、懶惰にして不活潑なるは、精神上肉體上共によろしからぬ結果のみを來たすべし。たゞこれを敎育むには、耐忍して、其の無器用なるを見ても叱り罵る事なく、氣長く練習せしむるを要す決して無調法なるその仕方を見て、間だるこしとか、自烈たしなどの念を起して慢に手を下だすべからず。

小兒の職務としてこれらの事を練習せしめ、自らなすべき責任を負はしめたる後は、よくこれを監督して、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

必ずみづからこれを爲し、若し他人に手つだはるればおのが職分を犯かされしものとして恥づるやう感せしむべきなり。

二人以上の下婢ある時は各自の職務を嚴に定めおくべきはもとより、掃除日洗濯日など時間と日とを定むる事次の如くすべし。

洗濯日　月曜日の午前と木曜日の午前とを以て洗濯日とし、洗ひ上げたる物は水曜日の午後と、土曜日の午後とに熨斗して、既定の箱に納めおかしむべし。(洗濯すべきものは月曜と木曜との朝までに洗濯袋にいれおき下婢に渡すべし)

掃除日　土曜日を以て居室客室等の大掃除をなし、其他便所庭先などをも特別に叮嚀に掃除せしむべし。金曜日には臺所流しもと、戸棚押入等を掃除し拂拭しむべし。

此の外手水鉢は毎朝掃除して水を換へその手拭も取り換へて洗濯し置くべき事等より、ランプ掃除の時間、水瓶の水を換ふべき時間、など一々規定しおき監督してその規律を實行せしむべし。

交際に關する事經濟に關する事、娯樂に關する事、何れも一定の規律にしたがふべきものにて、說かんとする所多けれどもそは折を得て後に述べん。

姑に仕へるの秘訣

水原翠香

女子が既に一家の妻と成ては處女時代とは大きに同じからず、舅姑、夫に仕へ、一家族の衣服を整理し、庖厨の事家屋の装飾、庭園の掃除、親戚及他家との交際迄、一家内外の事務、悉く主婦の司る處、又子女の教育、雇人の使役に至る迄、其任や重且大、片時も注意を怠れば、忽思はぬ不都合、手脱落を生ず、殊に兒持と成ては一層の繁忙加はりて、眞に夜間の安眠すら得難き也、良妻賢母たらむ事容易ならず、然れとも是皆女子の天命にして、何人も必辭すべからざる職務也。

Digitized by Google

Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

世人皆女兒を嫁するに舅姑女公のなきを希へども此大任を經驗なき身に俄然負擔すれば、爲事毎に失敗して、家の損失、不經濟を極め、下婢にすら侮り嗤はるゝ事あり。幸にして姑の在あれば、萬事其指揮に從ひて、初級より卒業に至るが如く、世態に經驗を積まるべき也、されば姑は決して嫌ふべき者に非ず、嫌ふは婦の心得違のみ、翠香若かりし時心に感ずる處ありて、諸方より申込來る緣談の中、尤世上に嚴酷の評判高き姑在を特更に撰びて嫁したりき、異なる物好と人はいひしかと、我は只夫の無學文盲なるは飽迄も拒みて姑の方は意に介せず、是他なし嚴酷なる姑に仕へおはせなば身の譽となり、もし又堪へられずして離緣となるとも、あれ程の姑なれば理也と人は云ひて、身の疵とはならざるべし」又姑は老人也、何程嚴酷なりとも先は知れたり、夫のあしきは生涯に關係す、忍ぶべからずと決心したれば也、果して姑の嚴酷なるが故に、一家內は勿論、同家親類出入の者迄、皆我に同情を寄て心附かぬ事は忠告し、少しの誤有てもよき樣に取なしければ、他より推量する程憂辛くも非ず、姑の命令は唯々諾々一も違背する事なければ何事の起りても我誤とはならず、此大舞臺をもし姑より我獨り脊負て立ならば、如何苦慮心配するも到底人の譏は免れ難かるべきを、姑在が故に我を批難する者なし、有難き哉、心易き哉と悅びて、年月を送るうちに所謂浮世學を研究し、是は成程妙也彼は非也我世とならばかく、改めむなど心中に得る處多かりしは、全く姑の御陰也と、今に忝く位牌に向ふ每に謝する處、いでや其實地談を順次に說かむ。

◎新婦は假令塾舍等にて人馴たりとも嬌羞を帶びて萬うひ〳〵しげなるてそよけれ、誰に向ひても洒啞然とし物每に出過たるは興醒るもの也、何事も姑夫に詢て其指令に從ひ、知れたる事にても決して獨斷に爲べからず。

◎遲鈍の人も凡二ヶ月に及べば大畧其家風及一家內の人の氣質を伺ひ知るに足らむ、敏ならば十日內外にても知らるべし、一日も速く其家風に染らむと勤むべし。

Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

◎姑に仕ふる秘傳、凡人の心に適はむと思はゞ其人と好惡を同じくするが第一の捷徑也、先食物我好む品にても姑の嫌ひとあらば我も又喰ふ勿かれ、今迄は嫌ひし物にても姑の好物ならば少しも嫌らしき顏をせず勉めて少し宛喰習ふべし、凡食物の好惡は天性なるは稀にして只習慣に依るなれば、始は無理に食するも、少し耐忍して度重なればいつしかさ程いやでもなく成行き、終には其味を覺えて好となる、此事我實驗して確也誰にても試み違はじ食物に限らず萬事此格にすれば、短日月のうちに御意に適ふ事太鼓大の印を捺て保證する處也、但し法度を犯す弄花の如き又は世間の誹謗家の耻となるべきは如何に姑の好事なりとて、我も共に爲すべきに非ねば、程克いひ免れざるべからず、爰に云は只大事なき事のみ。

◎翠香が知人に姉の死あとへ其妹を後妻とせしが夫の氣に入らず常に苦慮して語るやう姉は何事にても旦那に反對して右といへば左し上といへば下せられしかども氣に入りにていつも旦那の方より負て姉のいふ儘にせられたりし我は始より只叱り付けらるゝのみてわくて反對沙汰に非ず一も二も其言に背かねど猶叱らるゝのみいかにせばよかるべきと云ふ予を以之をみれば其情は他に非ず其夫なる人は氣概ある女を好み遊所にても客をふる妓ならでは面白からずとし温順一方手のなきを不興として嫌ふ也姉の方は其意を克知りて態と逆らひて其實は夫の心をとりし也故に寵愛せられたり妹は其才なくて只恐縮し叱らるれば狼狽して爲す處を知らず故にます〳〵嫌はれて終に離縁となりぬとに角人の意に入らむとならば其人の好む處嫌ふ處を知りて我といふ觀念を忘れ果て其人の好む人に成濟すべき也諺に曰杖の下からも慕ふ兒は可愛ともし何事か姑に叱らるゝ事あらむにそれより恐れて常に心をおく時は増々其間に隔意を生じて物事を互ひに疑ふ樣になるもの也叱られたらば其時は恐れ入て謝罪べしと雖も事終りて後は忘れたる如く聊も其事を懸念せず莞爾に物事を問ひ聞くべし假令何といはるゝとも我よりは只眞實の母の如くして其機嫌の能き時には物を强請なともし媚へてみるべし夫に媚ゆるは傍人みて見苦しとし嫉み

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

も爲ものなれと姑に嫁ゆるは傍人も其隔意なきを譽めかつ羨むべし姑も又斯へだてなくせられては惡き心持せずいつしか實の女兒の樣に思はれて其夫が嫁の事に付て心に協はず叱りなどすれば却て姑が取なしをいひ今のうちに何々を爲ておかずば又歸り來て腹を立てひなと注意しをしふるやうになるもの也翠香が姑も評判程有て癎癖強く、怒らるゝ時は煙管物尺何にても手當り次當に打擲さるゝ事有しかば、鬼婆々など陰言いふ者ありけれと、其性質は決して惡き人に非ず、正直なる故に少しにても不當と思ふ事は甚しく立腹らるれと理解れば忽ち折れて譬ば夏日の雷雨の如く、始めの勢すさまじきも晴れば夕日の輝くに似たり、我此を知るが故に怒に遇ひては思ひの儘に打たれ居て、氣納り顏色の和らげるを窺ひては、何氣なく談話す、姑曰先刻の如く爲ても腹は立ざるかと我答て云那誤ち有ていはれざれば氣味歹し、御叱りを受て心爽快せりと、姑打笑て扨々罪のなき人哉、你には我心留れずいひ度事を云べしとて、我には鬼處が佛の如くなり賜ひぬ。

◎女公妯娌は嫁の身に取て姑よりも處しがたし、姑は我かゝり子とする者なれば敎へ育てむと思ふ心付、かつ又家内の紛紜あるは家の恥辱と彼を思ひ是を慮りて幾分か恕する處あれとも女公等は然らず、あながち惡意あるに非ざるも、嫁の事は兎に角に批評を試みるが世の習慣也此人々に憎み嫌はるゝ事あれば始夫姑の氣に入りて在しもいつの程にか其愛を失ふ物なり、然りとて又恐るべからず、餘り恐るれば却て侮どらる、厭ふべからず、心中厭へば自然顏色に顕はれて憎しみを惹出す、斯しにくき故に昔より鬼千匹と諺にいへど女公等とてまことは鬼に非ず、蛇にてもなし、やはり我と同じき女性也、我より誠實を以交らむに、彼又何とか爲べき、更に恐るゝに足らず、一點の隔意なく親しみて事を共にし、時に戯れ遊びもして然る中に敏く其意中を察して、悖る事なく樂を讓り、勞に替り彼等が姑夫などに云兼る言を代言、欲と思へる物を與へ、抔して好人物と思はるゝ樣に勤むれば、彼も又歡

Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

びて遂に同情を寄せらるべし。

◎父母の膝下に在ては、何事に附ても親の慈愛に包まれて悪き事もかくるゝなれど、他に嫁しては全然反對にて、家族及び立入る人々悉皆他人の中なれば、衆人側目みてよき事は當然と見做されて誰も云榮さず、缺點は些の事迄もかにかくと夫より某へ傳播せられて疵を求る世中也、されば嫁しては成べく物を惜まず、散して人望を採るを第一着に爲さゝるべからず、下輩は物を與ふればよく言做し吝なれば譏りて何か事あれば忽ち尾鰭を添ていひ騒ぎ、終に四面楚歌の聲となる事、爰に至ればもはや離縁するの外あらざるべし。若年より運强くして氣隨氣儘を通し來りし人は姑と成ても嫉妬深く自己の配偶者のみならず我子と嫁の中をすら妬むが多し我子に嫁を迎へて和合し睦まじくば嬉しかるべき筈なるを却て妬ひとは其意を得ざる勿論な



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

れと是をよく／＼分析してみれば又理由なきにしも非ず今迄は我子の衣服食事萬端の事悉皆母の世話なるが故に悴も出入に付てい母様母様とまはして外にて見聞せし世間話も歸りては母に語り母子の間親しく睦ましかりしも婦來りて後は衣服の出し入を始食事も何も一切引受るが故に自然と婦の方へ物いふ事多く成別に母を疎むにてもなけれど世間話も老



人の母よりは若き婦の方がうまも合ひて面白く晩酌の相手として共に笑ひ興ずるを母親は上の間よりみて忽ちやける心持發りいかに夫婦間にても餘り傍若無人なるは見苦しなど小言をいへば若夫婦は變に思ひてそれより後は母が來れば話を止め居ずまゐを正しなどして畏るを母は又惡しく取て我來りしとて何も俄に形勢を換るには及ばじを話をも止るは我みぬ處

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

にては何を爲るか云ふか知れず定めて我事を譏り合ひて在つらむ邪魔になるなら彼方へ行くべしなど嫌忌をいひ是より隔意を生じて若夫婦は物事を隱密てこそこそと私語し姑は逢ふ人ごとに嫁を貰ひしより悴の心替りたり是迄は隨分孝行ものと自慢に思ひたりしに此頃は女房に鼻毛をよませて母を疎外し何でも嚊々大明神也などゝいふされば姑にもし悋氣わりと悟りたらば甚敷ならぬ先に早く夫と申合はせて姑のみならず家内誰にても人のみきく處にて夫は成べく其妻を邪見に叱り妻は又折々姑に夫の强面て憂き由を訴へ如何せば御意に適ふやらむ愚なる身は計られずいかでをしへ給はれと樣に只顧姑をたよりとすがるべし常に此心持を忘れざればいつも家內は穩やかに圓滿なるべし此事予實驗せし秘傳なり。

一日醫者（其四）

糸左近

▲僂麻質斯 Rheumatismus.

〔種類〕　本病を分けて、（一）急性關節僂麻質斯（二）慢性關節僂麻質斯（三）筋肉僂麻質斯の三つとする。

〔原因〕　（一）はヒユーテルといふ人が傳染病の一つであると言つたけれども、未だ本當に其の病毒は分らぬ。兎に角第二の原因となるものは、感冒濕地で、十五歲から三十歲まで位の壯年者に多い。さうして春秋に發り易い。又赤痢淋病　產　褥熱及び其他の熱病に續いて發ることもある。（二）は急性症から轉じ、或は幾度も本病に罹つたもの、或は濕潤の家及び住地、或は感冒、或は水中で業を操ることなとから起る（三）は大抵（一）（二）と同じいやうなれと、別に又寒冷或は隙風の爲になることもある。（一）（二）（三）に通じて言へば、濕潤といふことが大なる原因となるやうである。余の知つた人が慢性僂

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

麻質斯で幾年も惱んでゐて、何程醫療を受けても効が無い、さうして其の人の住居は小高い丘の麓であつて（本郷區丸山福山町四番地）其處の丘の上にも家が澤山ある、邸內は何時も日陰で、地は年中乾いたことが無い。そこで余は、勸めて轉宅を實行させた、ところが其の來年よりは、自然と全快して、夢の覺めたやうに、跡方も無くなつたことがある。濕地は本病ばかりで無く、其の外色々な病源となるものである。

〔病狀〕（一）は膝・足・肩胛・肘などの一ヶ所或は數箇所に、疼痛を發す。時に腫れ脹るゝこともある。さうして其の處は赤い色をあらはし、痛くて動かすことも出來ぬ。この痛みが方々に及んだり、或は隱れたり、現はれたりする。それと同時に惡寒がして、熱が四十度近くなることがある。（これより低いこともある）此の熱は一日の中に甚しい高低のあるものである。續いて食欲が無く、又消化が惡くなり、便秘がし、小便の量が減り、或は汗が出易く、或は汗疹が出で、或は心臓の動悸が高ぶるなどする。（二）は關節に於いて運動したり壓へたりすると疼痛を發す、さうして其の節は硬くなり、或は膨れ或は厚くなる。中には動かすとガク〳〵音のするのがある。又其の處が妙な形になることがある。精神上には別にこれといふ苦みを感せぬものである。（三）は身体中重に肩の方や頸の邊或は頸の廻り或は肋胸などの筋肉に痛みを感じ、時には腫れたり脹れたりすることもある。これにも急性と慢性とあつて、急性は呼吸苦しく或は頭痛などして、稀には熱を發すこともあれと慢性は然うでなくて痛さが一部に止らないで彼此轉じてあるくことがある。さうして天氣の惡い時は其の痛さが增すものである。

（一）は大抵二三週間長くて十週間以內に全快するけれと（二）は容易に治らぬ。短きは五六ヶ月長きは數十年にも涉る、けれと生命には直接に關係の無いものである。（三）の急性は數日で治るけれと慢性は數年これに惱むことがある。右何れも慢性は左程の苦しみを與へぬために等閑に思ふ人もあれとそれが爲に他に影響を及ぼすものである。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

〔療法〕 何れも乾燥温暖の住居に移り、身体を温かに包み、滋養に富んだ食物を取り、痛い箇所を按摩し、酒精を塗り、又沃陳丁幾を塗るが可い、最も愼むべきは隙風と濕冷とである。滋養品としては牛乳ソップ鶏卵魚肉豆腐の類が宜い。又温浴も効がある。薬品としては(一)及び(三)の急性には

撒里矢爾酸〇・五(一包の量)　白糖適宜

右一日三回に三包服むべし。

或は又左の薬も甚だ宜しい。

撒曹四・〇　薄荷油一滴　白糖適宜　水一〇〇・〇

(半合)

右一日三回に分けて服むが可い。

すべて慢性の者には、右の薬は効が無いといふわけでも無いけれど、根治療法では無い。根治薬は皆劇薬であるから、こゝには書ぬ、素より一日醫者といふ主意であるから、述ぶる必要も無い。が併し温泉療法は頗る効のあるものである。殊に相摸の湯本・堂が島・伊豫の道後・下野の日光などは大いに宜い。

▲痛風

〔原因〕 これは大抵遺傳である。美食して運動せぬ人、又大酒を飲む者に發り易い。僂麻質斯は貧しい人に多く、本病は富んだ人に澤山ある。朝に山海の珍味に飽き、夕に和洋の美酒に酔ひ、家に居るには何の爲すことも無く、圍碁に、音樂に夜を明かし、外に出るには馬車人力に打ち乗り、數多の侍者に御機嫌取らるゝやうな無用人物に多い、若し箇樣な奴に發るとすれば、罸當りであるから、善い氣味であるが、稀にはさうで無い頗る大切なる方にも發ることあれば、こゝに掲ぐるのである。

〔病狀〕 大抵は胃腸病か或は心臓病かと思はるゝやうな前徴がある、即ち食欲が無いとか動悸が高ぶるとかして、それが自然と治つたり、發つたりしてゐる揚句に、夜間卒かに足の拇の關節、或は他の關節に劇しい痛みが出て、紅く腫れ脹れ、惡寒がして熱が出で續いて汗が出る。それで翌朝になれば殆んど治つたやうになる。斯樣に晝間は何でも無くて、夜に入れば、再

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

び發り、それが一週間か二週間續くと、痛さが止んで了ふ。それから引き續き養生さへして居れば、大概發らぬけれど、喉元過ぎて熱さ忘るゝといふやうに、元の獸阿彌となれば、更に重くなり、遂には漸々晝間でも止まず尙進めば歩行まで出來ぬやうになる。

右は規則的の痛風なれども、その不規則なのは恰も慢性僂麻質斯の如くに、始めから晝夜ともに發り、さうして其の發り樣が緩らかで治り難い。又この外に內部痛風といふのがある。これは胃や腎臟が痛んだり、或は殆んど胃病の樣になり一方ならぬ苦しみをするのである。そうしてこれは仲々容易に治らぬものである。

〔療法〕 飮食の養生を嚴重にし、脂肪の少い淡泊とした食物を與へ酒類は一滴も飮ませぬことゝし、强壯な肥えた人には、頻りに身体を運動せしむるが可い。一般に溫泉浴を命ずるが宜い。急性の者には先づ病者を床の中に臥さしめ、綿で拇趾の關節を包み、脚を高く起し、急性僂麻質斯に與ふる藥を用ゐると、大いに効がある。

一般に左の內服藥が可い。

炭酸里玉謨〇・一（一五の十分の一）乃至〇・二を一日二三回一杯のセルテル水（セルテル水とは重曹一瓦を水百瓦に溶したるもの）に加へて服むと甚だ効がある。

慢性痛風には、按摩硫黃浴が多少の効あるものである。

▲肋膜炎

〔原因〕 感冒・外傷・肺病・氣管枝病・心臟病・肋骨病・痛風及び傳染病などから起る。

〔種類〕 乾性と濕性との二つありて、乾性が又限局性・蔓延性・纎維性と分れ、濕性が又漿液性・膿性・出血性と分る。更に圖解すれば、

肋膜炎
- 乾性
  - 限局性
  - 蔓延性
  - 纎維性
- 濕性
  - 漿液性
  - 膿性
  - 出血性

の如し

〔病狀〕 大抵の肋膜炎は緩やかに發るもので、胸の側に痛みを感じ、殊に深い呼吸或は勞働、或は咳嗽或は

Digitized by Google

Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

欠伸をする時に其の痛さが增す。すべて呼吸が短かくなり、劇しい咳嗽が出て、何となく倦み疲れ、顏色は蒼白くなり、食欲が減る。重いのは熱が出る。けれども、甚だ高く無い。小便の量は大いに減るもので、平常の十分の一位になることがある。されど治るに從つて漸々其の量が增して來る。偖て肋膜炎であると診斷は勿論醫者で無ければ、つき難いものである。故に胸が痛くて咳嗽が出たら身体左程苦しく無くても、本病であるかも知れぬと、恐れをいだき、醫者の診察を受るが可い。又本病であるといふ病狀の一つは痰が泡樣であることである。

〔療法〕　本病に罹つたら、身体を靜かにし、愼んで牀の中に臥し、痛い部に芥子を塗り、或は溫め、每日五合位の牛乳を飲むが大必要である。內服藥として初期には、

水楊酸曹達四・〇　薄荷油一滴　白糖適宜　水一〇〇・〇（牛合）

右一日三回に分けて服むべし。

又少し時日が經てば、左の藥も可い

醋酸加里四・〇　苦丁一・〇　白糖適宜　水一〇〇・〇

右一日三回に分けて服むべし

〔注意〕　本病は大抵治るものなれども、養生が惡いと肺結核になることがある。全体斯の如き病氣を「一日醫者」の項目に入るゝは、余の本旨で無い、が併し病氣に罹れば、中等以下の人に在つては、金錢は得られず、醫者の診察料藥價は拂はねばならず、滋養物を食はねばならず、看護人は要る。仲々やりきれるものでは無い。余の知つた人で平常月俸五十圓を取るのであるが、此の病氣に罹つたれば、始めの中は醫療を受けて居たれど、後には服藥せずに唯自然に任してゐた、余はその理由を問ふと、醫療代は盡きた、去りとて借金は神に誓つてせぬことにしてゐる、若し借りたところで治らねば勿論返濟するものが無いからであると、余は實に其の正直を感じた、で右の藥法を敎へてやつた、すると彼は大いに喜んで用ゐたが、今では立派に

Digitized by Google

Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

出世して百五十圓の收入ある上に多くの貯金もしてゐる。此の人は五十圓の月俸でさへ此の通りの始末、して見れば、それより以下の者の多い世の中に於いて、困る人が、澤山あるに相違ないと余は思ふ。然る人は、唯病を自然に任せておくよりも、余が「一日醫者」を便りとせば、何程の利益があるかも知れぬと自信してゐる。故に余はこれより何んな重い病氣の治療も書くことにしよう。

▲胸水

〔原因〕腎臟病心臟病などの水腫から胸までに及ぼし、或は血液に變調を來した時に發るものである、其の他の原因は醫者で無ければ分らぬ。

〔病狀〕肋膜炎に能く似てゐる。さうして肋膜炎よりも其の苦みが多くある。

〔療法〕其の原因に依つて違ふけれど、肋膜炎のと同じいやうにしてゐても矢張効のあるものである。

(以下續出)

養蠶の手引

在農科大學 鷲水生

げに月日のたつのは早いもので羽子や歌留多で遊んだのはつい一昨日の樣であります間に、早や梅も去り、櫻もちりて、今度は海水浴など追々と夏の用意をしなければならない樣になつて參りましたが、唯に遊び事ばかりではありません、氣候が暑くなるにつけてソロ〳〵御蠶樣の時節となりますが、斯れが出て參りますと養蠶に從事なさる婦人方は中々呑氣にしては居られません寢ても起ても隨分心忙しい思ひをしなければなりません。

養蠶は女子の職業としては最も適當なる然も有益なる事業でありまして日本にても遠く神代より行つて居る事でありまして近來にて盛大に行ふ國は長野、福島の二縣下などは隨分盛なもので將來とても斯業は段々に降盛になるに相違はありません。

養蠶の事につきましては隨分御話致したき事どもが

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

澤山ありますが、今日は御蠶様に桑を給ふる事につきまして簡單に御話致して見ましやう。勿論養蠶地方で毎年この仕事に手馴た方々には今更詳しく説明を申すまでもありませんが。

御蠶様に桑を給へますには、其齢により多少の差異があります、蠶の第一、第二、第三、第四齢の間は必ず葉を刻みて給へます或は第四齢以後は全葉のまゝ或は小さき枝ならば枝付きのまゝ與へても差支へはありません。

桑を刻む大さは大抵其時の御蠶様の体の長さと等しき位に致しますので、其大さを申しますれば大抵。

第一齢	初	一分四方
	終	二分四方
第二齢	初	二分五厘四方
	終	四分五厘四方
第三齢	初	五分四方
	終	八分四方
第四齢	初	八分五厘四方
	終	一寸四分四方

位でありまして、其大さを揃へますには、先づ葉を積み重ねて此を縦横に切り其れ〳〵其大さに應じたる目の篩にてふるひますれば葉の大さが奇麗に揃ひます、

桑を振りかけますには、右の手にて大抵一尺より一尺五寸位上より給へましてなるべくむらの無い様に給へませんければ御蠶様に不揃ひが出來ますから注意せんければなりません。

▲給桑回數

人々により多少の差異はあるけれども、大体初めは回數を多くして漸々と少くするのであります、通常給へますのは先づ午前の五時頃より、午後の十一時頃までと致しまして毎日の回數は

第一齢	七回
第二齢	六回
第三齢	六回
第四齢	五回
第五齢	四回

然しながら必しも斯く致しませんでもよろしいので、個様に定めてゐるから、一回分の桑の量は定まりて居ります、然し御蠶様が眠りに就きます少し前には、桑

Digitized by Google

Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

を食する事が減じて參りますから、從て給桑の分量も手加減をして減じなければなりません、左樣致しまして、御蠶樣が悉皆眠りに就きまして、其中數頭位の起きたるものを見ますれば、其時には全く給桑をよしてしまはなければなりません、而して悉皆起るのを待つて居まして、其体色が元に歸りました時に復た桑をつけ初めるのであります。

其眠りに就く前に給桑致しますのに色々の名前がありますが、普通に給桑を止める前に給ふるのを、留桑と申します、悉く起きたる時分に初めて給ふる桑を付桑と申します。

眠りに就きます時には、各齡共に桑を細く或は短冊形に刻みて給へんければなりません、また地方によりましては、眠りが現はれますと、給桑の回數をまして、其代りに桑の分量を減じますので、其れはまだ眠らないで居るものを成べく早く眠らせようとする爲でありまして、其桑の事を責桑と申すのであります。

五齡の末になると所謂、熟蠶になりまして其時には食慾も減じて來ますから、桑の分量を減じて此れを刻みて給ふるのであります、もし枝付きのまゝに給へますれば、其間に糸を吐きまして蠶坐の上で繭をかけますから是非刻みて給へんければなりません、左樣致しますれば、蠶は皆蠶箔の縁に出て參りますから其れを取りまして此れをマブシに入れるに至つて見易う御坐ります。

▲給桑量

普通の種紙一枚と申しますのには蝶を百匹つけるのでありまして、其れより產れて來ました蟻の量は四匁でありますので一匹の蝶が四百位は產みますから四匁の即ち一枚の種紙には四萬計りの蟻が出來るのであります。

今此蟻の目方一匁即ち一枚の四分の一に對しての給桑の分量を申すと

第一齡に於ける一回分の給桑量

第一日　二匁内外
第二日　三匁内外
第三日　四匁内外

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

第四日 七匁内外
第五日 九匁内外
第六日 十二匁内外
第七日 給桑適宜

第二齢に於ける一回分の給桑量

第一日 十五匁内外
第二日 二十匁内外
第三日 二十五匁内外
第四日 四十匁内外
第五日 三十五匁内外
第六日 給桑適宜

第三齢に於ける一回分の給桑量

第一日 卅匁内外
第二日 六十匁内外
第三日 九十匁内外
第四日 百目内外
第五日 百廿目内外
第六日 九十匁内外
第七日 給桑適宜

第四齢に於ける一回分の給桑量

第一日 百三十目内外
第二日 二百目内外
第三日 三百五十目内外
第四日 三百六十目内外
第五日 四百目内外
第六日 百廿目内外
第七日 給桑適宜

第五齢に於ける一回分の給桑量

第一日 四百五十目内外
第二日 八百四十目内外
第三日 一貫廿目内外
第四日 一貫二百目内外
第五日 一貫二百五十目内外
第六日 一貫六百目内外
第七日 一貫八目内外
第八日 六百目内外
第九日 給桑適宜

第五齢の終にて遂に熟蠶となりますので、此給桑の分量は蟻の擴げ様の廣いと狹いとで非常に差がありますので廣げれば澤山を用し狹ければ少くてよろしいのでありますが然し其れには大抵度合がありまして先づ第一齢の初日には一匁の蟻ならば一尺四方位に擴げて置くのでありまして、其れにしても第五齢の終り、既に熟蠶といふ日には澤山の御蠶様になるので在ます(完)

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

季節總菜料理

▲筍の葛煮

これは湯でたる筍を輪切にし、煮汁をたつぷりとこしらへてよく煮、扨て葛粉を水にて溶かし、鍋を下ろす際に入れ盛りて後、生姜を磨りて載すべし、葛粉の溶き方は水一合に葛三食匕位の割にし、あまり薄からぬ様にすべし。

▲鮒の昆布巻

これは燒たる小鮒を、青昆布にて巻き、干ずいきを細かく割きてくゝり、半日以上も湯煮にし、後ち砂糖を少し加へ、醤油をさして煮るべし、但し山査子にても、炭酸曹達にても少し入れて煮れば、二三時間にて骨まで柔かく煮ゆるものなり、その他荒布にて巻くも、出昆布にて巻くも煮方は同じ、又鰻沙魚、鮒の昆布巻も煮方は同じ、但し始は強き火にて煮立たせ、後は弱火にて長く煮るなり。

▲木の芽田樂

ぬるま湯を大きなる器に入れ、豆腐を切るも串にさすもその中にてするなり、かくすれば柔かなる豆腐もくだけ落つることとなし、右の如くしたるを引わげてすぐに火にかけるなり、扨砂糖少し加へたる味噌に木の芽を入れ、又甘酒の堅ねりを二分とほり味噌にすりませ上より塗るなり、但し砂糖を多く入れれば甘すぎてよろしからず。

▲筍と獨活の白和

孟宗筍の皮を剝き、よく湯でゝ薄く切り、獨活を亂ぎりにして湯でゝ醤油と砂糖にて薄く味をつけ、白胡麻を煎り、擂鉢にてよく擂り豆腐を拭布にてしぼり胡麻と一緒に擂り交せ、砂糖と鹽にて味をつけて和へるなり、又筍の代りに蓮を用ゆるもよし

▲をらんだ飛龍頭の拵へ方

豆腐をくづし、水をよくしぼり、酒と醤油にてよく煎わげ、牛蒡のせん、木茸のせん等をまぜて豆腐の湯葉二枚にて葛の粉をふりかけ、程よく巻き、包みて暫時置きさて胡麻の油をよく煮立てわげるなり、尤もさつと揚ぐべし、揚すぐれば皮こわばりて切りかたし大巻にして、臺引などに使ふてよし



Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

家庭と新聞

日刊紙上に散見せる名家の家庭に關する談話の梗概を集めてこゝに家庭談叢の欄を作る、篇中衛生の事あり經濟の事あり、育兒に關する事あり、修身に關する事あり、その論旨は多方面なれどもなるべく家庭に必要なる部分を拔萃して居家處世の參考に供せんとす。

◎酒と子孫の關係（時事新報所載 片山醫學博士）

酒を飲むものは身体の何れの部分にか必らず害を受くるものなるが、蓋し酒は身体中の蛋白質を侵すものにて、この酒と蛋白質との關係に於て子孫に對して影響を及ぼすこと頗る大なるものなり、古來歐羅巴の傳說によれば酩酊中に出來たる子は精神腦力の乏しき人間なりといふ、今その實證の一斑を示さんに南歐州地方に於て葡萄の當り歲には必らず白痴の子を生ずること多しといふ、そは葡萄の收穫多くして農家に餘裕あるを以て酒を飲むこと多量なるの結果なるべしといふ、又瑞西に於ても同樣葡萄の收穫多量の翌年に生れし小兒に痴愚多かりしとの例あり、又クリスマス祭、及び日曜日の如き兎角に酒類を多飲する時に胚胎せし小兒は槪して不出來にして、統計上爭ふべからざる事實となり居れり。右は一時の飲酒に關する調査なれども更らに平素飲酒する人に就て是を見るに、その本人は左程の害を被らずして却てその子孫だけに害を及ぼすものあり、扨又その被害の程度を考ふるに、三代四代に及ぶものありといふ、即ち飲酒せし當人は左程精神上に異狀を來さゞるも、二代目には幾分か腦髓に異狀を呈し、三代目に至れば小兒の時より、種々痙攣を發し或は種々の神經症狀を有するに至るといふ、斯の如く酒の害は本人のみならず、長く子孫に惡果を來すものなれば飲酒を愼むべきは勿論の事ならん云々

◎酒と病氣（時事新報所載 片山醫學博士）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

酒類を多量に飲用する人、即アルコールの分量にて一日に三十ガラム乃至四十ガラム以上を飲むものは身体上に種々の影響を顯はし來る、その影響は即ち蛋白質を侵さるゝものにて疾病の原因たり。而してその疾病中精神病も又飲酒の結果にして平素道德堅固の人と雖も飲酒すれば猜疑心を生じ易く、囈言を吐き、又飲酒の爲めに腦を侵さるゝの結果精神遲鈍となり、遂には人物の墮落を來すに至る、且つ飲酒家に多き中風症も畢竟腦を侵さるゝの結果にして、腦出血即ち卒中と稱する病氣は主として飲酒の原因たるべし、且つ酒が癲癇の原因となるも爭ふべからざる事實なり、而已ならず、眼病、耳病、咽喉病、氣管支カタル、肺結核等の諸症皆又酒飲の結果たるは統計表の示す處ろたり、而して彼の心臟病、即ち血行器に關する種々なる疾病は皆酒に原因せり。又消化器に關する疾病に至ッては胃カタル、腸カタルは飲酒家に普通するものにして、肝臟病、腎臟病等を起すもの飯酒家に多し、いづれも酒の爲めに侵さるゝ疾病にして、その害の夥しき擧げて數ふべからざるなり。

◎米國人の家庭（報知新聞所載 井口あぐり女史）

米國といふ所は恐しく女權の擴張したる國柄なりと、豫て聞き及びたれば、その家庭の狀も定めし日本とはいたく相違するならんと想像したりしも、扨て渡航して實際を見れば、日本と少しも相違せざるのみか其の家庭の能く修り夫婦親子の間柄の睦じきことなど到底之を日本に於て見る可からず、實に案外なる思ひのせられけり、予が留學中下宿したる家は、孰れも學校の教授をなし居る人の宅にして、家庭の模範ともなるべき際に寄寓したれば、之を以て同國一般の家庭を律すべからずといへども、予は幸に好き家の厄介に成りたる御蔭にて好き家風を見、善き習慣を實見するを得たり。渡航の當初下宿したるは予が入學したるスミス大學に教鞭を執らるゝ人の家なりしが、此處は夫婦に十四才と十才の女子と、四才の男子と、及び下女一人の家内にて、予の外に尙ほ二人の下宿人あり。生活向は

Digitized by Google

Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

先づ中等以下なれど其の家庭内の睦じさは上流の家庭といふも斯くはあるまじと思はれたり。此家の奥様は能く氣の付く方にて、勝手元より家内萬端の事に至るまで何與となく手一つで取捌き玉ふが故、下女は己が受持てる職務以外には手を出さず、その上執務時間といふもの丶極り正しければ、日本の下女の如く何から何まで手傳はせるといふ譯には參らぬなり。木曜と日曜の午后は下女の安息日なるが故、朝の内丈は立働きをするも、午后よりは外出するとも何をするとも自己の勝手にて、假し家に在るにしても此日ばかりは働くことをせざるなり。されば四才になる娘御が母御の手助をして御年に似合ず仲々能く働き玉ふを例とす。又た、御二方の間を見參らすに奥樣の方威權强さなどいふことなく、矢張女は男の下に從ひ居れど、子供に向つては母親の方遙かに勢力あり。例へば惡戯をして叱られる場合などにも、阿父さん御免なさいとは言はず屹度阿母さん御免なさいと母御に向つて謝罪り、外出する時も必ず母に斷りを言ふの風習なり。家內の規律は整然として一糸亂れずといふが如く、家事萬端に規律正しきことは實に感ずるに餘りある程なり。人手少き事なれば娘御達にも夫々役目が極り居りて、朝は八時に寢床を離れ、家內一緒に打揃ふて食事に着き、學校より歸りてからも唯だ遊んで許りは居ず、銘々の受持てる役目を固く守るを日々の掟とせり。されば十歲になる娘御の如きは、四才になる弟を寢付かす事が夜の役目となしありて、定刻となれば假令何の樣な面白き事有らうとも睡くないと言はうとも、母親は承知せずして二階の寢床へ送り上ぐるが故、姉娘は妹の衣服を脫がせ、身体を湯もて拭ひやり、寢衣に着替させて、扨て床に入れ、其の子の睡に就くまでは傍に附添ひ居りて唱歌など歌ひ聞かす。所へ母親は時分を計りて上り來り、凡そ十分間位神樣の話を語り聞かすこと毎夜の如し。か丶る習慣なるが故、子供も時間を以て寢食し、從つて母親の手數を省くこと莫大なり、此家の子供の躾方は放任主義の米國に似合はず頗る手嚴しき方にして、子供に過ちある時は必ず母の前で詫をせ

Digitized by Google

Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

されば許さぬといふ風なり

次に下宿したるは中學校の校長を勤め居らるゝ方の家にてありしが、この家庭の其の又た美しき事にはほとほと感じ入りたり、此の方は前の家とは異り、放任主義にて一言も子息の上には口を入れず、夜一時に歸らうが二時に歸宅しやうが、構へて小言など言へる例なく、親は悴に非行なきを信じ、子息亦た親に孝心厚ければ、其間は誠に麗しきなり、殊に次男は親思ひの方にして、時々、他に居らるゝ老祖母の方が遊びに來たられ、一週間位も泊つて行かるゝ事あるも、其間といふものは夫は〳〵痒い所へ手の届くばかりに慰め勧り八十以上の高齢にもあり且つは中風の氣味もあるが故日に一度づゝ乳母車やうの物に乘せて戸外を運動させ、心を慰むるを務とし學校より歸れば乃ち祖母の傍に附き添ふて優しく劬はる狀、實に感心なるものにして、人たる者の鑑といふ可し、

斯の如くして、三年餘の留學中、予は最も好き家庭の厄介となることを得たるがまゝ、異國の空に羈旅の身たるをも忘れ、その温き家庭中の人となり樂しく暮らすことを得しは予に取つては無上の幸福なりしなり。

◎嫁姑の折合（國民新聞所載 棚橋絢子女史）

折合と云ふことは、獨り嫁姑の間のみに限らざるなり日常知巳朋友との交際にも、亦た大に必要なことにして、世は相讓り合つて相方より折合はざる可からず、即ち相和らがざれば、その交際を保つ能はず。常に交際の圓滿に行く人は、相互に信義を重じ、互ひに相讓り常に善く折合ふに由る。然るに若し是をして反對ならしめ、常に互ひに募り合ひ、彼我の落度を咎め、我又彼の弱點を探すが如き仲らひにては我も人も生きた人同士、常にその間の圓滿に行くべき筈なし。されば嫁姑の間を常に温かにならしめんとするにも亦互ひに心の至誠を盡し合ひ、毎日常に折合つて行くより外はあらざるべし。さすれば、其中には、互ひに心から相愛し合ふ情も起り、嫁も笑へば姑も笑ひ、引いては一家繁昌の分子たらんとす、こは言ふまでも無きことな

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

るが、一歩進んで嫁姑の間を生涯圓滑にせんとするには、嫁を貰つた當座こそ誠に大切の時期なるべけれ。然るに世間一般の姑の爲す所を見るに、先づ自分の悴に嫁を迎へれば當初の珍しき間こそ、舐めるやうに可愛がり、その後程經て、少し飽きて來ると、今度は無闇に嫁の弱點のみを探して、イヤそれもいかん、これも氣に入らんと云つて、毎日家で嫁を苦めるのみならず、他人に向つてまでも、嫁の善く無い風評などなすか丶れば嫁の方にても亦忍んでは居らず。『此方のおッ母さんは、當初は實に善いお仁のやうであつたが、段段お馴染み申して見たら、實に邪見な八釜しい仁だ、』と怨み、これも亦人に向つて、切りに我が大切なる姑の惡評をなす。その仲らひの一度玆に至つては再び回復すべからず、相方の間は次第に背中合の姿に成り行きて、一方にて小言を云へば、一方はふてる。昂ずる時は姑の方は益々大きな聲をする。嫁は泣出す、悴は間に立つて迷惑し、引いては一家内誰も彼も皆いやな顔をして、笑ふ門には福來たるなど云ふ、家庭の陽氣の分子は徹塵も求む可からざるなり、總ての點に於いて、最早決して其の家に、福の神の宿れりとは言ふ可からず。

斯の如き有様にては、一家は單に物質的の損耗を來すのみならず、また精神的にも何程の不快を感ずるか測り知る可からず。さて斯う成りたるその罪は嫁に在るか、姑に在るかと糺せば、いづれを孰れと味方のせんやうもなく、先づお互ひさまと云ふより外はあらざるなり、一家を此處まで破りし罪は、まだ世事に馴れぬ年の若い嫁よりは、最早額に經驗の皺を疊んだ姑の方に多からん。成程姑は嫁の爲に、大切な人に相違なきも、嫁も亦我が可愛悴に生涯添はせるものなれば、その方面より云ふも、また我が一家の爲より云ふも、我が悴同樣に大切にせざる可からず。故に此の後我が息子に嫁を貰はんと云ふ仁は、それに先達つて、こ丶を熟々思案して、今後姑と成るべき自分が、嫁に對して如何なる感情を有てば宜しきか、また如何に振舞へば宜きかと云ふことを、確乎と定め置きしならば、その期に及んで其故に我が家庭の親和を破る如き事は、恐らくあるまじき事なりかし。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

家庭談叢

女子と體育

女子高等師範教授
女子體育專攻家　井口あぐり

女史は羽後の人辭宮來賓會議部井口糺氏の第二女にして秋田市に生る、幼にして頴悟秋田縣尋常師範學校を卒業し拔擢せられて東京女子高等師範學校に遊學し成績常に拔群、業を卒て後毛利高等女學校の教頭に來職し遂に文部省の選拔を受け明治卅二年女子體育專攻を以て米國に留學を命ぜられノーサンプトンのスミス大學に入學し卒でボストン體操師範學校へアメアド大學に歴遊し生理及び體操の諸科を研究し卅五年に至り全く業を卒へ客年十月歐洲諸國を巡覽して、倫敦に巴里にベルリンに到る處日本女子體育專攻家の始祖として歡待せられ無上の榮譽を双肩に荷ふて歸朝せられたる人なり、左に揭ぐるは則ち女史が帝國教育會に於て演述せられたる體育談なり。

私は亞米利加に參りましても、三年の間書生をして居りまして、歸朝致します序に諸方を見て廻つたのでありまするし、歸つて來てまだ教へたと云ふこともございません樣な事で少しも經驗がございませんから、皆樣に對し價値のあるお話をすることが出來るかどうか覺束ぬと思ふのであります、併し此二週間計り方々の學校を參觀致しまして體操遊戯に就て自分の考の着いたこともありますし、又皆樣に申上げてお互に是から氣を注

Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

けて改正しなければならんことも見當つたのでございます、其邊の事を少しくお話したいと思ひます。

▲身體之教育　私が米國に參りましたのは三十二年八月でございまして、其時分體育と云ふ事が少しく世人の口に稱へられる位で、女子體育と云ふ事に就てはまだ左程人が口に致しません時でございました、向ふに參りまして修業して居る内に、段々日本の新聞や雜誌を見まするると、女子體育と云ふことが大分世人の口に稱へられるやうになつて來ましたし、同時に女子に中等教育を授ける高等女學校が段々殖えて來るやうに見えましてございます、智育の進むに從つて體育の進むのは當然の事で、斯う云ふ矩合に智育も進めば體育も八釜敷くなるのは洵に宜い事と思つて悦んだのでございました、詰り男子の方の體育は固より女子の體育に就て世人が注意するやうになつて來たのでございますが、其の理由は私が唯今此處に申上げるまでもございません、歸する處精神の教育と身體の教育と云ふものは兩々相俟つべきものであつて、決して片一方だけ進め片一方等閑に付し置くものでないと云ふ事が、廣く人に知れて來た結果であらうと思ひます、御承知の通り人類は精神と身體とより出來て居るものでありまして、精神を宿して居る處の身體を充分に發達させませんければ、完全な教育は出來ぬといふ事は私が申上げるまでもございませんが、明治維新以來歐米風の新しい教育が這入るやうになりましてから、何方かと申すと、智育の方が大變急に進んで參りまして、種々の學科を採り種々日本に用ゆることになり、生徒の爲すべき事が男女に限らず大變多くなりました、隨つて精神を使ふことも多くなりましたが、退いて一方の體育はどうかと云ふと、注意もまことに緩やかで唯だ智育の方ばかりが進んだやうに思はれます、それでございますから、唯だ人が理窟に走るとか、生意氣な事ばかり言とかいふ樣な風で肝腎要の體は段々弱くなつて來るだけで、誠に情ない有樣になつて居りました、然う云ふ矩合にして進んで行つたならば、今日本が強國の中に數へられて生存競爭の世の中に立ち、歐米諸國と肩を伍べて行かうとする上に大變心

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

恥ずべきことであらう、今の樣な體の有樣では迚も立派な成績を擧げることは出來ないのであらうといふ所から段々體育と云ふことが八釜敷くなつて來たのでございませう、日本の方々の種々の論文などを見ましたが歸する處皆其一點である樣に思はれます、精神身體共に健全なる日本の國民を養成して行きますには、第一に其子孫を產み出す處の女子の身體には最も氣を着けて行かなければならぬ、所が情ない事には女子の體育は男子の體育よりかは一層下に見られて居りまして、まるで女子などの體は話の中にも入れられなかつたでございませうが然るに一旦其必要を認められた曉、急に女子體育に重きを置かれるやうになつたのでありませう。さうして見れば斯く云ふ塲合に出あひました處の女子は一方に精神の教育を進めて參ると同時に、自分の體を强健にして總ての事に耐へて行くと云ふ婦女子にならうと心掛け、女子自身が先づ熱心になつて男子の力を藉りんでも自分自身に行つて往かなければならん事だらうと思ひます、然るに今までの塲合で見ますると、日本の女子と云ふものはまだ夫れ程の勇氣は持たないのでございます、體育の事ばかりには限りません、總て男子の方から言はれて初めて氣が着くと云ふものか、又自分が氣が着いて居つても其方に進んで行くと云ふ勇氣がなかつたのでございませうか或は



(●女子美術學校成績品繪圖　其の一)　(日本畫　中山しづ子)

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

それ丈けの男氣があつても、女がさう云ふ事をし出すと何だか生意氣だとか出過ぎるとか云ふやうな間違つた考からして、其の進んで行く方を幾らか妨げられて居つたと云ふ様な事がないでもないと思ひます、併し今の時代になつて見ますると、女だからと云つて決して引込んで居るばかりでなく、自分から抽んで丶其の責に當つて熱心にやらねばならんことだらうと思ひます、併し事を初め出すに就ては外から批評を受けることがないとも云はれません、今までの風と違ふ事を致すのでございますから或は一体の擧動が女らしくないとか、出過るとか云ふやうな批評を受けるか知れませんが、總て物の改良進歩を圖るに就ては、どこの國でもどんな事柄でも一度はさう云ふ六ヶ敷い目に遭つて見なければならん事だらうと思ひますから、左様な世間の批評に關はず出來得る丈け進んで行かなければならんと考へます、又男の方々も女子體育々々々々と必要を認められて居る以上は、少し位弊に流れるやうな事があつても、それを一槪に惡く云はないで輔けて下さらなければなるまいと思ふ、唯だ頭でなしに惡い〱と云つては大に困る、斯う云ふ塲合には女も進んで行かなければなりませぬが、又男の方からもそれだけのお助けを願つて、兩々相助け合つて初めて一つ新しい事が進んで來るだらうと思ふのでございます、體育に含まれて居る事項は隨分廣うございませう、先ず運動遊戯が學校の事業で、衣食住と衛生と云ふやうなことは主もに家庭に屬すべき仕事と思ひます、尤も是れは重にと云ふことでございまして、學校では體操遊戯だけやれば跡の事は關はずに宜いと云ふ譯ではございません、又家庭では衣食住と衛生だけやれば他の事は關はぬと云ふのではございません、唯だ分業にする區別を申したので、矢張り是もお互に助けて連絡を付けて行かなければならぬと云ふことは決して他の學科と變つたことはございませぬ、ブ體操遊戯、女子體育と云ふことが多くの人の口に八釜敷くなつてから其筋の方も大に心を用ゐられ、近頃では大分熱心に研究をせられて居る事でございます、私はまだ其の委しい處を拜見致しませんが、學理の方から考

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

へて研究なさるのでございますから良い方に進んで居ると云ふことは疑のない話でございます。

▲體操遊戲の教授法　それで今日私の特別に此處に申上げたいのは、體操遊戲と云ふ樣な事は跡廻しにして、先づそれよりも氣の着いた事は體操遊戲の教授法でございますから、其方の事を重に申上げたいと思ふ、凡て何の學科によらず、其教授法の善惡に依て、成績の善惡が出來て來ることは皆さんに申上ぐるまでも御座いませぬ、體操と申しても決して其定則に外れたものではございませぬ、體操の教師の教授法の如何に依つて其眞正の價値が上るか上らんかと云ふことは大切に考へなければならぬ事と思ひます、其例を申すと今小學校で行つて居る體操遊戲を拜見致しまするに、同じ體操でも一人の教師が教へて居る處を見ますると、大變に生徒が精神を罩めて熱心に愉快さうにして居ります、又一方に同じ事を或教師が教へて居る處を見ると、宛然生徒が死んで居る樣に見えるのであります、上手な教師が教へて居る方は誠に心持が宜くつて見て居る自分も手足を動かしたくなる樣な氣が致しますが然るに下手な教師になると、何だか知らんが生徒がグズ／＼して少しの勢もなく唯だ一二三といふ號令をかけて器械的に手足を動かして居ると云ふだけで全然精神などは這入つて居ないやうに思はれます、それでありますから詰り體操遊戲と云ふやうなものをして眞正の價値を上げさせるのは教師其者の技倆にあることであへて體操がわるいから其成績があがらぬとか遊戲が面白くないからよい成績が見えぬ、何んでも新らしくしなければ生徒がよろこばぬなどゝいふ樣に啻主に體操遊戲の種類に關係するものでないと云ふことを私は茲に斷言して宜いと思ひます。

殊に女の體操遊戲になりますと、能く人が云ふ、普通體操矯正術などは女に興味がない、頑固しくて面白くないから女が好かない、女に適當なものを擇まなければならんと云つて、無暗に心配をして何でも女らしくと云ふて體操だか遊戲だか何だか分らん樣なものを拵へて、女子に適當する女子が悅んで居ると云ふ事を聞いて居

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ります、是れは大變間違つて居りはすまいかと思ひます、或は夫れが體操の敎師となるべき人、或は敎育に從事して居る方々が女子と云ふものを了解するに過つて居るのではないかと思ふ、元來女と云ふものは男子よりは一體の組立が弱く產れて來て居ると云ふ處から其點を斟酌して下さることであるか知れませんが、決して其樣に心配すべきものではないであらうと思ひます、今までの體操の敎師は女を敎へるのも主に男でございました、それが爲めに女は弱いから斯う云ふ事をさしては餘り强過ぎるだらうと云ふ樣な御考から手を伸ばせば伸びるものを伸ばさせずに置くといふ樣な癖がついて到頭女には出來んものと云ふことになつたらうと思ひます女だからと云つて段々其方に導いて下すつたならば決して男の方の思つて居る程弱いものではございませんから、矢張り遠慮せずに十分やらして頂きたいと思ひます、私は向ふへ參りまして見まするに高等女學校の生徒がするのも師範學校の生徒がして居るのも大學の生徒がして居るのも、男と女の體操に區別はございません、日本で致しまする普通體操の樣な事もすれば又男のする機械体操の樣な事も致します、尤も或運動の技術に至つては幾ら亞米利加の女でも男には及びませんが、或程度までは女だからと云つて出來んことはありません、其女の中に這入つてやりましたが、一體私は日本に居つた時から何方かと云へば體操は餘り嫌ひでない方でございました、向ふの女の中へ這入つて初めてやつて見ました處が却々日本の普通體操をするやうな優しいものではございません、跳ねることもあれば飛ぶこともあり高い所へ乘つて落ちて來なければならんと云ふ樣な種々六ヶ敷い事もございまして、初めは隨分躊躇したやうな運動もございました、併し向ふの婦人も致しますから亞米利加の女も日本の女も別段女に變りはない、自分にも出來ぬことはあるまいと思つてやつて居りました初めの内は恐ろしい事もあり隨分難儀も致しましたが、夫は極く最初の事で段々やつて見ると、終には馴れて仕舞つて今まで辛いと思つた事も辛くもなし、恐いと思つた事も怖く思はず、續けてやつて居りましたので、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

私が日本から亞米利加に參りました時の體の矩合と、只今の體の矩合とは大變違ひが出來たと云ふ樣な事が明かに證明が出來るのでございます、私が彼地に居りました時、生徒達が散歩に誘ひに參ります、一緒に出掛けますると、何哩となく引張られる、どうも苦くて仕樣がないけれども歩けないと云へば耻辱になりますから構はず歩いて歸つて來ると、足が痛くて堪らんこともございまして、夫が體操の方で足を動かす方の運動を致したお蔭でありませうか、或はさう云ふ事を段々重ねたお蔭でありませうか、終には歩き上手と云はれる程になつたのであります、夫から胸膈でございますが、私の胸膈は向ふへ參りましてから大變擴りました、それに連れて後ろの方の筋肉の力が大變に強くなつて、はじめ出來なかつた處の綱登りとか階子登りなども出來るやうになりましたのでございます、又前には二三冊の洋本を持つて歩くと肩が痛みましたが此頃は平氣でございます、モウ一つ違ふことは大變體が輕くなつて、總ての事に體が自由に行くのでございます、譬へて見ると船に乘ります時に今乘つたら轉覆するであらう、恐いと思つたのが此頃になりますと其樣な事は少しもない中心をめがけて其處へ飛んで行けば船の中へ立つといふ樣な風でどうしてコンナ事が自分に出來るやうになつたろうと思ふ位でございます、初めて亞米利加の女がして居る事を見て、自分にどうして此樣

（其の二說話）



（十二單衣竝洋服）

な事が出來るであらうかと考へましたが、兎に角實際自分が其中に這入つて致しますれば、二三箇月の後には何ともなくなるのみならず夫が面白くなつて來たのであります、私は日本に居つた時には脂の掛つた無暗に肥つた人間でございましたが、向ふに參つてから要らぬ脂がなくなつて筋肉が硬く引きしまつた樣になりました私一人ばかりの例を以て日本全國の女に適用する譯には參りますまいが、兎に角して見やうと思つて出來ぬことはありません、日本の女だからと云つて爲せずに居つて出來ぬと斷定してしまふのは誠に殘念であります、試しだから事は行つて見なければならない、初めは一人二人は否難を受けるか知れませんが併し夫だからと云ふて十人の內二人が惡くても、跡の者が好かつたならば決して其方法が惡いとは云ひますまい殊に體操などは無暗に出來て居るものでなく皆學理的に成つて居りまして、容易しい事から難しい事になり、簡單な事から複雜に這入つて參りますから、順を追ふて行きましたら決して日本の女にも出來んことはありませぬ、出來ぬと云ふのは唯だ想像說であつて一生懸命になつて行つたらば出來んことはないと考へますから、是から體操の敎員になつて生徒を敎授する方は、今までの樣に遠慮と云ふことを見合して、其の敎授法に就て深くお考になつて充分に導いて頂くと云ふことになつたならば必らず好い成績を擧げ得る事と信じます、夫からモウ一つ附加へて置きたい事は、今申します通りに體操の敎師は大抵男であつて、女の敎師は餘り多く見えません、小學校へ參つて見ましても大概は男の敎師であります、それ故に男の先生であるから出來るが女には出來るものでないと云ふことになつて來るのでございますから女の先生方自分自身が手本になつて奬勵して行くやうにしなければならんと思ひます、唯だ男にばかり任せておいて見て居る位ではいけませぬ男の敎師が號令を掛けて生徒にさして居る時には女が手助けをしてわるい處を直して行くやうにしなければいけますまい、幾ら口で姿勢を能くして居ろよく運動をしろと云ふても、先生自身の腰が曲つて居るとか少しも運動場に出て運動をせぬやう

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

では困りますから、向後女の先生方も奮發して自分の體から注意して男の敎師に力を添へて行くといふ事は尤も必要の事だろうと思ひます。

▲運動場の設備　次に體操場遊戯場の設備について申上たいのでございます、今の日本の體操場と云ふと詰り雨を防ぐ位の用意に止つて、土間の處もあれば床板が敷いてあつても土間同様の泥になつて居るので誠に亂雜なものである、體操場と云ふは體操の敎場と云ふ意味であらうと思ひますが他の學科の敎場は皆本當に敎場と云ふ資格を有つて居て其處へ這入ると神聖なものであるといふ考が起り生徒の心も改る事でありますが、退いて日本の體操場を見るとまるで茅屋同様なあはれのものである、之を亞米利加あたりの體操場として設けてあるものと較べて見ると、誠に情ないと思ふより外ありません、向ふの體操場の有様を一口に申すと實に立派に出來て居る、國の隆盛は體育にありと云ふやうに、機械は皆能く備付けてありますし床なども鏡の様に、と云ふ程には參りませんけれども、木を擇んで二六時中それを拭いて綺麗にしてある、着物の脫場があり靴の脫場が付いて居る、又少し進んだ處では浴場までも付いて居つて誠に完全なものでございます、さうして唯今申しますやうに、體操場に這入ることになると、人が着物を着換る靴を脫ぎ換へて這入るのでございますから、彌々是から體操に掛ると云ふことになつて生徒の氣も自然と嚴粛になりまするし、外の學科と同様に、唯だ遊んで居ると云ふやうな氣を起したくも起らんやうになります、其處へ持て行つて前申す通りに體操の敎員が能く敎授法を考へて、精神を活動させるや



（其の三　石膏製像　北原德子）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

うに仕向けますので、其の生徒のやる處を見ますると實に自分の氣も心も體も皆動き出すやうに思はれる、體操場は其通りでございますが、運動場と云ふ方になりますと、向ふには學校で使つて居る運動場もございますし、それから學校でなく市なら市、町なら町全般に使つて居る共同運動場もございます、其運動場の有様はどうかと云ふと、或は柴を敷いてゐるとか、敲石の様にしてございますとか、矢張り相應に金を掛けて能く準備してございます、私が日本に歸つてから此頃有馬學校に參りまして運動場を見ましたが、大變好い運動場で煉瓦を敷き詰めてある、外に常盤學校もさうださうでつまり東京で只二箇所だけだと云ふ話を承りましたが、皆何處の學校もアー云ふ風に出來たら宜からうと思ひますが何を申すも金でございますから、唯だ一概にさう云ふ譯には參りますまいが、今までの様な雨が降るとドロ〳〵になり、冬になると霜柱が立つと云ふ様な事では幾ら生徒を勸めて運動を爲せやうとしても駄目だらうと思ひます、運動場と云ふものを設けてある以上は、矢張夫だけの準備を爲なければならぬと思ふのでございます、又向ふの共同運動場へ行つて見ますると、小兒達が皆其處へ遊びに行くので、それに相應した處の體操の機械も備へてありまするし、教師も雇つてございます、さう云ふ様に設備があるのでございますから、詰り向ふの者が運動々々と云つて悦んですることになるのも又當り前の事であります、是から日本で學校を新築するとか、體操場を拵へるといふ事がありますなら金の許す限り立派な物を拵へることにお心懸になつたら宜からうと思ひます。

▲女子の服裝　其次に女子の方の體育に就て殊更に小學校の方或は家庭の方々に御相談致したいのは着物の事でございます、女子體育と云ふことがやかましくなつたら同時に服裝と云ふことが八釜敷くなつて來たやうに伺つて居りました、さうして向ふに居る内に皆さんの御考案の改良服について種々種類も拜見致しましたが、私が日本に歸つて參りましてからまだ改良服などは見たことはありません、漸く二三の方の着て居るのを

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

拜見致しました位に過ぎません、又筒袖袴は大變盛んになつて居ると云ふことも伺つて居りましたが是れも伺つた程でもなく、尋常科の生徒位に止つて外の者――高等科の者になると、一向見受ません、此頃或學校へ參觀に參つて聞いて見ますると、改良服や筒袖は夏になると着る者が多くでございますが、冬になると着る者が少ないと云ふやうな話でございます、なんだか私は可笑しな事だと思ひました、と云ふのは袖を短くするとか改良服にするのは袖の長いのが運動の爲め、或は物事をする邪魔になると云ふ樣な事又其目方が自然に肩を引き下げて勢ひ胸廓をせまくするといふ樣な事が主もな原因の改良の點になつて居るのではないかと思ふて居りました、夏なれば一枚でありますからさほど重くないし又大して邪魔にもならぬからまあ宜うございますが、冬は着物の數も多くなつて目方が殖えるのでございますから、冬の方こそ却つて筒袖の着物を着なければならぬ譯である、夫れが反對の有樣になつて居るので改良の要領を得ないといふ感じが致しました尤も此度東京の全體の學校が筒袖に袴と云ふことに命令になつたさうでございますから、私は大變好い事と深く悅んで居ります、筒袖に袴と云ふものは好いには違ひございませぬ、けれとも袴を穿くには帶を締めまして袴のひもを大層かたくしめます是は袴の落ちて來ぬ樣にする爲めなそうでありますがあまり強く締めましては生理上の結果好いことではございますまい、因つて出來得る事なれば是にも改良を加へるかさもなくば先づ教員が注



(其の四　西洋畫　大塚絹子)

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

意して餘り強く締めさせぬやうに氣を注けなければならぬと思ひます——兎に角斯う云ふことは學校で卒先して其改良を圖らなければならぬと考へます、今一例を擧げて申しますと、私の着けて居るこの袴でございます此袴は亞米利加の女學生の用ゐる所の物でございます、——私は只今亞米利加の女學生の姿で參つたのでございますがこれは皆さんも御覽の通り大層短かい、是は今より七八年前から着けることに成つたのださうでございます、この樣な袴の出來る以前は皆地面を引擦るやうな長い袴計りでございました、詰りお引擦でございますから戶外を歩るく時には後部を持つて歩かなければならぬ引きずると裾が汚れますから、雨の降る日などは傘を持つたり着物を持つたりする樣では誠に不都合である、歩行にも幾らか不便を感ずると云ふ所から或大學の女の體操敎師でございますが、斯う云ふ膝位ゐの袴を着けたさうでございます、スルと大層人の評に上つて優美でないとか、お轉婆に見えるとか種々雜多の攻擊を受けましたが、其敎師は意志が鞏固であつた爲めに、自身が良いと思ひ、又總ての上に於て有益と確信した以上は人の批評に屈せず撓まず實行して居りましたが其中大學の生徒の中に二人三人之を着ける者が出來て、仕舞には段々着る者が殖え、初め惡く評し、非難した人も其便利な事を認めるやうに成つて、今日では學生は勿論奧さん方も雨天の日は申すに及ばず買物とか散歩に出るやうな場合には斯う云ふ樣な短かな袴を穿くやうに成りました、是は畢竟初め某大學の女敎師が人の非難を搆はず實行した所から遂に亞米利加全體の女子に多くの利益を與へ得ることに成つたのでございませう、此等の單純の例から見ましても、矢張り有益なる事でも其初めて成す時は隨分非難攻擊もございませう、けれとも夫れに屈せず實行して居る中に段々其効果が擧つて來て、自然この世の中を益して行く樣に成らうと思ひます、モウ一ツ亞米利加の例を引いて申せば、御承知の通り西洋婦人は從來コールセットを用ゐて體の格好を作る事になつて居りましたが是も近頃大層八ヶ間敷くなりまして學校に依ると體操の敎師から一切用ゐさせま

Digitized by Google

Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

せぬ、又或學校は夫程嚴しくは致しませぬが生徒に其非なる事を悟らして止めさせることに成つて居ります、一體コールセットを用ゐるのは何の爲めかといひますと、亞米利加に限らず外國では腰の細いのが美形と成つて居りますので、腰を細くする爲め今一つは體を眞すぐにする爲めに若い時からコールセットを用ゐる、丁度突支棒を致して眞直にするやうなものでございますが、之を始終用ひます結果腹部の筋肉の發達、又作用などを全然障害して仕舞つて、彼のコールセットを取ると腹部に力なく身體が直ぐ曲つて仕舞ふので老人又は四十歳以上の人は矢張用ゐて居りますが現今の若い婦人はコールセット無しで體操で身體を鍛えて眞直に致す樣に注意して居るのでございまして、唯今の所では斯樣なる窮屈な物を用ゐて居る婦人は私の入學して居つた學校には一人もございませんでした、私も日本から參る時に洋服などを拵えまして、コールセットなども用ゐましたが體格の檢査を受ける時に夫を發見されまして、體操の教師から其非を說き聞かされましたからよろこんで取つて仕舞ひ爾後用ゐたことはございませぬが私は最初は日本婦人の例としてコールセットを用ゐても用ゐないでも、矢張り身體が多少曲つて居りましたのですが夫れが體操の方から段々矯正せられて、今では身體が眞直に成つたのであります、私も歸朝してから多くの方々が此方に居つた時より身の丈が高く成つたと仰有いますが、私は丈は高く成りませぬ、先方へ行つて測つた時も、此方に居て測つたのも變りはございませぬ、唯だ今までは身體が縮まつて居つたものが、伸びて來たので違つたやうに見えるのであります、亞米利加の人も以前は機械の力を藉りなければ身體が眞直に出來なかつたものが、身體の發育と云ふ事に注意して害に成るコールセットの樣なものを止めることに成るのでありますから、今日の米國婦人が悉く眞直な身體であるのはコールセットの爲めであると云ふ考へはやめなければなりませぬ、是は身體の發育に注意し體操を奬勵しつゝある結果であると言つて宜からうと思ひます。モウ一ツ衣服の事に就て申上げたいと思ひますのは、先方の人は食

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

物と着物との比較を取つて申しまするると、食物には割合餘計な金を掛ける、日本は丁度反對で食物より着物に費す費用が餘程多いだらうと思ひます、詰り好い着物を着て外見を飾つて粗末な物を食べて自分の身體を作る元を減して行くやうな傾がありはしないかと思ひます、先方では中等の人でも下等の人でも食物にはさう違ひがない、食物には至つて滋養の物を用ゐて居るのでありますが、着物の事になると餘り口に掛けんやうで、熱くなく寒くなく着て行けば滿足して居るやうでございまして、食物を儉約しても着物を一枚も餘計に着やうなと云ふ事は無いやうでございます、是は日本の婦人の頭に深く入れて置かなければならん事と思ひます、殊に先方では小さい女の小供などの着物は極く簡單で、夏冬の裝束と云つたらよそ着は二組ぐらゐづゝしかないのであります、私は今中等社會の事を御話申して居るのでありますが、食物は誠に滋養に成る結搆な物を喰べて居りますし、又一方には運動を十分に致して居るから自然身體の發育も好く成つて行くのは理の當然と思ひます、それで日本でも贅澤な着物の事で金を費すより自身の身體を健康にする方に其れだけ金を用ゐたならば、體育の上に就て幾分の補益に成るだらうと思ひます。

▲家庭と學校の連絡　學校の方で體育と云ふ事に十分に力を竭され、各先生達が注意をされると同時に家庭でも學校でする幾部分を負擔しお互に補助して行かなければならぬと思ひます。即ち着物食物などは學校の教師が幾ら注意をしても、家庭が夫れと同時に十分の注意を致さねば其効を奏すまいと思はれます尤も家庭で注意すべき事は學校で致す授業を扶けんまでも邪魔をしないやうにして貰はなければなるまいと思ひます、學校の方で幾ら教師が骨を折つて或事を授けても家庭に夫れ相當の智識がありませぬと皆な打破つて仕舞ふ、例へば學校で姿勢を能くしなければならんと云つて教師が大層氣を注けて直して遣るのに、家に歸ると直ぐに爺さん婆さんが、さう威張て居るやうな風は女のすることでない、モウ少し前へ向いて居つたら宜からうと云

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ふ、斯う成ると生徒は何方にして宜いか分らなくなる、若し家庭の方でさう云ふ考を有つたならば却々改良は出來ませぬ、又着物としても其通り、學校では袴をお穿きなさい、筒袖におしなさいと言つても、家庭で夫れはみつともない、又今迄有つた着物を皆な短くするのはいかぬと云ふやうな事に成つては、夫れだけの効果が擧らん樣に成るでございませう、家庭と學校の考と一致させる樣の事は日本ではまだ〳〵出來ますまい、けれども學校の方で世話を致して、さう云ふ事を言ふ舊思想の人を集めて、新思想の話をするなりして、其利害得失を論し學校で授ける事を理解するまでに智識を進めて行かなければなるまいと思ひます、其點などになつては亞米利加が羨しい樣でありますす先方では學校で言ふのを待つて居りませぬ、學校で氣が注かぬことは家庭から出て往つて其事を催促する位であります、もし自分の子供が弱い時には縦し入學させる時期が參りましても二三年學校へは入學させず、體操の學校へ通はすとか、或は病院へなり入れて置きまして、先づ身體を丈夫にする事に氣を用ゆる、それで身體が健康に成つた上で是れで宜からうと云ふ塲合に始めて學校に送ることにする、又學校に入つても若し其子供に惡い容子が見えるとか又子供の姿勢が惡いとか胸膈が狹いとか云ふ事があると親が體操の敎師に其譯を話して、夫れを癒す運動をさせて貰ひ家庭の者も敎師が敎ゆる其運動の容子を見まして、歸つて來てから家庭の者が敎師と成つて運動をして遣ると云ふ樣な風に成つて居ります、夫れから體操運動の爲めに要する衣服器具のやうな物は幾ら金が掛らうと其適當の物を調



（其の五　編物及小兒服）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

へて遣りますし、何から何まで學校で世話をして貰ふと云ふ事は無く、此方で進んで學校の事を助けるやうに成つて居ります、生徒が家に歸つて何か愚圖々々して居るやうな事があると、親が氣を注けて、戸外へ出て日光に當つて來いとか散歩をして來るやうにすゝめます、日本の樣に家に居ては邪魔になるから出て行けなど丶云ふ樣なことは決して申しませぬ、何でも子供の身體の發育と云ふ事に氣を用ゐて居るのでございまして、其點などは日本の家庭とは大層有樣が違つて居るだらうと思ひます、右の樣な狀態で體操並びに運動などの設備なとは整頓して居りますし、家庭の方も相應に智識が進んで居りますし兩方相待ちて體育の事に力を盡して參りますから、先方に往つて見ますると、總て身體が立派で大きく且つ逞しい事は實に羨ましいのであります

▲大きな人と小さな人　この身體の大きいのは或方に依つては遺傳であると言はれるか知れませぬ、若し遺傳であるとすれば日本人は小さな子供を產み、先方は大きな人種であるから大きな子供が產れるのが當然でありますけれども遺傳で小さいのを救はれない事はないでもありますまい一例を擧げて申しますれば、彼の亞米利加と申しても先程から御話する通り體育に重きを措きましたのは近々二三十年前からの事でございまして、夫までは日本と同じ樣に女子などは極く溫順に育てられ、體育などゝ云ふ點には左程力を用ゐなかつたそうでございます、所が此體育と云ふ事に注意をして來るやうに成つた爲めに身體の發育の上に非常なる好い成績を現はしたのでございまして、現に私共が一寸見ました所で四十位の婦人は私と同じ位の高さの人が多いが此節の若い婦人即ち十七八歳から廿二三歳位までの方は實に大きいのでございます、平均上ての頃の若い者は身體が强壯で、身の丈も高いさうでございますからして其原因を先方の人達も體育の關係であると申して居ります、さうして見れば强ち遺傳と云ふ事も斷じて救はれぬと申されんだらうと思ひます、即ち小さい人間からは小さい人間が產れると云ふ事は規則の樣に成つて居りますけれども、他の方より之を救ふ道を立てましたな

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

らば、其規則を破つて進んで行く事も出來やうと思ひます、尤も私があちらで話を聞きましたに日本人も此頭はだん〲大きく成つて行くと云ふ事でございましたが歸つて見ると少しもそうは思はれませぬ先方へ行きませぬ前には此方は大層大きかつたと思ふた方が、歸つてから小さう見えるやうな譯でありますが是は決して小さく成つたのではなく畢竟亞米利加に居つて大きな人ばかり見て居つた爲めでありませう。体の大小などはなんでもいゝ、精神さへよければかまはぬ樣では御座いますが矢張それが精神の上にも關係しはしないかと思はれます、其例は日本の兵隊は大變小さい、併し日清戰爭又は北清戰爭の時列國環視の間に非常な功を爲した、却つて體の大きな者が負けたではないか、あゝ云ふ處から見ると體の大小に關係するものではない、唯だ頭一つに關係すると云はれるかも知れませぬ成程さうでございませう、日本人の頭には素より大和魂と云ふものが這入つて居りまして、其氣質一つからあの樣な好成績を擧げました事でありませうがあれも長い間續いて行つたならば結局體力の上から或時には敗を取るやうな事はあるまいか、さう云ふと私は臆測を云ふやうでございますけれとも、私は隨分向ふに往つてから負けまい〲と云ふ氣性をもつて先方の婦人と競爭して見ました、或運動には先方の者と同じに出來る、負けない樣に遣つても長く續ける事になつては情けないかな追付く事が出來ません又或運動になりますと、いかにすばしてくたちまはつても矢張體の大きいしつかりした者には負けるのであります、是は私の氣性の足らんのであつたかは知りませんが、兎に角氣性ばかり勝つても矢張り夫れに伴ふ體力がなければ何處の點から行つても敗を取る事がないではないかと思ひます、唯今の日本人は唯だ大和魂と云ふ精神一つで持つて居りますが、此精神の上に持つて來て躰育が發達して精神と身体が相俟つて往くことが出來ましたならば實に目覺しい結果を見ることが出來やうと思ひます、殘念な事には今の日本人は姿勢体格などといふ事は一番下等の中に數へられて居るさうでございますから、人に下目に見られんやうに大に進ま

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ねば成りますまい、殊に女の体育につきましては今漸く其芽が出て來たやうな處でございますから先づ敎育に從事して居られる女の方々が先きに成つて小學校、高等小學校の生徒にさう云ふ事を吹込みまして、將來に立派な國民を拵えることになれば日本の爲め大變仕合せな事に成らうと思ふのでございます。

私は亞米利加に居りまして、主もに躰身の事を研究したので是からも女の躰操の敎師に成つて、出來ないまでも力を盡して行く考でございます、自分でも種々な考を有つて居りますけれども、是から初める事であつて此後の結果が果して自分の目的通り行くか如何は却々自分でも覺束なし、誠に不安心な事でございます、故に先づ女の方々の御助力を仰ぎ、又男の方々にも直接其道に志して居らるゝ御方は勿論一般皆樣の御輔助を仰いで、この日本の女子の身躰と云ふ物に一つの好い成績を擧げたいと思ひます、誠に詰らぬお話を致しました其上に前後取止らぬ事もございませうし、筋の立たぬ事もございましたでせう、どうか其邊は惡からず御宥恕を冀ひます。

小兒の教育

島津公爵家家庭教師　ミスハーウオルド女史

ミス、ハーウオルド女史は英國の人にして、同國上流社會の家庭敎育に就て經驗あるのみならず、曾て獨逸皇帝ウエルヘルム陛下の家庭に入りて若公達の守役をも務められし事あり先年英國公使夫妻の紹介にて我が島津公爵家の聘に應じ入ッて同家の子女を敎養さるゝこと數年當主忠重公以下五人の兄弟皆この女史の手によりて家庭敎育を受けられたり、女史の敎育方針は英國流の規則正しき良習慣の下に獨立の感念を引立て自導自立の精神を養成するにありといふ、即ち左にその家庭敎育談の一班を記さん。勿論談話はべすて公爵家の公達を眼中に置いての談話なれば上流貴族社會の子女敎養の資料たるは元よりなれども、一般普通の

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

民家に於ても又この教育方針を以てせば、益する處ろ蓋し尠からざるべし。猶島津公爵家の家庭教育の模様に就ては本誌第一卷第十三號に詳錄せり。

◉健康に注意すべき事

小兒の教育に就てまづ第一に考へねばならぬのは健康であります。さてこの健康を保つには、何が一番必要であるかと申しますに、それは新鮮なる空氣であります。夫れから充分に睡眠する事、色々な遊びを澤山にする事、毎日入浴する事で御坐います。夫れから余り濃厚いものを多分に喰べさせてはいけません併し遊を澤山にさせる樣にと申すのは、無益な遊びのことではありません。私なども常に諸公子をお遊ばせ申すにも、翫具には、時計とか數字の書いてあるものとか、其他種々の動物、草木の書いてある物なんぞを集めて、夫れに就て遊戯の間に、時計の時間を敎へたり、數字の位取りを敎へたり致しますと、お子樣方は物を習つて居ると云ふ感念は少しも無しに只樂しく遊んで居られる間に、知らず識らず其內に物事を覺えて居らつしやります。夫れから運動に就ては、先づ男の子にはクリツケーとかテニスとか、馬に乘ることゝか、大勢して競走なさる事なんども、極く必要で御坐います。女の兒にも矢張り、テニスとか馬に乘ることや、クリツケーとか云ふ樣な事が宜しう御坐います。遊戯中に於て注意すべき事は、其遊んで居る間は、決して他の方に眼を觸れないやうに、成る丈け其方に斗り熱心に注目あるやうに敎へんといけません。夫れが遊戯中に就て、一番主なる注意すべき事柄で御坐います。

◉運動上の注意並に食事の注意

世間には善く遠足運動などゝ申して、一日の中に十哩程も運動させると云ふ事が澤山ありますが、私は是れには反對で御坐います。尤も日々夫れ程の里程を步かせる事が出來るならば宜しう御坐いますが、平日は餘り步行を爲さない習慣を付けて置きながら、稀に一日丈け澤山の運動をさせるのは、大變に身體の爲めに宜しくありません、で若しも止むを得ずどうしても、澤山步かせんければ成らぬ事のある塲合には、曾て前々から步行く稽古をして、習慣を付けて置かないといけません、夫れから運動が果てた後にも、矢張り餘計の運動を續けないと不可。尤も此事は不意に非常の運動をさせてはいかんと云ふ丈で、決して少しも運動しては成らぬと云

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ふ譯ではありません。素より日々の運動は必要であつて、健康が許す限りは、雨が降つても、風が吹いても、ちやんと一定の時間丈けは歩かせないといけませぬ。但し濕氣と云ふものは、身體の爲に大變害を及ぼしますから、衣服は勿論靴なんぞも、濕つたものを着けては宜しくありません、何時も乾燥した物を着けて、一定の時間丈け運動すると云ふ事は極く必要で御座います。

食事と食事の間に種々なものを食べさせる事はいけません。凡て食事は一定の時間通りに食べて、間には食べん方が宜しい。殊に甘味いものは宜しくありません、又小さい小供に食べさせる副食物は、肉類は餘りよろしくありません。却つて野菜とか、菓物の方が宜しう御座います。夫れから、極く神經の過敏な小供であれば仕方がありませんが、さも無い限りは、成るべく夜分睡眠中は、燈火を點けて置かんやうにするが宜しい、とうしても燈火が點いて居ると、神經も充分休む事が出來んし、又室中の空氣も惡く成りますから、大變身體の爲めに宜しくありません。

●規則正しき習慣を養ふ事

小供には不規則を敎へてはいけません。成り丈け總ての事を時間通りに處置して、恰も兵隊が規則を遵守せんけれは成らぬ如くに、小供にも、食事の時間から、起床の時、散歩の刻限等皆一定の時間に依つてさせないといけません。此の規則、不規則と云ふ事は、大變に道德に關する事で御坐いまして、小さい時に不規則な育ち方をすると、とうしても道德を重んじない樣な人間になります。私は始終お小供さん方に對しても、室の壁に貼つてある奇麗な紙の畫などに就て談話をしたり、又天氣の好い時に外へ出て、空が奇麗に晴れて居るとか、野原の草が美しく生へて居ると云ふ樣な事を話して、其樣な簡易ところから色々敎へて參ります。さうすると自然と小供衆の心が優美なつて、些細の事にも注意するやうに成ります。而うして猶は私は、常に諸公子方に對して、英勇豪傑の傳を書いてある書物を讀んでお聞かせ申したり名高い人のお話なんかをして上げたりして、決して無益な話なんぞをせずに、一寸した事にも有益な事を話すやうにして居ります。譬へは歐州では伊太利の名家サボイ家に於きまして同家の代々の賢君の嘉言善行を書き記したものがありまして、御附の女其他

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

のものが公達の遊びの折にその歴史上のエライ事や結構な事を話して聞されると子供の心に自然と發明をしてそのエライ方々の眞似をするやうになるとの事であります。日本ではどうか知りませんが、小供には餘り翫具を澤山與へては不可と云ふ考へを以て居ります。夫れは何故かと云ふと。つまり翫具が足りなければ、小供自身が木でも紙でも持つて來て、自ら翫具を工夫して拵へて遊ぶやうに成つて、自然腦を働らかせるやうな習慣が付いて、小供の智育の上に取つて宜しからうと思ひます。

小供を教育するに就て一番必要な事は、何でも奇麗にする事、即ち整頓する事を教へるのが肝要で御座います。翫具でも、器具でも、不順序に彼方に散らして置いたり、此方に散らして置いたりさせてはいけません。小供の時に、不整頓な事を爲馴れて居ると、夫れが大人に成つても直らないで、矢張り何の事業でも整然とした事が出來ないやうに成つて仕舞ひます。



（女子美術學校成品陳列館　石橋圖　栄友よし子）

●約束を重んずるの習慣を養ふ事

小供を教育するには、約束を違へると云ふ事はいかん譬ひ些細な事でも、約束をした以上は、例之ば、其約束を履行するに就て、損害を蒙るやうな事があつたにもせよ、一反約した事は、必ず其通りにしないといけません。小さい時に、約を重んずる事を能く教へて置かんと、大人に成つても矢張り夫れが習慣に成つて、社界の信用を殞すやうな事に成りますから、能く〱注意して育てないといけません。之れも肝要な事でありますが、小供が物を人に與る事を悦ぶ様に教育する事が必要で御座います。自分は兎も角も、人を先に悅ばせて、後に自分が悅ぶと云ふやうな性質を養はなければ成りません此事に就ては、親が餘

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

程注意せんければなりませぬ。何故かと申すと、何れの親でも、親と云ふものは、自分の子を愛するのは當然の事でわりますから、一寸物を與へるにも、自分の小供の方に善い物を先に遣りたいのが常で御坐いますが。さうしては矢張りいけません。先づ親からして、他人の小供に善い物を先に遣つて、夫れから後に自分の小供に與へるやうにせんければ、迚も小供を教育して行く事は出來ません。けれ共此事は世の親の心として、隨分難い事でわらうと思ひます。

それから最も愼なければ成りませぬ事は、大人が小供の前で種々無益な雜談をすることで御座います、一體、小供と云ふものは、一寸見た所では、一向物事に注意しないやうで御座いますが、實際は却々爾うで無い、大人が想像したよりも多く物事に注意するもので御座いますから、決して無益な談話や、他人の惡口なんぞを云つては成りませぬ。何時でも小供の居るところでは、教育上に關した話とか、或は大人豪傑の實歷其他笑談のやうなものでも、注意して成る丈け惡るいやうな事は口から外へ出さんやうにせんければ成りませぬ。

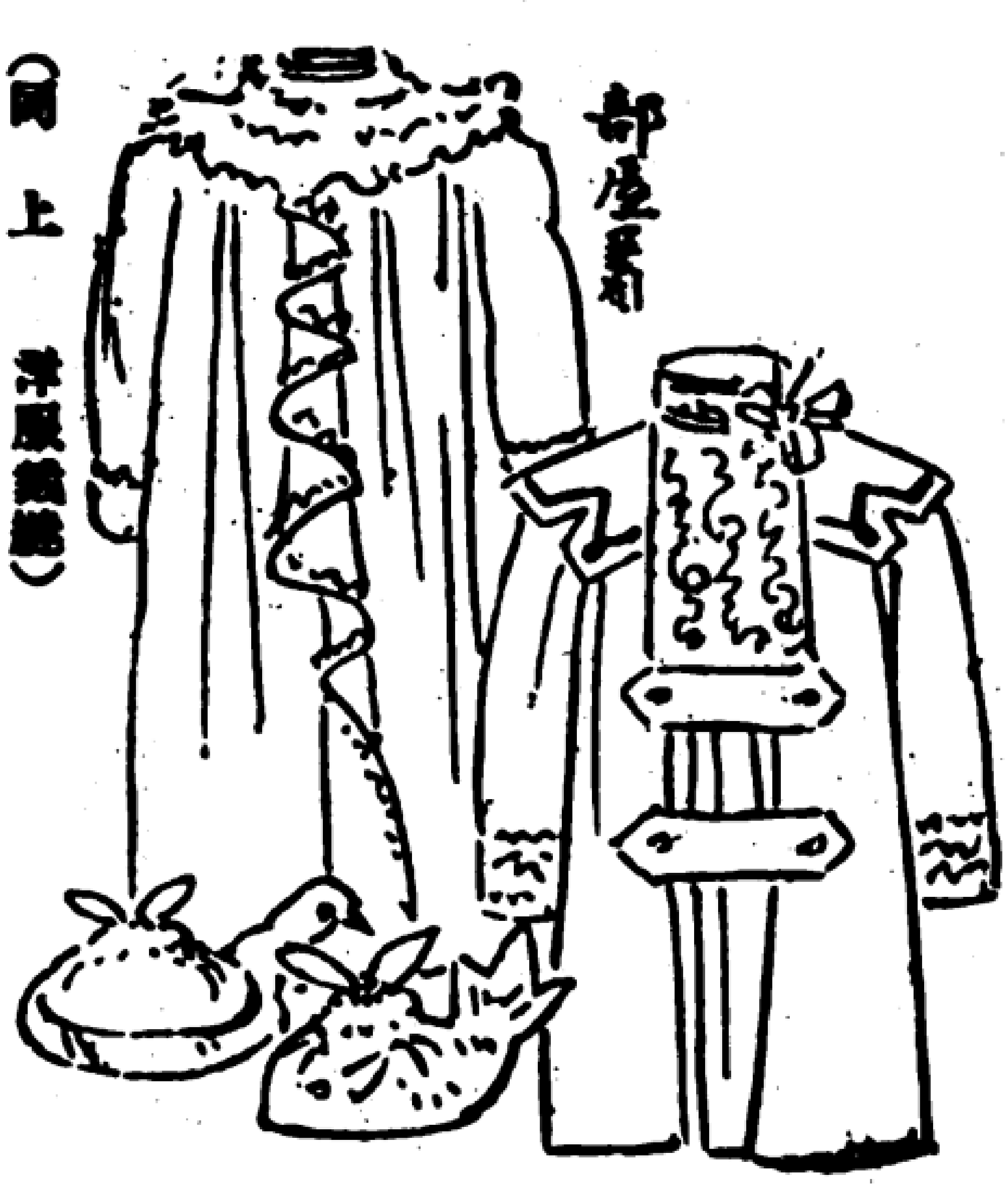
小供が誤つて負傷なんぞをした時には、成る丈け其傷を深く無いやうに云つて置かないといけません。其他風邪を引いたとか又は、病氣なんぞをした時分にも、決して其病氣が重いやうな事を小供の前で云つてはいけませぬ。固より陰では充分心配して注意して遣らんければ成りませぬが、小供の前では成る丈け輕いやうに氣に留めないやうに云つて置くのが宜しう御座います。

●小兒の同情心を養ふ事（附我儘の心を制するの習慣をつくる事）

小供の内から、人を哀むとか同情を表すると云ふ樣な心懸けを養ふ事が肝要で御座います。例之ば小供が毎日食事を致す時にでも、この食物は旨く無いとか、嫌だとか云ふやうな事を申す場合には世間の困難な人の話なんぞをして、世の中には、御飯も食べる事が出來ないで、饑ゑに泣て居る人が澤山ある、爾う云ふ人に此の中の一つでも與へたなら、どんなに悅ぶでわらうか、夫れを卿等は毎日〳〵飽く程食べて居るから爾う云ふ我儘な事を云ふが、困難な人の身の上を思ひ比べて見ないといかんと云ふ樣な事を、懇々と說き聞かせて、小供の我儘な心を制し、且つ世の難義なものに、同情を寄せる心を養はんと、成人の後大いに後悔するやうな場合が往々起ります。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

若し小供の朋友なんぞの内に、病氣にでも罹つた人があつたら、其朋友を慰籍する爲めに、物品を贈ると云ふ様な事を善く誨へんといけません。又其贈るに就ても、眞から、其病友を憐むの情を以て、何か其人の平素好むところのものを撰んで贈ると云ふ様な事を、其小供自身に脳を使つて撰擇させると云ふ様な仕方は大變に宜しからずと思ひます又小供が、他から物品を贈られた時分には、眞から悦んで其れを受けると云ふ様な習慣を付けないといけません。譬ひ些細な物でも、充分歡喜の色を顯はして、而うして其御禮狀のやうなものは、自身認めて贈るやうにせんといけません。歐羅巴の皇室では、皇子方にまで、而う云ふ事をお敎へに成つてお置に成りまして、譬ひ、どんな下等な人民からでも、物を贈られると、皇子が皆御自身に其禮狀を書てお遣りに成るやうな習慣に成つて居ります。



（同上　洋服贈品）

夫れから、小供が、虫とか動物とか云ふやうな活物を酷い目に合せるなどゝ云ふ事の無いやうに敎へて行かんといけません。小さい時から、動物なんぞを慘酷な取扱なんぞを爲慣けると、大變に其小供の性質を惡るくして仕舞ひます。又人を愛すると云ふ事を敎へんといけません。又秘密を守ると云ふ事を敎へるのは肝要で御座います例之ば、或る小供から、これは、秘密な事であるからと云つて、話された場合に、夫れを他の小供に又話すと云ふやうな事をしたら、忽ち前の小供から信用を失つて、再び其小供には大事を明さぬやうに成ります。斯う云ふ事も小さい時から、能く注意して誨へて置かんと、矢張り大人に成つて社界に立つて仕事をする時にも妨たげに成るのであるから、これが敎育の任に當つた人は、充分誡めてやらんといけません。

小供には、悲哀と云ふ事を敎へてはいかん。譬ひ自分には、如何に悲しみがある場合でも、小供の前では、何時も變らず愉快に在る様に見せて置く事が肝要で御座います。これは矢張り先に申し上げた精神の上にも、身

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

體の上にも尠なからず影響を及ぼすからで御座います。

●小兒の名譽心を毀らざる事

小供を育てるに缺くべからざる事は、家庭が何時も愉快を以て滿たされて居る事で御座います。片時でも不愉快の內に小供を置くと云ふ事は、精神の發達の上に於ても、身體の發育の上に於ても大害を及ぼします。夫れから小供に自由を與へると云ふ事は、必要で御坐います。同時に、小供が何か過失があつた時にも、劇く罰すると云ふ事は、却つて宜しく無い事であると思ひます。私は、スペンサーの敎育法を尊重して居りますが、其說に小供が惡るい事をしても決して罰するには及ばない、小供と云ふものは、存外名譽心の强いものであるから、叱言を云はずに、卿は、好い兒であるから、再び斯う云ふ惡るい事は爲なからう、と云ふ樣に、此方から信用をして總ての事を仕向けると、小供は其信ずると云はれた一言に對して、惡るい事をしないやうになると云はれてあります。小供が朋友同士で遊ぶ時に、若しも止むを得ずして、惡るい友達と一所に遊ばせなければ成らぬやうな場合があつた時には、卿は斯う云ふ惡るい小供と一所に遊んで居るけれ共、卿丈けは賢い小供であるから、決して他の人達の惡るい事を眞似るやうな事は無からうと信ずる、と云ふやうな風に小供に言ひ聞かしておけば、小供は決して、惡友に感化されるやうな事は無い。尤もこれは、止むを得ず惡友と遊ばせなければ成らないと云ふ場合のあつた時丈けの注意であつて、固より出來得る限りは、惡しき小供と云ふ事を知つたら、遊ばせぬやうな手段を講ずる事は勿論必要で御座います。夫れから、小供から何か質問を受けた時に、其事柄が、小供の前で充分說明をする事の出來ないやうな事がある場合には、態と他の事を云つて聞かせる事があります。それは甚だ善くない事で、恰と親が小供に虛言を敎へるやうなものであるから此事は今は未だ卿に說いて聞かせても分らんから他日大きく成つてから、聞かして遣ると云ふやうに實意を以て、言つて聞かせないといけません。其他昔話のやうなものでも、虛言話をしないで、矢張り實地にあつた事を、年に依つて、理解の行くやうに、平易に話して聞かせるが宜しい。（完）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

教訓文反古

塚越停春

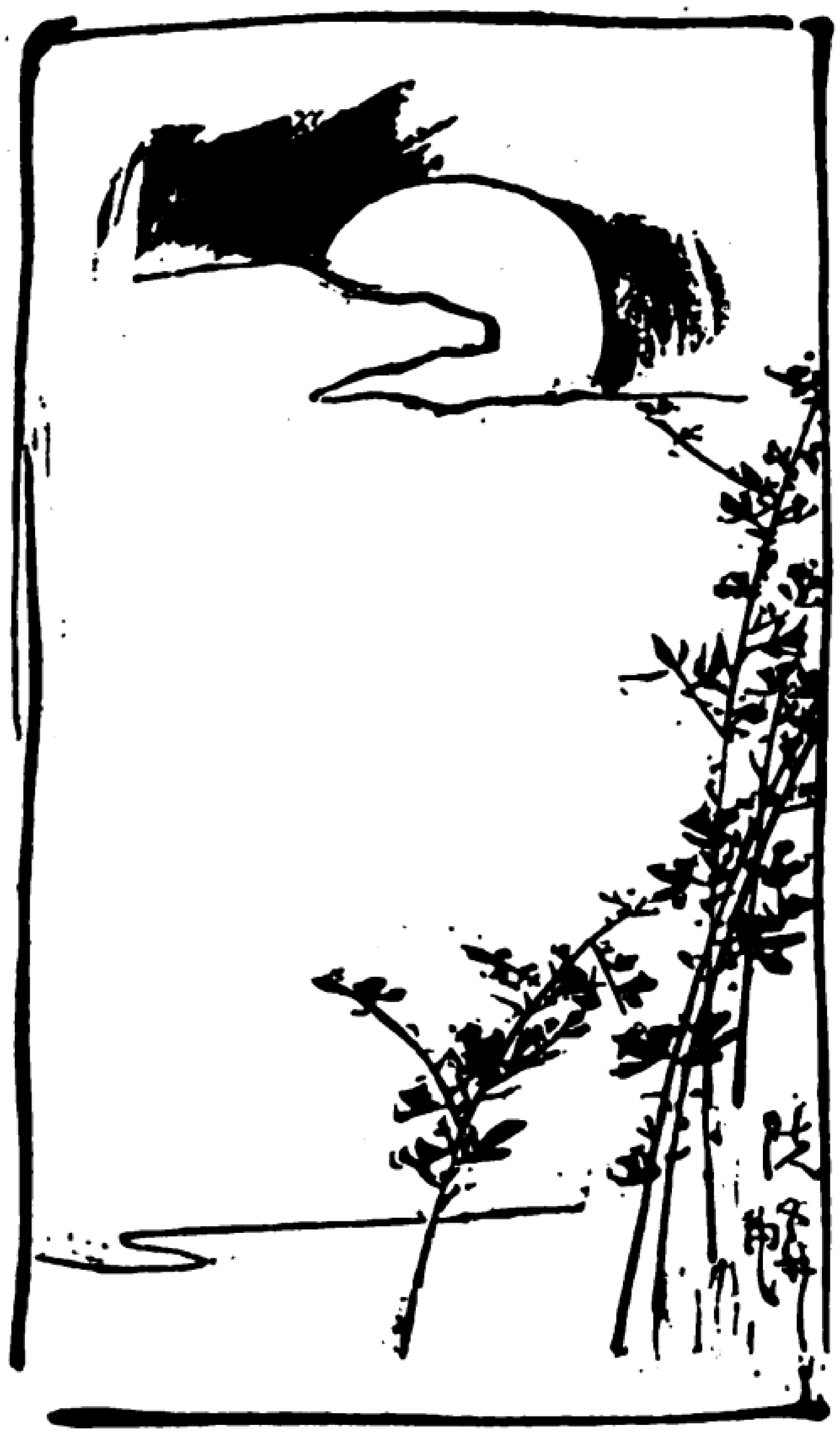
（六）

しとやかにして才行劣くるなきは、理想の婦人の事

妻は我が上つ代の女性の中にて、和氣の法均尼こそ實に理想の婦人歟と存せられ申候。尼は人も知るなる護王明神和氣の淸麿の姉君にまし〳〵、備前の藤野郡に生れ、もと貴とき身分の方にては候はず。初の名を廣蟲と云ひ、從五位下葛木宿禰戸主に嫁せられしが、人となりをとなしやにして操正しく、あはれ人の妻たる手本ともなるべき人にて候ひき。斯くて弟淸麿と共に、孝謙帝に仕へまゐらせしに、深く女帝の愛信する所となり、正六位下を授けられ、女帝の御髪をおろさせ給ふに及び、隨て出家して御弟子と成り、是より法均尼とは申し〻也。女帝より進守太夫尼の位を下され、四位の封並に位祿位田など賜はり、色々打開けての御相談に御答へを申上げし由なれば、陰ながら聖德を補ゐ參らせしことも少なからじと覺しく候。中にも天平寶字八年大保惠美忍勝御誅伐の際など、連及して死に當るもの三百七十五人ありしを、尼は女帝にねもごろなる御諫言を申上げ、何れも死刑を減じ、流徒の刑に處せらる〻こと〻なりにき。又此の戰亂止みし後も、亂後の飢饉並に疫病流行にて、民間に棄子多かりしを、尼は人を四方に遣はして拾ひ取らせ、八十三兒を得、養子と名けて之を養ひ、女帝より葛木首の姓を賜はりけり。尼が一大慈善家にして、慈善事業に力を致し〻こと、これにて知られ申候。其後僧道鏡が天位に望をかけ候際は、女帝より尼を宇佐八幡へ遣はし、神驗

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

を乞はせらるべしとの思召なりしに、かよはき女の身として、遙々筑紫への旅路は難儀なるべしと、さてこそ弟の清麿へ仰付られしにて候、其時清麿は道鏡に忤いたるに付、尼も姓名を別部狹蟲と改められて備後へ遠流せられ申候。是より先清麿が筑紫の旅に上らむと致し候節、路眞人豊永竊に清麿に注意を致し、清麿配流の後は、參議藤原百川備後の封郷二十戸を割いて、之を送り、以て其配流中を支へさせ申候。此等を思ひ合はすれば、清麿の背後には、百川一味の人々がありたること思ひ遣られ參らせ候。此時尼も弟清麿と同腹なりし乎わらじ乎は、今となりて知るよしなく候得共、常常何事も相隱くす所なかりし二人の間なりしが上、殊には其後百川等が深く自らくらましておはしまし丶光仁帝を擁立したるに及び、尼は前にも增して重用せられしを見候得ば、尼も同く道鏡の事を深く歎き居たりしものなることとしるけし。斯くて光仁帝の新に天位に即かせられ、弟清麿も本位に復したる時、尼は從四位下に叙し、累りに正四位下に至り、典藏の官に任じて出納を掌り、其後更に正四位上典侍と成り、桓武帝の天曆十八年年七十にて歿し候節、正三位を贈られ申候。弟の清麿さへ歿後正三位を贈られたるのみなるに、尼が正三位を贈られたるは、此他にも猶人に知られぬ功績ありし故なるべく候。尼の如き決して及び易き婦人にてはおはさゞりけるよ。光仁帝が嘗て「諸侍從のものなど人の善し惡しを、事喧しく言ひの丶しるが中に、法均のみ獨り人の上を言ひしを聞かず。」と仰せられしを思ふに、尼が



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

人柄の奥床しさ想ひはかられ申すになむ。況してや尼が友情の天王なる、姉弟財物を分たず、友情の深きこと時の人の何れも深く嘆美したる所のよしに承り申候。さて清麿は頗る學問ありて古事に通じて、「民部省例」廿巻、並に「和氣譜」など撰びたる程に候得ば、尼も相應に學問ありたる人にてこれあるべき歟。又尼が臨終の際清麿に遺屬して、諸の追薦供養を止め、唯二三の行者を招きて、靜に禮懺を修めるだけにし、之を子孫の準則と致したる事など、何處までも思慮深き婦人なりしてと察せられ申候。世に才識ある婦人は少なからず候得共、斯る婦人のならひとして多くは婦人らしからぬ人々多き事なるに、尼の如く、何處までも婦人らしき婦人にして、其上此の通りの思慮あり、才學あり、操正しく、友情に厚く、情け心も深く、勳も高かりしは、思へばくたぐひ稀なる例しにて、愛でたき人と申すべく存じ上げまゐらせ候。妾は只管此の人を慕ひ、常々之を理想の婦人と仰ぎ居り申候。

卯月中の七日　　豊子

輝子様

（七）

人の心を和らぐるは、名歌の徳の事

やまと歌が目に見えぬ鬼神を哀れと思はすやあらずや存じ侍らねど、古き名歌の調べよき歌を歌なとしてさへ、美の女神の清しき聲は何となく耳近く響くかと覺え、自づと心のひすぼふれも解け、得も言はれぬ心地するものに御座候。これらが所謂名歌の德にてもや候ひなむ歟。たとへば

月夜よし梅が香清しいざゝらば
　木の下かげに宿をからまし。

照りもせず曇りもはてぬ春の夜の
　朧月夜にしくものぞなき。

空はなほ霞みもやらず風さえて
　雪げにくもる春の夜の月。

駒とめてなほ水かはん山吹の
　花の露添ふ井出の玉川。

よそにのみ見てやゝみなん葛城の
　高間の山の嶺の白雲。

Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

心あてに見し夕顔の花散りて
　　尋ねぞわぶるたそがれの宿。
白雲に羽うちかはし飛ぶ雁の
　　數さへ見ゆる秋の夜の月。
くれなゐの濃き一葉こそ散りにけれ
　　わが騎る駒の黒髪のうへに。
寝覺する窓にはうつる影もなし
　　月に落葉の音のみぞして。
旅にして誰にかたらむとほつあふみ
　　いなさ細江の春の曙。
など云ふ歌を誦すれば、自づと優麗清婉の感に撲たれ、心の中さへ匂ふばかりの心地せられ申候。また
哀れなり我が身のはてや淺緑
　　つひには野邊の霞と思へば。
すゑの露もとの雫や世の中の
　　おくれさきだつためしなるらん。
何か思ふ何かはなげく世の中は
　　たゞ朝顔の花の上の露。

津の國の難波の春は夢なれや
　　あしの枯葉に風渡るなり。
世の中を何にたとへん朝びらき
　　こぎ行く舟のあとのなきごと。
など云ふ歌を誦すれば、何となく物悲しく、
箱根路を我が越來れば伊豆の海や
　　冲の小島に波の寄る見ゆ。
大君は千年にまさむ白雲も
　　みふねの山に絶ゆる日あらめや。
松浦潟浪路のすゑにゐる雲は
　　高麗唐土の山かあらぬか。
信濃なるすがの荒野を飛ぶ鷲の
　　つばさもたわに吹く嵐かな。
など云ふ歌を誦すれば、雄々しき心振り起さるゝ樣に覺え、
さまざまの花はあれども日の本の
　　春の光りは櫻なりけり。
さし出るこの日の本の光りより

Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ごまもろこしも春や知るらむ。
下野や神のしづめし二荒山
ふたゝびとだに御代は動かじ。
など云ふ歌を誦すれば、御國自慢の心さへ出で來ぬるかと思はれ申候。斯樣の歌ども打誦するも是亦心を養ふ助けと成らずやはと存じ上げまゐらせ候。あなかしこ。

二月十一日　花子

春江樣

（八）

家を憂ひ世を憂へさせ給ふは、御賢德の事

申すも畏き御事ながら先帝孝明帝には、非常の御英主に渡らせられ、世を憂ひ國を憂へさせ給ひたる御事、人も我も漏れ承る所なるが、御妹和宮親子內親王と申上げ、古代將軍德川家茂公へ御降嫁あらせられたる御方にも、並びなき御賢德ましく〵しは、御消息を拜しまゐらするだにかくれなく存じ上參らせ候。宮は慶應二年家茂公に後れさせ給ひ、御落飾あり、靜寬院の宮と呼ばせられておはしましゝが、程なく戊辰の役起り、海道山道の官軍東下するにつきて、宮の御歎き一方ならず、其際橋本少將に賜はりし御消息に、



叡慮の程伺ひ不申、願候へば、恐入候へども、心痛に堪兼、願てゝろみまゐらせ候。去三日內府（慶喜公）事召にて上洛之處、不慮之戰爭に相成、朝敵の汚名を蒙り、歸府の處、德川征伐の爲、官軍差向られ候やうに承り、當家の浮沈此時と存、苦心いたし候。內府より承り候趣委細ふぢ（御使の侍女）より申入候通に付、何分双方を承り不レ申ては、理非分兼候。此度の一件は兎も角も、內府是まで重々不行屆の事に候。內府一身はい

Digitized by Google

Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

か樣とも仰付られ、何卒家名立行候樣幾重にも願度、後世まで當家朝敵の汚名を殘し候事、私身に取ては實に殘念に存まゐらせ候。何とぞ私への御憐愍と思召、汚名を淸め、家名相立候樣、私命にかへ願まゐらせ候。せひ〳〵官軍差下され、御取つぶし相成候ては、私事當家滅亡を見つゝながらへ居候も殘念に候間、急度覺悟致候心得に付、私一命は惜み不レ申候得共、朝敵と共に身命を捨て候ては、朝廷に恐入候事にて、誠に心痛いたし居候。何卒心事御憐察あらせ、願通家名之所御憐憫あらせられ候はゞ、私は申迄も無レ之、一門家の者共、深く朝恩被レ蒙御事と存まゐらせ候。猶同役衆へも御申傳にて、御取計のこと、幾重にも御願申入まゐらせ候。以上。

など申すが有之候。御言葉御主意も明かに、御心痛御覺悟の程も見え奉り、御賢徳の程御察し申上ぐるに餘りあると存まゐらせ候。此の御消息只今人より承り候まゝ、御知らせかた〴〵斯くは申上げ候。かしく。

一月廿五日　民子

邦子樣

（九）

私情を以て公道を枉げざるは、武士の女房の事

先日は久しぶりて御目にかゝり、ほんとうに御嬉しうございました。其節いろ〳〵御話のありましたあの昔を忘れない爲めとか申して、時々下部などを招き、自身に御飯をつけて御馳走をしたと云ふ大姥の事ですがあれはまだ外にも御話がございます。其れはあらまし斯うなのです、

大姥の局と云ふのは、德川二代將軍の秀忠公がお誕生の時から御乳を上げ、永い間かい〴〵しく宮仕へをしたので、秀忠公も常々御心易く成され、殊に性質が至て正しい上に、隨分考へもある人ではあるし、下々への憐れみも深い所から、人からも大層重ぜられたそうです。そうして局が大病の時、秀忠公が御自身に御見舞に御出に成り、『何か思ひ置く事があるならば申すがよい、何なりとも局の申す所ならば聞屆けて取らせるから。』と云ふことであつたそうです。其時局は、重

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

い枕をわけて、『此の姥は殿へ御乳を御進め申し上げたと云ふので、大層厚い御恩を下し置かれまして、一身の安楽を極め居りますれば、最早此の世に思ひ置くことは一つとして御座いません。殿には大殿の御庭訓を御守り遊ばして、天下大小の人に後指をさゝれない様に御仕置を遊ばされたならば、此の姥に於ては有り難う存じまする。此の外には何も申上げることは御座いません。』と云ふ御返事を申上げたそうです。秀忠公は『ではあらうが、まだ何か申上げることはないか』と、重ねての御言葉であつたが、局は矢張り同く『何も申上げることは御座いません。』と申上げた そうです。秀忠公は局がなやましい様を御覽に成つて、暫し御立兼ね遊ばしたと云ふ御樣子であつたが、然し何時までも其所に御出に成る譯には參らないので、愈御立ちに成らうと云ふ時、局は何か思ひついたらしく、『殿』『殿』と御呼返し申して、『忰事は嚮に御法度に背いて、遠い所へ流されて參つて居りまするが、此の者は必ず御宥免成し下されぬ樣に御願ひ申上げます。若し年寄の此の姥を可愛相に思召され、姥が爲に天下の御法度を御枉げ遊ばす樣な事でも御座いましたならば、其れこそ姥が黄泉路の障りに成りまする。』と申上げ、其あとは全く口を閉ぢて何事も申さず成つた そうです。

外の御話と申しましたのは、實は是れだけの事で御座いますが、先日の御言葉もありました故、一寸申上げて置くのです。何れまた申上げませう。

七月七日　靜枝より

俊子樣

（一〇）

父の戒めをあだに聞きしは、後悔詮なき事

私事嫁入致し候節、亡き父上より、

つゝましき新手枕の心をば、
　妹背の道の末も忘るな。

と申す古歌を懷紙に書きて賜はり候ひしを、別に心にもとめず、今日に相成り、しみ〳〵と後悔致し申候。我が身事は最早悔ても詮なく候。御身樣は是よりの事に候得ば、何卒々々姉の過を二度せぬやう、呉々も御

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

頼み上げまゐらせ候。かしく。

正月二十日　　姉より

お雪さま

貞烈婦女かゞみ（二）

豐井福子

平治のころ、奥州衣川のほとりに、住みける衣川と云ふ老女に、一人の娘袈裟と呼べるあり。青黛の眉匂はやかに、丹華の口元うるはしく、桃李の粧ひ、芙蓉の眥かゞやくばかりにて、心ばへも人にすぐれて、よく母に仕へぬ。二七の春を迎へしほどに、隣り里なる、源の渡の妻となり、相添ふ事三年、二八の春を迎へしに、袈裟の從弟なりける遠藤盛遠と云ふ當年十七歳の男子、久しく他郷にありけるが、此のみちのくへかへり來りて、袈裟を見るより心惑ひ、遂に衣川をおびやかして、袈裟に逢はん事を約しぬ。衣川まづ、袈裟を招き、手箱より短刀とり出し、娘の前へにさしおき、之れを以て妾を殺ろしてよとあるに、袈裟おどろき、その理由を問ふに、母、盛遠の事を以てす、袈裟、涙にくれて、しばらくは思案もつかざりしが、やがて思ひ決する事やありけん、妾、思ふ事侍れば、氣遣ひ玉はるなとて、やがて盛遠の來るをまち、語りけるやう、數ならぬ身を深くおぼし玉ふとの事、さてこそ深き宿世の契りとは思ひ侍れ。まことといつはりならぬ、御心にましまさば、わが心うちわけ侍らんに、妾、渡に相ひなれてより三年になりけれども、折り〳〵につけ、心ならぬ事のみ侍れば、何處へも失せばやと思ふ折りから、和君のあさからぬ心、誠に深う覺ぼされんには、左衛門の尉を殺ろし玉へ、妾は家にかへりて左衛門が髪を洗らはせ、酒に醉はせて臥させ侍らんに、君そのぬれたる髪をさぐりて殺し玉へ、心安くそひ侍るべしと云ふに、盛遠大によろこびて、必ずよと契りて別れぬ。かくて、袈裟は家に歸り、酒を夫にすゝめ、醉はして臥させおき、硯とり出して、母への文認むるやう、さらぬだに、女は罪ふかしと承り侍るに、うき身の

Digitized by Google

Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

故にあまたの人を失ひ侍る事、返す〳〵おそろしう、母樣がのちの御なげき思ひ侍りて、いとゞ悲しう候へど、此處に妾が玉の緒をたち候ふて、罪をばのがれんとこそ覺え侍れ、必ず母さま、かまへて御なげきを去り、さかさまながら後の世を吊ひ玉へかし。返す〳〵も御なげきの、いまはの目にとゞまりて、之れのみが後の迷ひのたねに候とて、末に、

つゆ深き淺茅が原に迷ふ身の
　いとゞ暗路に入るぞかなしき

と一首の歌をそへ、なく〳〵封じて、己れの髪を水にひたし、髻に取つて烏帽子を枕に置き、夫のふしどに臥したり。かくとは知らぬ盛遠は、夜半ばかりに忍び入りて、濡れたる髪をさぐりて、一刀に首をかき落し袖に包み、外に出で、月の光りによく〳〵見れば、こは、そも如何に、渡にあらで袈裟なりけるに、驚ろき悲しむ事限りなく、此處にはじめて迷ひの雲もはれてしきりに後悔すれど、詮方なく、引きかへして、渡の手にかゝりて果てんとしたりしを、渡もはやく之を知り、いたく悲しみけるが、たとへ、殺ろしたりとて死せしものゝ歸るべきにもあらず、たゞ此の上は後の世をとぶらはんこそせめての情けならめとて、二人とももとどりを切りて、佛の道に入りしとかや。一身を殺ろして、孝と貞との兩道を全うしたる袈裟の如きは、これを世界萬國にもとめて絕えて類ひなき女傑なり。」

同じく平治の小宰相の局、鎌田正家が妻、賴朝が女の大姫、靜御前、藤原藤房が思ひ人左衛門の佐の局、菊地武時の夫人、武田勝賴の夫人等數ふるにいとまあらず、殊に我が國女子の淸操の德をあらはして、尤もあはれなるは、引田部の赤猪子にて、三輪川のほとりに衣あらひをりしを、雄略天皇の太子たりし時、過ぎさせ玉ひて、我れ天が下を知らば、汝を迎へんに、必ずまてよとの一言を、かたく守りて、八十年を空しく過し、當年の花のおもかげも失せ、うつくしかりしみどりの黑髪もいつしかしらげ、僅かに谷の朽木のあはれをとゞめたる心も赤猪子の淸操あり。

　とても世にながらふべくもあらぬ身の

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

かりのちぎりを如何で結ばん

天皇の媒し玉ふをかく辞し奉りし正行を、一旦、帝王のゆるし玉ひし夫、殊に石川の危難を救ひたる恩人、いかでか他處に見過すべきとて、結びも、ちぎりもせぬ人に深き操を立て、四條畷にうち死せし後も、人にとつがず、尼となり、龍門の里にさゝやかなる庵りを結び、正行の亡きあとをとぶらひたる、辨の内侍の如きまためづらしき貞女なりけり。

元祿のむかし、水戸黄門光圀公、西山に隠居し玉ひて、其のふもとの村を過ぎさせ玉ひけるに、見目形ちすぐれたる女子の、まばたきもせず、田を耕やし居りけるに、義公はるかにのぞませ玉ひて、婦女子の此の如く田を耕がやし居るは、恐らくは主翁の慘酷ならずば、繼母の憎くみによるにあらずや。必ず故こそあらめ、行きて問へかしとて、人をつかはされけるに、これは、常陸の國那珂郡、野上村の農、與二衛門の妻、やす女と云ふものなるが、嫁ぎて程なく、夫、楊梅瘡にかゝり、面たゞれ、勢力とみにおちけるに、やす女は少しもいとはず、看護怠りなかりけり。與二衛門あはれにおぼえて、也須女に云ふやう、我れかゝる惡疾にかゝりて、今は世に容れられぬ癩人となりぬ。汝我れに偶して、一生を終らんはかなしく、殊に女子は三從とて、親に從ひ、夫に從ひ、子に從がひて、世を渡るべきを、今われかくの如ければ、老の後をたのむ子もまた生るべからず、我れはやがて死なんに、汝は年もまだ若ければ、如何なる人にても夫として、今より後をたのむべし、我れは決して恨みずと云ひけるに、也須女涙にかきくれ、くやしき事を云ひ玉ふものかな、妾、過世ありて、御身にとつぎぬるを、今癩人になりたればとて、夫を捨て、老いたる母を省みずして、如何で他人に嫁せん。君は恨みずとも、妾、さる言を承るを恨むるのみとて、從はんとせざるを、夫はいよ〱かなしきものに覺え、强ひても出さんとしけるを、やす女かなしみ、自殺せんとす。與二衛門おとろき、にはかにおしとゞめ、己が非をわびければ也須女はよろこびて、刄をおさめ、なほあつく病夫と老母とにかしづきけるが、やう〱窮乏にせまるまゝに、人の田をかへして、夫と姑とを養ふ料になすよしを聞き、義公いたく感歎し玉ひて、自から其の家に至り玉ひ、病夫にせつし、手づから金を也須女に玉ひ、租税をのぞき、門閭をあらはし玉ひける。我が朝には匹婦にして、かやうの行を見る事また少なからざるべし。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

科學

五月の動植物

佐藤松軒

節句は我が國の昔からの祝ひ日であつて維新前には國國又は家々の慣例に從つて是を祝つたものである只今では節句は祝祭日から除かれて國の公然の祝日とは認められぬが、家々では昔ながらの慣習に從つて現今でも隨分盛に之を祝ふのである。

五月の節句には昔は鯉の吹流や幟などを立て列ねる習慣であつたが今は幟を立てることは餘程衰えて餘り見當らぬが鯉の吹流しだけは節句の少し前から幾流となく薫風に飜される又檐端には菖蒲を挿し家の人々は粽と柏餅を食ふのである。

依つて今茲で鯉、菖蒲、粽、柏餅についてお話をしやうと思ふ併し五月の節句に是等のものを用ふる樣になつたのは何百年前からであるか、如何なる故實によつて斯樣な慣習が始つたのであるかといふことは歷史家の説明すべきことであるから、私は只是れ等の動植物を解剖して其の形や性質などを吟味しやうと思ふ、

（一）鯉

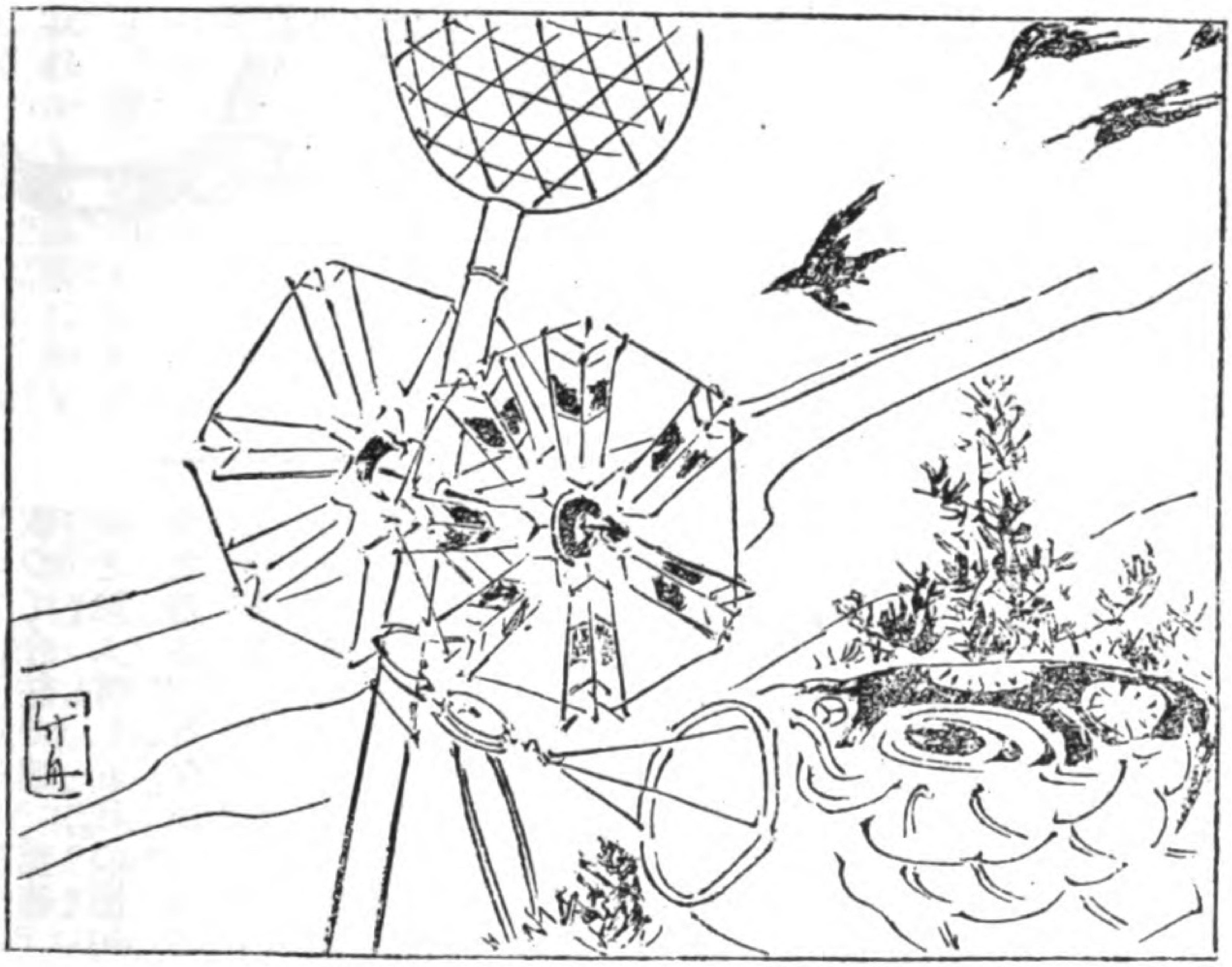
鯉の吹流しを立てるのは男の兒のある家のみであるゆゑ、此の雜誌の題目から云へば緣遠き感はあるが、併し弟又は男の兒を有せらるゝ婦人方が此の祝ひの材料たる動物について精しい智識を持つて居り此の機會を利用して説明せられたならば頗る有益な事であらうと思ふ。

古人の目に映れる鯉。………、昔の人は自然物を手に取つてよく〳〵吟味することはなく、唯外形をちよつと見たばかりで跡は心の中で臆斷をするから兎角、不思

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

議の事ばかり多くある樣に思つたのである、其れ故、昔の人の記載したのを見ると甚だ面白い事が多いから今其の一端をお話して昔も今も鯉は同じであるが人の眼に映じた姿は異つて居ることを證據立てやうと思ふ。

日本紀といふ書物に「こひは即ち戀にしてもと相思の事に起れり」と書いてあるさうです又或る書に鯉は鯛に對するもので大位小位の義である鯉は河魚の長、鯛は海魚の長であつて鯉百歳を經れば龍門に登ると書いてある。本草綱目といふ書に鯉は諸魚の長なり形既に愛す可くして又能く神變す、其の脇鱗の一道、頭より尾に至るまで大小なく皆三十六鱗あり、故に食品の上味と爲す」と書いてある形と効用についてはこう云つて居る即ち鯉は金の鱗、紫の鰭、紅の肉を持つて居り其の肉は味甘くして毒なく水腫を治し乳汁を增し其の膽は眼の病即ち赤痛、熱腫、雀目を癒すと云ふて居つた。



今人の目に映れる鯉、……

……鯉は河や池、沼又は湖なとに棲む魚である、体の長さは樣々であるが成長した者は通例一尺から二尺位まででゝあつて極めて稀には長

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

さ四五尺に達するものがある、上唇の兩側には小い鬚一本と大い鬚一本とがある、背の色は黒く腹は淡黄色である、鰭はやゝ黄色であつて少しく紫色を帶びて居る。

▲鰭の働き　鰭は總べて五種類あつて脊鰭と臀鰭とは泳ぐ時、体を左右に倒れしめぬ爲の効がある胸鰭と腹鰭とは、徐々に進み又は退くときに働くものである、尾鰭は泳ぐ時、進む方向を變へる爲に働くもので丁度船の舵の樣な働を爲すものである、鰭の働きについて昔の人は間違つた考を持つて居つた即ち魚の鰭に於けるは鳥の翼に於けるが如くであつて鯉の泳ぐのは全く鰭のみの働であると考へ前進する時は殊に胸鰭と腹鰭とを擴げて働かするものゝ樣に考へたのである、併し實際はそうでなくして最も有力な游泳の機關は脊骨の兩側について居る筋肉である即ち脊骨の兩側にある筋肉が左右かはる〲縮んで水を斜に後の方に押して体を前進せしむるのである、若し昔の人の考へた樣に胸鰭と腹鰭とを擴げて泳ぐならば水の抗抵が非常に強くて到底速に進むことが出來ないのである、それ故鯉が速に泳ぐ時には胸鰭と腹鰭とを成るべく体に密着せしめ出來る丈け水の抗抵を少くして進むのである私は嘗て鯉の瀧登りの畫を見たことがある其の鯉は全身の鰭を大に擴げて居つた若し實際斯樣にして瀧に登らうとしたならば直に水力に依つて烈しく衝き落されるに違ひない、斯樣な畫を描いたのは全く鯉の泳ぎ方

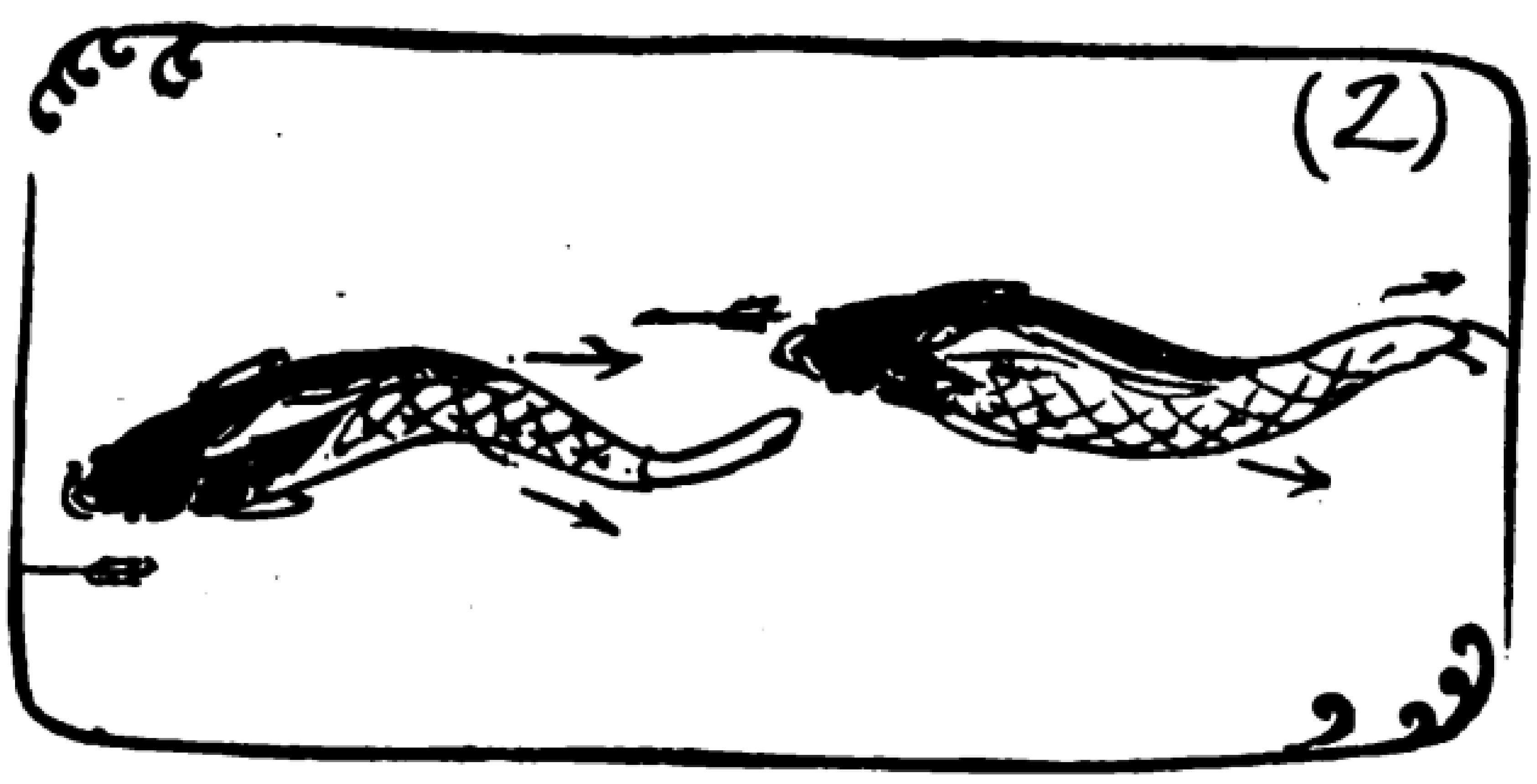


Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

を知らないからである。

▲鯉の三十六鱗　鯉の鱗は圓くて金屬の樣な光澤がある體の兩側の中央には頭から尾まで一條の線がある是は側線といふものでそこに數多の神經が分布し感覺を司る機關である、此の側線の處にある鱗は頭の後から尾の前まで通例三十六枚ある、そこで昔の人は鯉には三十六鱗あるといつて居つた併し鯉は皆三十六鱗を持つて居るものでない、或るものは三十二枚の鱗を持つて居り又三十三、三十四枚など丶種々のものがあつて最も多いものは三十九鱗を持つて居る。

▲鯉の内臓　鯉の内臓について少しくお話しやう、食物は口から入つて咽頭を通りそれから胃の腑に入る、胃の腑は只少しく膨れて居る管であつて鳥や獸の胃の樣な形になつては、居らぬ、胃の次には腸即ちひやくひろわたがある、胃と腸とで食物を消化し不用の滓ばかりが體外に排し出



される胃や腸を取り卷いて居る桃色の臟腑は肝臟即ちあぶらわたであつて此の臟腑で以て膽汁といふ苦い汁を製造し之を膽嚢に集めて腸に注ぐものである、鯉の膽といふのは此の膽嚢である、之を取つて人が食すれば胃の消化を助ける効がある併し料理する時誤つて膽嚢を破り其の液汁を肉に浸み込ますれば苦くて食はれぬものとなるから注意せねばならぬ。

▲浮沈の器械　鯉の腹を割いて見ると一番先に目につくものは瓢簟に似たる白色のものである、是は鰾即ちうきぶくろといふもので其の内に瓦斯體が充ちて居る、嚢は極めて彈力があつて伸縮自在である、今此の嚢を壓し縮むれば全身の容積が小さくなり體が重くなるから鯉は水底に沈む、若し又此の嚢を膨脹せしむれば前と反對に體が輕くなるから浮び出でるものである、

▲殖え方　鯉は澤山食物を食ひて充分成長すれば五六

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

糎位から卵を産む、それは毎年四五月頃であつて此の時になれば雌は雄を誘つて水の淺い藻の多い處を游ぎ廻はり卵を其の水藻に産み附けるものである、卵は大さ七厘位であつて一疋の鯉が三十萬粒より七十萬粒も産むものである、水の温度が程良ければ一週間位で孵化して鯉の子となる、其の子は水中の小さな虫類を食つて成長する、

▲鯉の智慧　鯉は群りて泳ぐ性がある、是は弱い敵を威すには都合良く又強き敵をば早く發見して逃げ隱れるのに便利な爲であらうかと思はれる人類や獺などは、鯉の最も恐るゝ處の敵であらうが、是等の敵から追廻はされ愈々逃げ道に窮すれば鰭で以て水底の泥を攪亂し泥水を生じて自分の居所を知らしめぬ樣にし敵の目を晦ますものである、實に巧みな隱れの術といはねばならぬ、斯樣な術を知つて居るばかりでなく又外物の性質を知り別くる知慧がある、即ち口の上の方には二つの鼻穴があつて物の臭ひを嗅ぎ別け、舌は味を感ずる力はないが觸れる感じは強い、それ故繩切れを蚯蚓など丶間違つて口に入れても直に之を吐き出すのである、庭の小池に飼ひ慣らされた鯉は人が手を拍てば群をなして其の響ある方に浮び集るものであるが是は頭の骨の内に耳を持つて居るからである、耳穴は外には開いて居ないから一寸見ては分らぬがよく〳〵注意して頭の骨の内を解剖すると腦に近く二つの耳があるのを發見することが出來る



▲鯉の効用　鯉は其の肉美味であるから種々に料理して食用に供せられる殊に生鮮なる鯉の鱗は隨分堅いものであるが少しく煮れば極めて脆く柔かくなるのは他の海魚などで多く見ないとである。之を小池に飼へば山間の鮮魚がない

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

處でも滋養に富める魚肉を味ふことが出來る、又近年美濃國惠那郡などでは稻田に鯉を飼つて大に利益を得て居る其の法は六月頃水田に苗を植えると間もなく大さ一寸位の鯉の子を放ちて置き、秋の末、田の水を落す前に掬ひ捕つて別の池に放ち飼ひ翌年再び水田に放ち飼ひ相應に大きくなれば食用として賣却するのである、此の法は近來信濃、上野などにも行はれる樣になつた。

(二) 菖蒲

五月の節句に菖蒲を檐に挿めば邪氣を攘ふといひて、今猶之を爲す處が多い兒供は菖蒲刀などといつて其の葉を帶に挿んで駈け廻はる所もある又菖蒲の葉で繩を拵へ之を以て打ち合ひをして遊ぶ所もある、或は其の葉を湯に入れて之で浴すれば種々の病氣を癒す効あると稱へて所謂菖蒲湯に浴する地方などもある、斯樣に世俗と緣の厚い



菖蒲といふ草は何處に生じ如何して殖え如何なる効用があるであらうか。

▲菖蒲の根莖　菖蒲は沼や池の水邊に生ずる草であつて形は石菖に似て長さ三四尺の葉を生ずる、莖は地の中に蔓延するばかりであつて通例地上に直立することはない、それゆゑ世の人は往々之を根と思ひ違へることがある、殖えるのは大抵此の根に似たる莖（之を根莖と名づく是れ莖の一種である）を以てするものである、此の根莖は幾年も生き殘るものであるが地上の部分は毎年枯れて仕舞ふのであるから菖蒲の生命は全く此の根莖にあるといつて宜しい、且つ夏の間に製造した滋養分は皆此の根莖に貯へて置いて翌春新しい葉を出すときの資本とするものであるから根莖は菖蒲の滋養分の倉庫であると云つて宜しい。

▲菖蒲の花　夏になると地上に細長い莖を延ばし其の

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

上に花を生ずる、一つの花は甚だ小さくて棒の樣な花軸の上に幾百個となく密生して居る、一つの花には一つの雌蘂と六つの雄蕋とを具へ、花過ぎれば實を結ぶものである、此の實が生育に都合良い地面に落つれば發生して菖蒲となるが併し實際は果實で殖えることは少く根莖で殖えることが多い、是は薯蕷や甘藷などの果實で殖えることの少いのと同じである。

▲菖蒲の効用　菖蒲には何を含むか、……何の効用あるか、……菖蒲の根や莖や葉などには苦味があつて一種の香氣がある、而して此の苦味と香氣とは根莖に於て最も强烈であるそれ故其の根莖を取つて藥用に供するのである、その苦味の成分はアコリチといふ物質でその香氣は一種の揮發油である、根莖を乾して粉末としたものは健胃藥として用ひ、又其の苦味なる成分を分ち取つたものは菖蒲丁幾といつて消化不良の病に用ひ、或は含嗽藥として用ひる、根莖の乾したものを口內の惡臭ある患者に咬ましむれば其の臭をまぎらすことが出來る。

▲花菖蒲　は菖蒲と別物であることは實際此の二つの植物を見た人は誰も知つて居ることであるが都會地などにのみ居て其の實物を見ぬ人は之を混同して居る人もある、併し玆に擧げた書を比較したならば眞に其の甚しい差異を知ることが出來るであらう、菖蒲は石菖や里芋などゝ同類であつて花菖蒲は燕子花、溪蓀などと同類である。

（三）　粽と柏餅の原料

粽はくまざゝの葉にて糯米を巻き包みて煠でたもでのある、糯米につきては後に述ぶることゝし玆には先づくまざゝのことをお話しやう

▲くまざゝ　は山間の險阻な處や山腹などの濕り勝ちな土地に繁茂する竹であつて、乾いた平原などには餘り適しない、稈は細く筋は低くて竹の高さ三四尺位である、一と枝には四五枚の葉を生じ葉は長さ八寸廣さ二寸許で新しい葉は綠色であるが舊葉は緣白くなつて丁度緣を取つた樣であるから又へりとりざゝとも云は

Digitized by Google

Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

れる、葉は粽を作ることや餅菓子などを包むに用られる、地下には菖蒲と同じく根莖を持つて居り夏には養分を貯へ翌春筍を發生させる準備に供する、根莖が餘り密に地中に蔓延して土地の肥料を吸ひ盡し全く痩土となれば枝に花を生じて實を結ぶ既に實を結べは其の竹大抵枯れるものである花は麥の花に似て雄蕋が長く垂れる、果實の形は全く小麥に似て兩端少しく尖つて居る、多く實のれば之を採り集めて食用に供することが出來る、其の味小麥に似て少しく竹の香氣がある炊いて飯とすることも出來れば粉となして團子や饂飩などを作ることが出來る、斯樣に製したものは殆と麥に劣らぬ程の味であると云ふことです、飢饉の年などにはくまざゝの實を採つて常食とした爲



に餓死を免れたといふ例は昔から往々あつたことである。

柏餅はかしはの葉を二つに折つて其の内に餡餅を包んだものである。

▲柏の樹　は大木となるものであつて高さ二三丈周圍五六尺許りに達するものがある、幹の外面の皮は灰色であつて表面から裂けて剝げる性がある、葉は長さ六七寸幅三四寸ばかりである緣には大な缺目があつて鰭の樣になつて居る、葉の表面は綠色で其の裏面は淡青色である柏は春に新葉が出る時に花を開き其の花は梅櫻なとの花の樣に美しい花瓣を持たず且つ雄花と雌花とか別々になつて居る、雄花は細長い紐の樣な形を有し、やゝ栗の花に似

Digitized by Google

Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

て居る、雌花は短い花軸に二つか三つづゝ着いてゐる花落ちて果實充分成長すれば、所謂橡實となる、橡實の下にある杯形のものは殼斗と名くる物である。

▲糯米は 米の一種で、之を生ずる植物は稻である、稻は畑地に植ゑるものを陸稻といひ、水田に植ゑるものを水稻と名づける、五月の初頃に種子を苗代田に蒔き、六月央頃に水田に移して植ゑる、八九月頃に花を開き十月十一月の頃に實の熟した時刈り取り種々なる手數を經て遂に糯米となすものである稻の根は悉く一樣で大小の差が極めて少ない斯樣なる根を叢根と名づける葉は細長くて其の脈は皆並行して居る、葉の基の部分は莖を圍んで居る、夕暮に水田に到つて稻の葉を見るとまだ、露が降りない時刻でも葉の緣に水滴が附いて居るのを見るであらふ此水は根で以て土中の水分を吸ひ取り之を葉の緣に有小穴から濕出したものだ。

▲糯米と粳米 粳糯米飯に炊きて吾人の常食とするものである米粒甚だ糯米と類似して居る併し粳米は米粒半透明であるが糯米粒は白色で且つ全く不透明である又沃度丁幾を粳の米粒に注げば藍色となり糯米に此の液を注げば赤茶色となる斯樣に試驗すれば直に此の二種を區別することが出來る、糯米は蒸して强飯となし或は餅を製し味淋を釀すなどに用ふ。

柏餅の原料を猶精しく云へば餡の原料、即ち小豆や砂糖の事をも話さねばならぬ譯だが餘り繁雜に渉るゆゑ茲で筆を擱くことに致します。（完）

▲小波洋行土產（上卷） 先頃歸朝せられたる巖谷小波山人が洋行中の見聞、日記等を蒐集したるもの、本篇上卷には「さゞ波日記」伯林當座日記「伯林百談」「歸朝日記」等を載せ、一卷紙數四百餘頁に亘る册子なり、本篇は著者獨得の筆法を以て簡易にものせられたれば解するに易く、讀んで面白く、彼の地の人情風俗を具に紹介して餘す所なし、殊に「小波日記」に於ける渡航途上の觀察といひ、「伯林百談」に於ける趣味ある記事といひ、共に讀者を誘ふて著者と共に彼地に遊ばしむるの思ひあり、製本は獨逸最近の出版ユングブルチンに倣ひしものにて、表紙にはアルヌボー式の瀟車を描き、未だ日本に類を見ざる体裁のもの、口繪は著者の油繪肖像、東洋語學校卒業生寫眞外數葉を挿み、表紙は巖谷一六翁の手跡、桂舟氏の圖案、是等相待つて一層の光彩を添へたり、（博文館發行定價一圓二十錢）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

蠶の學問

農科大學　I.K　生

每年五千萬圓づゝ、中々少くはない金高である、是で三寸にも足らぬ、虫から出て、外國に輸出さる、高である、なんと驚ろいたものではありませんか、扨此虫が如何して、之れ丈の金高を產み出すかを、科學として研究して見ませう。

此虫は御承知の蠶と曰て、學名を Borbyx mori.L.と申します。飼養者は、オコサマと曰て、大切に育て、居ります。

さて此澤山な金高を產む、その源は何であるかといふと勿論食物である、食物とは桑の養分に、相違ないが何の働きでそうなるかと曰ふに、蠶兒の躰內に横はる、絹絲腺といふ、六七寸の長い囊の、働きに在るのです、今その大略の有樣を述べませう。

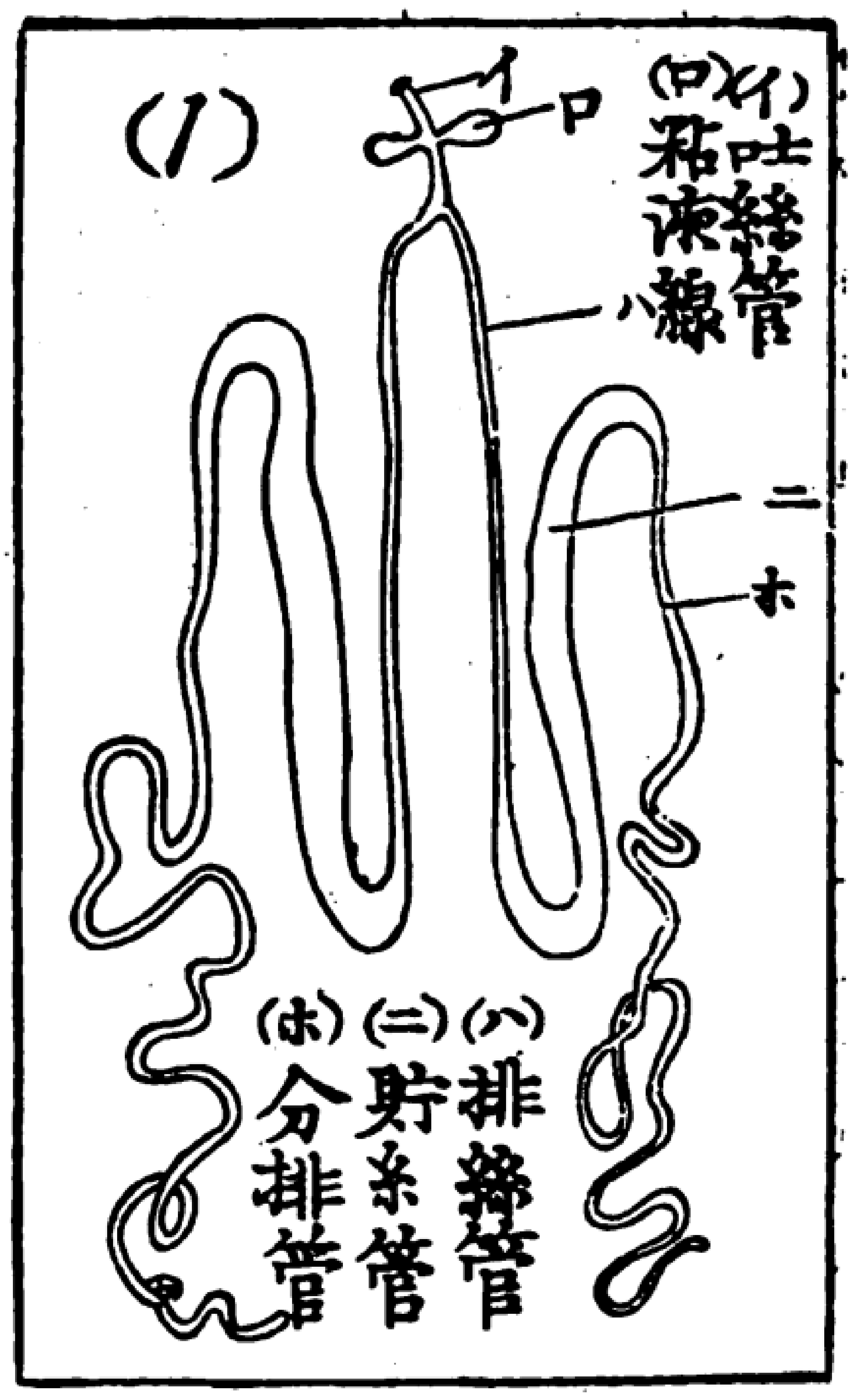
絹絲腺は Silk Gland と稱し、何れの昆虫にもあるが、家蠶ほどに發達してゐる者はない、此絹絲腺は二つの長き袋から出來、蠶兒の消食管の左右兩側に横り、內部よりは、絲質と膠質とを分泌さるゝ、其一方は遊離して、一方は上部で合一し、下唇の處で口を開て居る、此口を吐絲管と呼ぶ、此吐絲管から出る糸が、五本も六本も集て、生糸となるのである、此絹絲腺は、蠶兒が幼きときは小さいが、蠶兒の成長に伴て、太くなり、繭を營む樣になれば、十分發育して、七寸位にもなるのである。

絹絲腺は初より終り迄、同一であるかと曰ふに、決してそうでない、先づ三つの部分に、分つとが出來る、一番上部の、口に近き處を、導管又は排絲管と曰て、其の上部で、左右の管が、一處に爲てをる、此處に、粘液を出す、小さな袋が、二つ口を開て居る、第二の處を、貯絲管又は受囊と曰ひ、一番太い處である、第三の部分は、分泌管と曰て糸の出來る、本元である。

（第一圖）

第一の分泌管は極めて細くて長さは、外のもの程では

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



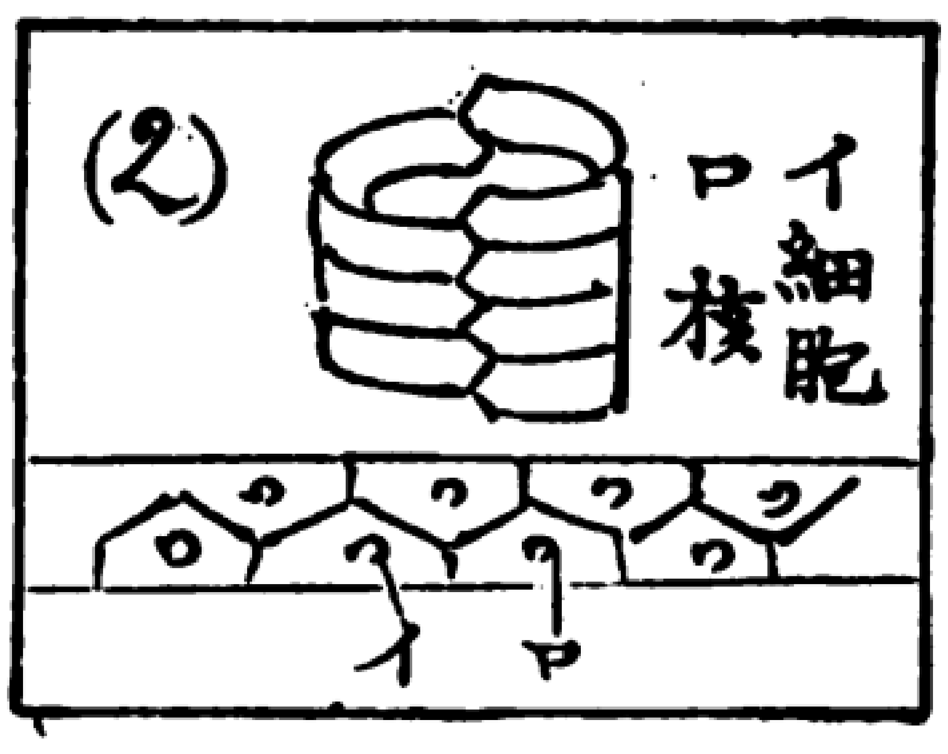
ないが第二の貯絲管と曰ふは長く其の上一番太い、爰に糸となる可き、絲質と膠質とを、貯へる場所で、必ず二回屈曲して居る、第三の分泌管は、糸となる可き、糸質を造る大切な場所である、長さも一番長く、不規則に屈曲して居る、今此の三つの長さを見ると

	長サ	巾
吐絲管	〇、八五	〇、〇二一
貯絲管	一、七〇	〇、一
分泌管	五、〇〇	〇、〇〇四
全長	七、五	

一般絹絲腺は、無色透明であるが、一種、黄繭種といつて、黄色の繭を造る者は。少しく淡黄色である

此の體の二倍にも餘る、太い袋様の管が、如何な具合に蠶兒の體內に、納てゐるかと曰ふと、屈曲してをるので、澤山の空氣管の枝や、脂肪組織、筋肉、などの力で、其の位地を占め、決して場所を、轉せざるのである。

此の腺の構造は、三部とも同一で是を顯微鏡で見ると、平き一様な細胞の、規則正しき排列から、出來居るのが、善く見へる、この一つ一ッの細胞も、亦三ッの層から出來て居る、其は中間核を縦する處と、外部の薄膜、及び、內部のキチン性の薄き膜から、成立ッ(第二圖)



此管の內、分泌管にある、核が實に、糸質を造るのであります、此核の作用に依りて糸となる可き糸質が、微細な粒となり、分泌管內に、分泌されて、貯絲管に送られ、貯絲管では、是れを固着るやうに、絲膠と

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

曰ふ者ぞ、分泌して爰に、二つのものを貯へるのである、さて貯絲管にある糸質が、膠質と調和して、排絲管といふ導管に導かれる、此管は前に述べたる如く、極細い管であるから、糸質も從て細くなり、猶口に近くと左右の排絲管が、合一るから、此處で二本の糸が合して、二つの粘液腺から出る、粘液の爲めに濕された、吐絲管を、糸が容易に出るのである、此の吐絲管を出る迄は、糸質は未だ、半流動躰の粘液性であるが、一度び、大氣に觸れると凝固つて糸となる事は、恰度彼の蜘蛛が糸を、出すのと同じ事です。

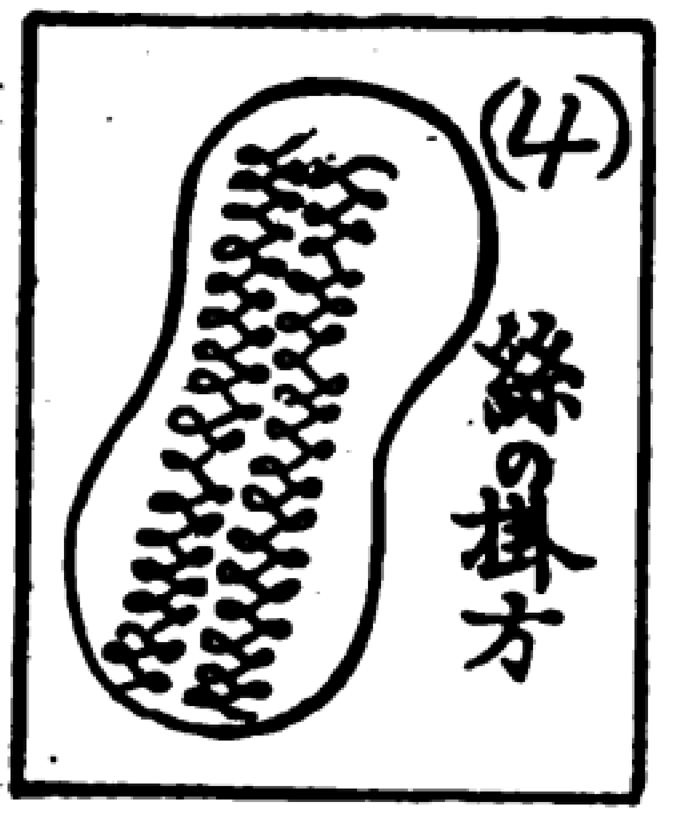
蠶兒の口から出る、一本の糸を、顯微鏡で見ると、二本の糸から、出來て居るとが、分る、これはもと、左右の絹絲腺から出たのが、合さつたと曰ふ事が、證據だてらる、此の糸を横に切り顯微鏡で見ると、圖の如く二つの三角形の樣で糸が、集て方錐形をなしてゐる、



其故、生糸を横に切つて見ると、恰度三月形のものが、集て居るこれは、生糸が此の糸の數本の合一になつた物であるからです。

虫の口から出る糸を、絹糸と曰ひ、左右の腺から出る細きものを、絲纖と曰ふ、つまり、一本の絹糸は、二本の絲纖の癒着もので、一本の生糸は、此の數本の絹糸の合一である、此の生糸が又數本集まり、練り又は染て、織物の縱又は横糸となるのである、唯虫の口から出た儘では、弱くして使用れない。

さてとんな風に虫が、繭を造るかと曰ふに、先づ、蠶兒が繭を造るに善き場所を、自ら選定し、其處に疎ぼ糸を吐き繭の位置を保つ樣にして、其後漸次厚くするのである、故に繭を造る場所が、惡ければ惡い丈糸量を減ずるのである、次に繭を掛けるのは、虫が頭を左右に動して、圖の如く行ふので、決して不規則に造るものではない。



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

大分話が横道に入る様だが、序ながら述べませう

繭一升から、生糸が幾許取るかといふに、春蠶秋蠶夏蠶によりて違ひます又同じ春蠶でも種類に依て、違ふは言ふ迄もないが、先づ一升からは十匁より十七八匁位、而して一升は、大凡三百粒の繭がある、今一寸之れ等の數から、皆様の春着を製る爲めに、幾萬疋の蠶兒が、斃らるゝかを計算して見ませう

一、三枚襲、但し表地縮緬裏地紗絹(假百圓位トシテ)

一 上衣				
表地	縮緬	四丈	反百五十目付	凡三百五十二匁
裏地	紗絹	二丈一尺	反四十目付	凡三十匁
一 上衣二枚				
	縮緬	四丈	反百五十目付	凡三百五十二匁
	紗絹	七丈二尺	反四十目付	凡百〇三匁
一 長襦袢				
袖裏	縮緬	六尺五寸	反百五十目付	五十七匁
表絹	絹	四丈八尺	反五十目付	八十六匁
一 帯(四五十圓位トシテ)				
一本				三百目
一 綿				
裏絹				凡三百目
右合計、糸量				一貫五百八十匁

右は附屬物を、除いての計算であるが、大體に於ては甚だしい、差違は無い一寸御花見に出掛るに、一貫六百匁もある、荷物を背ふて、出掛るのだもの、疲勞るのも無理でない。

さて此の一貫六百匁の衣服を、造る爲に、蠶兒を幾許殺さねばならぬかといふと、先、生糸から糸にするときの練減を知らなければならず、此れが大凡、一割八分位、則ち一升十五匁の生糸を得るとすれば、練減の爲めに練糸は、十二匁三分しか出來ない、されば一貫五百八十匁の糸を造るには、繭は一石二斗八升四合で、一升三百の繭とすると、此一と襲の春着には蠶兒の靈魂が三萬八千五百二十だけ、附着して、居るのである何と恐しいとではないか以上は附屬品及び屑絲などの計算がないから精密ではないが、之れ等を實際計算したならば、少くも五萬以上の靈魂を殺さなければならぬのでありますこれだから人間が絹布など身につけて贅澤するのは眞に罪な事で又罰當りな事であります。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

女學生と地理

林みつ子

地理は學習するに極めて興味ある學問でありますから、其の興味を利用して婦人の智識を開發するには尤もよい學問の方便でありませう。けれども地理は普く地球上の表面に擴がり亘つたすべての事柄を分類して教へる學問でありますから、その學びの個條が大變に錯雜して居て、一寸の聞き囓りでは容易に初學者の腹に入らないのであります。譬へば一と口に地理と申しても、國々の位置から、氣候の相違から、人類の區分から、山河の形勢から、生物の分類から、猶細別すれば宗教、政治の別ちから、人口の粗密、物產の種類、面積の大小、廣狹、その他種々樣々の分類があツて、これ等の別ちをすべて自分の腦髓に記臆して、世界中の事柄を一目瞭然ならしむるといふ事は、專門家の仕事としても容易ではありません、況してや種々の事柄を學ばねばならぬ女學生諸君に於て是れを悉く記臆に入れよといふのは非常の重荷で、强いて記臆に入れやうとすれば却て腦髓が錯雜して、他の學問の妨げとなるやうな惡結果を來しませう、ですから、これを學ぶには極めて單簡な方法に依ッてその大意を明かにし、大體の區別を十分に腦中に疊み込んで置くのが、學問の速成法であります。旣に大體の區別が腦中に入つて仕舞へば、その他の事は自然と我が智識に解釋が出來て來るやうに成るものであります。これが學問成就の良方便で、何の學問でも始めは皆その方法を取ッて行かねばなりません。

そこで地理を大別して天然地理、人事地理の二ッに區別してあります、天然地理といふのは、地球の運動、四季の差別、地球の形狀、寒帶、熱帶の區別から、大陸の區別、海、山、川、湖水、或は生物の分布、氣候の相違など、すべて天然自然の有樣に就て知る處ろの地理上の智識であります、又人事地理といふのは、地球上に分布された所ろの人類の區分、文明とか、野蠻とかの人類開化の程度、或は宗教、政治、貿易、物產、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

交通、乃至は國々の區別、人口の多少、都邑、村落の發達、人情、風俗、生活上の有様に就て知る處ろの地理上の智識であります。

さてこの天然地理と人事地理との兩方に就て、どちらの方が興味が多くて、又どちらの方が婦人の腦髓に早く入り易いかと申すと、天然人事共に興味は多いが、天然の方は人事に比べて餘程科學的でもあり。且ツ、事柄が漠として居りますから、餘程腦髓が緻密でなければ一寸解釋に困りますけれども、人事の方は例を取るにも手近く、隨ッて單純な婦人の智識に入り易いのであります。縱令ば亞細亞洲全體の地勢は如何なる有様かと問ふても一寸分り難いかも知れぬが、歐羅巴の人種は如何なる種類で、その文明の度は高いか低いか、又その生活は如何なる有様かと聞かるれば直ちに大躰の答は出來ませう。ですから人事の方は天然の方よりも自然と智識に入り易いものであります。そこでこの入り易い智識を利用して、なるべくそれに興味をつけて學んで行くのが學問の早道です、そうして段々進んで行けば行くほど學問の興味がますます加はッて。彼のちには無趣味であッた事柄も大變おもしろいものになッて。知らず識らずの間に多くの地理學の智識を擴ろめて行くやうになります。

人事地理の區別

人事地理を學ぶに就て凡そ知らなければならぬ個條がまづ六七種あります。

▲第一　人類の區分
▲第二　開化の程度
▲第三　宗敎の區別
▲第四　政治の種類
▲第五　人口の多少
▲第六　都府村落の發達
▲第七　職業、物產、貿易といふ様な區別であります。

▲第一人種の區別　世界上の人種はまづ大体白人種、黃人種、黑色人種、銅色人種、鳶色人種とその皮膚の

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

色に依て區別されてありますが。更らに此區別を分り易く說明すると歐羅巴人種、亞細亞人種、亞弗利加人種、亞米利加印度種、馬來種となります、扨この人種を數に依つて區別すると亞細亞、歐羅巴の黃白二種が大部分を占めてゐて、各六億人、次が亞弗利加の黑人種二億人、馬來種と銅色人種が一番尠く六千萬人に上らないのであります。扨て何故に黃色人種がその樣に多數であるかといふと、それは支那といふ大國を成してゐる蒙古人種が皆黃色人種であるからで、黃色人種の中五億以上は支那人に依て占められてゐるのであります。大略世界の人口が十五億人と假定めてあるからその中の三分の一は支那人であります、で支那は單に國が世界の大國たるのみならず、人口の上でも又世界に比類のない多人數を占めてゐるのであります。

▲第二開化の區別　世界の開化には三等の區別があります、第一文明　第二未開又は半開　第三野蠻　野蠻の人民は、社會を形造らねば、國に政治といふものもなければ、法律もない。人民は箇々に分列して、日夕山林に獵し、湖海に漁し、或は野生の植物を採集して衣食し、闘爭を好んで掠奪を事とし、人倫もなければ、又文字もないのであります。亞弗利加の土蠻、南洋、諸島の蠻民は大抵この類であります。未開又は半開といふのは。社會だけは形造つてゐるけれとも、人間の理想が甚だ幼稚であつて、文藝も進まねば、工業も起らない。僅かに農業耕作によつて衣食してゐる處ろの人民である。未開の例は亞米利加の土人、西比利亞の土人、近くは臺灣の生蕃並に北海道の舊土人アイヌ人などがその類で、馬來半島布哇などは稍や半開に進んだ人民であります。文明の人民といふのは、日本、支那は勿論歐羅巴、各國亞米利加の諸國で、人智進み、理想高く、藝術の甚だ發達した所ろをいふのであります。

▲第三宗敎の區別　地球上に宗敎の種類は甚だ多いけれとも。主要なるものは四ッに區別されてあります。第一佛敎、第二基督敎、第三回々敎、第四婆羅門敎、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

其の外、拝火教、凡物教と唱へてすべて是れを偶像教といふのがあります。中に就て尤も盛んなのが、佛教と基督教の二種で、婆羅門、回々教が之に次ぎ、偶像教が、尤も少数であります。何故に佛教、基督教の二教が最も勢力あるかといふに、佛教は亞細亞教で、日本支那全部の宗教となつてゐるからその信者の數は五億人以上に登つてゐるのである、基督教は歐羅巴全體、並に新開の亞米利加を加へて皆その信徒であるから總數四億に上り、印度と中央亞細亞の一部には婆羅門が行はれてゐるので二萬餘の數に上り又東部亞細亞から亞弗利加の一部には回々教が行はれてゐて二萬餘の信徒を有してゐるのであります。

▲第四政治の區別　現今世界上の政治は君主政治、立憲政治、共和政治の三種に區別してありますが、その君主政治の中にも又専制君主制と、立憲君主制といふの區別があり、露西亞、支那などが、専制君主の政治で、日本、英國、獨逸などは立憲君主政治であります。次に共和政治といふのは國に皇帝又は王といふものがなく、人民の中から大統領を撰擧して政治上の責任を預らせるので、北米合衆國、並に佛蘭西などがその例であります。

以上の如く人事に區別を立てゝ置いて、それから段々と進んで研究をするのでありますが、まづ第一に人類は如何なる處ろに最も多く繁殖して、如何なる方法に依つて生活をしてゐるかといふ點に注意せねばなりません。いふまでもなく人間の最も多く住んでゐる處ろは水のある所ろであります。水は文明の母と稱する言葉もあつて海邊並に河流の邊には人口が多い。何故に水のある所ろに人口が多いかといふに、海邊でも、川流でも、水のある所ろは槪して平原である、この平原は天富の所在地で、植物も繁茂すれば、動物も生存する、又水を利用して交通も利くから人類が住むのに、甚だ都合がよい、むかし亞細亞の文明が黄河、楊子江の河岸から起つたといふのも、水邊が人類の生活を資くるに都合よいからである、むかし歐羅巴の文明が、地中海の附近から起つたといふのも水邊が人類の生活

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

を資けたのである。その外、印度の文明がガンヂス河の畔から興り、埃及の文明がナイル河の畔から興つたといふのも又同じ理由であります。即ち水は文明の母であります、又現に世界人口の尤も繁殖してゐる所ろもすべて大河の流域。又は海邊です今この著るしい例を擧げて見ればまづ河畔では、支那の揚子江流域、歐羅巴ではダニーブ河流域。亞米利加では、ミシシツピー河の水脈。亞弗利加ではナイル河流域その他すべて河流のある所ろにはむかしから人類が繁殖して村落を成し、都邑を作つて居ります。我が日本でも、關東、畿内、北陸、東奥、九州、その他すべて人口の繁殖してゐる處ろは、必らずそこに大きな河の流域があります。

又何故に水のある所ろが天產物の所在地かといふに、水域はすべて平原である、平原は土地が自然に肥沃であつて森林が多い、森林でなければ拓いて耕地にする事が出來ぬ又河や、湖水や、海のほとりに住へば漁が出來る。嶮岨な山や、高原は地が瘠せてゐて耕作が出來ないばかりでなく、交通も利かないから人類の生活するのに甚だ困難である。そこで人類はすべて平原の地、水域の地、肥沃の地に繁殖して、村落都邑を成し、樣々の產業を營むで生活をなす、これが即ち人事地理の有樣であります。此の人事地理上の原則大意を十分心に會得して置けば、その他の事柄は此の原則によつて自然と我が腦中に了解されて來る、即ち苦しまずして自然に地理學上の智識が修められて行くのであります。

天然地理の要領

天然地理を學ぶにはまづ第一地球上各地の形狀を知るのが肝要であります。譬へば亞細亞洲の地勢は如何なる有樣かといふに、中央が高くて四方が低い。それはヒマラヤ山といふ世界第一と稱する高峰が印度の北方に脈を起してゐる、次には崑崙山が支那の東方に同じく脈を起してゐる、その次にはアルタイ山といふ山脈が西比利亞の南の方に又脈を起してゐる。そこで印度

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

はヒマラヤ山の脈から流れて來る川の爲めに地が低くなり、支那は崑崙山から流れて來る川の爲めに地が低くなり、西比利亞は又アルタイ山脈の水を受けて平地を作つてゐるが、その山と山との中間が甚だ高くて、西藏の高原、蒙古の砂漠、パミール高原、いづれも一萬尺以上の高地で、日本の富士山よりも高い地面であります。それ故、この高原には水が至つて乏しい、水が乏しくて河や湖といふものがないから、自然と地が瘠てゐる、それ故耕作といふものが殆んど出來ません。然らば住民は如何にして生活を成してゐるかといふに。自然の配劑は妙なもので、耕作の出來ない所には又それ相應に生活上の方便があつて、人民は皆遊牧を事としてゐます、その地質は瘠せてゐて砂漠でさいなければ草が生へるからその草を利用して羊や、牛を飼ふのであります、人民が此の遊牧を業とする處ろからして人事地理の上に特種の現象があらはれてゐます、それはこの高原に住する所の人民が、常に同じ場所に永住してゐては草が無くなる恐れがあるから、その草の絶へないうちに、牛羊を連れた一家族が、水草を逐ふて轉居するのである。それ故この種の民を遊牧人種と稱してゐます、亞細亞高原の中で、蒙古部落、キルギス部落、土耳斯坦地方の人民は概してこの遊牧人種であります、さて水草を逐ふて轉居する以上は、無論家屋を建築するなどの事は甚だ煩はしい、故に帳幕といつて羊の皮でこしらへた天幕を張つてその中に棲息する、それで、平常食するものは、重に羊の肉、飲料は羊乳、稀れに麥粉や茶があるが、これは支那とか露西亞とかいふ地方から來るものを貿易して僅かに需用するのであるからそれを飲食するのは極めて少數であります、又衣服は羊皮薪材は馬糞を以て暖を取るといふやうな極めて不適意な生活狀態であるけれども、この蒙古民族の中からは東洋歷史の上に驚くべき偉蹟を遺してゐます、即ち蒙古遊牧の中から、有名な、成吉思汗といふ英雄が勃興して。東洋諸國は勿論、遠く歐羅巴の中へまで侵入して一時西洋諸國を征服して世界に古來例しのない廣大な版圖を造つた事もあり

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ました。

斯の如く中央の亞細亞は極めて高原で、土地の瘠せた、天産の乏しい所であるから自然人口も稀でありますけれども、その高原を取り廻いてゐる所ろの裾の土地はいづれも河域縦横した富饒な地でその大陸の南にあるのが印度といふ、富饒な土地、その西にあるのが支那といふ肥沃な土地であります。又北にある西比利亞といふ平原であるけれども、これは、地球の緯度が高く、殆んど寒帯地方に屬してゐる爲めに、耕作の出來る場所が極めて尠いのであります。そこで、亞細亞洲中の重なる富饒地は支那と印度で、人口の多數を占めてゐる所ろも又支那と印度で、隨つて物産の生ずる所ろも又支那と印度であるから貿易の盛んなのも自然支那印度でなければなりません。

そこで今此の支那と印度に生ずる物産の特種なるものを擧げて見ますと。支那では米、綿、茶、砂糖、生糸、豆類、鴉片といふやうなものが重なる品で、又印度では棉花、米、藍、砂糖珈琲、材木、香料といふ品物で、それから印度と支那との中間にある、東印度支那諸國では米、象牙、材木、砂糖、棉花、護謨、煙艸といふやうな、熱帯と暖帯との中間に出來る品物を産するのであります。又支那の北部より滿州、西比利亞の地方になると、これは寒帯に特有した物産が出ます、例へば、獸皮、角、獸脂、鯨油、海鳥毛といふやうな品であります。

何故印度では米や藍が特産物であるかと申しますと、印度は熱帯國である。米や藍は熱度が高くなくては生育しません、又椰子とか、香料とか珈琲とかいふものは熱帯地方の特産物で、熱い土地でなければ生茂しないのであります。それと同じで鯨の油や、海鳥の毛は寒帯地方でなければ得られません。獵虎とか、海豹とかいふものは、千島や、カムサツカの様な寒帯地方の特産物として、他の北方には見る事が出來ないのであります。故に世界上生物の分布といふのもこの各地に出來る物産の種類をよく調べて見ると、自然に如何なる有様になつてゐるかといふ事が、判然と了解してま

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ゐりませう。同じ動物にしても、熊や猿は北極地方でなければ居らない。又象や、獅子は熱帶地方の特產である。但し駱駝とか羊とかは寒熱兩帶の產物であるが、就中駱駝は砂漠地方に產し、羊は重に高原、草野の地に繁殖して居るといふ事なとも瞭らかになるのであります。

歴史の綱領（日本の部）

若溪女史

鎌倉時代

鎌倉時代とは、武家が鎌倉に覇府を置いて天下の政權を握つた時代で、一に鎌倉武權時代とも申します、源賴朝が平氏追討の後に始まつて、後醍醐天皇の元弘三年北條高時の滅亡に至るまで凡百五十年の間を通じて申します、扨ての時代政治上、社會上の特色は、國民の氣風が剛健質樸なる事、武士の風俗の勤儉清直なる事、宗敎の盛であつた事、厭世的の思想が宗敎に伴ふて人々の心象に映じた事などが此の時代の特色でありませう。幕府の創立者たる賴朝が平氏の運命に鑑みて大に王朝時代の文弱、奢侈の風を戒めた結果は大に國々の弊風を一變して、質樸剛健なる關東武人の風俗がやがて日本一般武人の氣風となりました、扨て賴朝は關東武人の中心となつて平氏を滅し、遂に天下の政權を握りましたが、その政權といふのは從來藤原氏や、平氏が王室の大臣として握つた政治上の權とは大に異つて、全く王室から其位地を離れて、天下の大權を掌握したのであります、併し賴朝の家は三代にして亡びましたから、其後の鎌倉時代の將軍職は京都の公卿の公達や又は親王家の若君を迎へて、その職に補ふて居ましたが、これは唯名目ばかりで實權は賴朝の薨去以來直ちに北條氏に歸して仕舞ひました、そこで北條氏は賴朝の遺して置いた制度に基いてそれを活用して行きましたが、抑も鎌倉善政の基礎を作つたのは三代目の執權泰時でありました。

一体保元平治の亂から以來、朝廷の法度が大變に亂れ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

て、莊園の代官は人民の膏血を絞ることを職としてゐるやうな有様で、平家追討の後頼朝が代つて政權を把つたなれども、その節は稍く世の兵亂が治まつたといふだけで、民政の方へはまだ十分に手が屆きませんかつた、然るに北條泰時は力めてこの弊を正して大に天下の民望を博しました。まづその一例を申すと諸國に饑饉があるとサツクに米倉を開いて大にその飢民を救ひました、又不作の國があると田租を免して流民に賑給をする。又飢民に米穀を貸與へて秋に及んで償却する約束であつたのが、風害で穀物が不作であつたといふので、その負債者を集めて、食物を供し證劵を火中に投じ債を免がれしめました、又年貢不進の爲めに妻子を拘留する領主のあるのを見て民の爲を計つて、禁令を出して免かれしめた。其他いろ〳〵仁政の例があつてすべてこれ等を後世から鎌倉の善政と唱へてあります、又貞永式目といふ法律を編纂して、武家の法度を立てたが、遂にこれが天下の法律となつたのであります。兎に角北條氏執權中即ち鎌倉時代の政治は專ら民政を勵んで裁判を公平にし、下民に同情を表し、民間の富源を養ひ、そうして國家の實力兵力を增進しめた時代であります。

▲鎌倉時代の中央政治の大要

始め頼朝が覇府を鎌倉に開いた時、家人和田の義盛をして侍所の別當としました。此の侍所の別當といふのは今日で申すと陸軍の大臣といつたやうな役柄でまづ軍職の長であります。頼朝の部下に屬した所ろの將士は皆此の別當の所管に屬するのであります。次に政所又公文所と申すものを置いて其の別當に大江の廣元を當てました。此の政所と申すのは即ち國家の政務を司る處ろで立法、行政、その外國務の設計すべて皆この政所から出づるのであります、次は問註所といつてこれは訟獄、裁判を決斷せしむる所ろで三善康信といふ人がその執事即ち長官でありました。まづこの三個の政治機關、これが粗鎌倉幕府の組織の大要であります。そこで頼朝并にその後室政子存世中は殆んと君主獨裁の政治でありましたが、政子の薨去後は泰時

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

は執權職に居ながらも政治を專斷せずに十二人の評定衆といふものを置いて政務を合議せしめました。その合議政治といふのが至極好結果を奏して人心が歸服しましたから、泰時以後代々の執權職には常にこの評定衆といふものが居て天下の政務を合議したのであります。

▲鎌倉開府と政躰の變動

頼朝が六十六國の總追捕使に補せられましたのは、その事柄はごく小さいやうでありますけれども、深く考がへて見ますと日本國政躰上の一大變動であつたと言はなければなりません、頼朝は總追捕使に任せられ征夷將軍となりましたから、皆樣は啻頼朝が平家を追討した恩賞として日本國で一番上の軍職に任せられたものであると御考へなさるか知れぬが、決してさうではありません、頼朝の官職は唯右大將たるに過ぎませんから、朝廷の上にはその以上幾人も高官はありませうが、そんな事には一切頓着なく頼朝が此の一事は日本國の兵馬の實權は勿論、政務を行ふの權力までも併せて掌握した、即ち、朝廷から頂戴したのではなく、自分の力を以て朝廷から奪ひ取つたやうなものであります、即ち日本國家の實力を、朝廷から離して鎌倉の幕府に移したのであります。譬へて申さば、從來藤原の道長とか、平の清盛とか、朝廷の實權を握つて居りましたけれども、これは藤原氏も平氏も共に朝廷の大臣として握つたのであつて、言はゞ天子が御幼冲であるとか又は御賢明でなかつたかの爲めであつたので、決して制度の上から實權を握つた譯ではありませんかつた、然るに頼朝が六十六國の追捕使となつてからは朝廷の大臣として權を握つたのではなく、制度の上から一國の實權を掌握したのであります。且つ國々の地頭といふものは皆自分の家の家臣や郎從を以て之に補したのであるから、頼朝は事實上の日本國の總地頭であります。

▲鎌倉時代の地方政治

頼朝が平氏を追討して後各地の莊園に地頭を置き、國に守護を置く事となつた、その當時の情況は如何であ

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

つたかと申しますと、むかし大寶令に定められた所の田地の制度が大變に亂れて、諸國の莊園といふものは大抵一個人の私領となつて、上は王公より下士人に至るまで皆莊園を以て自分の生活の料として居ましたやうな按排で、現に平氏が跋扈してゐた頃などは三十餘ヶ國の莊園を自分の一門中で横領して居たやうな有樣でした、尤もその內には公田と言ふ朝廷直轄の田もあつて、それには國司といふものが支配をして居たのであります、尤も國司といふものは莊園の上にも支配權を揮ふ譯のものであるけれども王朝の末各地に割據して居た武士の勢力が强いので、國司は唯表面上の御役目を務めるばかり、土地の實權は地方の豪族に握られてゐたから、朝廷の中央政府が地方を制御する力が大に緩んで亂兇者が出てもそれを押へる事が出來なくなりました。そこで賴朝兵權を握ると同時に此の地方制度に對して大に權力を集注するの必要を感じて、諸國に守護といふものを置いて、國司の權力の及ばぬ所ろに對して謀反人、殺害人、及び盜賊のやうな兇賊を捕縛してそれぞれ處分せしめる事となりました、それから又地頭といふものは、始め平家の一門が、自分の私領に置いた收稅役人の名義でありましたが賴朝は之を公務上の役職として莊園から收稅する事を司どらせて其內の若干かを自家の役料(月給のやうなもの)として取らせられた、そこで守護といふのは一國、一地方の縣知事と裁判所長を兼ねたやうな政治を行ひ、又地頭は收稅官、町村長といつたやうな役目でいづれも賴朝の家臣を以て之に任じましたから鎌倉幕府は實際上日本政權の主腦で其の威權が立派に全國に響き及ぶやうになつて參りました。その制度上の威權が一時に鎌倉に移つたので遂に承久の役といふやうな政治上の權勢の爭が出來ました。

▲承久の亂

鎌倉時代の爭亂は始めに承久の亂があり後に元弘の亂がありました、いづれも朝廷と幕府との間に於ける政權の爭でありますが、まづ承久の亂から申しますと、これは賴朝が六十餘州に守護を置き幕府の家人を以て

Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

之に補し天下の総追捕使となつてその職を後世子孫に傳へましたから、公の荘園の事一切幕府の支配下に歸して最早朝廷の意の如くならず、公卿の私領も、又鎌倉方の守護や地頭から干渉を被つて、領家は之を好き自由にする事が出來ない。實に遺憾千萬でわります、朝廷は唯手を拱ぬいて幕府の制を待つばかりであるから、如何にもして武家の權力を削らうと試みられたのが此の兵亂の原因でわります、當時後鳥羽上皇の寵姫でわつた亀菊といふ白拍子がわりまして、攝津の國長江、倉橋といふ二個所の荘園を賜はつてゐました、然るにその領の地頭が・領家を輕侮して諸事を意の如にさせない所ろから亀菊が腹を立て、上皇に申上げると上皇は不埒な奴だと早速・地頭を免職してしまへとの事を仰下されましたすると鎌倉から遣はされた京都の守護職が之に反抗して申しますには地頭職は古賴朝公が平家追討の褒賞として朝から下し置かれたるものをさしたる罪 ないのに免職する事は出來ませんと當時の執權北條義時の命を卸んで斯く申しましたから後鳥羽上皇が非常に逆鱗遊ばされて武門追討の命を下されました、尤も以前から上皇は政權の武門に歸したのを憤らせ玉ひて、多くの武士を院中に置かせられて武事を習はせ、回復の時節を待ち給ひたが、當時賴朝の子孫は已に亡びましたれど北條氏が代つて實權を握り義時が益權威を揮ふて兎角に朝廷の命に逆ひましたから、愈々討伐の御決心を遊ばしたのである、そこで承久三年上皇詔を下して義時の官職を削り畿內七道から兵を募られましたが、元より天下の實權既に武門に歸した時勢であり、且つ武門の統領たる北條氏には泰時といふ人望家が居た爲めに立ところに十八萬人といふ兵數が集つて東海・東山、北陸の三道から進んで遂に難なく官軍を破りました・此の時官軍は西國から集まつた兵士、幷に叡山邊から出ました僧兵や公卿の武士を加へて稍く一萬五六千に過ぎませんでしたから進退が一致せず敗北を遂げたのでわります。

▲承久の役と北條泰時

承久の亂に就て一つ注意すべきは北條泰時の擧動でわ

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ります。北條泰時は鎌倉幕府九代百五十年間の仁政の基を開いた名將であつて、後世勤王流の歴史家からは兎角の異論のあつたにも拘らず其の人物、偉業は確かに、天晴れ政治家の模範として推重さるゝ所ろであります、當時泰時は北條氏の嫡子として父義時の命を受けて自から朝廷に弓を彎きました。此の點から申せば許すべからざる大逆臣に相違はありませんが、併しその志は大ひに恕すべき所ろであります、今その志の存ずる所ろを少しく申しませう。承久三年上皇の詔に應じて官軍數萬騎關東へ發向との注進が鎌倉へ聞へると、義時は密かに泰時を招いていふには、天下の事最早此の次第となつた、如何に取謀らふて宜しからうかと、泰時答へて曰ふには、抑も平相國清盛驕慢を以て君を惱まし奉り、國家の煩ひを來したから故右大將賴朝、院宣を受けて追討し、國君に忠を盡したる所ろは明かである、以來關東は朝廷に忠でこそあれ、過失はない筈であるが此の度過失なくして罪を被つたのは、是れ偏に朝廷の御誤解であらう。乍併一天四海悉く王土にあらずといふ事なし、一朝御怒に觸れた以上は、その御心に任せらるべきものである、戰爭をするのは理に背いた事である、宜しく頭を低れ、手を束ねて、朝廷に降參して御憐れみを請はねばならない、斯くても猶頭を斷らうと仰せあらば、我々の命は義よりも輕い、決してそれを否んではならない。と斯様に申しました、すると義時は暫時考へて居ましたが扨て言ふには、汝の言ふ所は實に尤である、けれどもそれは君王の政治が正しくして國家の治まつた時の事である、今日の御代となつて國々亂れ、所々不穩の事があり、上も下も天下萬民擧つて恐れを抱いて居るのに我が直接に支配をしてゐる關東だけは此の王難も及ばずしていと安らかに治まつてゐるではないか、若し朝廷の御一統に任せて置たならば、禍四海に及んで、日本全國の大煩ひとなるのである、して見れば茲で朝廷に反對をするのは私しの爲ではなく、實は天下國家の爲である、縦へ我々の身は天の冥罰を被つて命は亡くならうとも、決して躊躇すべきものでない、何は兎も

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

われこの事二位の禪尼に申して見やうと言ひ聞かせました。二位の尼は賴朝の後室で、鎌倉の簾中將軍でありますから、尼御臺さい承知したらば、將軍の命、父の命最早背くべきでないと稍くその義に隨ひて、上洛に及びました。それから八幡大菩薩に參詣して、誓を立て、此の度の上洛若し天理に背いたらば忽ち私の命を御取り下さい、若し又幸にも天下萬民の爲となつて國家に忠を盡したらば深く哀憐を垂れ給ふべしとてその心に一點の私のない所ろを禦し進めて始めて戰爭の覺悟を極めたのである。されば官軍に弓を彎いた點から言へば逆賊であるけれともその志は決して賊でもなければ逆にもあらず、實に國家の爲めを盡した天晴の擧動と言はなければならない。泰時の志は縱へ時の朝廷より責を蒙むらうとも、天照太神の國家をして安穩ならしめんとの素志である。泰時は實に朝廷と國家とを衡に懸けてその重い方に隨いたのであります。

▲承久の亂の結果

承久の戰で官軍敗北し、北條氏關東將軍の執權としてその勢力を闕下に振ひ、後鳥羽上皇を始め奉り順德上皇、土御門上皇を隱岐、佐渡、土佐等の遠島へ移し奉り、又爭亂に關係した公卿等を或は斬り或は流しそれ〳〵處分したのは、即ち是れ武人の力の朝廷に對して全勝を占めた時で、此の時に至つて日本の政權が徹頭徹尾武門に移て仕舞ひました。そこで天下政權の主腦は鎌倉に歸し、京都は唯至尊の御座所として神聖なる神器のまします處ろといふだけで、政府の所在地ではなくなつたのである。

▲兩統の交迭

北條氏執權九代の間に天皇の御即位あつたのは土御門、順德、後堀河、四條、後嵯峨、後深草、龜山、後宇多、伏見、後伏見、花園、後醍醐の十二代であるが承久の役終つて、後北條氏が天下の實權を握りましたから、朝廷へ對して甚だしく干涉を行ひ、順德天皇を廢し奉つて高倉天皇の孫後堀河天皇を立て奉つた。併し後堀河天皇の御血統は二代にして絕へましたから、北條泰時

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

は承久の亂に御關係遊ばさなかつた緣故を以て土御門天皇の御血統を迎へて立てた、これが後嵯峨天皇である、これからは朝廷の事すべて鎌倉の干涉を蒙るやうになりましたが、後嵯峨天皇在位四年で院中に御退隱遊ばした節、二方の皇子が在らせられて御位を承られました、これが後深草と龜山天皇である、父君は殊に龜山の方を御寵愛遊ばして、世々大統を承くるものは龜山の後であると遺詔されました、そこで龜山天皇が位に即かれて萬機を專決し給ひ、遂にその皇子後宇多天皇の位に即き給ふに及んで後深草の不平はいよ／＼熾んになつて、竊に時の執權北條時宗に向つて御相談になると、時宗は後深草が正嫡であるからといつてその皇子伏見天皇を後宇多の儲貳と定め、爾來兩統互に相交迭して位に即かれ、後醍醐天皇に至りましたが、この兩統の爭鬩を持明院、大覺寺兩派の爭と申します。

▲元寇の事

元寇は鎌倉時代の一大事件といふよりは日本歷史中の一大件と言つてもよろしいのであります。日本が外國と事を搆へて然かもその辱を受けなかつた一大事蹟實に二千五百年歷史上の美談であります、其の事柄は元と亞細亞大陸で蒙古といふ一大種族が勃興して、支那、四百餘州は勿論遠く、印度、亞剌比亞、露西亞より歐羅巴の東の方までも併呑して世界の歷史上に古來試しのない廣大な版圖を開き、遂に支那の北京に都を建て、國を元と稱し、その主を忽必烈と申しまして朝鮮から我が日本を征服し又その版圖にしやうと企てたのであります、時に我國では龜山天皇の文永五年で鎌倉の執權北條時宗十八歲の時でありました。その歲元國は高麗を通じて書を獻じ我國に通使を求めましたが、時宗がそれを朝廷に奏すると、朝廷では早速答書を認めて時宗に下して謀らはせました、然るに時宗は元の書信が如何にも無禮を極めてゐるといふ廉から、その答書を與へずして使者を卻けて仕舞ひました、三年經つて元の使が再び參つて通使を求めます、時宗此の時も又卻けて答へなかつた。すると又三年經て元の

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

兵が對島に來つて大に寇をしましたから、鎭西の將士が拒ぎ戰つて遂に之を郤けて仕舞ひました、すると又翌年元の使が長門に來ましたから時宗がその使者を捕縛して鎌倉に引かせ、皆斬つて仕舞ひました、斯樣に外國に對して決斷をしたから。何時敵が來ても差支のないやうに築紫に探題といふものを置いて軍務を勵ませ。沿海の地を嚴重に警戒させましたが、果して弘安四年元兵十萬人を率ひて築紫太宰府に寇入しました。そこで九州と關東の兵が皆太宰府に集まつて防ぎ戰ひ暴風に乘じて奮擊し遂によく之を破りました。當時龜山天皇は痛く宸襟を惱まし玉ひて、伊勢太神宮に願文を奉り身を以て國難に代らんと願ひ給はれたといふ事であります。或る歷史論には北條氏九代の僭越時宗が此の一事に於て償ひ得べしと言ふてあります、確か賴山陽の日本外史かとおもひます。さもあるべき事でせう。

▲鎌倉時代の文藝宗敎

鎌倉の時代の文章藝術は奈良朝や、平安朝ほどに目を驚かすほどに榮へませんけれども、又自から其の時代の風尙を帶びた美術工藝も顯はれて參りました、扨文藝に就て申すと、和歌は後鳥羽上皇の時代俊成といふ和歌の達人がありて千載集を選みました、後鳥羽上皇も歌才のあつた御方でいろ〳〵秀咏がありますが俊成の子の定家は一代の巨匠と言はれた歌人であるが、惜しい哉この時代は歌道に眞實を離れて華麗を事とするやうになりました、定家卿は幾分かこの弊を難じて小倉の山莊に退隱し眞實を旨とした古人の名歌百首を選んで後世にその規摸を遺したのが今の小倉百人一首であります、定家の後に實朝があります、實朝は鎌倉の右大臣で武門の統領たる地位に居ながらもその歌人として位地は優に西行と并び稱さるゝほどのもので、萬葉のさびた調で隨分雄大壯烈な意を述べてあります、又定家の子に爲家といふのがあります。爲家の妻に又阿佛尼といふがあります阿佛尼は有名な十六夜日記の作者で、今日まで國文の摸範として傳へられてあります。(此項未完)

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

英語實習

藤生貞子

英文和譯

程度を低くして呉れよとの、記者からの注文が有りましたから、前號の美人のお話は、暫く後に致しまして、今度からは、短かなお話で、興味のあるのを撰び、英文を和譯する練習と致します。

英文を和譯しますのに、かの直譯とか申しまして"彼女が左樣に言ひし事のそれが善くありし"などゝいふ日本語の語法も皆な破壞し、さりとて、英文の原意を解するにも極めて不便なる譯法は、決して宜しくないので、日本の學生が何年たつても、碌なく英文の讀めないのも、其原因はかゝる譯法によるからであります。近頃は稍々かゝる風が減じましたが、矢張り初學の人の間には教師も生徒も共に此點を顧みない人が多いやうですから、以下順次に掲げまするうちに、細かく注意して、正しき譯法を覺えられん事を希望致します。

THE MISER.　吝嗇な人

或る　吝嗇な人が　持て居ました　ひとつ　塊を　の　金　それを　其人は　埋めました
A miser had a lump of gold, wich he buried

中に　地　來まして　へ　その　所　毎　日　ため　を見る　それ
in (the) ground, coming to the spot every day to look-at it.

〔譯文〕 或る吝嗇な人が金の塊を一つ持て居ました、其人は其を地中に埋めました、それを見るため毎日その所へ來まして。

見て　一　日　のを　夫が　盜まれた　其人は　初めました　裂き　其
Finding one day that it was-stolen, he began-to tear his

髮の毛を　また　聲高く　泣き
hair, and loudly lament.

〔譯文〕 一日夫れが盜まれたのを見て、其人は其髮の毛を裂き、また聲高く泣き初めました。（"髮の毛を裂く"とは殘念に思へる樣なり）

ある　近所の者が　見て　其人を　申しました　どうか　なさる　な　悲み
A neighbour, seeing him, said, "Pray do not grieve

そんなに　埋めなさい　石を　中に　其　穴の　そして　（と）想ひなさい　夫を　だ
so. Bury a stone in the hole, and fancy it is

あの　金　それは　でしやう　用立つ　あなたに　丁度　同樣に　何故かなれば　時
the gold. It will serve you just as—well, for when

あの　金が　ありました　そこに　あなたは　用ひませなむだ　夫を
the gold was there you made-no-use-of it."

—ÆSOP'S FABLES.

〔譯文〕 或る近所の者が其人を見て申しました、どうかそむなに悲みなさるな。石を其穴の中に埋めなさい、そして夫を金だと想ひなさい。それは丁度同樣にあなたに用立つでしよう（金も石もかはりは有りますまい）何故かなれば、金がそこに在りました時、あなたはそれを用ひませなんだ（からです）。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

CONVERSATION.　會　話

英　文　和　譯

Oh, look at these pretty cherry blossoms!	オー此のきれいな櫻の花を御らんなさい、
Yes, they are so beautiful!	エー、マアーナンテきれいでしよふ、
The people are so crowded.	わまり人が込みますネー
Just look at that funny man!	チョットわのをかしな人を御らんなさい、
Why, he is a drunkard.	マーわの人はよつぱらいですわ、
It is a shame to see so many drunkards.	澤山のよつぱらいを見るのは恥かしい事ネー、
Now there cames our school mate Mizuno san.	はらそこへ學校のを友達の水野さんがいらつしやつてよ、
Oh, she is with her parent.	わら、御兩親と御一所ネー、
We will go and meet her.	いつて御目にかゝりましよふよ、

（英語にかなを付くるは至難の事なれば發音は實際に學ぶに非らざれば正しき音を發する事能はず）、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

會　話

和　文　英　譯

和文	英譯
松子さん私は櫻と云ふだいで英文をかきました、	Matsu-ko san, I have written an English composition.
どれ、チヨツト拜見な、	Just let me see it.
まちがいだらけですよ、	It is full of mistakes.
かまいませんよ、	Never mind about it.
日本にては櫻を花の王と云ふて皆このんで其れをうへ又花見に行くなり、花は甚だ美しけれど實は西洋の櫻の如く食するに宜しからず今は各地に於ける花盛りにて人々皆花の元に宴を設ふけてたのしむなり、	In Japan, we call cherry flowers a king of flowers. All like to plant them and go out to see their blossoms. Flowers are so beautiful to see, but their fruits are not so good to eat like foreign cherries. Now the flowers are all in full bloom and the people have feasts under the cherry trees and enjoy themselves.
まあ、大變よく出來ました事ネー	Why, it is so nicely written.
イヽヘよくかけませんわ、	Oh no, I can not write it well.

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

熟語用法練習

英語を學ぶに最も困難にして、而かも最も必要なるは熟語(idiomatic phrases)なり。會話にも、作文にも、又英文を讀むにも、之に通ずる事明かならざれば、到底何事をも爲す能はず。こゝに揭げむとするは讀本の第一第二ぐらいより、また日常の會話などにも極めて普通に用ひらるゝ平易なる者に就て、用例によつて其用法を讀者に知らしめんとするなり。順序は大抵 alphabet 順に從ふ可し。

ABOVE ALL

above all don't forget to bring your book.
「何よりも先づ第一に、」あなたの本を持てくる事を忘れぬやうになさい。
She bought books, pencils, *above all* a very beautiful painting.
あの方は本や、鉛筆や、「就中(なかんづく)」大變美しい畫をお買ひなさいました。
Above all＝先づ何よりも、殊に、中にも先づ第一。

ABOVE PRAISE

Her kindness is *above praise*.
あの方の親切は賞めるに、辭もありません。
Above praise＝讃辭の能く盡くす所にあらず。

AFTER ALL

I did not go to Yokohama *after all*.
私は「遂に」横濱へは行かずに「しまいました」。
They do not seem to like him, but *after all* he is a good boy.
皆さんは、あの人を好まれないやうですが、「それでも矢張り」あれは善い兒です。
After all＝それにも拘らず、つまり、結局。

ALL BUT

He is *all but* independent of his parents.
あの人は、「大かたもう」御兩親のお世話には成て居られません。
He has *all but* broken the box.
あの人は「おほかた」その箱を破itしてしまいました。
All but＝殆むど、おほかた。

ALL IN ALL

She and I are *all in all*.
あの方と私は「大の仲善しで」ございます。
I believe her *all in all*.
私は「全く」あの方を信じて居ます。
All in all＝(1)　最愛のもの、此上もなき、何よりのもの、
(2)　全く、どこまでも。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

發音の注意

AGAIN

「アゲン」(a-gen′) と讀む可し。普通「エゲイン」「エゲーン」など讀むは正しからず。Against の語も同じく注意して發音すべし。

BOW

名詞にて弓といふ意味の場合には「ボー」(bō) と發音すべし。「バウ」と發音するは誤。

PLEASE

の時には勿論「プリーズ」(pleze) と發音す可きなれとも、形容詞 pleasant, 名詞 pleasure の時は「プレザント」(plez′ant) プレジュア plezh′ur と發音すべし「プリージュア」などいふ者初學の人に多し。

OFTEN

西洋人にして此語を「オフテン」と讀む人しばゝゝあれど、やはり of′n と發音するを正しとす。

HORIZON

は Ho-ri′-zon にして「ホライゾン」とよむ。「ホリゾン」は誤りなり。

CONDUCT

此語名詞の時は强音 (accent) は第一の綴り (syllable) にあり、Kon′-dukt と發音す。働詞の時は第二の綴りに强音を置きて Kon-dukt′ とよむ。英語には同一の語にして、accent の位置によりて、名詞、形容詞となり、又働詞となる語甚だ多し。一般の規則を言へば "形容詞又は名詞のときは accent は初めの syllable にあり、働詞たる場合には、accent は後の syllable にあり"、常に此點に注意すべし。August の語も aw′-gust と發音せば八月の意なり、aw-gust′ とよめば、威ある、高貴なる、などの形容詞にして意味全く異る。

GARDEN

「ガーデン」など發音すべからず、gardun なり。

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



小説



紅寶石

巖谷小波
高階柳蔭 合譯

その一

こゝに、獨乙の國はベルリンの都に、羽仁と云ふ老元帥が居りました。此元帥は、立派な身分でありながら、實に不幸な人でありました。妻には早く死にわかれ、二人の男子もさき立てゝ、さて又可愛い一人娘の笑子は、行末賴もしき、和良井秋麿といふ、結髪の夫があるにも係らず、これも元帥を此世に殘して、母のあとを追ひました。

いくら、多くの人に尊ばれる名譽の元帥でも、かう悲しい事ばかりつゞいては、もはや都にゐるのも、何となく面白くなくなつて、一先、自分の領地の、ハインブルヒへ歸つて參りました。

さて、其領地には、自分の城がチャンとあるのです。元帥はこゝへ入つて、まづ、これからは田舍暮し、心靜かに、風月を樂まう、と、領民の中に交つて、平和な月日をおくつて居りました。

たとへ、この樣に、山間僻地に隱れたといつても、何がさて、勇名かくれなき元帥の事ですから、わざ／＼

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

郷から尋ね來る人もあるし、又近邊の紳士たちが盛んに訪問いたします。元帥も根が客好、交際好で、至極客をよく接待するものですから、元帥の城内は、いつも賑やかであります。殊に、春秋の獵期になりますと、此城の後の山々で、獸や鳥が多く取れるものですから、それをかこつけに、元帥の城を訪ふ人が引きも切らず、隨分澤山の泊客があります。

こゝに、此元帥の甥に、脇坂朝彥といふ、一人の陸軍中尉がありました。元帥は、妻子を先だて、誰れ一人として、身寄のものがないのですから、此朝彥をわが子の樣に、可愛がつて居りますから、朝彥も亦、元帥を、父の樣に慕つて、暇さへあれば、ハインプルヒ城を訪うて、叔父甥共に卓を圍んで語るのを、此上なき樂しみにして居ります。

さて、ある日、朝彥は、例に依つて、元帥と食卓を共にして、四方八方の話しにふけつてをりますと、其處へ、傳令騎兵が會ひに來たといふので、朝彥は行つて會つて見ると、これは戰がおこつたといふ報知なのです。朝彥は驚いて、この事を元帥に話すと、

「それは、面白い。おれも、行かう」

といふので、こゝで、元帥も出かける事になりました。

處が、此羽仁家には、先祖より傳つてゐる立派な寶石があるのです。その寶石といふのは、實に各國の帝王でも、中々それほどの者は、持つてゐられる方がないといふ位で、これはこの羽仁家が、元帥として有名なると共に、實に隣國にもかくれなき有名なる寶であるのです。

今、出陣にのぞみ、元帥は、ふと此事を思ひ出しまして、どうも、その寶石をそのまゝにして出かけるも氣がゝりだといふので、そこで、この羽仁家に久しく出入る老獵師で、古谷と云ふ者を召しよせて、朝彥と共に、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

この寶石を領内の森の岩の下へ隠しておく樣に命令ました。
古谷は畏つて、早速その御用を勤ましたので、元帥は、
「まづ安心だ」と朝彦とうちつれて、都をさして出て行きました。
朝彦は、都へ着くと、何かと支度がゐるといふので、二三日はあちこちと、奔走して居りましたが、いよいよその聯隊を出發するといふので、元帥にわかれて戰地へおもむきました。
あとには一人羽仁元帥、これは急いで戰地へ赴くといふわけでもなし。たゞ日々の戰況を聞いて、訪問の人に接するばかりで、其日々々をおくつて居ましたが、何だか、心にかゝるは、領地の森の岩の中に、かくしておいた寶石の箱の事です。
そこで、元帥は、手紙を國元の古谷のもとへやつて、いそぎ、かの寶石の箱を持ち來れと申しおくりました。
元帥の手紙を見るより古谷は、早速、かの森の岩の中から、箱をとり出し、自から守護して、これを都に居る、元帥のもとへ持つて來ました。
まづ／＼これを取り寄せておけば安心と、元帥は、古谷をねぎらつて、その骨折をほめました。そこで古谷は、元帥に暇をつげて、ふたゝび國元へかへりました。
元帥は、その後二三日は何處へも出ず、たゞ日曜にはお寺へ行く位の事で、戰地へ行くでもなく、日をおくつてをりますと、丁度自分の誕生日になつて來ました。
そこで元帥は、知己朋友を呼んで、宴を張らねばならぬ事になりました。もとより此勇敢なる老元帥の誕生日には、その知人も、これに列するのを名譽と思つてをります。案内狀は四方へ出される。人々は、其日を待

Digitized by Google

Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ちに待つて、さて當日になると、元帥は、今日は、わが身の祝ひであるから、元帥の大禮服を着よう、といふので、そこで、立派に、大禮服を着かざり、かねて陛下より頂いたる勳章に、かの寶石をはめてあるのを佩用しようと、箱をあけさせ、勳章を取出し、ヒヨイと見ると、驚いた。

驚いたも道理で、かの勳章にはめてある、何より大切なる寶石が變つてゐる。

「こりや、どうしたのか、おれの眼の迷ひか」と幾度見なほしても、まつかな贋物。

さすがの元帥も實に呆れました、わが家は一つは、武勳により、一つはその寶石によつて、天下に知られて居るのに、今此寶石を失つたら、實に羽仁家の信用にも關する事だ、と種々心を苦しめたが、今さら何としようがありません。

詮方なく元帥は、その宴會の場だけは、能いかげんに切りわけて、さて、今日の上客たる、和良井伯にこの事を話しました。この和良井伯爵は、前にもいつた元帥の一人娘、笑子の結髪であつた、和良井秋麿の父親です。

元帥のはなしを聞いて、和良井伯も、大に驚きましたが、何とせん樣もありません、そこで伯爵は、

「私も、その寶石については、力の及ぶかぎり探すから、まあ、あまり御心配なさらぬ樣に」と元帥をなぐさめてそのまゝ伯は、カルスバードといふ温泉場へ行きました。

その二

さて、和良井伯は、羽仁元帥にわかれて、カルスバードの温泉場へ參り、湯治をしてをりました。

温泉場は何處の國でも、夜は極めて賑やかなもので、殊に、夕食の時などは、旅客いづれも笑ひさゞめい

Digitized by Google

Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

て、夜ふくるまで、語りあふのを樂しみにして居ります。和良井伯も、たゞ一人で、別に言敵とてはありませんから、それ、これの人々に交をもとめて、互に心やすく往來をしてをりましたが、ある日の夕方、食堂で、食事を終り、カッフエーをすゝつてをると、つい眼の前に、可愛らしい一人の令孃を見かけました。

ふさ〳〵としたカナ色の髪、星の樣な眼、それは〳〵氣高い娘です。和良井伯も、たゞ何となく。

「あゝ、どうも氣高い、可愛い娘だ」

と思つて、ツイ話しをして見たくなりましたが、向ふは、だんまりで、別に話しをする機會がありません。その中に、皆々食事を終り、種々雜談にうつりましたから、伯は、令孃に向つて、

「あなたは、いつごろから、御湯治においでゝす」と問ふと、かの令孃は、おとなしやかな調子で、

「ハイ、二三日前から、參つて居ります」

「あ、さうですか。何處か、御病氣でゝもおありなさるんですか」

「イエ。別に、何處も、わるい事は、御座いませんですが」

「さうですか、それは、結構です」といひながら、ふとその娘の左の手を見ると、一つの立派な寶石入の指輪をはめてゐる。何心なく伯は、其指輪を見つめて、心の中で、どうも、見おぼえのある指輪だ。と何だか、不思議にたえぬので、尙もつく〴〵見てゐると、いくら考へても、たしかにおぼえのある指輪であるのです。

そこで伯は、そのまゝにしておくも、いかにも心にすまぬので、言ひにくさうに、

「令孃、甚だ失禮なことをお願ひ申す樣だが、あなたのはめて御座る、指輪を一寸拜見する事は出來ませんか」

といふと、令孃は、何げなく、

「ハア、どうか、御覽なすつて下さい」と指輪をぬいて、これを伯にさし出しました。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

伯は手にとり、つく〴〵見ると、その指輪には、ＡＷの二字が刻まれてゐる、伯は大に驚いた。

驚いたのは尤です、この指輪は、自分の息子の和良井秋麿から、かの羽仁元帥の一人娘の笑子嬢に送つたもので、即ち、これが、許嫁のしるしなのだ。だから、其頭字を取つて、ＡＷの二字を刻してやつたので、その後笑子は死くなつて了つたから、この指輪は、たしかに、羽仁元帥の手元に殘つてをるべきもの、その殘つてをらねばならぬこの指輪が、はからずもこの美しき令嬢の指にはめられてゐるとは、はてこれは、どうしたものか、とさすがの伯も、種々考へに沈みました。

伯は又心の中で、ハヽア。元帥の紛失した寶石、あの寶石と共に此指輪もしまつてあつたに相違あるまい。されば、この指輪の出處をさぐれば、必らず、かの寶石の在處も知れるに相違ない、見るからが、美しい、無邪氣なる此令嬢、此人には別に疑ふべき事もあるまいが、兎にかく何處から買つたのか、調べて見やう、と思ひまして、

「令嬢、失禮なことをおたづね申すが、此指輪は、何處からお求めになりました」と聞くと、令嬢は、

「イエ、それは、求めたのでは御座いません」伯はます〳〵不思議に思つて、

「ハヽア、お求めになつたのではない……それでは、甚立入つてお尋ね申して、失禮ぢやが、どなたからの進物ですか」

令嬢は、美しき顔を、少しくあからめて、

「ハイ」

「さうですか、それでは、誰れから、御もらひなされたのですか、どうも、かういふ事をお聞き申すは、實に失禮ぢやが、少し私が都合によつて伺つておきたいのぢやが……」

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

令嬢は 益々顔をあからめて、
「ハイ、あの、それは、私の許嫁の夫から、もらひましたので」
「エ、あなたの許嫁の……」
「ハイ、ライプチヒの商人の息子の脇田朝次郎からもらひうけました」とキッパリ言ひはなちました。伯は、
「何とおつしやる。脇田朝次郎、ハハア、さうですか、如何さま、AWですな」と云ひは云つたが、わが子と其頭字が同じ事なので、何だか、烟にまかれて了ひました。
ふと氣がついて、
「や、これは、つまらぬ事を伺ひまして、失禮しました。どうか御ゆるし下さい。指輪は御返し申します」と手渡しすると、令嬢は、會釋して、
「どういたしまして」とそのまゝ受取つて、又指にはめました。
伯の心はいろ〳〵に迷ひました。しかし決極は、その脇田朝次郎なるものを探つたら、定めし元帥の寶石の手がゝりがつくであらうと思ひながら、ヒヨイと其令嬢の傍を見ると、品の善い、老夫人がをります。これは、始終、其令嬢と話しをしてゐる様子を見ると、どうも、其連らしいので、この人の素姓を聞いておかうと伯は、そのまゝ立上つて、
「どうも、失禮を」と挨拶そこ〳〵、食堂を出て、さて、かねて、往來して居る旅館中の知人に、かの老夫人は何者である、と聞きますと、知人の云ふ事には、
「あれは、百合谷大佐の未亡人で、實に有名な慈善家である」といふ事です。そこで伯は、ます〳〵分らなくなつて、此上は、まづこのよしを元帥の方へ云つてやり、元帥の手から、探らせる外、仕方がないと思ひまし

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

た。

そこで、この出來事を委敷手紙にしたゝめて、一日も早く、かの、脇田朝次郎と云ふものをお探しになつて、かの寶石の在處をつきとめるのが肝心です。といひおくりました。

寶石を失つてから、とかく心配がちなかの元帥は、友人和良井伯の久しぶりの書狀に接して、何事だらうと開いて見ると、かの寶石に關して、一の新事件がしたゝめてあります。元帥は之を見るより、

「コリヤ、能い手がゝりが出來た。何でも早く、そのライプチヒの脇田朝次郎なるものをさがさねばならぬ」

といふので、これから、出入のもの二三人にいひつけて、ライプチヒへ探偵にやりました。

もはや、返事が、來るか來るかと、待ちかまへたる元帥のもとへ、一人のものが歸つて來ましたから、元帥はすぐに呼び入れて、

「さて、御苦勞だつた。先方は、どんな奴かと」言急しく聞きますと、かの使のものは、氣の毒なといふ樣な顔をして、

「ライプチヒの町中を殆んと探し廻りましたが、どうしても、脇田朝次郎なんていふ名の商人はありませんです」といひます。元帥がつかり失望して、

「さうか、それは、是非がない」と云つてゐる處へ、又もあとの二人が歸つて來ましたから、

今度はどうだ、と元帥は、

「どうぢやつた。探しあてたか」と問ふと、これも同じく、

「どうも、そんな名の人はありません」といふのです。さあ、元帥もはや、とりつく島もなく、そこで、かの地の警察へ賴んで、調べて見ると、かいくれ、知れません。これは、テッキリ其女があやしい。よしや、其女

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

は何等の犯罪がないにしても、この上は、詮方なく、之を訴へて、まづ其女を調べ上げねばならぬ、とかう決心しまして、とう〳〵元帥は、土地の警察へ、かの寶石の紛失の一件から、こんと和良井伯からの申こしを、一々審に申しいで、偏に盡力を頼む、と訴へいでました。

お話しかはつて、かのカルスバード温泉場にゐた、百合谷大佐未亡人と、かの令孃とは、温泉場を引き拂つて、家へ歸り一二月すぎてゐる日の事、表より、一人の警官が這入つて來て、未亡人に面會を求めました。未亡人は何事だらう、とこれを應接室へ通すと、警官は一揖して、

「あなたが、百合谷未亡人でいらつしやいますか、私は、當地の警官で」と名刺を出しまして、

「さて、今日は、甚だお氣の毒な事で參つたのですが、あなたのお宅に、古井大尉の遺子が居られるといふことですが、眞實ですか」との問ひに夫人は、

「ハ、居ります」

「さうか。それでは、これを」と一枚の拘引狀を示しました。

驚いたのは未亡人で、

「あれが、な、なぜ、拘引されるんです」

「ハイ、少し嫌疑の筋がありまして、すぐ拘引いたしますから」と、事、あまりに、突然なので、未亡人は、

「一体どうしたといふのでせう。あの子は決して警察の門をくゞるなんといふ樣な、いまはしい事をする娘では、御座いませんが」「イヤ。私は、御辯解を聞く役目ではありません、たゞ拘引をするのみの命令で參つたのです」と聞いて夫人は、決然として、

「さうですか。それでは、私も、あの子と一所に警察へ參りませう」とさすがは、軍人の未亡人だけあつて、

Digitized by Google

Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

もはや、心をすゑたのです。

そこで、かの令嬢を呼び出し、夫人は、

『そなたは、これから、警察へ行かねばなりません』といふと、令嬢は、ハッと驚いて、ぶる〳〵ふるへて、見る〳〵顔の色が真青になりました。未亡人は不思議に思つて、

『そなたは、決しておそれるには及びません。そなたが神様に申しわけのないことをしないかぎりは、警察も、裁判所も、少しも、おそろしい事はありませんよ』

『ハイ』と令嬢は、ヲド〳〵しながら、ものもいへずに居りますと、未亡人は自分も支度をし、令嬢にも支度をさせて、

『それでは、お供を致しませう』と警官を促しうちつれて、警察署へ参りました。

その三

土地の警察へ引かれて行つた令娘は、親切な百合谷未亡人がついて行つて呉れるので、幾分かは、心丈夫であるが、さて、いかめしき警部の前に出た時は、さすがは女氣の、自から、身内がふるへるのでありました。

警部は一咳して、

『令嬢、今日は、あなたを一つの事件の嫌疑者として、お取調べをしますから、左様御心得なさい。』といはれて、たゞ、

『ハイ』と云つたばかり。更に警部は、

『あなたは、此場に於て、決して偽りの申したてをしないといふ事を、お盟ひなさい』と云はれた時は、令娘

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

の顏は、死人の如く眞靑になりました。
「早く、お盟ひなさい」
「ハイ、私は、私は、決して、決して、僞を申しませんことを、神に盟ひます」
「それでよろしい。そこで、あなたに御尋ね申すが、貴孃は、古井大尉の遺子といふことですが、しかと、左樣ですか」
「ハ、ハイ」
「さうですか。貴孃はたしかに、さうに違ひありませんか。警察署では、既に充分に探偵が行き屆いて居りますよ」
警部の力がはひつた最後の一言には、令孃は、たゞ俯目になつて、何とも返事をしない。
「どうです。古井大尉は、近き過去に於て、どこに居られたです。おそらく、それは假定の名でせう。あなたは、僞名をしてゐるのでせう。どうです。」
令孃は、今まで眞靑であつた顏を、更に眞赤にして、何の返事もしません。
警部は聲を勵まして、
「あなたは、神に盟つたことを忘れてはいけませんよ。あなたはこゝで本名をうちあけないと、大變な不利益ですよ」
令孃は、決然と顏をあげて、
「ハイ、申しあげます」
「早く、おつしやるが能い」

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

「私は、實に、相すまぬ事で、百合谷夫人を欺きました。古井大尉の子といふ事は、全く僞で御座います」と言尻はきこえぬまでに小さかつたが、警部は、さてこそといはぬばかりに、しかし、傍にゐた、夫人は、や丶、驚きの色をあらはしました。警部は更に、

「よろしい、それでは、貴孃の本名は？」

「ハイ、古谷町と申します」

「御家族はありますか」

「御座いません」

「御兩親には、何年頃前に、おわかれになつたのです？」

「ハイ、母はヅット以前に亡くなりましたが、父はつい近ごろ亡くなつたので御座います」

「さうですか、貴孃の父御は、何といふ御名前でした」

「ハイ、古谷良三と申しました」

「それで、あなたは、何故、其名を僞つたのですか」

「ハイ、私は、此夫人の前で、申しわげるに忍びませんが、是非が御座いませんから、御尋ねによつて申し上げます。私の父が亡くなりましてのち、私はさる仔細あつて、ある老人に預けられて居りましたが、その老人は、かねて、此夫人の御慈悲ぶかいといふ事を聞いて居りまして、如何かして、私を、此御夫人に預けたいと、段々聞き合せますと、夫人は、軍人の遺子とあれば、殊さらおやさしく御世話をして下さるといふ事でしたから、それでは、甚、異なことではあるが、古井大尉といふ名をこしらへ、その遺子であると申して、此夫人の御世話になる事になつたので御座います」と、こ丶までいふと、町子孃の顏色は、平穩に復して來ました。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

警部は、委細きゝ終つて、
「それでは、その僞名の原因は、たしかに承知いたしたが、さて貴孃の、その指にさして御座る寶石入の指輪は、如何したのですか」
「ハ、ハイ、此指輪は」と又ドギマギする、警部は、おさへつけるやうに、
「貴孃、此事は、心をおちつけて、御返事をなさらぬと、貴孃は、名譽に關係しますぞ」
「ハ、ハイ」
「どうしたのですか」
町子は顔を眞赤にして。
「これは、私の許嫁の夫から、結婚の約束をいたしました時に、貰つたので御座います」
警部は、皮肉な笑をうかべて、
「さうですか、その、貴孃の、許嫁の夫といふのは、何といふ方です」
「ハイ、それは、ライプチヒの商人の子で、脇田朝次郎と申す人で御座います」
「何と仰る。脇田………朝次郎。しかと、左樣ですか」
「ハイ。それに相違は御座いません。この文字を御覽下さい」と指輪をぬいて、警部の前にさし出しますと、
警部は、手にとりあげて、ツクヅク見ました、如何樣、其頭字、A.W.の二字が、彫つてあるので、
「いかにも、貴孃の指輪には、A.M.の二字が彫つてはあるが、しかし、脇田朝次郎と云ふのは、あなたの古井大尉の道子であるといふのと同じ事で、矢張、これも僞名でせう」
町子孃は、打消すやうに、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

「決して、決して、そんな事は御座いません、ライプチヒの商人の……」
「イヤ、それは今聞いた。しかし、脇田朝次郎と云ふのは、たしかに僞名に相違ない。本署では、既にライプチヒを殘らず詮索した處が、そんな名の者はないです、もしも、貴孃が、全くしらないとならば、それは、貴孃が、其男に欺されたのですよ」
「ハ、さうで御座いませうか」
「さうです。しかし、御氣の毒ながら、あなたは、其指輪を所持せらるゝからは、とにかく嫌疑者として、獄へ投せねばならん」
「エッ」
町子はよろ〳〵と倒れかゝつて、漸くたち留つたが、身体はがた〳〵とふるへて、顔の色を失ひました。百合谷未亡人は、手を附けやうもなく、町子の腕をしつかりと捕へて、
「町子さん。しつかりなさい。貴孃の性質は、私がよく知つてをります、貴孃が、惡い事をなされるお方でないといふ事は、私はよく信じてをります。あなたが、私に、お名前をおかくしなされた位は、私は、なんとも思つてはをりません」といひながら、警部に向つて、
「何故、この娘が、そんな不名譽な苦しみを受けるんで御座いますか、私には、少しも其理由を認めません。私に名を僞つた位は、私が免せば、宜しいぢや御座いませんか」といさゝか怒氣を帶びていひますと、警部は
「あなたの御心は、充分に小官も了解いたしました。貴女は、立派な美くしい心を持つて御出なさるゝお方といふ事は、人の噂にも聞いてをります。しかし、町子孃の嫌疑は、たとへ貴女が、如何程の御辯解があつても、これを免すといふわけには參りません」

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

夫人は、

「な、何故で、御座います」

警部は、嚴然として、

「それは、いはずと知れた事です。町子孃が僞名の一件は、それは、本官に對して、僞つたのでなく、たゞ周圍の社會に向つて、僞つたのであるから、これは別問題として、第一、此疑の解けない、即ち町子孃をして、其明白なる證人の現はれるまで、不名譽なる生活をなさしめねばならぬのは、即ちこの指輪です。此指輪は、今日大切なたづね物になつて居る、ある事件に連關したもので、此指輪の持主は、即ち其事件に、大關係を持つてゐるものです。處が孃は、此指輪を、人から貰つたと云はれる。誰から、貰つたと問へば、脇田朝次郎といふ商人の子から貰つたといはれる。それで、その脇田朝次郎なる人は、ライプチヒに居るかといへば、それは決して居ないので、又溯つて、過去に於ても、そんな人はなかつたのです。さうすれば、よしや、町子孃の身には、此指輪に關連したことで、何等の罪がないとして、まづ、此指輪を町子孃に與へたものが、出て來ない以上は、法律上、町子娘を、嫌疑者として、監禁しておかねばならぬではありませんか」

警部の言は、一々道理があるので、今は――百合谷未亡人も、何とも、いひ樣がありません。

町子孃は、心の中みだれ〲て、殆んと正氣を失はんばかりです。自分が此不名譽なる、宣告をうけるより、まだ其上の苦しみは、この愛の籠つた指輪の持主が、ライプチヒに居ないばかりでなく、其人は如何なる人であるか分らないのです。あゝ、美しき此指輪は、遂にわが身を生きながら葬るのかと、町子はたゞボーッとしてゐると、夫人は、いかにも悲しさうな聲で、警部に向ひ、

「仰の趣一々承りました。法に向つては、何とも申しあげる言もございません。しかし、前刻私を御信

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

用くださるといふ御一言を承りましたが、もしも私を御信用下さるなら、どうか、町子を私におあづけ下さるわけには參りませんか」と言はれたので警部は、

「それはいけません。貴女を信ずるは、これ私一個人の考です。法のおもては、そんな事を許しません。しかし私は、貴女に對し、又町子孃に對して、充分の禮を以て、取扱ひませう。町子孃は、今日から、此市の會議處の二階に監禁する事に致しませう」

夫人は、いかにも嬉しさうに、

「あなたの御厚意は一生忘れません。孃の名譽も、その爲めに失ひません」と言はれて町子も、

「ありがたう存じます」

警部は、いかにも心ありげに、二女を見て、

「たゞ神をお信じなさい。清きものは、どこまでも淸くなければなりません」

二女は、さめ〴〵と泣きました。

慈悲ある警部の計らひによつて、町子は獄に下る事は免されました。しかし、とにかく幽閉される事となつて、市會議場の二階の一室へ監禁されました。

恵みの牢！、此うら若き町子孃は、朝夕語るに友なき此一室に、いつまで閉されてゐるのでせうか。

あゝ、それはかくの如き、悲しき運命の下に死ぬのであるか、わが夫は盜人であるか。その盜人に欺かれて、われは、汚名を負うて死ぬのであるか。と町子は泣き倒れましたが、イヤ〳〵私が悪かつた。私の信念が足らなかつた。決して、決して、此指輪の主は、此指輪の如ゝ、美しき心を持つて居る、神の信者である、一端なりとも疑ふのは、わたしの心が汚れてゐるのだ。とかう考へ直すと、たゞ神を祈るの外はないと心付きました。

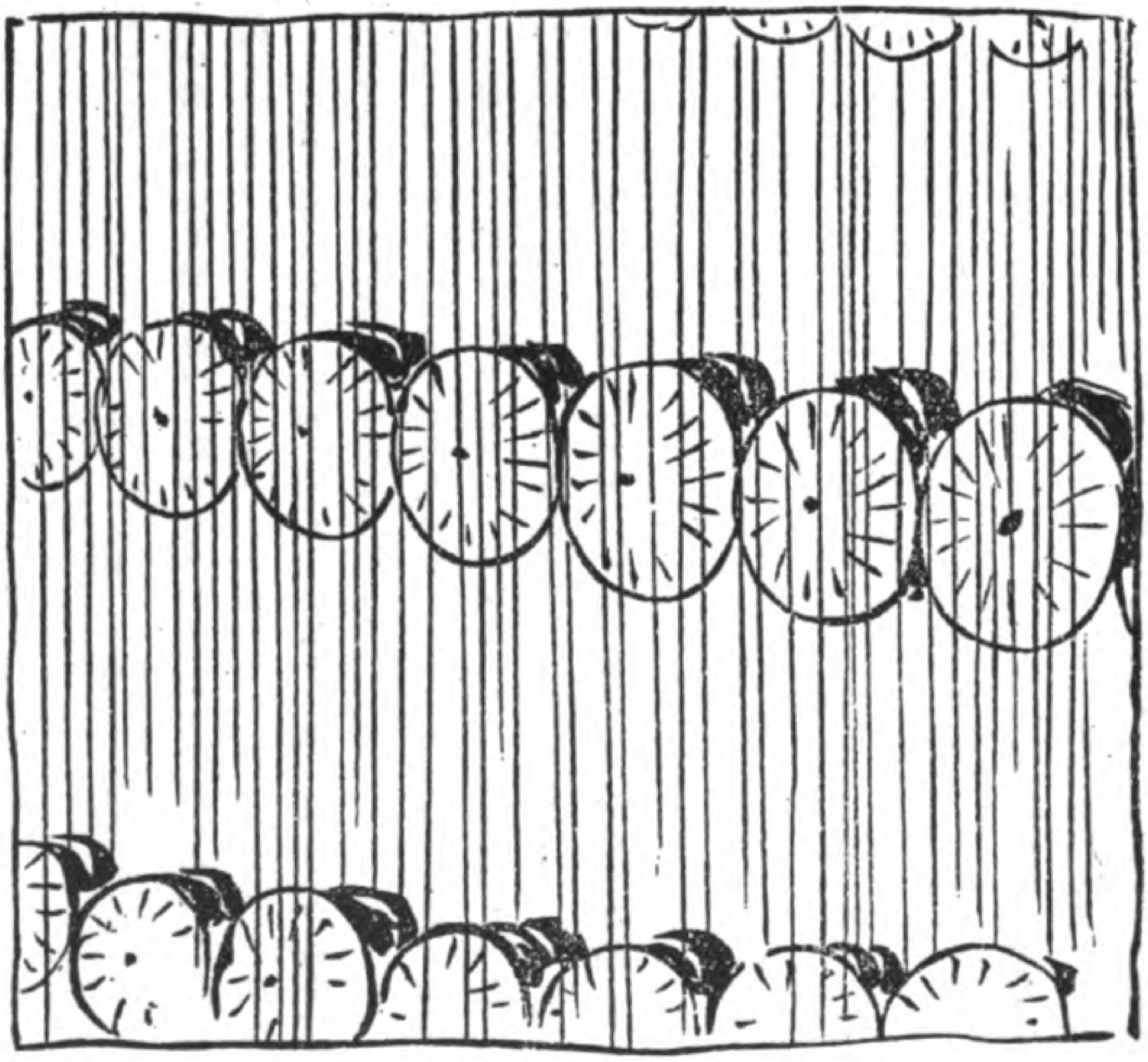
Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

神よっ神よ・助けたまへ。たゞこれが町子の命であるのです。

祈禱、信仰は發狂せしめずに、町子娘を無事に守りました。町子の心は、日に〳〵神に近づいて、淋しき幽閉の中に、慰安を見いだしたのです。（次號完結）

圖案中形もよう五月雨の意





同早乙女の意　（中村鈴子意匠）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

温海の凉風

武島となこ

越後の界盡きて、やう〳〵羽前の國に入らむとするところ峙したゝる山の麓、奇岩亂磯の海中に點在せるあり。こゝに天女の祠をまつる。白波のくだくる様、雪を散らし、玉をみだすがごとし。こゝを念珠が關といふ。

これより行くこと二里、山を右に海を左に見つゝ、濱温海に入る。こゝより道を右にとりて山間をゆくこと二十丁餘、溪流の音清き徑路をたどりて、やう〳〵山懐に入れば人家百戸ばかり、多くは温泉宿を業とす。こゝなむ湯温海の里なりける。

傳へいふ。むかし鶴ありて、山上よりこの村に通ふ事二十一日なりければ、人あやしみて其あとを見るに、果して出湯あり。よりて其山上の松を鶴とまりの松といひ、其湯を鶴の湯といふ。この湯今なほあり。鶴其足の創をいやさむとて、其湯をあみけるなりけり。さて、これより地下を掘るにことごとく湯の出でざるはなかりけるがこれ此温泉のはじめなりとぞ。この温泉の色は、微濁にしてすこしの、鹹味あり。湯に近づく時は、硫化水素の臭氣あり。打撲、捻挫、創傷などにしるしあること最も妙なりといふ。貧血症のもの、胃腸よわきものなど、大に効驗あり。其他逗留する諸症七十有餘もありといふ。

或日鶴の湯を見てよめる

　　おしたつのおり立ちにけむ湯なればかあみつゝ人のよはひのぶらん

嚝々たる温海峠。雲は常にその頂をめぐり、連峰は屏風の如くその前後左右に立ちたり。湯上りの袖に涼風輕き朝夕こそ此日頃、來遊せる我が家族の起ふしなれ。

　　都にてこひしかりける山水をわかものがほに樂すころかな

我が宿りを朝日やといふ。向ひ側なる越後屋と並びて最も繁昌を極む。こゝらの人々皆淳朴にして、よく客を待つこと都に近きあたりのたぐひにあらず。都より一度來り遊ぶ者、此のころの人の質朴にして深切なるを愛し、また此土地の濱に近くして鮮魚を得るにたよりよきをよろこばざる者なし。此地實に新潟市を去る事三十里なり。このわたり、井戸といふものなく、飲むも、使ふも、ことごとく清水なり。清水は實に縱横に流るゝなり。

一夜雨蕭條として夢もむすばれざるに、起きいでゝ見れば、澄みわたる月は天心にかゝれり。さては雨ときゝしは清水の流るゝ音なりけり。つとめてよめる。

　　朝戸あけて見る星影に夜のまのあめをいつみのおとゝしるかな

Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

實に朝夕の心地よき

　　よにいてむ心そあらぬ山ふかきいほの清水を打むすひては

しのゝめのやう／＼しらみそむる頃より、外の方に人々の、のゝしる聲々どもきこゑて、いとにぎはしきは、朝市のたつなり。よきものかはむとて、土地の人も浴する人も、いとはやうより各々籠を持ちていづ。客は己が好むものを求めて、料理のみ宿屋にゆだぬるもの多し。

　　ひなに來ればたものかふと籠ふをもちて都をとめもいちにいでけり

夕べ近くなれど、里はづれの方に魚市立つ。くさ／＼の魚あるが中に最も多きは鯛類なり。いづれも鮮にして美に、時に籠中に潑溂たるあり、荒濱にをどりし、北海の魚の味はまたたぐひなし。温海川にさばしる鮎はた上品にしていとうまし。この温海川こそ道すがらすぎ來し山峽の清き流にはありけれ。石にせかれ、白波をあげて、さら／＼流るゝ音をきけば、夏もわすれてなむ。

　　さら／＼と涌くながれてあつみ川いつこに夏をはこふなるらむ

　　霧かゝけいさ下りたゝむ温海川きよきながれにあゆこさはしる

我等が朝夕打向ふ山に紅葉が岡といふがあり。上りて見るに、未だ夏の事なれば、もみぢは名のみにして木々は、みどりしたゝらむばかりなり。

　　しくれせぬ紅葉か岡も夕日かけさすかにそむる秋の色かな

萩の花いと多くにほへば

　　これをこそつとにはなさめもみち岡たひのころもににほうはきはら

我宿より五町はかりのところ、大清水といふがあり。つたるへまつはりて、いと神々しき大杉の根本より湧き出づるなり。其清く冷かにして甘き事はたぐひなし。浴客のこを慕ひてゆくもの引きもきらず。

　　いはゝしるこの大清水ことならは故郷人のつとにせましき

こゝにそば打つ家あり。あつみそばとぞいふ。大清水にさらせし味、都人のしるへくもあらず。またこゝのたかどのに涼む時は、いかにたへがたき暑き日も、涼風に午睡の夢もこゝちよし。

大清水より歸る途中、田の細道を横に行けば、長福寺といふ寺あり。樹木蒼鬱として、あたりものさびしく、蟬のなく音もなき魂をとうらふかとあはれなり。此寺に孝子度玉の木像あり。また門前にはその碑あり。此地に來り遊ぶもの、此寺に來るは多くこを訪はんが爲なり。ことながれどいさゝかにこゝに孝子度玉の事蹟をのべむ。

そもこの孝子度玉といふは、羽前國田川郡の早田村なる、赤貧洗ふが如ぎ家に生れ、しかも教育さへなきに、天性至孝にして、いかなる

Digitized by Google

Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

事も父母の命にそむきし事なし。さるを不幸には、そが十八才の時盲目となれるこそいとかなしけれ。これもし常の人ならむには、そもいかにかすらむ。不幸なる孝子は、この不自由なる大厄難をものともせず、常に雙杖にすがりて孝養をつくしけり。兩親の老いてかつ病むにいたるや、夏は山に入りて薪を取り、冬は家にありて縄を綯ひ、からくも其日を送りて父母の介抱をしぬ。

父平生酒をたしみければ、自らの得たる錢を一錢たりともみだりに費す事なく、酒を購ひて來るを、こよなき樂みとはなしぬ。

或時其小鯛をのぞみけるが折しも寒中にて雪さへ、降りしきるに漁舟いでず、近村までくまなく尋ねけれど、一尾だにあらじりけり。こゝに慶玉は早村田より三里半をへだてて道いとけはしき越後國槃量村といふところまでゆきて、漸くにして一尾を得たり。孝子のよろこびたとふるにものなく、雪中をものともせず、いそぎ、家に歸りて藁苞を解きけるに、いかにしけむ、小鯛の影なし。さては*



*道にてとり落しゝかと大に驚き、更にもと來し道にひきかへして、手探りしつゝ行く事一里ばかりにして拾ひ得て、これを父にすゝめたりとぞ。氷に伏して鯉を得けむ古事さへ思ひいだされて、いとあはれなる事になむ。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

またひとゝせ十一月の頃といふに母鮑をのぞみけり。されど鮑なくて、えもとめざりければ、家の前面なる岩に伴ひゆきかれて幼き頃游泳の術を習ひ得たりければ、直に衣をぬぎて海中にとび入り、やうくにして鮑を得て上らんとするに、何物にかあらむ。亭子の上より



おほしかゝりて、其咽喉をしめむとす。度玉大に驚きてしばしあらそひしが、折よくも、そのあたりの漁夫来り助くるにあひぬ。さて此怪物は一丈餘もありける章魚なりけり。此時人々度玉の孝心に感し、錢をあつめて章魚をかひとり、度玉は鮑と錢とを得て、喜びて家に歸れりとなむ。かくて父母の身を終るまで孝養を怠らぬ事一日の如とし。

あゝ孝なるかな盲目の君、我其碑を見て心を動す事甚し。

なか〱にめしひし君はよの人の道をさやかにあゆみけるかな

盲目なる君がこゝろにうつれるはみちしまことの光なりけり

終日心身の勞をもてつくれる金をもて遊學せる青年男女の、其學は思ふ方にならずして、親の心をいたむるものなど、實にこの教育なき

Digitized by Google

Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

當目なる擧手にはぢざらめやは。

巳また或時父母君と、此邊村平清水といふに遊しぬ。此處は、ささの大清水を過ぎてゆくこと一丁ばかり、山に上りゆく道なり。しばし上りゆく程に、ふひご賣ひし嫗にあひぬ。平清水といふは、いづ方にゆきてよきにかと問ふに、嫗がいひけるは、そは、さる清水あるにあらず、これよりしばし上りゆく村の名なりといふに、教へられしがごとく、大きなる道をたどりてゆく程に、山の中腹に家あり。二十戸ばかりもあらむか。すべてこのわたり清水の流るゝこと村の名にたがはずして、尋ね來る人もなき山道の、いとものしづかなるに、水の流るゝ音のみきこゆる、涼しさは心の中さへ洗はるゝがごとし。この村のつきんとするところ、いにし年までは、そば打ちし家にて、庭などありときけばゆきぬ。

入るに、まづ時の草花を植ゑたるが、今を盛りに匂ひたるもうれしう、家の内には人の居るべきけはひもなく、林の中なる、しゞうからの、はじめて訪へる我等に驚ける樣にも、人目なき程はしられたり。牛小屋を見れば、牛はいれて、よろづ心のどかなる山すみの樣なり。裏の方にゆくに泉水あり。田舍めきたるものから、庭などまる方におもしろうつくりなしたり。自然の山をおのづからの庭にかこひたるはいかに富める人も都などにては、とてもこの中にも及ばじものをと思はれたり。

こゝよりまた上る事半丁ばかりにして、縱横にながるゝ清水あり。小石など一つ／＼すきとほりて、其すゞしげなることいはむ方なく、巳がしきりに掬ぶを見給ひて、かわきたるかとおほせ給ふに答へまつる。

　見てのみは歸るべしともおもほへすむすへは胸もすゝしかりけり

こゝより上は道もなき木深き山なれば上るもせんなからんとて、もと來し道に歸りぬ。大清水のほとりに來てしばしいかふ。常に水たしみ給はぬ父君さへに、此清水のみは舌打してほめ給ふ。まして年若き吾等はたゞにすぐべしやは。かはる／＼立ちよりては飲み、飲み飽ればまた大杉の陰にいこひなどする程、清水茶屋たかどのより、絃歌の聲喨々、としてひゞき來りぬ。此時はや日影はいつか落ちて、たゞ賤が屋の夕烟さびしげに細くたな引くが見えて、温海川のやうやう闇の中にむせぶなど、山々夕ぐれの景色いはむ方なしや。

かくて月をこえて都にかへりきたりてよめる。

　今にしてなほ涼しさそわすられぬこゝろにかよふあつみかは風



Digitized by Google

Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

雜錄

婚姻のはなし

法學士　戎爲散士

▲婚姻の變遷

婚姻をする方法即ち其形式に就ては、今日では餘程立派になりましたが、遡つて歐洲諸國に於ける古昔の歷史を見ると、隨分面白くない痕跡が殘つて居る。また面白くない疑問が起つて來る、それらのことは措置いてまづ單刀直入に其の變遷を述べやう、第一に婚姻として現れ出でたものは

◎雜婚　であります、是は歐州の多くの國で、大古野蠻の時代に於て行はれた婚姻で、何人でも我れの望むものと婚姻をするのである。即ち宛然禽獸のやうに、禮儀もなければ、人倫もない、實にいふに忍びない暴行脅迫を以てしたり、或は合意の上ですることもあッた。故に此時分は、勿論婚姻を人間社會の義務たることを辨へず、從て偕老同穴など云ふ契りもない、唯だ一時己れの情慾でしたされば婦人の方にも貞操などゝ云ふ思想のないのは常態で全く雜婚であるから、子を生むでもその父親が分りません。これが婚姻史の開卷第一に見える痕跡であります、扨此の時代を一歩進むと所謂、

◎掠奪婚、　といふのになります、これは主として一部落の男子が、他の部落の婦人を掠奪して、之を自己の妻奴と爲すのである、此時代に於いては、腕力の強きものでなければ、妻を得られない、隨て弱者は自分の望む婦人は得られません。かやうな野蠻時代に於

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

いては腕力より外に人の尊敬する處ろはない如何に正義道德な君子だなどといつても、腕力がなければ、片隅に小さくなつて居るより、外の途はありません、故に強者は尊敬を受け、よい妻を掠奪するとも出來ました。しかし此の掠奪婚姻は、獨り男子の方から婦人に對してばかり行つたものではない、婦人の方からも、また男子に對して行つたこともある、言換ゆれば男子が同志打を致して婦人を奪ふやうな工合に、婦人社會に於ても互に同志打をして、男子を奪つて自己の夫とするのである、或博士の說によれば、オースタラリヤの土蠻などは、一人の男子に、二三人の女子が常に之に追從して、其男子を掠奪しやうとして、其女子共が互に爭つて、重き棒を以て頭を撞ち合つて、互に血を流すに至るのを見ると、此の掠奪婚は、取りも直さず、異族相婚の起源である、彼の雜婚時代は互に近きものとの間の婚姻が便宜であツたから、重もに同族間の婚姻であるけれとも、此の掠奪婚は、甲なる種族が乙なる種族のものを掠奪して婚姻するのであるから、即ち異種族の婚姻で、之を約言して異族相婚と申します。げに掠奪婚は異族相婚の起源であります。此の掠奪婚なる異族相婚は雜婚時代の同族相婚から見ると、醫學上其他に多少の長所があります。けれども雜婚も掠奪婚も共に等しく極めて蠻民の致すべきものであツて、殆んと其是非を論ずるの價値はありません、後に至つてこの掠奪婚は漸く其勢力を失ひて彼の、

◎賣買婚、が盛になりましたこの賣買婚とは重もに男子が婦人を自己の妻にしやうとするとき、相當の代價を拂つて其婦人を買求めるのである、故に妻を得やうとするには、金がなければならぬ。まるで物品でも購ふやうに、金を貯へて妻を買求めねばならない、今日盛に行はれて居る彼の結納は此の遺物である。曩きに行はれた掠奪婚時代の異族の婦女を奪ふと云ふことは戰亂爭鬪の時代ならば、能く出來やうが、追々社會が平和になり、異族の間でも互に平和の交際をするやうになると、外女を掠奪すると云ふとの出來ないのは、丁度戰亂時代に於いては他人の物品を强奪するとも出

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

來るが、戰爭鎭まり、社會が平和になると强奪は出來ない、相當の金錢を以て購はねばならぬと云ふ工合に、此の外、女掠奪も次第に出來なくなるから、そこで其の腕力の代りに金錢を支拂ひて、異種族の婦人を求めて妻とするのである、故に婦人に價格が附いて居る、更に進むと

◎贈與婚、と云ふのになる、是は俗に婿や嫁を遣つたり貰つたりすることを申すので、即ち我國今日の普通の婚姻はこれである、まことに我國の人士の大多數は此の贈與婚であります、此の時代を經ると更に、

◎自由婚、と云ふのになる、自由婚とは一方の男子と婦人とが、今日我國で行はれます媒妁人などの手を經ずに、全く自由の意思に基いてする婚姻を申すので直接に一男一女の自由意思の合致によりて婚姻するのが此の自由婚の特色である、彼の贈與婚に於いては、人の子女であるものは、假令自分は其人と婚姻するのを好まなくても、父兄が之と婚姻せよと命ずれば、是非其言葉に從つて婚姻をせねばならないやうな傾向になつて居ります。が、此自由婚に於いては、親や兄弟の容喙だの、命令だのと云ふことは少しもなく、直接に本人だちの約束で成るものである。親兄弟への手前だの、世間への義理なんといふことは毛頭もなく、相互に眞心から好き好んで夫婦になるのです。此の自由婚は今日歐州諸國に於て、專ら行はれて居るところである、我國に於ては、今日未だ此の結婚は原則として行はれて居ない。成程中には此の結婚を事實に於て致して居るものもあるが、我國の一般の慣習としては之を否認するのである。誠に今日我國は贈與婚の時代である故に我國の現行民法も、この贈與婚の主義によりて規定せられて居つて、自由婚を否認して居ります。尙は詳細は後段に於て御話致しますが、我慣習、國法共に自由婚を原則と致して居らぬことは明かである。

以上お話致した通り、第一期が雜婚、第二期が掠奪婚第三期が賣買婚、第四期が贈與婚、第五期が自由婚、と云ふのである。して見れば第五期の自由婚が一番進歩した文明的の婚姻であると、理論上は言はねばなら

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ぬのである。其れを我が民法が之れより一段退歩した婚姻法を採るとは、一寸理論に合はぬやうであるが、是れは前申した通り、我が慣習が一般に贈與婚であるばかりではなく、我國の文明の程度では自由婚を採ることが出來ないからである。申すも遺憾なことであるが、歐洲などでは人が婚姻をするに就ては、比較的双方の男女が其配偶者たらうとするもので性質品行技倆などを能く見、能く調べ、其利害得失を考へて婚姻するのであるが、我が國の青年だちの多く肝腎な人格に就ては左程に見もせず、調べもせず、利害得失等は第二の問題として、言ば表面其容貌に好合つて婚姻するやうな傾向であるから、之れを互に若年の男女の自由婚に任す時は、果ては一身一家を誤るの基となるのであるから、これらには自由婚を許さずに、父母の同意だとか親族會の決議などを要するやうしたのである。そこで記者は何れかと申すと贈與婚の方に同意せねばならないのであります。今日我國の若年社會に於ての自由婚は幾多の弊害が出て來ます。餘り自由を尊び、手入をせないと却て醜い樹木を見るやうに至ると同じ事であるから、少しは羈絆が必要であります。非自由婚は此點に於て優つて居ります。殊に卑屬が婚姻を致すに就て、尊屬の同意を要するは、禮義上當然のことであるから、嘸本誌讀者皆様は文明の智識を以て、自由婚を為すのに充分ではありませうが、必ず父母だちの許諾を得ねばならないやうにしたいものであります。次號には婚姻と法律に就て申しませう

東京の幼稚園

あい子

吾々人間社會に普ねく存在するもので、最も貴重な、且つ最も愛すべき寶は何でありませうか、それは申すまでもなく我々の小兒でありませう、曾て希臘の一市街に凱旋軍の進行があつた折に、途上に觀迎しつゝあつた一人の老哲學者が、是の盛んなる有様を見て、覺へず雀躍しながら、嗚呼壯んなる哉〳〵我が壯丁よ、誠に是れ國家の干城なりと叫びました。併し間もなく

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

又大に嘆息していふのには、國家の干城は實に頼母しい次第であるけれども然し此の壯丁もいつしか年を老つてこの私のやうに老衰すれば國家の干城は夢の如く消へ失せて仕舞ふのである、その時には誰人がこの相續者になるであらうかと申しました、時に同じく凱旋軍を歡迎しつゝあつた一群の兒童が、この嘆聲を聞いて一齊に小さな双手をさしあげて、老人憂ふる勿れ、玆に我々の一群ありと呼びました、以上の事柄は唯希臘のむかしにあつた事の一例であるがその事柄は古今東西に變りはありません、されば今日二十世紀の文明に當つては何よりも先にまづこの兒童に就て注意を置かねばなりません、今日はどこの國でも兒童の教育は國家事業の一として經營されてをります、これと同時に兩親たるものは又此の兒童の家庭教育を負擔せねばならぬさて其の家庭教育の第一主眼とする德育及び體育は専ら母たるものゝ責任でありますが、其兒童の澤山あつまつて遊び戯れてゐるところは幼稚園です頃者府下に於ける一二の幼稚園を參觀しましたから聊その大要を記すことにいたしませう、然しこう申したからとて決して珍しい異つたことを書くのではありません唯目睹耳聞のまゝに過ぎないのですが新しく家庭を組織された方々や又は幼稚園を疑つて愛兒を入れぬ方若しくは幼稚園を參觀したことのない士女には家庭の教育に多少參考にもなり又興味をも與へ得ることゝ信じますからで。



さて東京府の管内で始めて幼稚園を開いたのは明治十四年頃でありましたが當時の設備は如何にも不完全で

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

唯もう唱歌位を敎へるに過ぎませんかつた其のみならず兒童を幼稚園へ入れるには第一附添人が要るそれから立派な衣服も着せなければならぬと誤想して入園させるのを躊躇つた人々もありましたが爾來世運の進步に隨つて幼稚園の設備も漸く完成して來ります、今日では貴賤の別なく少しく心ある親達は爭つて愛兒を入園させることになりました世に幼稚園の効益を全く知らないで家庭の敎育をのみ嚴しくして我兒が屋外で惡童に交つて多くの良からぬ感化を受けるのを知らない親達は早く愛兒を幼稚園へ入れて其保育を受けさせることにしたいものです。

幼稚園は兒童の滿三年から滿六年即ち學齡兒に至るまでの幼兒を收容保育するところでありますから文字なとは無論敎へることなく唯專ら心身の發達に注意してくれる所であるとは皆樣の御承知でいらせらるゝ處ですが今より四五年前までは然ばかりでもなく、隨分文字を敎へる幼稚園も多かつたので文部省から再三訓令があつた其ですから昨今のところでは大槪文字は敎へぬことになりましたが地方の私立幼稚園などには今以て文字を敎へてゐるものもあります然し之は幼兒保育の精神に反してゐますから近年では文字ばかりでなく都て高尙な細密なことは決して敎へないで至極簡易な頭腦に害を與へないことばかりを敎へてゐます換言すれば萬事自然の發達に任せて惡いとだけを覺させぬといふ方針で即ち完全な子守を付て置くと同樣な譯でありませう。

最近の調査に依ると府下の幼稚園の數は四十一で保姆の數は百二十人といふ數です又在園幼兒の數は三千三百八十九人で其內男兒千八百名女兒千五百八十九名といふ數となつて居ります。

幼稚園の規則

(一)幼稚園は滿三年より小學校に就學するまでの幼兒を保育する所とす

(二)保育の時間は一日五時間とす(食事時間を含む)

(三)保姆一人の保育する幼兒の數は四十人以內とす

(四)幼稚園の幼兒數は百人以內とす、但し特別の事

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

情わるときは百五十人まで增加する事を得

(五)保育の要旨は左の如し

一　幼兒を保育するには其心身をして健全なる發育を遂げ善良なる習慣を得せしめ以て家庭敎育を補はんとを要す

二　保育の方法は幼兒の心身發育の度に適應せしむべく其會得し難き事物を授け或は過度の業を爲さしめ又は之を强要して就學せしむべからず

三　常に幼兒の心性及行儀に注意して之を正しくせしめんことを要す

四　幼兒は極めて模倣を好むものなれば常に善良なる事例を示さんことに注意すべし

(六)幼兒保育の項目は遊戲、唱歌、談話及び手技とし左の諸項に依るべし



一　遊戲は隨意と共同の二種とし隨意遊戲は幼兒をして各自に運動せしめ、共同遊戲は歌曲に合へる諸種の運動をなさしめ心情を快活にし身體を健全ならしむ

二　唱歌は平易なる歌曲を歌はしめ聽器、發聲器、及呼吸器を練習して其發育を助け心情を快活純美ならしめ、德性涵養の資とす

三　談話は有益にして興味ある事實、及寓言通常の天然物、及人工物等に就き之をなし德性を涵養し、觀察力を養ひ、兼ねて發音を正しくし言語を練習せしむ

四　手技は幼稚園恩物を用ゐて手及眼を練習し心意發育の資となす

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

模範的幼稚園

それでまづ府下の模範幼稚園とも謂ふべき女子高等師範學校附屬の幼稚園に就て少しく記して見ませう是幼稚園は本郷湯島の舊聖堂裏手にありまして表門は湯島の大通りに向つてゐて本園と分室の二つに區別してあるが本園の方は月謝が一圓で華族とか富豪とかの子弟が重に入園してゐて目下男女合せて百廿八名在園してゐる其を三組に分て一組の定員約四十名と定めてあります一の組は滿五歳から六歳まで二の組は滿四歳から五歳まで三の組は滿三歳から四歳まで又分室の方は何れも都て無月謝ですから中流以下の幼兒が其大部分を占めてゐて幼兒の數は男女あはせて五十名これは三歳から六歳までを年齡に依つて區分しないで一組にして一室で一緒に保育してゐます

扨又保姆は本園の方は三組を通じて四名、分室の方は二名ですが是他に特別練習科生徒十二名と本科生といふものが十四名あつて全國を通じて保姆の練習をしてゐますが同園ではこれを敎生と稱してゐます

この特別練習科生徒といふのは女子高等師範學校や高等女學校を卒業した人々で一箇年の修業を是幼稚園へ來て實地の練習してゐるのであります其であるから普通の保姆には四十前後から其以上の年齡の者が多いが敎生は十八九歳から二十前後が多いのであります

本園の敎室は玄關を昇つて廊下の左側に三の組二の組一の組と順に列んでゐて廊下の突當りの大廣間は遊戯室に充てゝある先遊戯室へ入つてみると北手の壁には浪に日の出、右傍には鶴と松に月又左側には龜、富士山の五幅が懸けてあつて猶そのほか鳩の巣の遊戯の圖などの額面もある樂器は西北の隅に備へつけてあります、室内は都て板の間になつてゐて室の周圍には長い腰掛が幾つとなく配置してあります

これから敎室の設備に就て少しく記しませう扨本園の一二三の三組の中で三の組といふのは前にも記した通り滿三歳から四歳までの幼兒を收容する所でありますから其敎室の卓子を見ますに丁度牛肉店などで使用する位の高さの長方形のもので室の中央を明て四隅に一

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

脚づゝ行儀よく配置してあります又腰掛は一脚に二名づゝで即ち四名の幼兒が前後から是卓子を圍むことになつてゐて黒板もオルガンも備へてあります其から二の組一の組ですが是兩組は卓子と腰掛てそ年齢に應じて拵へてありますが先づ大體は尋常小學の一年位の教室と大差はありません又分室は本園の玄關の手前の右側に一棟建てゝあるが別に本園と異つたとてはありません

それから保育課目、即ち兒童にさづける所の課目は唱歌、遊戯、談話、手技の四課目で唱歌は重に幼稚園唱歌だの、風車々々、めぐれよ〳〵、雁々わたれなどを始め「お馬よ進め、お馬よ進め、大將を載せて、お馬よ進め、われらを載せて、勇める聲は、ヒン〳〵ヒン」だの「ヒライタ〳〵」や「ツボンダ〳〵」の類でいづれも教室で行ッてゐます



遊戯には共同遊戯と自由遊戯の二つがある共同遊戯は前に記した大廣間の遊戯室へ入つて組く々に分れてオルガンやピヤノに合はして遊ぶのであります又自由遊戯といふのは庭前の芝生に出て自由に遊ぶので二人三人集つて手を牽きあつたり他愛のないことを喋舌つて興じたり又は蝶のやうに無邪氣に飛まはつてゐますがこれを觀ると宛然天國へ來たやうな感じがいたします此遊戯中にも保姆は始終傍にゐて監督してゐる

談話は修身と象物の二様になつてゐますが修身といつても昔噺の桃太郎やカチ〳〵山又は英雄の物語などで象物は日常目に觸れる太陽や、月や又は草木花鳥或は諸道具などを捉へて話すのですがさすがに同園は摸範的幼稚園だけあつて此標本に

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

富んでゐるから話の種に窮るやうなことはない然し能きるだけ簡易のものを示して智識の開發に力めてゐる喩へば猫の話を爲るときは猫といふものは鼠を捕へる動物で其目は時に長くなつたり圓くなつたりしますといふやうな極めて簡單なことを敎へてゐます。

手技はフレーベル氏の恩物と作業を使用してゐるが幼兒の手技には一般の恩物を酌量して成るべく容易に出來上るのを選びます恩物といふのは玩弄店などて賣てゐます彼の小さい角材又は板を用ひて土藏や鳥居や井戸や燈籠などを拵へるのである同園には是恩物が二十種もあるさうですから何でも出來ます。

それから又作業といふのは紙細工や豆細工や粘土細工や麥藁細工や縫取りなどで紅白いろ〳〵の剪紙を用ひて折つたり組んだりするのであります。

麥藁細工は彩色のしてある麥藁で種々なものが作へられる縫取は紙に幾つとなく穴を穿けて此穴へ絲を通していろ〳〵の形をゐやどるのであります。

それから本園の幼兒これは每朝人力車に乘つて通つて來るものばかりで女中の一人位は附添つてゐる樣子ですがその服裝は男は筒袖に袴か洋服、女は下げ髮で袴を穿いてゐて男女を問はず大槪は帽子を冠り毛絲の袋に入れた辨當を携へてゐます然し分室の幼兒は中流以下の者の子の多い故歟袴も穿かない男の兒や着流しのまゝの女の兒が多い其のみならず分室の幼兒は本園と異つて少しく年の長けた者には保姆とゝもに室內の掃除を爲せ。

授業の時間は昨今の處本園に在つては午前九時から午後一時三十分まで四時間半てすが一体朝から晩まで遊んでゐるのが幼兒の務めですから別段窮屈を感ずる樣な事はありませんが、尤も午前十一時三十分から正午までの間は食事を濟ませば直に自由遊戲が始まるのであるから保姆は少しも眼が離せず全然つきゝりといふ有樣ですそれ故保姆や敎生の辛勞は大變なもので先づ午前九時になると保姆は敎室の黑板の傍の樂器の前でオルガンを鳴らす然すると組々の幼兒は敎生に誘はれて列を爲して敎室へ入つて來て各自さだまつた席へ着

Digitized by Google

Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

くのですさて幼兒の座に着くのを待つて保姆は君ヶ代とか其他二つ三つ心の靜まる歌を唱はせ其から其日の談話を爲し、或は手で其形を示しなどするのであるが幼兒の倦怠を來さぬやうに敎へる時間大約二十五分位であるが敎室に入る時も出る時も保姆がオルガンを鳴らしてゐる其で保育の順序は唱歌を了れば次は室外へ出て自由遊戯、それから談話、それから共同遊戯、そのつぎは自由遊戯、といふ次第です、敎生は一組に四人位ゐで保姆とゝもに此幼兒を保育してゐるのだから恰と一名の敎生で十名ほどの幼兒を世話してゐる割合である。

それから又手技に用ひる、材料は何れも園内に備へてあるもので自分で買調へて持つて來るものは何もありません又午餐の辨當をつかふには別に食堂といふものはなく組々の敎室で喫することになつてゐますが、兒童のことですから茶は一切用ひないで白湯です是場合には附添人が敎生かが世話を爲る而して箸の持やうの惡い幼兒がゐれば之を矯めたり湯の呑み樣を敎へたり湯を溢せば拭てやる泣けば賺かす洟が出れば擤んでやる妙齡の敎生が斯る世話をして厭はないのは實に感心と言はねばなりません。

もとより幼稚園には試驗といふこともなく又卒業といふこともなく學齡に達すれば保育滿期で、滿期になれば尋常小學へ入學するのです。

事柄を御存知のない方は幼稚園へ三年も通はせて置いたがイロハのイの字も覺えないなど不足を抑やる方もありますが併し同園では自然の發達に任せて置いて徐に智識の開發に力めるといふ方針を取つてゐるのであります。

（完）

家庭學校參觀記

勝間舟人

家庭學校——一に家族的感化院とも云はうか、從來の院制に拠らずして、家庭に學校を兼ね學校にして家庭を兼ねた場所に於て、不良少年を敎育するの目的で建てられたもの、是れ即ち巣鴨の家庭學校である。

Digitized by Google

Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

其地は遠く都門の塵埃を避けた片田舎で、四圍の空氣は清く新しきが上、構内は頗る手廣く、庭もあれば畠もあり、林もあり、五棟の校舎は綠樹鬱蒼の間に置かれ、其の南は稍々傾斜をなした地勢で、工作場、養禽場等の設備もあるから、位置から云つても設置から云つても先づ申分ないのである。

本校の生徒は目下凡そ二十七名許りであるが、之を二家族に分ち、第一家族の方には十六歳止り位の年若の者を收容し、第二家族の方には年齢稍々長じた者を收容してある。此の第一家族の建物は昨年の九月何者にか放火された爲め、烏有に歸して了つたので余の訪問した當時は其の再築最中で在つた。

生徒の種類を聞くと、孰れも親の手に負へぬ持て餘し者とか、道路に彷徨する野良息子とか、何うせ頂渦の曲つたしたゝか者で、親も之を養ふを得ず、學校も之を敎ふるを得ず、警察も之を監督するを得ずといふ類の僻者ではあるが、中には家庭の紊亂からして不良の境遇に陷るものもあり、一家離散の爲め不善の境遇に漂ふものあり、棄てゝ置けば恐るべき結果を持ち來たすのであるから、彼等を不善の境遇より引取つて、善良なる家庭の温味に浴せしめ、其の性癖を感化するといふのが此の學校の目的である。

併し打見た所では――尤も敎育の効果でも有らうが――之を他の學校の少年等に比較すると、其の容貌といひ態度といひ、さまで著しい相異があるものとは思へぬのである。否な寧ろ普通の小供よりは利口過ぎる位である。併し彼等の賢いは眞の怜悧にては無く、言はゞ悪賢い方で、その眼は油斷ならぬ光を以て充たされて居る。或る種の經驗に於ては我々の知らぬ事を知つて居ると敎師の一人が語つた如く、世故に長けて居る丈、其丈小供らしい愛嬌を欠いて居るやうに見受けらるゝのである。

余が案内を乞ふたのは裏門を入つて左手の一棟、そこには第二家族といふ標札が掲げられてある。校長留岡幸助氏は此時丁度不在の由で在たから、敎師の一人に刺を通じて參觀を依賴した所、快く諾されて應接間

に招き入れられた。

應接間といふは此の「第二家族」の奥の一室で在つて、此處は校長の書齋を兼ねた日本風の廣間で、書架には宗教、慈善、監獄、感化等に關する洋書や諸雜誌が秩序正しく並べられ、壁には東照宮遺訓の一軸が掛けてある。唯だ是のみで、此の外には是ぞといふ裝飾品も無いのではあるが、何となく高雅で、淸楚で、奥床しく感ずるのである。

此の時は午前十一時過で、授業は既に濟んだ後であつたから、敎授の模樣は殘念ながら觀ることが出來なかつたが、其の代り校の狀況に就ては巨細の説明を聞き得たのであるから、其を左に記すことゝしやう。併し其の前に一寸本校の創立と校長の人物に就て紹介して置かう。

本校の創立は今を去る四年前、即ち明治三十二年十一月、一不良少年を留岡氏の自宅に引取り、亡夫人夏子氏と共に敎育されたのが、本校の出來た抑々の初であるが、三十三年三月に及び、第一家族の校舍の新築が落成したから、更に三兒を收容し、玆に始めて家庭學校なるものを開設したのである。創立以來生徒は漸漸增加し來りて五十名を敎育するに至り、目下收容するもの二十七名あり、此の內中途退學を命じたは僅に三人限で、其他は改善されて父母の手に歸つたのもあり、或は中學校に通ふやうに成つたものもあり、或は商家に奉公さしたもの、散髮屋に徒弟に遣られたもの又た亞米利加に行つたものもある。此の通り創立は誠に近頃であるが、校長留岡氏が此の志を持つて居つたは古くからの事で在つた。氏は同志社出身の秀才、傳導師として將た敎誨師として宗敎界に名ある人、その北海道監獄に敎誨師たるの折、監獄を改良し犯罪者を撲滅するには、其の根元に溯つて先づ不良少年の敎育からして手を着けざる可からずといふことに氣付かれ、米國に渡つて監獄、慈善、感化等に關する事業の取調に從事し、歸朝以來、感化的の敎育場を設立せんことを企てられし所、幸ひに多くの贊助者を得て、三千五百坪餘の良敷地を巢鴨村に於て手に入れること

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

が出來、茲に於て初めて本校の建設を見るに至つたのである。

本校の組織に就て教師は語つて曰く『子女の教育に於て家庭の大切なることは申すまでも御在ませんが、殊に不良少年に於て最も其の感を深くするのであります。要するに彼等の多くは正しい家庭が無いからして起つたもので、或は兩親に別れるとか、片親であるとか、繼母であるとか、或は家の内が亂れて居るとかして、正當なる家族的生活がして行けず、從つて愛を以て子供を包むことが出來ないといふやうな所からして釀生するものでありますから、彼等を教育するには何うしても善き家庭の内に於てゞなければ感化の功は擧らんので御在ます。其故本校の組織は在來の院制に依らずして、家族制度を採つたので御在ます。されば校舍の建築も學校風に則りませんで、專ら家庭的に致し、普通なれば校舍とか寄宿舍とか言ふべきを本校では家族と稱へて居ります。で唯今此の家族(校舍)が二棟即ち二家族御在ますが、一家族には十五人を定員としてあります、一家族中には家族長(男子の教師)が在つて一家監督の任に當り、又た主婦(女の教師)と申す補佐役があります。家族長は家内の規律を取締るが上に、生徒を教育し、之と共に勞働を致します、此外に尙は補助主婦なるものが在つて炊事の世話やら被服の洗張やら何や角やと母の任務をなし、生徒の中に病人が出來れば看護の任にも當らなければなりません。而して一家族毎に食堂もあれば教場もあり寢室も自修室も備へて在つて、總て純然たるホームの躰裁で在りまして、教育者たる家族長や主婦達は生徒と共に喜憂を分ち、寢食を倶にするので御在ます』と。

そこで家族長の案内に導かれて舍内を見廻つた所、一舍は五室に分劃られ、一室の廣さは六疊敷にして黒ずんだ琉球疉の上には机と本が置かれて、小さな額なとが掛つて居る鹽梅は、殆ど田舍中學の寄宿舍に彷彿たるものである。食堂は脊戸口の勝手と續いて居つて、共同食卓がズラリと列んで居る、此時の献立は赤飯に香物に鹽の三いろであつたが、生徒が其を人の見る

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

前も憚らずガツ／＼と頬張る顔付の罪の無い所を見れば可憐らしいやうな感もする。給仕の役は四十格好の主婦と二十前後の補助主婦の二人限で、十五人からの口を一度に賄ふのであるから、その忙しさは目の廻る程である。食堂の正面には次のやうな献立表が貼り出されて在つた。

食物献立表

	朝	晝	晩
日	芋粥、香ノ物	煮豆(白豆)(くわし)	豚肉、野菜
月	菜又はわかめ味噌汁	したしもの	豆腐醤油汁
火	大根味噌汁	牛肉、野菜	煮豆(黒大豆)
水	里芋味噌汁	魚肉(くわし)	牛蒡、油揚、大根、干瓢昆布、根蒻、等煮しめ
木	芋粥、香の物	煮豆(黒豆)	豚肉、野菜、
金	豆腐味噌汁	牛蒡、油揚、大根、干瓢昆布、根蒻、等煮しめ	牛肉、野菜、
土	大根味噌汁	赤飯、香物、鹽	牛蒡、油揚、大根、干瓢昆布、根蒻、等煮しめ

此の表に據て見ると少々贅澤過ぎる樣であるが、是には大に理由の在ることで、健全なる精神は健全なる身体に宿るといふ理窟から、不良少年が精神の病的なるは身体の病的なると多大の關係を持つ。故に先づ其の身体より改善せざる可からず、其には躰育を奨勵すると共に相當の滋養品を與へなくてはならぬといふのが校長の持論であるさうな。

「生徒の日課は、毎朝五時半を以て起床の時刻と定め、六時までに身仕度を終へ、六時より六時半まで禮拜堂に集りて禮拜又は祈禱し、宗教道德の談話を聴聞せしひ、六時半より七時半まで校長職員生徒の別無く、校内を掃除す。此の食前運動了つて後喫飯し、八時より十二時まで普通教育を授ける──本校に於ては生徒を六組に分ち小學校より中學二年位に至る學科程度を課することにしてある──十二時、中食。一時まで休憩。一時より五時まで戸外の勞働に從ふ、此の勞働時間中は或は槙割をなし、水汲をなし、農園耕作をなし、植木伐をなし、或は兵式躰操、機械躰操を行ひ、時には又た音樂を教ふることもある。五時夕食、六時まで休憩　六時より八時まで復習、但し睡眠時間は年齢に依つて一定してありません」と、教師が言ひ擧つた時、校長は歸つて來られた、校長は余の來意を聴取つ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

た後、左の如く語つた。

「教育の方法は普通の兒童を教育するのとは、全然其の趣を異へて居るのです、感化教育の第一義は境遇を轉換することで、即ち惡しき家庭より善き家庭に移し、又は寧ろ憐むべき慘澹の境涯より救ひ取つて、之を道德的の空氣が滿ちた安心の場所に置くことである尙一つは天然の感化力を假ることであります。余が經驗の結果發明したのは、人間が惡くしたる人間は到底人間の力のみを以て感化することは出來ないもの、必ずや大に天然の力に待たなければなりません。此の理由からして人間稠密の都會を避けて人里離れた田舍を良とするので御在ます。元來不良少年と申すもの〻特質は怠惰たがるので在て、何れの不良少年にも此の惡癖があるので困ります。勤勞は天の人に與ふる特權にして、働かなければ身体が衰へ、精神も亦た不活潑になる、爲めに生活の條件を得るとも出來ず、天の福祉を享くることが出來ないのであるから、此の道理を呑込ませるには勞作をすゝ此習慣を造らせるとが肝心であります。其には工藝なり農藝なりを教へて、勞働に伴ふ報酬を彼等に示し、是に依つて懶惰の性癖を矯め直すやうにする。其柄尙は此の實藝教育に續いて最も大切なるは實例教育である。即ち彼等を訓誨し、說諭するに當つては、耳より入れないで、目より入れるのである。普通人には耳學問といふことも在ます位で、物の道理を口から耳に言ひ聽かしても合點が行きますけれど、不良少年に向つては何の効目もありません。其の代り目より入れた教訓即ち實例には能く從ふので御在ますから、彼等を教育するには教師が先に立て活きた模範を示し、而る後之に習はせるやう仕向なければなりませぬ。斯ういふやうな譯で感化教育には種々の困難が起り、是程六ヶ敷事業は無いのである。普通の兒童を教育するにしても不馴の教師は隨分手古摺るのであるから、況して是は血肉の父母も持て餘した程の厄介者、決して樂な譯がありません。妙にエコヂレた少年を捕捉へて、彼等に常識を教へ人道を辨へさせ、而して眞人間に仕立上るまでの困難苦心は石田を耕す

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

といふ諺の通りであります。されば感化學校に教員たるものは献身的の覺悟と熟練の管理法と特別の智識を有つて居る人でなければならぬ。随つて慈善的師範學校といふやうなもの丶必要が起る。で、是等感化事業の需要に應ずる一助として當校内に師範部なるものを置きまして、當校の教師等がその生徒に成つて、其の資格を充たすことに努めて居ります。」

生徒の性癖は、何ういふものであらうか？、聞いて見ると、虚言、剛情、盗癖、亂暴殘忍、金錢濫費、罵詈惡口、破壞癖ある者、空想を逞うする者などが、其の重なものだといふから、世の父兄たる者其子にか丶る傾向なからんやう未然に注意ありたきことである。

以上の談話を聞いた後、余は教師に導かれて搆内の設備を觀るべく戸外に出でた。折しも制服帯劍の警監學校――留岡氏は目下茲に教鞭を執つて居る――の生徒數十名が参看に遣つて來たので、校長は去つて此の新來客を禮拜堂に招じ入れた。禮拜堂といふのは表門に近き所にある新築の平屋建で、こ丶には二個の教室が附設されてある。其と相對する草葺屋根は校長の住宅で、其の前面に第二家族の一棟がある。是は今工事中なので屋内へ這入ることは出來なかつたけれど、搆造は略々第一家族に似て居る。搆内諸所には枳殻、梅、櫻、栗、杉、松、山茶花、其他種々の樹木繁茂して、碧の色を湛へ、木々の間には數畝の麥圃や菜園が在つて鮮かな鍬の齒跡を印して居る。又た、裏門への下り口には第一家族と向き合つて二階建の一搆がある。是處は彼等の工作場で在つて、石鹸製造や製本等に使ふのであるが、第二家庭の新築工事が出來上るまで假りに其の分の小さい生徒を入れてある由。余がこ丶を通つた時は十一二才の小供が獨楽鼠のやうに梯子を昇つたり降りたりして居た。其の前には生徒が自身で堀拔いたといふ大きな井戸が在つて、唧筒仕掛にしてあるのを、十六七の色の淺黑い生徒が一生懸命に動かして、直ぐ傍の湯殿に水を汲込む最中で在つた。其と少許隔つては養鷄場の竹園があり、其他軒の下といはず樹の蔭といはず畑の畦といはず、搆内到る所に唾壺が備へ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

てあるなど、設備は頗る行屆いたものである。
要するに家庭學校の事業は、心の痼疾を療治する一種の避病院である。入院患者に適薬を投じて不良の病毒を一掃するを得たならば、啻に社會の利益のみでなく、吾人家庭の幸福を増すべきである。故に吾人は感化法の發布ありたる今日、全國各地に此種學校の設立を望むのである。

（完）

大阪女學界の記

渓流女史

大阪は第二の都會、商業の中心としては、普く世に知らる。愛嬌ある婦人、色白の婦人、やさしげなる婦人ありとは、特に世の評権に登りぬ。されど女學の世界に至りては、何の評價をも得ざりき、何の聲譽をも受けざりき。まことに世人は大阪婦人が學問上の有様を知らず、また女學界中に大阪婦人のある事をすら忘れたるが如し。予はいまその忘れられたる、大阪婦人學問界の有様を世に紹介して、浪華にも、徒らに爾にしぼみ、風に散らさるゝ類の空花のみならで、實を結び種を殘す眞の花の乏しからぬを示さんとす。

私立の英語佛語などの女學校は、早くより居留地に設けられ、宣教師の教導により、多くは給費をもて婦人傳導者たるべく養成せられたり。其の施設や、見るべきもののなきにしもあらねど、彼れ等の功は其の教育の功よりも、寧ろ刺激劑として、内國女學校の創設を促がしたるには得増さらむ。今も猶ほ引續きて特種の教育を授け、年々卒業生を出だすと聞く。内國人の創設にかゝる私立女學校を、梅花女學校とす。東京に於ける巖本善治氏の明治女學校と東西相對して、明治初年の女子教育界に重きをなす、現時もなほ二百の生徒廿の教員、よく校規を守りて昔の姿に變らず、一種特色ありて世にきこゆ。現今の東京なる私立女子大學校長成瀬仁藏氏も、嘗て此の校に教鞭を執られしといふ。

公立の女學校は府立高等女學校をはじめとす初め中の島に在りしもいまは堂島に移り堂島高等女學校と稱す。廿三四年の頃までは、教員志望者の爲に、師範

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

を置き、幼稚園を附屬せしめしも、師範學校に女子部を開くに及びて、その設備は除きぬ。生徒數五百に餘り、職員男女四十名の多きに及ぶ。校長柴直太郎氏は、明治廿四年頃より現今に至るまで十數年この校に在り浮華輕跳の市街の子女をして、勤儉質素を守らしめ、實技を奬勵し、体育を重んじ、專ら市内婦女の弊風打破に努めらるゝと聞く。まことに喜ぶべき事といふべし。

清水谷高等女學校は明治卅三年の創立にして、校長は大村忠二郎氏、生徒數四百名、職員三十名に餘る。いまだ卒業生を出だざずといへども、情弱なる大阪婦人を活潑に教育し、廿世紀におくれざらしめんとてか、筒袖袴を斷行せられ、一切無益有害の浮華なる粧飾を廢し、專ら婦德を涵養さるゝといふ。

師範學校女子部は明治廿三年知事西村捨三氏校長濱野虎吉氏の時代に於て女子高等師範學校卒業者塚本はま子氏を迎へて開く創設當時は、公私の反對者極めて多く、僅々卅名の生徒を募集するに、頗る苦心し、市内にては辛く、只二名の應募者を得たるのみなりしときくも、今は卒業生の成蹟佳良にして、毎年五十名を募るに、二百名にあまる受驗者を見るといふ。明治卅三年女子師範學校として獨立し城南桃山なる新築校舍に移る。現今の校長は大村芳樹氏女教員には、當校第一回の卒業生にして女子高等師範學校を卒業せる池淵ゑい子その主席たり。生徒數は本科百二十名講習科五十名あり。卒業生總數は三百餘名その七割强は教職に從事す。本校卒業生にして女子高等師範學校を卒業せるもの八名あり。目下同校に在學中のもの十六名私立女子大學及東京音樂學校共立女子職業學校などに在學せるもの二十餘名文部省の檢定試驗に合格せる者數名ありて、何れも東京大阪長野滋賀其他の地方高等女學校に教員として奉職す。まことに盛なりといふべし。

これらの諸公立女學校卒業生中、東京に在るもの團結して一會を組織し、名づけて「女子浪華學友會」といふ會長には塚本はま子氏、副會長には小向きみ子

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

氏を推し、會員五十名に近く、毎年春秋二回定會を開く、本年二月一日午前九時より東京一ッ橋帝國教育會に於て定會を開くこの日前夜より降雪止まざりしも會長をはじめ會員の集まる者四十名、理學博士坪井正五郎先生の「世界に於ける各人種の身體裝飾及び身體缺損」と題する學術演說あり。大阪淸水谷高等女學校長、大村忠二郎氏上京の序を以て來たり會せらるゝありて、頗る盛會なりき、終つて茶菓辨當の饗應あり、福引の餘興あり、會員歡を盡して午後三時散會す。

大阪婦人の東都に於ける活動、いまだ見るべきもの世に表れずといへども、既にかゝる團結成りて其の基礎をかたく据ゑぬ。あはれ浪華津にさけるこの花かくて雪をしのぎ風と爭ひ、たわまず折れずば、美しき實をも結び、香ばしき薰をも殘すべし。聊か世に忘れられたる大阪の女學界を世に紹介する事しかり。

竹柏會親睦會の記

石榑千亦

夜來の雨、都の春の粧なる花をうばひ去りて、名殘なう霽れわたりし四月十二日、けふ竹柏會五年目の親睦會ひらくべく定めたりしにより、朝より幹事委員、さては會員とつぎ／＼集ひ來て、あふ人毎に、かならずまづ、よく晴れたり、神の賜ひし日なり、など喜びいふ。いふ人もきく人もうれしげなり。

年ごとのためしによりて、二階の廣間の奧まりたる床の前に卓子すゑ、文臺と梛木の鉢植とを其上にのせ、床には會主竹柏園主人の君の御親二かたの油畫しづめまつれり。笑めるが如くむかひたまふに、今日の此爲に成りしにはあらじかなど疑はる。時來りて先づ披講あり。印東昌綱松寺久雄兩人の君之れに當り、兼題春の海の和氣洋々たる中に終りを告げぬ。會主の歌、

春のうしほすでに滿ちたり船出せむ
わが思ふ國はありもあらずも

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

見渡せば、いつのまにか室は人をもて埋められたり。去年の人今年の人、あるは二三年前の人、さてはかの油畫の大人の敎うけし人とり〳〵なれど、みな古き交あるが如く歡びあふも、同じ園立ならし、同じ道たどる人なればなるべし。

會主の君すゝみて挨拶せられ、次に森鷗外ぬし西國の戯曲の梗槪をのべらる。いとめづらしきに、人々耳かたぶけぬ。次に依田學海翁、支那女傑の話いと勇ましく語られ、こゝに演說を終りぬ。遠來の客なる三人の比律賓人はギタルラを演奏し、眞龍齋貞水は立ちて烈婦貞の傳といふをよみぬ。見て來たやうな噓をつきといひけむ如く、目の前に其人其世のさまを跳らし、一言の僞交れるともおもはれざりき。これを終りて、下の廣間にかねて取設けたる會員等が喜劇の幕はあきぬ。大鼓つゞみ拍子木三味線、いづれも喜の音にわらざるはなし。二階よりおり來る人、われ先にと坐るに、なほ溢るゝばかり、階段にたゞずめるもあり。庭にたてるもあり。こは大塚楠緒子の君が筆になれる詞林三歌仙といふを、會員の人々かりに容づくり姿こしらへて演ずるなりけり。

月が出マシタヨ、竹柏會萬歲デスと、昨夜祝ひおくられし電報の主人、陰極りて陽を生ずといはれし雨男尾崎紅葉ぬしも、一病の床を拂ひて來合はされ、かにかくと品定めせらるゝに、ケフコソハ都ノ空モ雨ハレテ園生ノ那木ノ色モ增スランと、安房北條より電報もて歌ひおこせられたる末松謙澄ぬしも、去年の如く此席にまじりて、共に〳〵評しあはゞいかにおもしろからんなどぞおもはるゝ。

業平喜選小町は業平喜選小町らしく、跳子の名のごとくハイカラを極め、新版圖の臺灣婦人よくうたひ、ひかしの高麗人今の朝鮮婦人はたうるはし。束帶したる業平のシルクハット冠りてステッキ無骨げにもちたる、花やかなる上臈の衣着けたる小町が蝙蝠傘さして信玄袋もちたる、緇衣の喜選が鰐皮の鞄重げにさげたる、不調和なる調和に人々ドッと笑ひはやせば、サア御案内致しませうと跳子の肩いからして先立ち入るを、わ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

る丶が如き拍手の聲におくりて幕はとぢぬ。書割、隅田川の花の頃を油畫風にかきたる、これはた會員の手に成りたり。脚本より書割の末に至るまで他の人の手からぬわが會の、とり〳〵にむかへる方面を異にして而も美を探らむとする志の自から同じ趣なるも、何とはなけれども珍らしう嬉しきくさはひなりけり。

手品終りて寫眞いつもの如く池のほとりにうつす。花か摸様か、摸様かあやかとは、三歌仙かける作者の隅田川をよめる歌の一節なれど、なほこゝにも其句をかりてうつさば多くあやまたじ。

寫眞終ると共に、庭園にしつらひたる店は、春風に催されし花の如く一時にひらかれぬ。麥酒、田樂、茶店、すし、團子、櫻餅、などの店、下戸は下戸の店に、上戸は上戸の店に、人さま〴〵に別れつとひぬ。シンコ店、文字燒店、子どもの取まきて、おのも〳〵凱歌をあげむとする中に、あらずもがなの雲つく男さへ二人三人、可愛き手を押のけては横取するよ。子もたぬ人の情ほど罪なるものはあらじ。

車の出づる音履物の音つゞきて、紀念品の短冊かけも殘り少なになりぬ。店は物入れし器のみあらはにのこり、泡つきたるコップ卓子の上に列を亂して、夕庭の池の面は朝にかへりていと物しづかに、あらかりし風さへ全く跡ををさめ、月かげ雲をもれて淡くてるに、只耳にたつは水鳥の羽叩く音、友よぶ聲。のこれる三歌仙の靈も今やこゝに天降るらむ。

◎わすれ形見

閨秀作家故若松賤子の遺稿わすれ形見絶筆外二十一篇を集め題してわすれ形見といふ、女史が明治文壇に於ける聲名と技倆とに就ては世既に定論あり、今更その文品に就て兎角の評を益すまでもなけれど、十數年來吾人が女史の作品に就て愛翫し措かざるものは實にその文の風情にあり、女史の作は概ね飜譯にして創作にあらず、而かも是をよむ、飜譯なる事を忘れて直ちに歐文を味はふが如くに感ぜしめ、原書の趣味と精神とを併せて讀むが如くに感ぜしむるものは何ぞ、是れ女史が歐文に對する造詣深きの致す處ろにして尋常作家の企及すべからざる所ならん。吾人は此書を一葉の全集と併せて明治閨秀作家の双什として推賞せんと欲す、但し一葉全集は日本趣味を代表し、わすれ形見は西洋趣味を代表する點に於て双方格段なる相違あるべし、校訂は故人の遺友にして英學新報の主幹櫻井鷗村氏、中板六百餘頁總クロース製にて裝釘印刷美麗鮮明なり（定價壹圓東京堂發賣）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

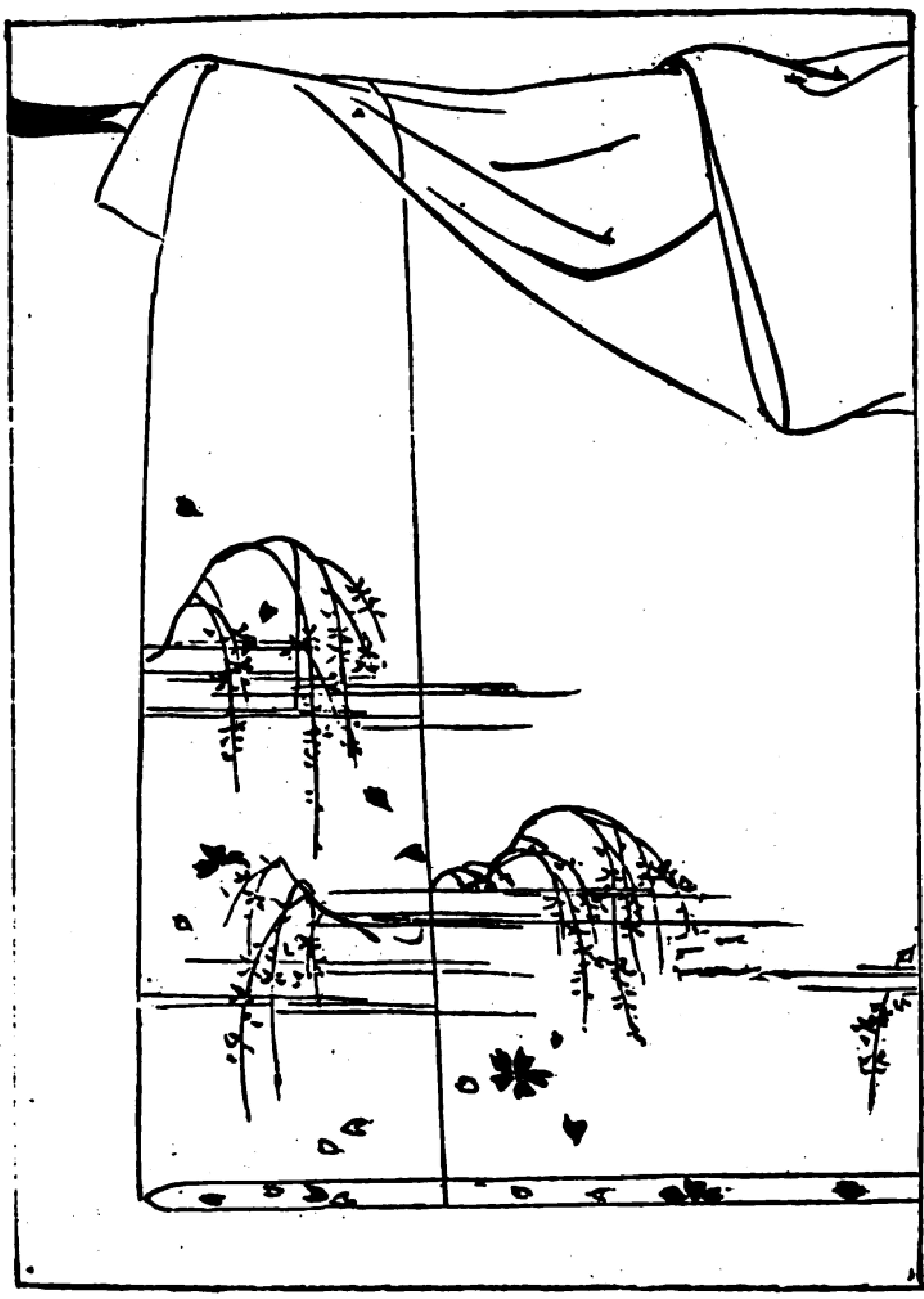
四季のよそほひ

靚風子

櫻狩りに袖振はふる花見風俗も時の間に過ぎ去りて、目に靑葉耳時鳥の好日和、此處暫らくは袷の時候となりしをもて、四季の服裝を紹介する手初に先づ袷の流行衣より試むることとしつ、(但し代價は白木屋呉服店にて聞合せたる所に依る)

○模樣物の袷

○十八九歲の女子に最も似合はしきは、葡萄梅鼠色の縮緬にて、模樣は



春のよそ柳櫻之圖

柳櫻を地落し染にしたるもの(挿畫參照)模樣の高さは一尺二寸位が普通なり但し紋は五つ所にして、其の大きさは曲尺の九分五厘所が宜し

▲下着は、同じ品の對模樣にて、比翼付とす、此一襲の仕立上り代價は凡そ五十五圓位なりと

▲長襦袢　は單衣にて、赤地の紋羽二重模樣は流水の瀬切にて、脊に梅襷、花菖蒲を染拔にし、繡をあしらふ、半襟は白の鹽瀬に金銀の縫わるもの、専ら時好に協ふ、(此の價二十三四圓位)

Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

▲帶 は繻珍織の御納戸地に能式の鶴龜を金透しにしたるなどは至極贅澤なる好みなるが、御納戸地に松と鶴を散らしたるもの、又は焦茶地に桐と鳳凰を織出し、觀世水をあしらひしものなど多く行はるゝが如し

◎二十四五歳の夫人 に好ましき袷は淡き栗梅色の縮緬又は絹縮にて、月に卯花の江戸妻模樣か或は千代結なり、模樣の高さは七寸位を良とし、紋は同じく五つ所なり

▲下着 之も同じ品の對模樣にて、矢張比翼付とす、此一襲の仕立上り縮緬の方にて五十二圓絹縮の方にて四十七圓位なりと。



▲長襦袢 は薄鳩羽色の縮緬模樣は素鼠地に光琳菊を顯はしたるもの頗る優麗なり、此の半襟には銀鼠色の縮緬にて縫入りのものを撰まば映もよろしかるべし、(此代價二十二三圓)

▲帶 和蘭織朱珍の地色を栗茶にし、段色糸を以て大小の龜甲を重ねたるものも宜しけれど、こは餘り派手向にして花柳社會の好みに適するもの眞面目の家の奥樣向としては朱珍地を金透にし、之れにコボシ松葉を織出したるもの、上品にして然も優美なり(此代價四十五圓位)

○小紋の袷

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

○十八九歳の女子向としては玉水小紋かムヂナ菊などを好むもの多く、地色は濃納戸か栗茶に限るが如し、

▲長襦袢には蔓葡萄の葉がくれに山水をあしらひたる友禪縮緬などは最上のものなるべし。半襟は櫻鼠に蔦唐草を出し金銀の繍を入れたるもの一般に持囃さる。

▲帶は博多地に紫紺の友獨鈷か或は蝶鳥の獨鈷を織出し、片側を霞菊にしたるもの、多く流行す。

◎二十四五歳の婦人向としては芽柳小紋を愛する者多く、地色も鐵納戸又は壁鼠に人氣あり。

妹脊と染し圖



▲長襦袢は友禪縮緬にて地色を濃葡萄にし、胡蝶に落花の圖を染め出したるもの半襟は褐色にて白の染拔へ蘭を出し、その花に繍をあしらひたるもの流行し始めぬ。

▲帶は厚板にて栗鼠色に鐵扇唐草を織出したるもの(此價二十四五圓)或は七子地に梅鼠と御納戸の段形を出し、龜甲に雲鶴の圖様あるもの(此價四十圓位)本年の新流行なり。

○無双羽織

本年の流行界に於て、一寸目に留りたるは無双羽織なりそは絽縮緬にて裏模様を妹脊の契といふ圖にしたるものと菖

Digitized by Google

Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

蒲に鷺をあらはしたる圖の二種なり（挿圖參照）兩つながら高尚にして然も嫌味なければ紳士の晴着として恰好のものなるべし、

夏着の新柄

三井呉服店樓上新柄陳列會に出品せるもの丶内、今夏流行の兆ある新柄物を左にあないせん。

友禪絹縮　（十四圓二十錢）

白地に光琳水を紫紺にて出し、澤潟を墨の濃淡をもて花を白にし、其の間に草色の細蘭を竪に染め出した優美の友禪染で夏向子供の單物か、娘の長襦袢に適す、



縮緬友禪染　（十六圓五十錢）

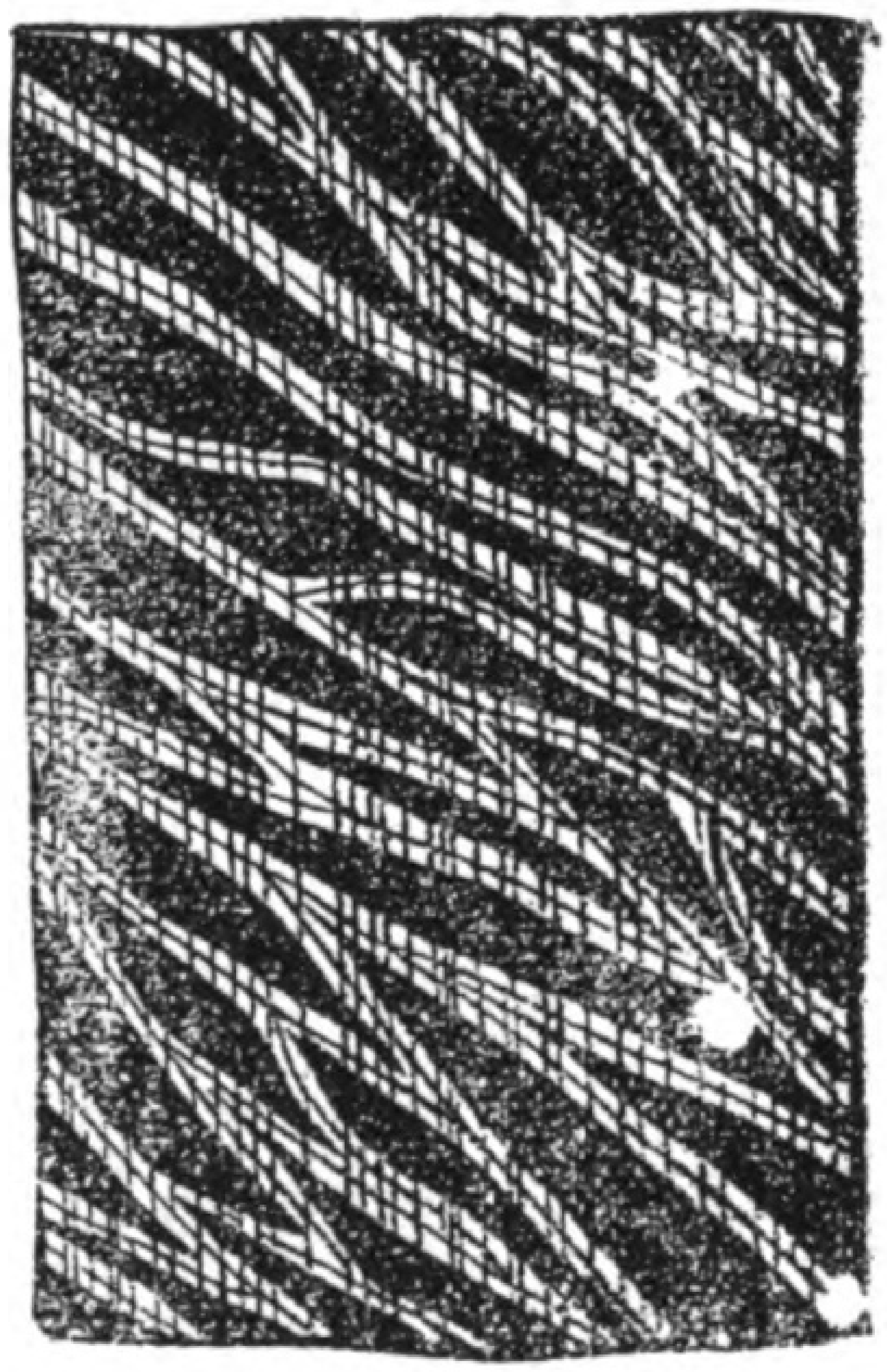
白地に赤を以て、古代波を幅一杯に置き千鳥を白揚と利久鼠にて染出した夏向の友禪染、派手で粋な柄合なれば、年若の人の長襦袢には恰好の品。



瓦斯縞中形　（一圓七十八錢）

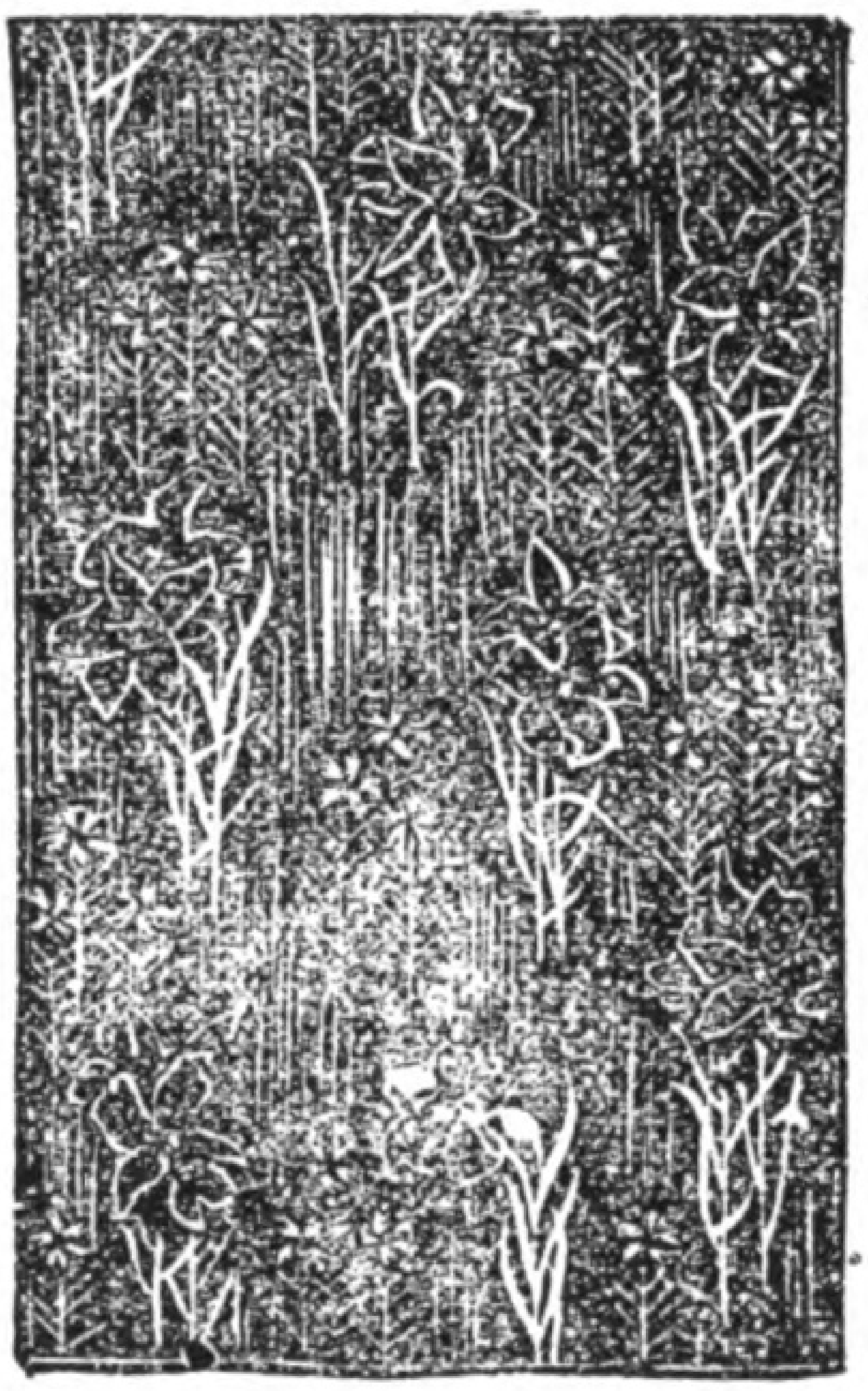
白地の瓦斯に鼠色の竪縞を織り出し更に其上の地を藍にて染め、蘭葉を斜に白揚に染め出したもの、竪縞に模様を見せた所極めて斬新なり。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



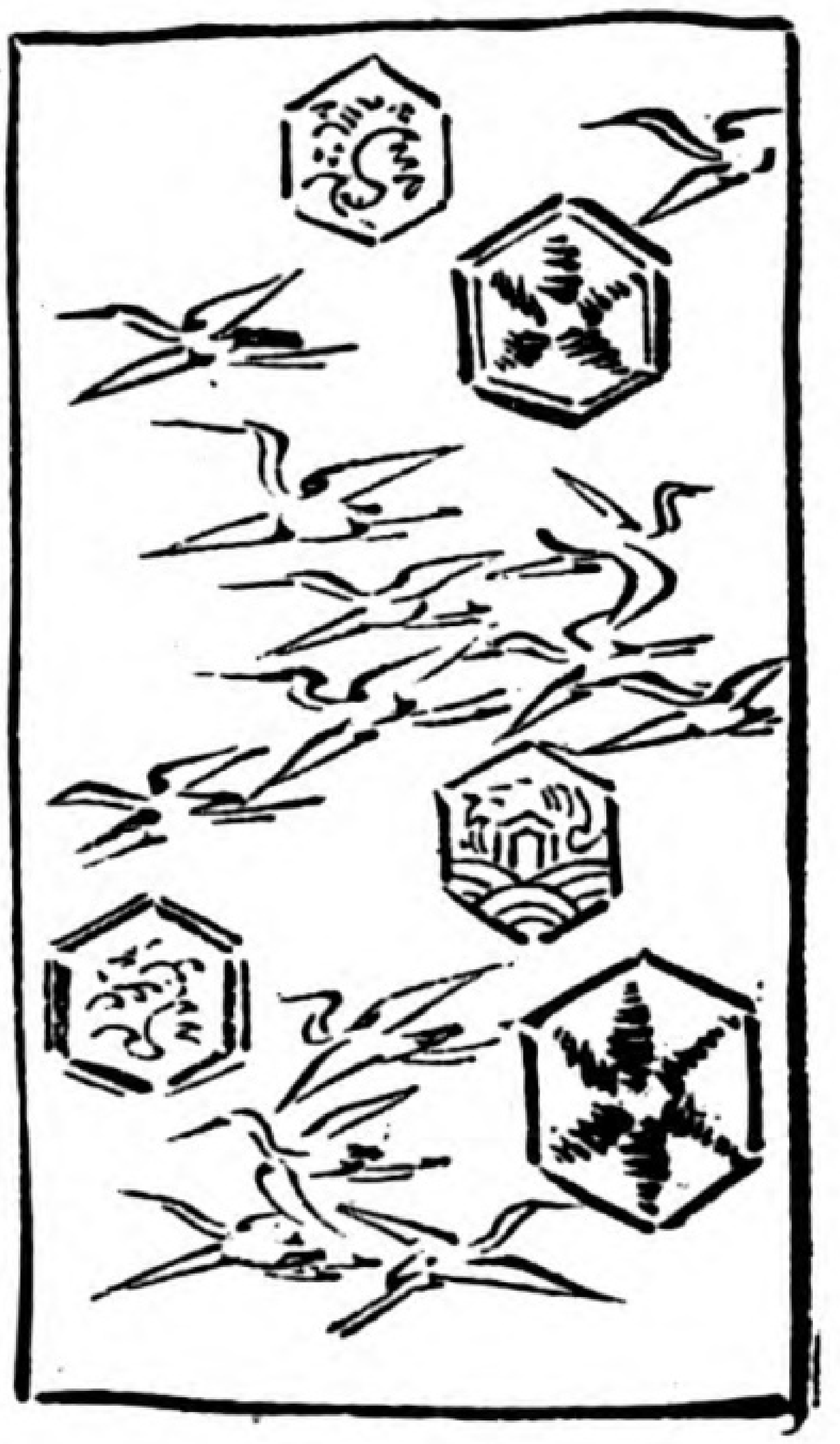
中形絽縮　（二圓二十八錢）

藍地に百合と撫子を竪に置き、立絣を雨に見せたる中形染なれば、二十才前後の婦人着として頗る上品のものなり。



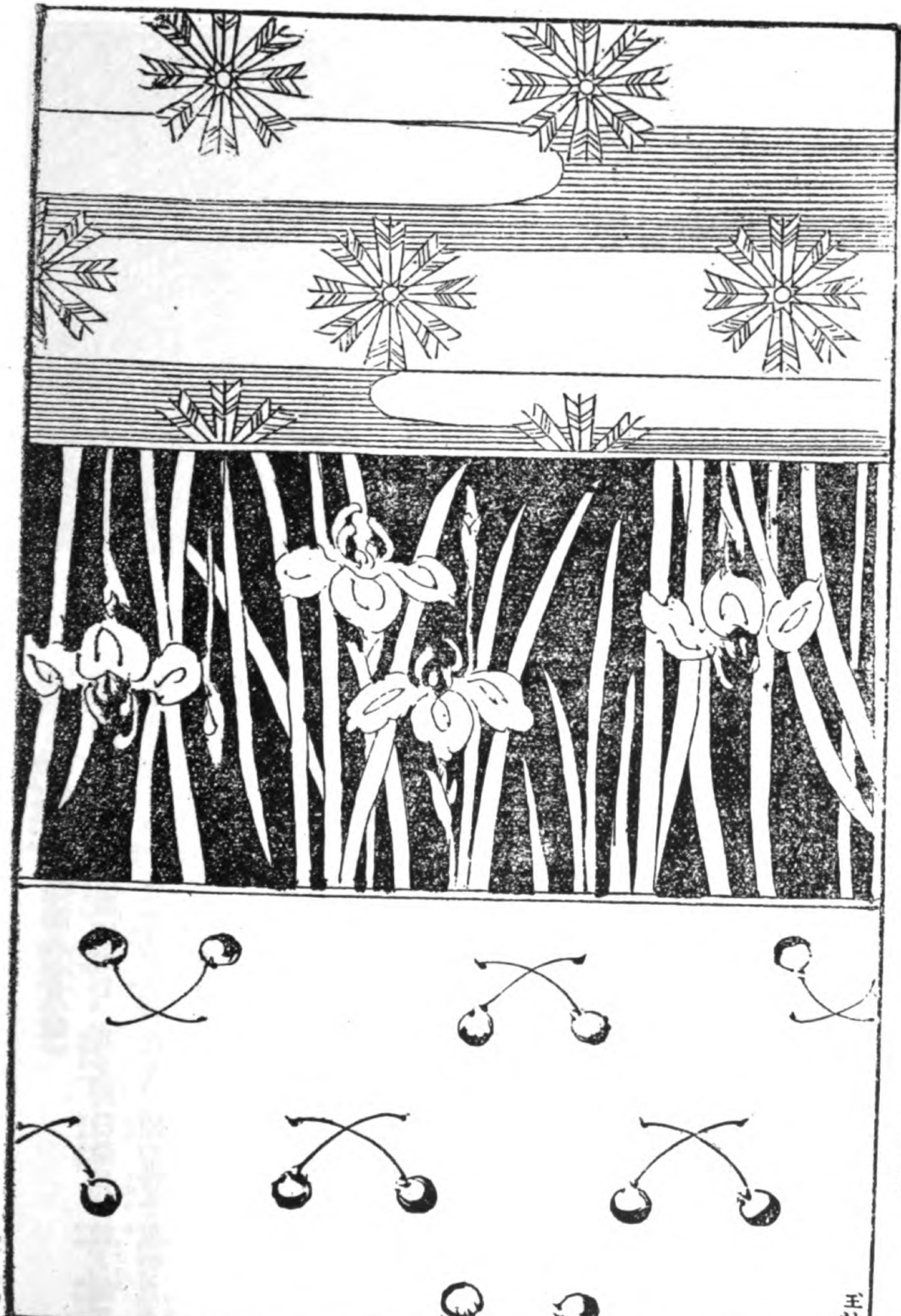
中形縮　（壹圓八十八錢）

白地に大名縞を白揚に出し、其上に白揚にて錨と龜甲を置き龜甲の中には波を染めたり、紺の紋を置いたりして、至極斬新の中形なり



△花織錦　目下東阪地方に流行せる花織錦は大阪の人矢﨑花子といふ婦人が苦心の餘織出したるものにして、從來の紙布織に大改良を加へ、縱を糸にし橫を總て紙にしたるもの、織上り奇麗にして地質丈夫なれば小倉地の代用として頗る妙なり

Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

才媛詞藻

大町桂月君選

（天）都　廣島　木津川織江

やめる子をさむきふしどにかいいだき
　都の夫をおもふ夜半かな

評　都の題にはいかゞはしけれど、情哀切也。

（地）牡丹　攝津　田中ゆさ子

おばしまに思出多きゆふまぐれ
　蝶のはかげに牡丹くづれぬ

評　情景無量、人をして沈香亭北の美人を想ひ出さしむ

（人）牡丹　伊賀　服部かつ子

今更におきどころなし賤屋の
　瓶にさしたる牡丹一枝

評　富貴の名に負へる牡丹の花のあまり立派なるに、茅屋にふさはしからぬ心地してまどふ。茅屋と牡丹との對照一寸面白

秀逸

牡丹　信濃　田村しげ子

奥庭のきよめ終りて香をかぎぬ
　朝露ふくむ白き牡丹の

牡丹　三河　らく葉子

夢に見し人懐しみたつ庭に
　白き牡丹の花くづれけり

牡丹　美濃　荘加不二子

いさら川水上遠く流れ来し
　一片牡丹くもの子乗れる

牡丹　廣島　和知廣子

亡き夫のうゑし牡丹の花さきて
　小雨そぼふる夕まぐれかな

牡丹　名古屋　鈴木禮子

なき母をしのぶ櫻はちりにしを
　またもおもひの牡丹ひらきぬ

牡丹　駿河　林すぎ子

色も香もゆかしき花の二十日草
　わかぬながめをたれに分たん

田家首夏　埼玉　石井ふみ子

よも山は若葉しげりて千町田は
　青波見えて夏はきにけり

都　奈良　成田鈴子

ふる里を涙と共にいでしかと

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

住めばみやこぞすみよかりける
牡丹　常陸　三好桂子

乳母の脊にすや〳〵ねぶる幼な子の
小さき右手に牡丹握れる
田家首夏　石見　青柳秀子

風たえし若葉のかげの水くるま
ひゞきものうく日はくれかゝる
都　足利　大竹よし

草かげに死わさりで古の
都しのべばなくほとゝぎす
都　信濃　竹鼻はる子

夕暮をわめ降り出て狐なく
ほろびし國の都さびしも
牡丹　大阪　田中しゆん子

小雨ふる野道行きますわま君の
墨ぞめの袖に牡丹ゆらめく

佳　調

都、牡丹、田家首夏、　神戸　都留子

風ひ止まむ都の空は戀しけれど老いたる母のひとりいませば ●　弘前　平山ちか子

契おきし友はきたらず終日をまる窓こしにちる牡丹みし ●　定子

むぎ刈にみな出でゆきて靜なるわらやのかどに白はとむるゝ ●　照子

一本の牡丹の花に賤が家も富みさかねたる心地こそすれ ●　伊勢　木岡とみ

家はみな門を開きしまゝにして月と蛙に更くる一村 ●　大阪　井上桂子

簾あげておぼろ月夜に化粧水捨つる岩橋牡丹こぼるゝ ●　德島　深尾富久子

丸窓に鸚鵡を馴らす人見ゐて牡丹ばたけの雨しづかなり ●　美濃　荘加不二子

天さかるひなにし有れと住みなれて都慕はぬ人となりけり ●　東京　舟木かほる

燭もちて後殿すぐる名月夜牡丹の御苑たゞ仄白き ●　和歌山　桑原くに

咲き競ふ色のまる山あらし山花のみやこと人はいふなり ●　下總　石渡けい子

外国に暫し別るゝ形見にと君が手植し牡丹花咲く ●　小石川　佐々木まさ子

源氏よむ聲しきりに廊に入れば牡丹こぼれて雨しづかなり ●　駿河　菊池武子

田植とる人影絶ゐてたそがるゝ小田の畔道うつぎ花咲く ●　和歌山　平田靜子

孔雀飼ふ鳥屋のみなみのおく庭の牡丹くづれて日は斜なり

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

● 安房 波戸まつ子

床の上の牡丹くづれて箏の緒のおのづからなる雨の夕ぐれ

● 和歌山 西口華子

牛ひいてかへる山田の夕月夜はつ音ほのめくほとゝぎすかな

● 京都 三の宮露子

都とは鬼のすみ家の名なりともしらでぞ来つる今しくやしと

● 横濱 基子

歌合はせて歸るさ紙燭して牡丹ながむる夜の渡殿

● 京都 中御門春子

春見て来夏見て死ぬと年寄が謂はひなの土となりけけり

● 周防 矢田都芳子

門田なる麥のはしり穂見ぬそめて夏は来にけり新藁つまん

● 下野 花子

植て愛でにし父のなき庭にむかしながらの牡丹花咲く

● 静岡 根岸せい子

姉上が愛でゝ育てし鉢植の牡丹も今は形見となりぬ

● 土佐 うめ子

我妹が手植し庭の深見草今は手向の花となりつる

● 紀伊 石井亀代

鉢うゑのほたにつぼみぬめでましゝ我背の君のいつかへり来む

● 播磨 中村八代子

あへなくも散りてかせにし姉君が手植の牡丹今年も咲きぬ

● 大垣 栄葉子

病む児のねむるしばしを戸によればあれし小庭の牡丹くづるゝ

● 大阪 西島喜美子

青麥は尺に延びけりわがせこの病未だ癒えすひとり草ぬく

● 小石川 松井富江

夕月よ卯の花にほふ小山田の垣根のながれ蛙なくなり

● 大阪 三浦あさ子

雨風にむかひて深見草深くも花を思ふかな

● 岐阜 山内みい子

亡き父のうゑたまひたるはつかぐさ昔ながらにさきいでにけり

● 青森 遠藤かつ子

主人病みて近き日ごろを手入れざる牡丹に寒きひるの雨かな

● 長門 植村せい子

前栽の牡丹の花に蝶むれて鐘の音遠く庭静かなり

● 岡山 有本歡子

姫君の病重りて廣庭の牡丹にそゝぐ雨しづかなり

● 小石川 渡邊すみ

白き赤きそのふの牡丹かたぶきて柴のそで垣雨しづかなり

● 岐阜 柴田春子

箏の音のかすかにひゞく庭の面の牡丹にひるの雨しつかなり

● 巴町 かれ子

大とのゝ宴ははてゝ燈消ぬて月なき庭に牡丹の香高し

● 金澤 小泉千佐子

櫻花散りにし後の春の色をひとり占めたる深見草哉

● 和泉 井上登美子

舞姫の高欄下る廣庭に牡丹くつれて蝶見えずなりぬ

● 日向 紀藤粂子

羽づくろふ鶏やすむ垣のもとの牡丹くづれて春の雪降る

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

懸賞歌 第六號

● 石見 菅柳芳子

讀經するこゑはた絶えてまひるとき牡丹くづるゝ山寺の庭

● 長崎 山口丸子

たぐひなき君しろしめす日の本の都にならぶみやこなからん

● 青柳竹子

いやましに故郷の母の戀しきに侘びて都になど上りけむ

● 播磨 森脇つや

妹が寵愛の牡丹芽をふきて心ありげに春雨の降る

● 熊本 豐子

まく花にいとゞ思ひのふかみぐさめでし亡父は苔の下かげ

● 駿河 林すゞ子

いにしへのおもかげいづこ日に月に色香ましゆく花の都は

● 美濃 田村濱子

ひらきなばいけんといひし妹あらず庭の牡丹のひとり花さく

● 佐賀 大塚つゆ子

衰れ昔のあれし庭面に花ぼたん靜かに笑みて春雨そゝぐ

● 大坂 鶴子

見おぼえの友の傘さへまぎれけり雨のふる日の都大路は

● 陸奥 平山ちい子

奥殿に姫君みえず夕ぐれをその葉すべりてちる牡丹哉

● 河内 眞白ゆり

なべて世にもろきは花の常なるを咲きつゞきてもはつか匂へり

● 肥前 松下露子

星河に網ひき入れて賤男がうたう聲にぞ夏は來にける

● 麴町 寺島かほる

絶間なく降る雨脚の早ければ堰もあふれて蛙鳴くなり

● 神田 高橋ふさ子

きてみればさすが都は花なれど忘れがたきはぬまざとのゆめ

● 羽前 花露女史

蛙なく田づらの里のむぎのほも色づきそめて夏は來にけり

● 愛知 藤井すま子

つくろはぬませにうばらも咲そめて庭をしらする小田の一つ家

● 神戸 杉田鶴子

田畑つゞき若葉の奥にいかめしきのぼりたてるや村長の家

● 神戸 岩松まさ子

我庭の牡丹の花にねむる蝶いかにうれしき夢むすぶらむ

● 岩代 齋藤吉子

實なへし長者が庭の深見草夕日しづか花に片のちる

● 山梨 望月しげ子

亡き妹の手植のぼたん咲き出でゝおもひ出多き朝ぼらけ哉

● 駿河 菊地武子

我が宿のぼたんの花の咲きしより折々しらぬ人も訪ひけり

● 岩手 千葉松子

蛙鳴く水田の岸の賤がやに卯の花咲きて夏めきにけり

● 名和しれん

わく雲を見るたび毎に思ふかな都に居ます兄がいかにと

● 長野 平林貞子

小山田の畔のすみれも色あせて青葉おぐらき夏は來にけり

● 函館 横川とめ

花は皆散はてんする我が宿に春深見草咲初めにけり

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

● 若葉して影もみどりの田の水よ遅咲櫻散りかゝるかな　麻布　松田實子

● ありし世の名殘を止めてかなしきはふるきみやこの夕暮の鐘　磐城　内山房女

● ふたつなき都はこゝよこの里に生れてこゝにくちはてん身は　高知　北川すて子

● 目もはるに若葉となりて野も山もこゝろもがへすゝ夏は來にけり　備中　高見あい子

● 世をはなれ清き庵に倡ひとりあさ夕めづるふかみ草かな　周防　中谷乙羽

● み影石の女夢子男獅子をおく庭に牡丹花咲く村長が家　千葉　大矢春子

● 今日は上野あすは九段と手をとりて姉と歩きし都こひしき　千葉　平川翠貴子

● 蛙なく山田のくろのうつき花咲ける見れば夏は來ぬらし　東京　鈴木米子

● 父君の病ひ代いへず春は來ぬなしや都の花も散るらん　横濱　石川たか子

● たのしげに蝶もむつるゝ花そのに春ふかみ草さかりなりけり　伊勢　宮崎光子

● 牡丹花咲きのさかりは夕月のほのめく影もさやけかりけり　弘前　三宅亮子

● 藤の花のにほふ垣れの里川に夕日ながれて蛙なくなり　堀川町　箕子

● 　和歌山　矢野幸子

● 我がいほは鹿の聲きく里なれど住めば都と慕ひぬるかな　東京　まつ子

● 何にとなき雲のゆきゝも君ませばこゝろにかゝる都邊のそら　箏の浦　春枝

● 有明の月を青葉にのこしつゝ門田の早苗朝風ぞ吹く　麻布　藤子

● 雨の日を遊び暮して葉がくれ牡丹の花に蝶の宿れる　芝　植木まき子

● 花はまだ散り果てもせぬ小山田の賤のさ庭に若菜さしけり　陸中　本木まつゑ

● 廣庭に咲ける牡丹の紅き白き色なづかしみ胡蝶とぶなり　千葉　石橋たか

● 早苗とる小田はいつしかたそがれて鄙歌をかし畑のなが道　伊豫　徳田政子

● 學び舍へぬ母君よびて此春は都名どころかぞへ巡らむ　群馬　芳子

● 行春の名殘りもいとゞ深み草になららぬ色に咲きにけるかな　熊本　まつ子

● たち花の香る軒ばにきこゆなり早苗とる子の里歌の聲　岡山　橋本芳子

● あれはてし長者の庭にときめきし名をとゞめても咲く牡丹哉　館前　かをる

● 朝夕にわすゝまなき君います都ときくもなつかしきかな　波島　辰子

● 千町田の末もおくらゝみとりして夕暮ちかく蛙なくなり

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

● 美濃 小川千秋子
舞ふ蝶の羽風もつらきおもひして花さきいでぬ白ふかみくさ

● 伊勢 山本藤子
ふるさとの我が母上は見せばやな都の春の花のけしきを

●春海 伊藤安子
荒波のあらひも見えず花の海海原とほくかすみわたれり

● 蒲生なほ子
眞帆片帆行くとも更に見えずしてねぶれる如く春のうな原

● 南條千世子
打霞む富士の高根をあふぎつゝ船路のどかに春の海ゆく

● 原田みつ子
金色の波にゆられて眞帆片帆春の海路を誰かゆくらむ

● 平澤わか子
山櫻にほふ木の間ゆ見おろせば波靜なりはるの海原

● 田中ちか子
ちすらく〳〵霞さえゆく春の海の沖に見えそむる紫小島

● 松本文子
はしゐして海原とほく見まもればかすむ波間を鷗とびかふ

● 石塚とし子
こゝかしこ浮べるがごと舟見えてのどけくもあるか春の海原

● 小笠原政路
島一つ大船一つ沖に殘し霞にくるゝ海靜かなり

● 佐々木信綱
春のうしほ既にみちたり船出せむ我願ふ國はありもあらずも

和歌兼題

苗代
港
足利尊氏
（〆切五月十五日）

才媛詞藻

▲家庭日記
▲寫生文　（〆切五月十五日）
▲雜文

▲各地料理　（募集）

投書文規程

投稿用紙は半紙又は罫紙二つ折（和歌は端書に限る）の事▲題目の下には必ず住所姓名を明記すべし▲文字は必ず楷書又は行書にして叮嚀鮮明なるを要す一種にして數葉に亘るものは必らず右方の上部一ヶ所を紙撚に綴るべし▲〆稿は博文館編輯局女學世界宛させらるべし▲投書原稿一切返却せず

Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

雨後の我庭

土佐　益枝

曉告ぐる鷄の聲に夢おどろかされて、雨の音きくとも無く又とろ〳〵とまどろみにけるが、折しもなつかしき母君のみ聲に目さめて、急ぎ床はなれて例の事どもすみて文机によりつゝ、そと庭の面見出せば雨はいつのまにか晴れゆきて、濕ひのこれる霧島の花眞紅の色の一しほ增して見ゆるが、折から雨雲破りて匂ひ出でたる朝日をあびて、ところ〳〵に宿れる露の玉の金色にキラキラと、かゞやき渡れるいと珍らしう覺ゆるに、彼方此方庭の隅々までの若葉と云ふ若葉に迄とめおける露さながら白玉のやう光り出でゝ、とりどりに五光させる樣げに美はしとも美はしや。

只に見いりたる折しも、同じ心かひら〳〵と舞ひ來たる胡蝶、一しほのけしきそへて。

わゝ今日はじめて知りぬ。春雨のうれしさも、朝日の美しさも。

常にはみふりし我庭ながらも今日ばかりは、いとをかしう眺め入れぬ。

藤

米澤　神尾くに

花は根に鳥はふるすに歸りし吾庭に四五本の杖つきたる老松によりて紫に咲きいでたる春の名殘の藤の花またなくゆかし枝のみどりも見えぬまで房長くやさしうかゝりて紫の雲かと計り匂ぶ樣何にかたとへつべき古き人の何にかゝれる花と知らまじと詠みしはかゝる景色にやわらん池の面に寫りたるは水の底より咲きいでけんとおもはれ吹く風になびきてたつ紫の波に赤き黑き白きなど色々のうろくつ集ひあそべるさまいとめでたしかくおもしろき此景色ましてや春のかたみの藤浪のゆかりの色よそにやはながむべき

磯邊の景色

橫濱　吉田辰子

雲かとばかり咲き亂れたる都の花をあとにして藥師の君のすゝめにより此さびしき磯邊にうつりてより春のゆ

Digitized by Google

Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

めのそれにも似てあだのまにはや五十日餘も過しぬ。もとより花の都に比ぶれば事の便はいとわしくましてや去にし日より出でたる五月雨に訪ひくる友はたゝ軒端をつたふ玉水の音のみ今は見ぬ世の文てふ文にも見あきさびしさいとゞまさり行きつふと前なる小まど押しあくれば磯のけしき實に捨てがたし空はれて水清く澄み渡りたる日など夕榮の美しう黄金の色を浪のまに〳〵キラ〳〵とうつし沖こぐ船の眞帆片帆あるは夫が一日の業につかれしを磯邊にむかへなぐさむる妻子の風情など都には繪にだも見得ぬながめにしあるをと思ふに雨中の景は又一しは黒き雲の幾重にかさなりはては何れが雲何れが水のつゆ見わけがたきまでにもの凄く又すてがたく、やめる身をも打ちわすれ乳母が注意により景色に名殘のこしてまとはしめぬ嗚呼ゆかしやな此磯邊されど都では我身を楽じまします父母あるものをあはれ。

雨中の松原

佐賀　德田秀子

しつとりと濡れた裳ずそをかゝげて、右の手に斜めにすぼめた蛇目傘を持ちながら、城山のふもと、招魂社の前の松の樹陰に立つた。一しきり降りしきつた雨は。恰度、今、小歇みになつて、松の雫と殘つてゐる。濕の水面に幾つかの輪を作つてゐるのは、あの白銀の玉のやうな雫が松の靑葉からすべり落ちるのであらう。御厩部屋櫓の白壁は、水の面に映つて、城山の上の天主閣は、水烟につゝまれて、唇氣樓のやうに、また、給にかいた夢のやうに、うつすらと其影を空に止めて居る。一臺の腕車は二筋の細い跡を、やはらかな地面に殘して、勢よく走り去る。其あとを、小學校通ひの生徒であらう。裸をからげて走つて行く。

招魂社の櫻の花が二片三ひら亂れ散つた。

下駄の鼻緒のゆるみを直さうと思つて、傘を松の樹株に托し、しばしと鼻緒をいぢつて居る。

小止みの雨は又降り出して、水面の輪は無數となつた。風がさつと吹いたかと思ふ隙に櫻の花が一片――二片――空に舞ひ上つた。

自分が其花びらに見とれて歩みだした途端、あつと言つた機會に、しめりにしめつた下駄の鼻緒がぷつゝり。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

恰もそれを笑ひ顔に、風は松の小枝を搖動つて、その葉は奇しげな叫びを立てた。

城山は雨の中に見えなくなつて、櫻の花がまた一ひら――此度は自分の傘にひつたりついて、梢を鳴らした風は、微かな響を傘に起した。自分は切れた鼻緒の下駄を下げて、宅へと急ぐのである。雨中の松原、そこに人も犬も居ない！

小金井に櫻を見る

和子

木蓮の花白う散りて明星の影やゝうすれゆく春の曙かの名高き小金井の櫻見にとて出で立つ國分寺驛より下りて枯草さむき畔道を辿りゆく弓手の方遠くとほく野の果に武甲の嶺々いかめしく聳てりゆく程に清流布の如き調布の玉川は見え初めた兩側に並び立てる吉野櫻のかすかす枝もたわゝに亂れ咲きて花の白雲わけ行くこともと來し道さへうづもれ果てぬゆけども行けども行手はたゞ花につゝまれてわかず一條の帶を曳けるが如き玉川は遙かに流れゆきておるは激し或は急に時にはよどみて緑なる淵をなし時としては堰かれて雪のごとき湍をなすわゝ此流れこそ賤が妻木の斧の音高う峯に木つとふましらの聲ものすごき甲斐の高嶺に湧き出でゝ木の下露しげき谷間をつたひ一度は御嶽の山をも流れ來しとや

その名もやさしき櫻橋とやらむにいてへはこの邊は若やかなる木一もと二本いとまばらに立てるのみにて早花に蔽はるゝ堤もかぎりとぞ見えける

桑の花の黄なる間をぬひ桑の木の淋しげに立てる細道を行けば水車の音はのかに折々鳥のしはなく聲しつゝやうやく境驛と云ふにいきつきぬ

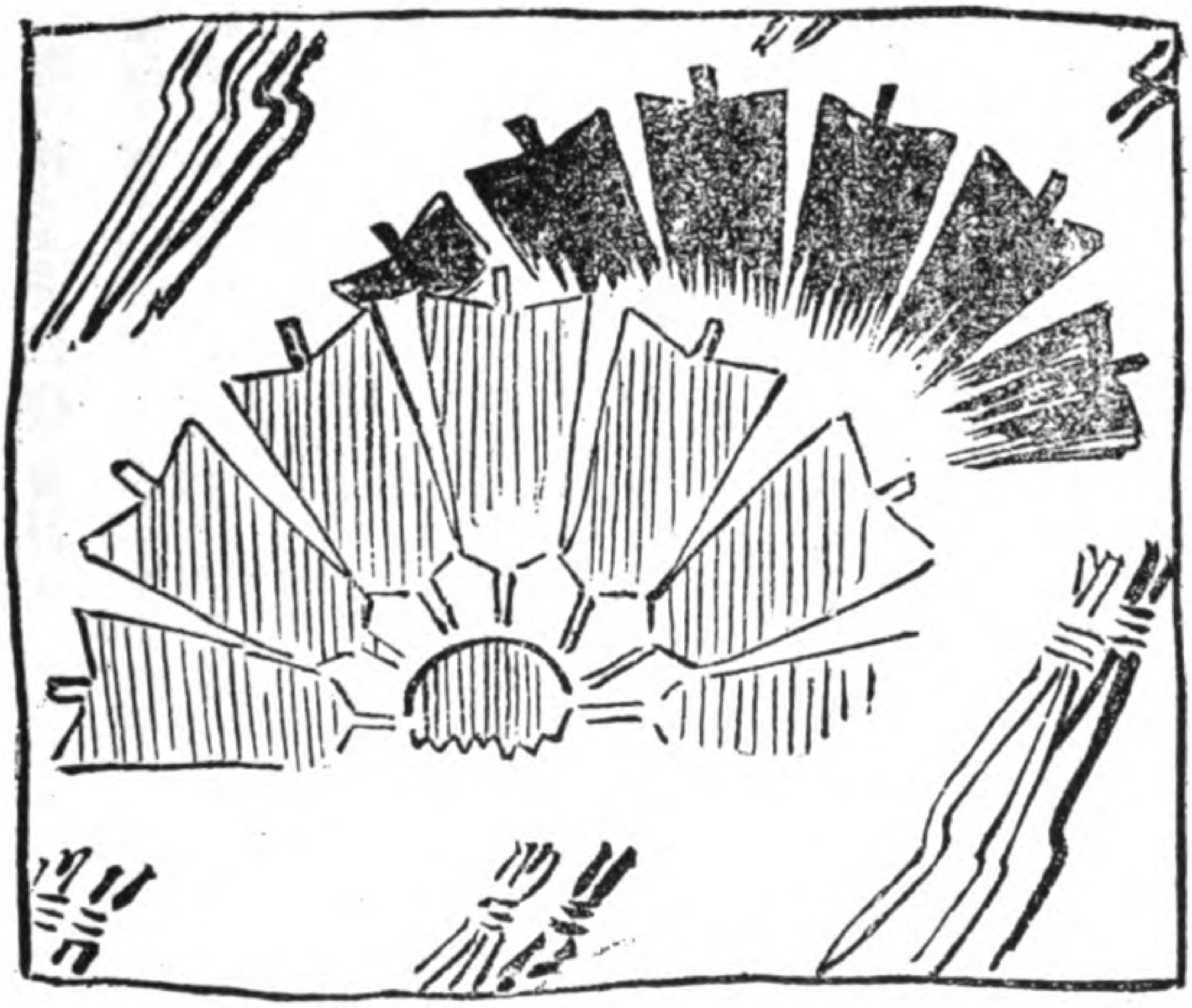
山里の春

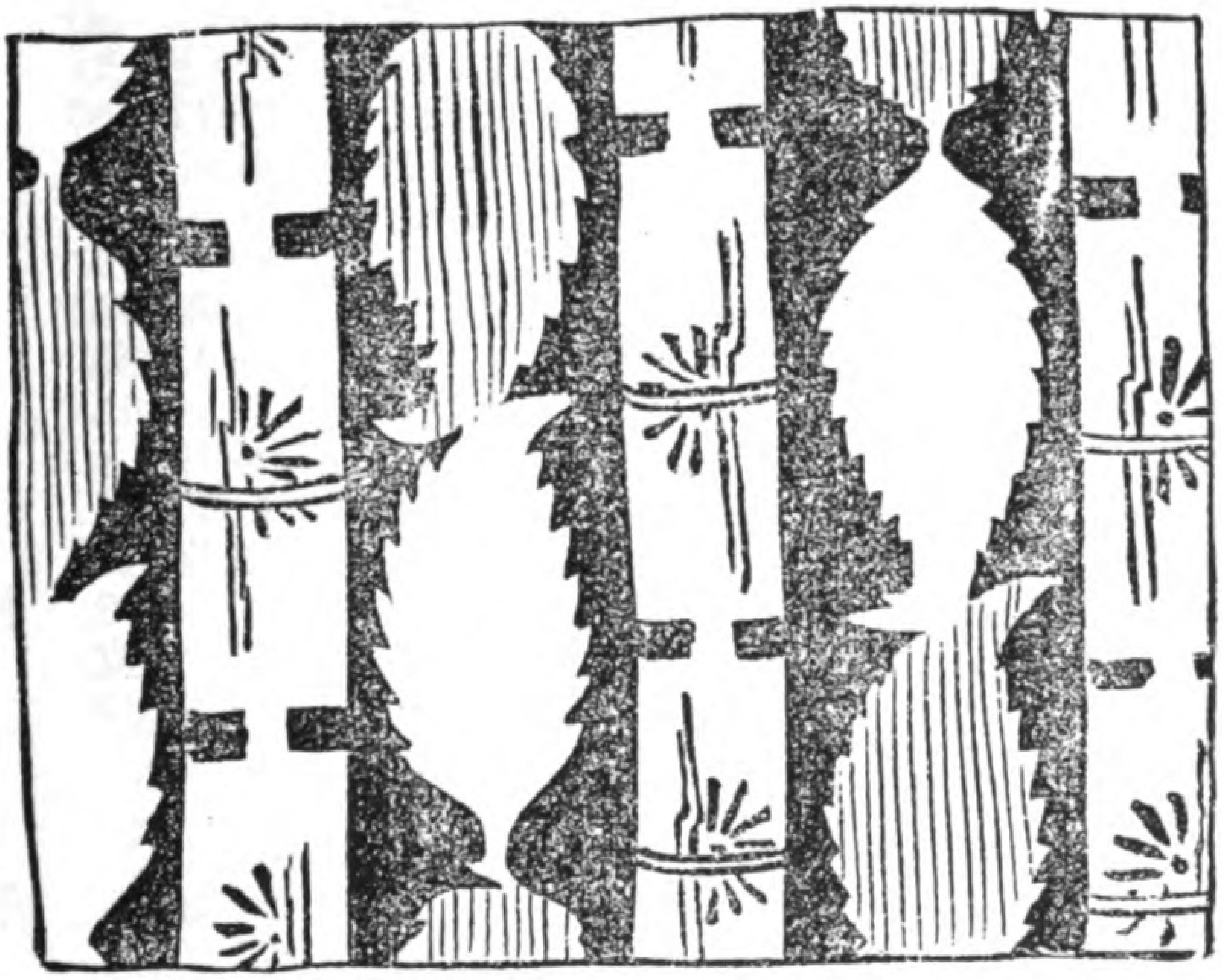
湘賀香雪

終日の讀書につかれ果てければいざや外面をさまよいて聊か心をなぐさめんとあても無くたどり行けば草のみどりも色まさりて長閑にかすみ渡れる野邊のけしきはいひしらず小川の流ゆるやかなり日頃なつかしき學の友

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

端午の意





櫻井驛の意

の打むれてつばなすみれなど摘はやしつゝ互にたわむれて己がわたりのは取もせで人の袖の下さるを急ぎつみ爭ふまに摘みためし袂よりこぼれ落つるもしらで他人に拾はるゝわいと心をうきわざながらへだてぬ友はいかばかり樂しからん折しも山の邊に鶯の聲かすかに聞へ牧場に小牛の吼ゆる聲などげにたのしきは山里の春

Digitized by Google

Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

うす月夜

岩手　金田りら子

ぱか〳〵と暖かりつる春の日影野末にうすく暮れそめぬ。菜の花つゞきの山寺の鐘霞をもれて餘音長く響き渡れば野中に淡きひとすじの野守が藁屋の夕げの煙も動かんばかりなり。

舞ふ蝶も羽をやすめて咲きつゞく
　菜の花畑に日は落ちはてぬ

牧の童が草笛はミューズの神のみ聲かそも。かざせる白梅ひと枝風なきに散る二ひら三ひら。のたり〳〵と縄手を辿る牛の姿もやさしげなり。

仰げば一痕の月中天に朧なり。あるかなきかの春の夜風身にしみて折々交るいひ知らぬ香の其としるけれど四面かすみに埋もれて見るに由なし。

風折々小笹を渡る古河の
　橋のうへ寒しおぼろ夜にして。

うす月夜野路の大橋をこえくれば
　梅が香そよと鶯のなく。

青々としたる麥畑をうしろにひかへて小川にのぞめる茅屋二つ四つまばらなり。眉ま白なる翁月を背にして馬に水かふ

歸り來て野路の小川に水かへば
　痩せたる馬の月に嘶く

咲きみだれたる汀の菫絶えずさゝやくさゞ波に濡れてこそいとゞやさしけれ。うたふ唐歌すみゆくまゝに園生の櫻心ありげに散りみだる。

おぼろ月光とゞかぬ花かげに

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

唐歌うたふみやびをやたれ
うす曇りせる月の光にすかし見れば、はたと止みぬ。
晴香むなしく袖をめぐりて寛の水のおとのみいと高かり夜やふけぬらん。

花の頃野山に遊ぶ

山口　中谷登羽子

四方の山々春深き花の錦を着飾りて眺め見あかぬ今日此頃の好時節を空しく破窓の下に過さんも。いと本意なければ。心へだてぬ友垣三たり四たりいざなひて。露しげき畔の草路ふみ分け。はかなきことゞも語りあひつゝ打つれて野に山にとあこがれいでぬ。佐保姫のをりなせるこぞめの錦分け入れば今や爛熳と咲きはころびたる山櫻。こゝろなき此山里の童等に空しく折らすはいと惜しきものなるかな。あゝ櫻は花中の王といはれしも實にことはりにこそ。あはれ此花いつ迄も美くしき姿とゞめよとつぶやきながら一枝をりて家づとにせんものと。手に手に、手折つゝ殉も彼方此方の枝を求むる折しも。そつと吹きくる春風に美くしき花びらは。はら〳〵と我等が袖に散りかゝり恰も小紋の小袖を着たらんばかりにて美くしさ云はんかたなし。あゝさるにても情なき今の嵐よとつぶやきつゝ仰ぎ見れば。み空に遠く歸る雁。いざ我等も家路に迎はんと山をくだれば。こゝには浮世のちりをはなれし淸き庵あり。しばし足をやすめむとて立寄れば。内には六十年をこえし白髮の翁中々の風流人にて歌をよみ茶を立てなどして四方の景色を眺め居しが、たゞちに我等を座敷に案内し。いとねもごろに茶菓を進めぬ。室内は至て質素なれど品よく裝飾せられ主人の趣味深き心ばえさえ表れたり。やがて欄干によりて庭の景色を眺むれば築山に驚なき泉水に鴛鴦うかび。此方には今を盛りの八重櫻さき匂ひ。彼方のまがきには、まだ咲きそめしばかりなる糸櫻の人なつかしげにはゝ笑める優しき姿のちら〳〵と常盤木の間に見ゆるもいと面白ろければ餘念なく庭の景色を眺め居たる折しも寒からぬ風のいづこよりか吹き來りて梢に觸るれば花びらの二ひら三ひら舞ひ落つる狀得もいはれぬ風情なり。折しも柱時計の六時を報せしに驚き雲井はるかに見渡せば塒にいそぐ小鳥のかげも見えはかずなりぬれば、いざかへらんと主人に

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

別れをつげ互に花をたゞさえつゝ門外にいづれば夕日は。はや西山にしづみはてゝあたりはの暗し。そゞき渡す草葉の露は恰も水晶の如くきら〳〵と星の光に映じていと美しく。家にかへりしは午後七時なりき

涙

土佐　益枝

あはれ、一滴の水にして、よく人の心を動かす物は、涙なり。あはれ、一滴の水にして、よく鬼神をも感せしむるものは、實に涙なり。

あはれ涙、涙は只一滴の水のみ。然り。然れども此水折につけ、物にふれて、一度涙と變ずるや、げに幾千言の言葉にも增して、無限の至情を表し、以て聞く人、見る人をして、感せしめ、喜ばしめ、或は悲しましめ、或は狂はしめ、猶進んでは天地萬物をも感動せしむ。あゝ此の色無き水、あゝ此の水晶の如き露、いかなればかく怪しく奇しき力を有するぞ。はたいづくにか、かゝる力を秘めたるぞ。げに奇しきとも、くしく、怪しとも怪しきものは、涙にこそ。

さばれ、かく奇しきものにも人の如、はかなき運命はあるものか、彼の上臈の睫毛重げに、宿れるは玉の如くて、優しう、下臈の眼に滿ちたるは、霰の如くて、烈しう、忠臣孝子の袖を濕せるは、香ぐはしくて、尊はしう、義士節婦の胸にかゞやけるは、凜として勇ましう、子にそゝぐ親の雫は、暖かくて、なさけ深う、寡孤獨の人におけるは哀れに淋しう手弱女の長き袂に宿れるは、艶に、なまめかしう、稚兒の愛らしき目に浮べるは、罪なくていぢらしう、あやしきものゝ装へる涙は、淺ましくて、馬鹿らしう、佞臣姦婦の衣をひたせるは、けがらはしくて、いと恐ろし。如此同じ露、同じ雫と雖も、涙となりて表はるゝや、宿れる家、即ち其人の心によりて、如何ともなるなり。もし、そを宿せる心善ならんか、優しく香ぐはしき、露となりて鬼神をも感せしめむ。もしも、その心惡ならんか、淺ましく、けがれたる雫となりて、家を滅し、國を傾け、後世迄もそしられ笑はれむ。あゝ實に此の涙の運命を左右するものは、人の心なり。あゝ思へば人の心の恐ろしや。思へば危き涙の運命や。

あはれ涙よ。心あらば、悲しう、はかなく朝の露と消ゆるとも、恐ろしき雨となりて、夜半の嵐に添ふなかれ。

Digitized by Google

Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

あま少女

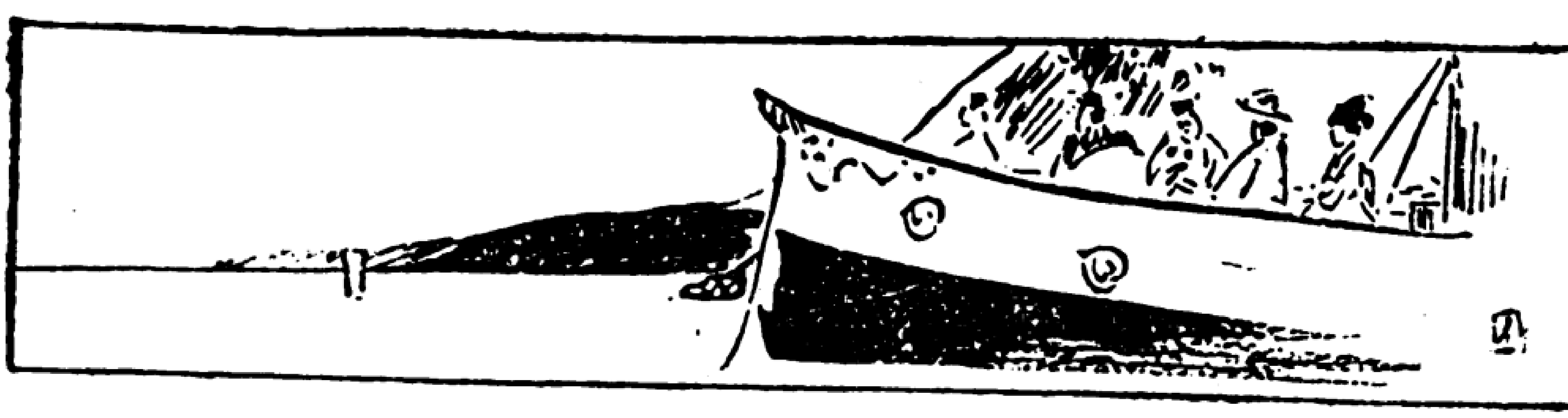
大阪 星あき子

荒磯邊なるゐばらやに
われは少女と生れたり
よせては返る白波を
長き我世の友として、

新潮わきて夕日さす
白砂の濱を驅けゆけば
浪手をあげて我を追ふ
あゝ面白きわがさちよ、

我秘めごとをさゝやけば
波は誓ひてうなづきぬ
あひらしき浪なれもまた
我をとこしへに愛すらむ、

紅き珊瑚よ貝殼よ
我が爲め浪はもたらしぬ
紫金の花さくわたりより



鹹さうしほのわく邊より、

唯戀しきは雲へだつ
とほつ海べの父上よ
いかに波らせ玉ふらん
浪よ憐れめわが胸を、

少女よ憂ふこと勿れ
神は守らむ汝が父を
ゆふ波低うさゝやきて
我を慰めに導きぬ、

嵐

土佐 登枝

浪の音　　風の聲
只高し　　人の世に、
波をけり　　風うちて
船ときし　　我が父や
いかにせし　　此嵐
潮わく　　印度洋の

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

荒浪に　たゝよふか
峯白き　ヒマラヤの
夜嵐に　もまるゝか
いかにせし　我が父は

をはばれぬ　塵の世は
暴風の　裳にて
哀れ神　守れよや
印度洋を　我が父を
幸たれよ　人の子に

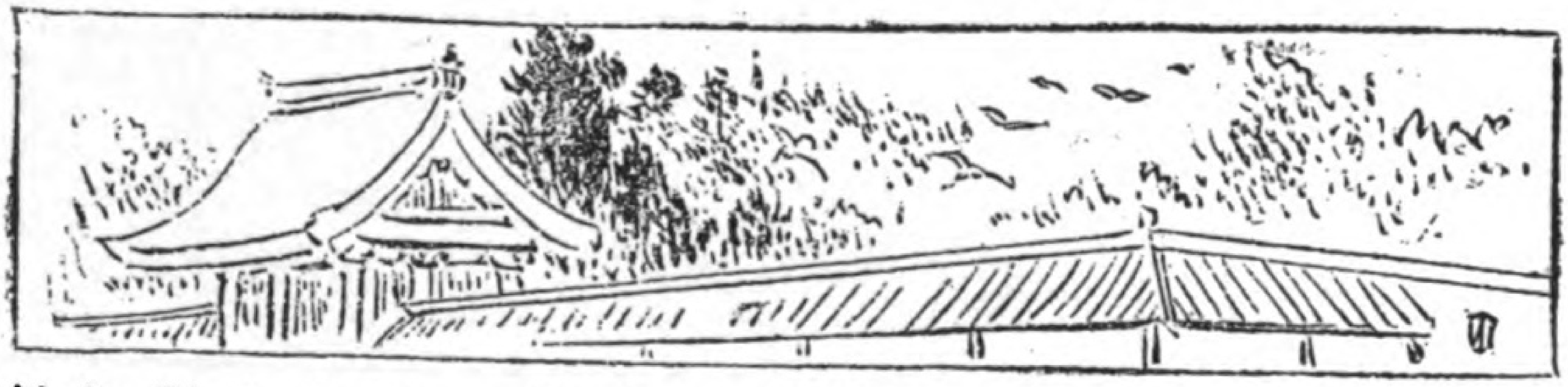
虹

小石川　佐々木　まさ子

軒ばに近き天の弓
憂のかげを逐ふとてや
天つみ使立ちまして
希望の征矢を番ふらん、

あゝ美しき虹のかげ
薄雲かゝる大空の
尾上の松を横切りて
白帆ならべる川に落つ。

世ははのくらき黄昏の
なやみに沈む詩人よ
この美しきかげ見ずや
涙の雨に虹たつを。



夕暮の歌

三河　都筑　博子

雲きよく紫匂ふ、　夕映の空をゆかしみ、
砂白き濱を辿れば、　碧瑠璃の海も眠りて、
漁業の海士さへ見へず、　これやこの夕ぐれの磯、
黄昏の色に迷ひて、　雲か山か沖邊遙かに、
消え行くや淡路島影、　その名殘浪に埋もれ、
かたちなく色彩もなし、　これやこの夕ぐれの島。
夕ざれば海原とほく、　白帆影歸路ゆたかに、
白鷗の夢にさながら、　磯山の松が枝拂ふ、
そよ風や子守の歌か、　これやこの夕ぐれの舟。
影はるか霞に浮ぶ、　青柳の大浦の里も、
徐ろに淡く暮れゆく、　幽見ゆる漁火燃えて、
新星の水に漾ふ、　これやこの夕ぐれの里。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

海宮の姫がかなづる、面白の琴の音かそも、
卷き返す夕べの波に、悶えある胸を包めば、
身はいつか浮立つ思ひ、これやこの夕ぐれの波。

まこと

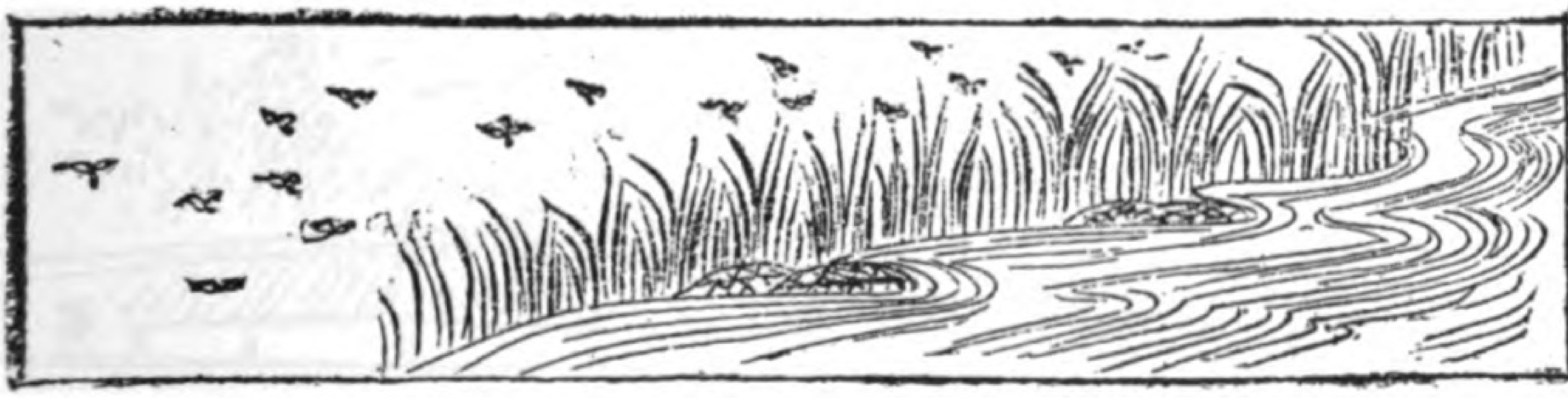
備後　さくら子

繪の美くしと見らるゝは
うつせる繪師の心根に
もゆる思のあればなり。

歌人いかに歌ふとも
心のまことと通はずば
人を動かす詩はあらじ。

琵琶の音よしと聞ゆるは
奏づる法師の胸元に
あふるゝ同情のあれば也。

彫工の術をつくすとも
もしや想のけがれなば
きざめるのみの甲斐あらじ」



家庭日記（一九〇）

なみ子

▲五時起床　釜の下を焚付なから石井研堂さんの下女學校參觀記炊事科の事など思ひ浮めつゝ都と違ひ田舍の　心易しさい置き向ふの橋を渡れば數里の松原杉林焚　付などは一寸行ても一月二ヶ月は拾て來らるゝ都は不自由な者と思ぬ今日は影山さんの奥さんと新課長さまの許へ行く約束あれば手早に跡片付て御出を待ぬ十時五分御出、奥樣曰く貴女どの位の手土産御持になと妾貴女か三十錢位いなら私しは二十五錢と思て居りましたと云へば貴女も面白き事を云ひ給ふ人かな月給の百分の一か大笑されぬ共に近所の菓子屋に至り奥樣は三十五錢妾は卅錢の菓子折調ひて課長樣の御宅に上りぬ上方のお方とて誠に面白き方なり影山奥さんも妾も歸る時は奥樣小間使中働飯焚と千變萬化する身故何れ劣らぬヒヾの切れた手の晴着の繻子の袖口に障りて手を動す度にヒリ〳〵と音するも誠にきまり惡るかりしよ十一時半暇を告て歸宅夜は例の如く糸繰り十時過床につく

二十四日晴れ　中村樣は茂木へ御轉任神町停車場迄御見送申さん積りなりしも芝田奥樣櫻井奥樣影山奥樣も皆赤ん坊のある御身一里餘りの停車場迄は中〳〵六ヶ敷妾か内の傍なゑ白澤津川の橋の上にて御別しぬ集合離散は私等の常なから別は

Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

誠に厭な者なり十二時になりしとて曾様を御止め申母上の焚き玉びし粥御飯に大根つけ青なのおひたし煮豆と有合の物で主客食卓をかこんで樂しく食事したり午後曾様歸りし跡は例に因て母は機おり妾は糸繰り四時子供をつれて湯に行く

二十五日晴　お辨當をこしらへんとて帆立貝を煮る子供の傍に居りて何おるかなと問ふ之は帆立貝と教ゆれば左様かと餘念なく遊び居りしに突然「かレヽ貝」坊もたべると大きな聲にて云ぬ母上も妾も堪らず噴き出したり夕方主人伊藤さんをつれて來る例はなくとも御酒上んと裏口より一升徳利片手に酒屋に行き歸りは魚やより牛肉のかん詰(田舍は一人前や二人前と切り賣せず)右の袂に入れ菓子三ツ四ツ左りの袂にそれから豆腐を買ひ集め我と我が様子に呆れぬ之て背に四〆め餘りの重荷をおんぶして居らざりしこそまだしもの幸なりし

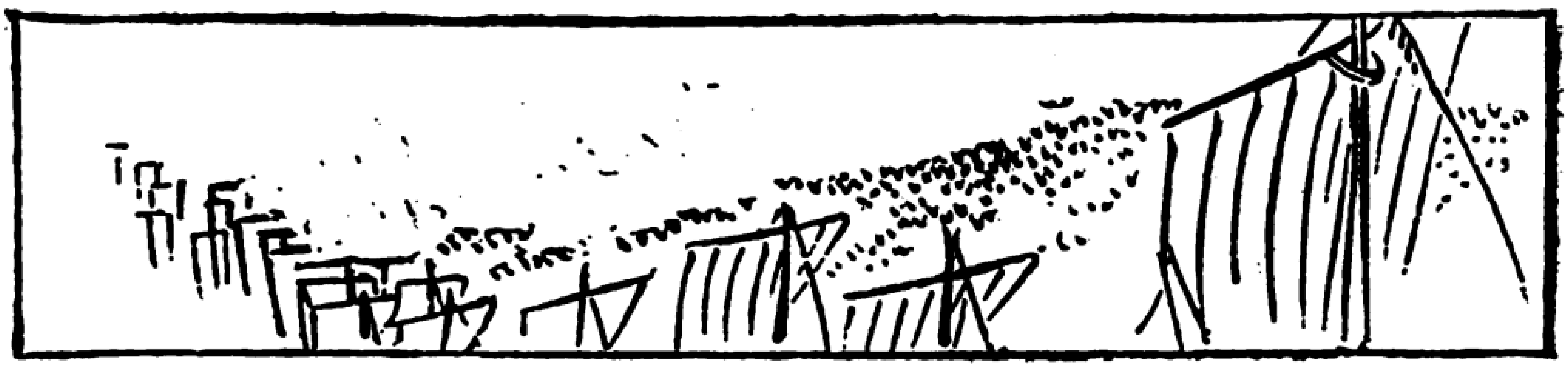
たまやぎ

四月二日晴　母上相變らず御腹痛甚し。且つ御顏の赤味少しも取れず、さればとて冷せば直に總身しびれてふるひ留まらず困た事なり。

妹は昨日よりも氣分宜敷。体温三十八度六分。此分ならばと胸なでおろしぬ。

食物は、鶏卵、山羊乳、鶏肉スープ、米汁等なり、但母は痢にて乳は飲ます、後食物、湯皮、百合、鯛の漿貝、くわしきは病床日記にあり、

父上は終日宅におはして兩人の看病なし給へり例の事件にて



某氏より頻に上阪促し來れ共、人手少なき爲め御食事の調度看病子供の世話など目のまうやうなり心計りいらちて病人のお氣進に行かず吾ながら其おろかしきに泣きたきばかり、

在京師の君より婦人界送附、夜御禮狀認む、此四五日帶さへときし事なく妹のすそへ其儘倒ねときに四時半三日晴天五十六度、兩人共別に變りたる、事なし、妹体温三十八、四分、絶ねず冷す、別家の内儀手傳に來てくれし爲め大に助れり。

飲物昨日と同じ、後食物、ウド甘煮、ウドと鶏卵の羹。鯛の鹽焼ウド母様御氣に召したる様子なり

午後上の伯母様より御すし、一鉢に山吹數枝そへて給る、直に看病人等へわかちあたへ花は兩人の枕邊に生てつれづれを慰めぬ。本日は桃山なる吉田氏別邸に於て同窓會開かるゝ日なりさぞや日頃樂しく打興し給ふならん吉田の君とも相見ざる事五年餘いとあひたし光子の君すが子の君は御出席なされしや松浦の君は如何なぞと妹のみとりなしつゝおもひうかぶに戀しさに絶ず一層の事走り行かんかと迄心まよひぬ。されど父上の御心配兩人の苦痛眼前見ながらどーまあ面白おかしく行かるべき。友情薄き者よと定めし皆様のゝしり居たまふならんが、終日煩悶して暮せり、就寢午前二時半。

四日　今日は兩人共いと宜敷。然ど氷にて絶ねず冷す、妹体温三十八度、氷をさはる故にや手の裏割れて帶に觸れば、ばりばりと綿子に引掛り自分の手とは思はれず、何につけても胸に浮ぶは世が世であらばの嘆。

某氏より見舞に鯛一尾給はる早速刺身として母上に差上餘は

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

満窓として鉢に汗のみあたふ皆なりとも心のうき晴さんと花園に出づ。とみれば椿、海棠、あろばは盆子、小米花、下には菫、紫雲英蒲公英草など紅紫白黄今を盛りと笑をきそへり。かゝる破園もへだてなき春の女神は見給て絶す。なやめる吾等をなくさめ顔にかくも美しき自然の錦をおたい給へり。嬉しさも嬉し。白き小米花数枝折取り昨日の山吹と共に古銅花瓶に差入妹が病床を飾りぬ妹は青白き顔に淋しき笑もらして嬉べり。あゝ妹が笑。吾には千金の価あり。

堀口みどり

▲今日は彼岸の入りなり、裏の畑の菜の花初めて咲く、去年の日記見れば同しく十九日とあり、花なぞは割合に規則正しきものよと感じぬ。午前、加藤様、前田様より御彼岸の配り物数く出入の八百屋、如何なる都合にや来らず困る。午後、下女に彼岸の供へ物の草々求めに遣す。

　千瓢、ちやみ椎茸、乾海苔、蓮根、人参、蒟蒻、焼揚、青豌豆、醋、味淋

　品買物代〆金九拾三銭五厘。

夜、母上の小袖縫ひ終る、始めてより六日間、次に小供の袷二枚縫りて止めぬ。春雨のふるにや樋溜の音しきりなり、十時日記書き終りて寝ぬ。

四時鶏の鳴く音に目覚む、今朝は珍らしくも早起きのお祖母様と同時に床を出づ。二階の雨戸繰りやれば、降りとのみ思ひし空の思ひの外、東の方は霽くれなひにほの匂い、空は一面に打



霞むめれど一片の雲もなし。よべの雨に柳の糸も著しく青み、菜花もはや一面の黄絨を布き、海棠真紅に、櫻はうすべにに笑みそむ。げに春は暁と、御祖母様に申上ぐればさなり／＼春の旦ほど心ゆく景色はあるまじ、此景色を見ては老の白髪も打忘れて、己れの昔の春も忍ぶよと笑ひ玉ふ。

五時皆々起床朝飯后直に煮物にとりかゝる、御祖母様、母上、自身下女の四人、皮をむく、切る、洗ふ、火を起す、煮るそれ砂糖、それ何々と、それは／＼目の廻るやう、十一時頃出来上る、先づみ佛に供へ、それより、加藤様前田様由比様山中様、越前屋様及長屋三軒に贈り了りて皆々にて戴く、旨しきもの限りなし

午後横濱の叔母より。男子出産両人とも無事い との御便り届く右取敢へず御喜びの御返事差出す。

夕景より母上と切通しに買物に赴く。

　黄八丈一反（金二圓九十銭）　　眼鉛（金五十銭）

右は叔母様への御祝品

　雑記三冊（九銭）　　圖畫器械一組（一圓五十銭）

　鉛筆一ダース（十八銭）　　手習筆五本（二十五銭）

右は正一郎の學校用品。以上總計金拾圓一銭。小使金の内より假支出。

母上、明日は一番汽車にて起かんとの仰せなれば、少し早けれど八時過。就寢て

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

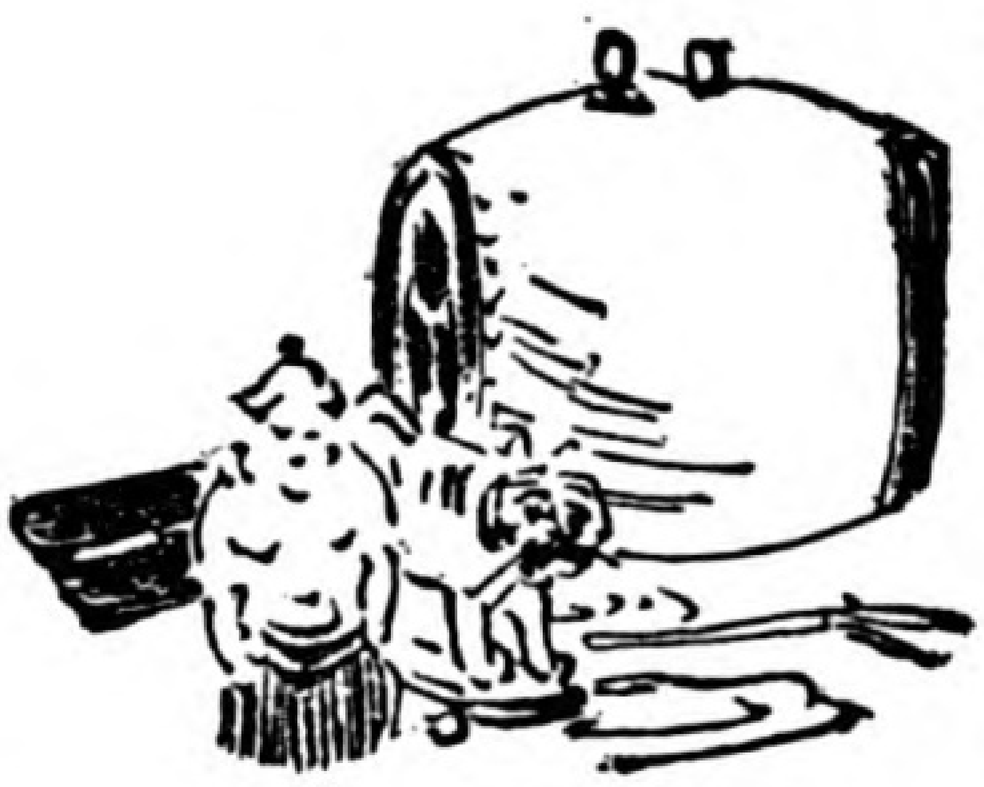
土佐益枝

▲雨、今朝母君やむをえぬ事ありて遠き處のしろべに行かれぬ。一月計の滞在の由にて。留守居にとて去年うちに居たりし菊といふ女又來りぬ。丁度同年にていと心合たるものなりけり共に面白う語りつゝとき物をなす。とかくして雨と話とにくれて、夕げ近くなりぬ。菊の「今晩のおかずは」と云ふに、わが主婦の事とて大こまりこまりにどうしようと云へば、どう致しましようと云ふ計り。此天氣なればお魚もむつかしかろへし、如何にせんと考へし末遂にひろげの殘物とおひ物とに定めて、菊は其の仕度にか　り我は跡片けて、漸く食事になりぬ母君のおはさぬ故か何となく物足らぬ心地ぞする。最早母君もかしこに着き給ひけむなど語りつゝ食べ終り、戸しまりなどすみぬ。明日のにとて丸ほし大根を切り又ときものして九時過き床に入りぬ。軒端をつたふ雨の音に目冴へてねられず、さま〴〵の事などらひ續けられて。あゝ母君はなれぬ床に如何なる夢か結び給ふ思む。折から菊のいびき聲心地よげに高し。

四月十一日○晴天知らぬまに菊の起き出でたるに驚きて怱ち床を離れぬ五時半頃なりき菊は御飯雜巾かけをなし我は上の掃除をなしお汁をこしらへぬ。夕べ切りし物を入れて。とかくして朝げ終り、のりを賣て張物をなしぬ。珍らしきお天氣にて、あまりのどかなりければ二人にて芹つみにと門邊に行く。菜種は無けれども菫は今を盛と咲き亂れ、胡蝶の飛びかへるなどげにうらゝかなり。いと面白くて、そこ、こゝとあさりて、得物も多かりければ、只うれしさに籠の重さも覺えず家に歸りぬ。



さてこを晝げ料にせんとて賣る、折から魚賣り來て小鯛二つ求め、一つは鹽ふりて燒きぬ。之等にて食事すまして着物を縫ひ初じむ、菊も。三時過いたづら事せんとて、裏の藪に菊は筍掘りに行く。老いたれど鶯の聲するに掘る手止めさせて、うかゞへば竹の梢なりき、飛ひやせんと氣遣ひて彼方の隅のをそと掘り取りぬ。かへゝても愛らしき音聞ゐたり。さて筍を責御飯をたき、殘れる鯛をきり、酢にひたし、卵を燒き、筍、芹と共にきり、酢に鹽と砂糖を合せて御飯に入れ我はうちわ、菊はしやもじを持ちて、漸く可笑しき物をこしらへぬ嬉しくて、いとこの花ちやんや鈴ちやんや竹雄さん迄呼びて面白おかしく語りつゝたべぬ。叔母君にもとて殘りしを花ちやんに賴みぬ今日は實に此頃に無き樂しき日なりき只母君の　ますましかばやと其れのみ口惜かくて



懸賞文募集

女學世界定期増刊
（六月十五日）發行

ひめゆり

投書〆切五月十五日限

才媛詞藻
夏の卷

我が女學世界は婦女文藝の進歩を圖るの目的を以て、來る六月十五日を期し、定期増刊『夏の卷』を發行せんとす『姫ゆり』即ち是なり、意匠の斬新なると資料の有益多趣味なるとは今更喋々を要せずされば先づ編輯の準備として汎く作品を天下の女學界に募る、懸賞課題等は下に記す如し時は是れ初夏の好時節滿眸の新綠映發して妍を競はんとするの時、乞ふ徐ろに錦繡の心腸を繰り華麗の筆を揮はれんことを

文種

▲小說（文体隨意）
二十行二十四字詰にて
紙數十枚まで

▲和歌（夏季雜題）
端書に一題一首の事

▲新體詩（題隨意）
▲三十句限り

▲消息文（言文雅文隨意）
二十行二十四字詰にて
紙數一枚限り

▲課題
●女子と交際
●海又ハ山に就て（寫生文）
二十行二十四字詰にて
紙數二枚限

賞品

特賞
金拾圓　壹名
金五圓　壹名

甲賞　金三圓（圖書切符）六名
乙賞　金貳圓　仝　六名
丙賞　金壹圓　仝　拾二名
秀逸　金五拾錢仝　二拾名

注意

▲特賞は小說の優等者に限る
▲和歌の高點は別に乙賞以下にて相當の賞品を呈す
▲課題文中寫生文とあるは寫實的の美文也
▲原稿二枚以上は紙捻にて綴る事
▲封筒には必らず『姫ゆり』と附記すべし

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

時事彙報

●兩陛下の御近狀（岩佐侍醫の談）

申すも畏れ多きことながら　兩陛下御平生には御攝生に御心を附けさせ給ふも　天皇陛下は每年十二月か一月の候には風氣を召さるゝこと慣習の如く爲り給ひしが今年は幸ひにも其事なくして打過ぎ玉體至極御健全に渡らせ給ふ元來　陛下は平生餘り御入湯を好ませられず唯冷水摩拭のみ行はせ給ふゆゑ玉體には些も御障りなし每日朝飯は粥、晝晚は通常の御食事を召上らせ洋食海魚類は餘り御嗜好あらせられず鮎貝の類を重に用ひ給ふ御酒は御食事の折葡萄酒を少許用ひさせ日本酒は夜間寒氣の際偶に鴫、雉子などの付燒を盃に入れて夫れに酒を注ぎて用ひらるゝことあり東京には廣き御庭園あるも御散歩は頓と遊ばされず爲めに御運動の足らざる抔推察し奉ることもありしが御所の御庭園は別段御意に適はせ給ふにや折々侍從を伴はせ御散步あらせらる又　皇后陛下は恐れ多くも左のみ御肥滿と申すにあらねば　聖上とは反對に平常多く肉食を御勸め申上ぐる事なるが獸肉は餘り好ませ玉はずとも鳥肉は每日召し上られ御朝餐には牛乳三合宛を召さるゝのみにて他の御食用なし　兩陛下拜診の事は當番の侍醫が每朝伺ひ奉る例なるが　兩陛下共御入洛以來御適度の御運動を成させ玉ふが故か至極御健康に渡らせられ今日迄御藥餌を參らせたる事もなきは何よりの御事とこそ申すべけれ

●英國首相の書齋

英國首相バルフォア氏は非凡の讀書家として知られたる人なるが、此頃ロバート、マツクレーなる人、ウエスチングヘームに於ける同首相の書齋を見て其の參觀記をパル、マル雜誌に記して曰くバルフォア氏の書齋は圖書を以て溢れ、壁には列を爲し、机上には堆を爲

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

し。見るとして書籍ならざるは無し。バルフオア氏の椅子は煖爐室の右側にありて、最も手の屆き易き所には美裝せられたるルドヤード、キツプリングの著書置かれ、其傍には同じく美裝したるロバ、トールイステグエンソンの著書あり。其上には哲學宗敎等の問題に關する數部の書を置き、尙其上層にはバルザツク及びセント、ビユーヴの書あり、三四の書架に詩人の名篇傑作を載せたる外は、全書齋數百部の書は悉く哲學、科學、宗敎、其他嚴肅にして莊重なる問題に關せるものに非ざるは無しバルフオア氏が讀書の後に最も興味を感ずるはピアノにしてドーニング街に於ける氏の室にあると同樣の大ピヤノはまた氏の書齋にも備へつけあり云々と

●盲啞婦人の遊說

米國にてヘレン、ケロルといへば誰知らぬ者なき盲啞兼帶の名物女にして、五官中機能あるは嗅觸の兩官のみなる世にも稀なる不幸者なれども、或婦人の熱誠なる敎導によりて終に高等敎育を受くるまでに發達し、今や言語を發して他と談話するを得るに至りしが、頃日同病者を救濟せんとの志望よりして紐育州の敎育當局者間を遊說し、成年盲啞者の爲に職業學校を開設せしめんとて盡力中なりと云ふ、同人の主張する所をきゝしに、盲啞者の敎育としては高等なる學術を習得せしむる希望にあらざると勿論なれども、尠くとも彼等を自給獨立せしむるに必要なる敎育を授くるは國家當然の義務なるのみならず、盲啞者を自立せしめたる結果は國家が永久に彼等を扶助する勞を免がれ、且他國をして之に倣ふの善例を開くことゝなるべしと言へりしとぞ

●水口實業補習學校

同校は滋賀縣水口町外七ヶ村の學校組合立水口高等小學校に附設されたるものにして未だ眇然たる一初等敎

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

育の女學校に過ぎざれども學校の内容に就ては聊か注意すべきは同校の趣旨にもある如く女子の實務に必須なる裁縫及農業に要する智識技能を授くるを目的となすにあり。さればその課目中にも修身、國語其他課目の外に農業、裁縫、家事の項目を置き理論に走らず實地、練習應用を主とし勤勉、利用の習慣を養ひ以て他日居家處世上日常生活に就て誤りなからしめんと期するにありといふ、修業年限は三ヶ年にして卒業すれば直ちに地方中等程度の家婦として差支なかるべければ、目下我國地方の現狀よりして追々此種の學校の設立を見るに至るべしといふ。

●瑞典婦人の櫻花拜觀

瑞典國のウヰンクレルフエルト女史は單獨にて世界漫遊を試みんとし、其の途次我邦に立寄られしが先頃濱離宮の櫻花拜觀を差許されたるに付宮内省式部官の案内に依り御苑内各所を縱覽し非常に其雅致と美術的神髓の自ら具備したる偉態を稱贊し本國有名の風景も遂に斯る苑囿には企て及ぶ可らずと迄嘆美したる由なるが汐見の御茶屋より中島の御茶屋に入り恩地式部官より茶菓を饗せられたる時徐ろに喫茶しながら倚口を極めて日本の風景と庭園の美とを賞したりといふ

●日比谷公園の花卉

日比谷公園は愈々來る六月上旬を以て開園と決定せしに付其準備として昨今種々の花木を栽培しつゝあり氣候につれて蕾を持ち蕾破れて開き出でたるもの常磐なす木々の間に點々として色を競ひ香をたゝかはせて頗る美事なり其の茶卉の重なるものは白木蓮、椿、櫻、山株梗、土佐みづき、いすらうめ、萬作、ぼけ、三叉、夷辛、千汐の紅葉、神丁木等にて是よりは追々くさぐ〵の花も咲き出づべしとなり

●東京教育博物館の近況

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

同館三十五年度來の來觀人員は總計六萬五千八百人にして獨逸國より購入陳列せし天文、地文、氣象等に關する標本、掲圖類は本邦に於て未だ多く見ざる處のものありと該學を研究する者或は之を模造して該學教授の料に供せんとするものは之を觀覽するの價値あるべし其の内の二三を擧ぐれば一軸にして天球儀、地球儀の基を兼用するものあり月球模形の如きは半面には凹凸狀を示し他の半面には其の形狀を印刷して名稱を付せしものあり又硝子球を以て天球の諸圈を示すものもあり、人種掲圖の如きは其の圖書大なるが故に普通の教場は素より七八間を隔つる大講堂と雖も鮮明に之を睹得べしとなり

●東京高等女學校開校式

芝區三田四國町二番地元水産講習所跡に創立せる東京高等女學校は工事略落成し去る四月十九日開校式を擧行せり來賓は麻布、芝、京橋三區の學務委員、名譽職學校長等男女無慮百五十餘名にて先づ設立者總代文學士棚橋一郎氏の報告挨拶あり、君ヶ代の唱歌、勅語奉讀等形の如く終りて校長棚橋絢子氏教育方針につき一場の演説あり次で校長補佐小川直子女子高等師範學校教授野口保興、第二高等女學校長林吾一、三輪田眞佐子、星松三郎諸氏の祝詞、演説ありて唱歌（金剛石）を以て式全く終り式後庭前に於て一同撮影し別席にて立食の饗應あり頗る盛會なりし

●外國語學校の講演會

去月廿五日夜高等商業學校の講堂に開かれたる外國語學校第四回談演會は近來此種の催ふし中比類なき盛會にて來會者凡三千人に上りさしもに廣き大講堂も場内立錐の地なく、多數の來會者は廊下に立縮みの有樣なりしが、扨て講演は道具立衣裳等いづれも念入にして中には隨分大仕掛のものもありし。就中所作事の尤も面白かりしは英語科の「夏の夜の夢」西語科の僞醫者

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

にじて清語科の「龍頭蛇尾」は容儀、服装等よく似合ひて、宛然支那人の世態を見るが如くに思はしめたり、又獨逸語の「メッシナの花嫁」は頗る大仕掛にして衣装道具立燦然として人目を眩するばかり當夜の大喝采なりし、扨て全体の語調に就ていへば孰れの語も邦語の發音を免がれず且つ多くは暗誦的にして活勢的ならざりしは未だ練習の足らざりし故ならん歟

●第三回女子美術展覧會

日本女子美術協會第三回展覧會は目下上野の第五號館に開かる、今回の出品は女子美術學校、帝國女學校、婦女技藝專修黌、婦人奬勵會、青山技藝學校等より集めたるものにて、其の種類は繪畫の外に刺繍、押繪、生花、造花、編物等あり、先づ日本畫の部に於ては香稻女史の「猛虎」、大岡豊子の「芙蓉小禽の圖」中井玉秀の「春の夜」等評判好く、長谷川春景の「藤花流水」河崎喜久子の「初音」共に優美の佳作、其他村田長子の「業平」小耕女の「嫦娥」高橋和香の「櫻」など亦た見るべし、次に油畫の方にては女子美術學校出品の「郊外の河畔」「鐘樓」の二種は目に立つ出來、玉置茂登子の「夏木立」「晩秋」亦た上作なり、是等を通覧しもてゆくに女子美術界の技倆年を逐ふて進歩し、漸次發達の域に入りつゝあるは誠に喜ばしき傾向なり、以上の外造花の部に在つては婦女技藝專修黌出品の「薔薇と櫻の投入」頗る精好を極め、刺繍にては鈴木ときわの「鯉」岡田ゑいの「鷺叢」の二種最も出來宜しく、編物に於ては婦人奬勵會の出品に係る涎掛は紅白の毛糸を以て庭草を擬したる意匠一寸新らしき趣向なり、此外に尚は生花あり、押畫あり、書あり、女子の美術にはいろ／＼の物がある丈、其丈面白く、見る目に飽きの來ざるは何よりなりし。

●女子同情會の近事

昨年八月中板垣伯夫人絹子氏の設立せし京橋區築地の

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

女子同情會は慈善救濟等の事業に盡力し實蹟の見るべきもの少からず曾て同會員四五名の者市ヶ谷監獄を見舞ひし折、長野縣富縣村の者にて吉澤ハルといへる婦人が毆打犯にて重禁錮九ヶ月に處せられ其の長女ハツといふ三才の乳呑子を携へて入獄し居るを見出しいとも不便のことに思ひ遂にハツを引取り神奈川縣保育會にて養育なし居りし處先頃母のハルは出獄する事となりしかば夫人絹子は會員三名と共に監獄に出頭して引渡したるよりハルの喜び譬ふるに物なく、世にも慈情ある人々の親切を謝し、感涙に咽びたりといふ

●嘉すべき哉キルギス人の女

學問美術及び一般の殖産工業の未開の地において、全世界の文明國に向つて誇るに足る女子わらんとは、我が女子教育家の宜しく參考とすべき事なり、北部トルキスタンの遊牧民として折々本欄に其名を表はすキルギス人の女は既に古代より歐洲に向つて美名を輝かせり、既にローマの詩人ホーマーがキルギス人の女と題して歌ひたる詩はローマを出で近國に入りて今尚存せり、今彼の女の美德たる點を擧ぐれば日常の生活飲食衣服を調製する傍ら朝にて家を疊みて夕には之を建つる等、其多務なる事殆ど忙殺さるゝ有樣なれども彼等は露之を厭ふ所なくして事を整頓せしめ、裁縫及び刺繡に巧みなること世界に多く其類を見ず氣性において頗る鋭利なる所あり、男子に對しては最も從順にして男子の業務たるべき家畜に飼料を與ふる事は半ば之を助くる等彼等は男子に對する女子の本分に於て最も完全なるのみならず、男子としても立派なる性質を具へ居るなり、知能稍啓發し得たりと雖も實際において各々取るに足らざる何處かの婦女子諸君は彼等に對して人に愧る所ありて可なり、因に云ふ彼等の容貌は凜然たる所ありて而も美なるもの多しと、キルギス人は一夫多妻にして少なきも二妻多きは七八妻を有すれども嫉妬の事あるもの極めて稀也といふ、嗚呼羨むべき女なる哉

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

裁縫實習

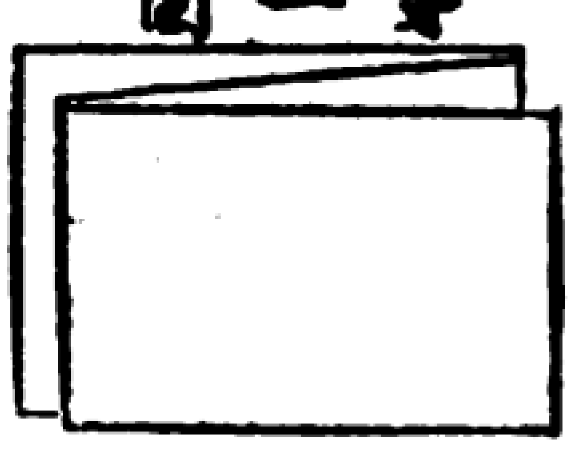
●三つ身片面の裁方

女子高等裁縫學院長　小出新次郎

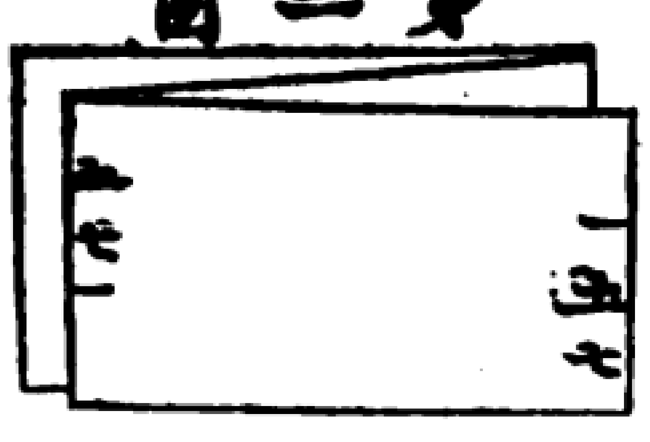
さあ皆さん今日は三つ身片面の裁方及應用方法を教授致しますよ此の片面の裁方をば俗に車たちと申しますが誠に重寶の裁方でありますから一つ此の雛尺を鯨の一尺さしだと思て此の雛尺で一尺巾に長さ一丈四尺だけ新聞紙でもはりつないで試みに我が今説明する方法で裁切て見て下さい

假令ば尺巾の布一丈四尺と見て其の内袖丈を一尺四寸宛四倍とり殘りの布を第一圖の如く横に三つ折にして正敷をき夫れより下の如き算式を採て見て左右の切込をいくらしてよいかを知るのである併し此の算式たけではまだ不完全でありますから何故斯樣の算式によらねばならぬかを一寸説明しますが先づ此三つ身片面をたつ時は第一に布巾がいくらあるかを當て見て尺巾なれば一寸四分とか九寸巾なれば一寸二分とか夫々自分の考へだけの衿肩を定めそして第一に布巾より衿肩いくら〳〵を引きそして殘りを二つに割て見ると前巾がでる其の前巾に先の衿肩の寸法を加ふれば後巾が出るのである今假りに上の圖に基て算術を採て見ようなれば此の布巾が一尺であるそこで衿肩を一寸四分と定めて夫れを引き殘りを二つに割れば前巾四寸三分と出る夫れに先の衿肩の一寸四分を加ふれば後巾が五寸七分となる故に第二圖の如く左の向ふより手前へ五寸七分又右の手前より向へ五寸七分と箆を附けそして第三圖の如く左の向ふより五寸七分切込又右の手前より向の五寸七分の箆まで切込

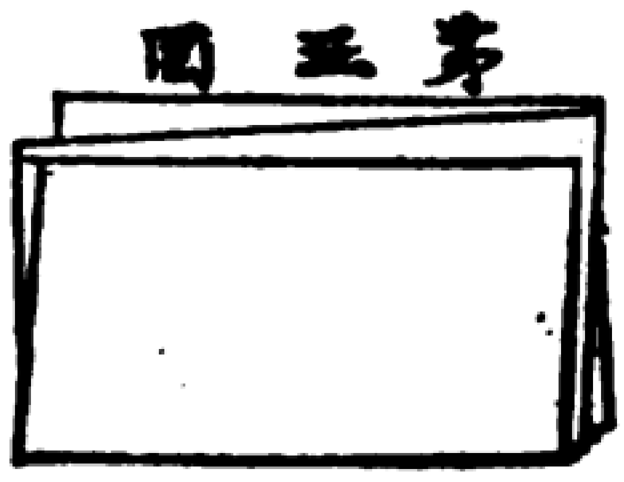
第一圖



第二圖



第三圖

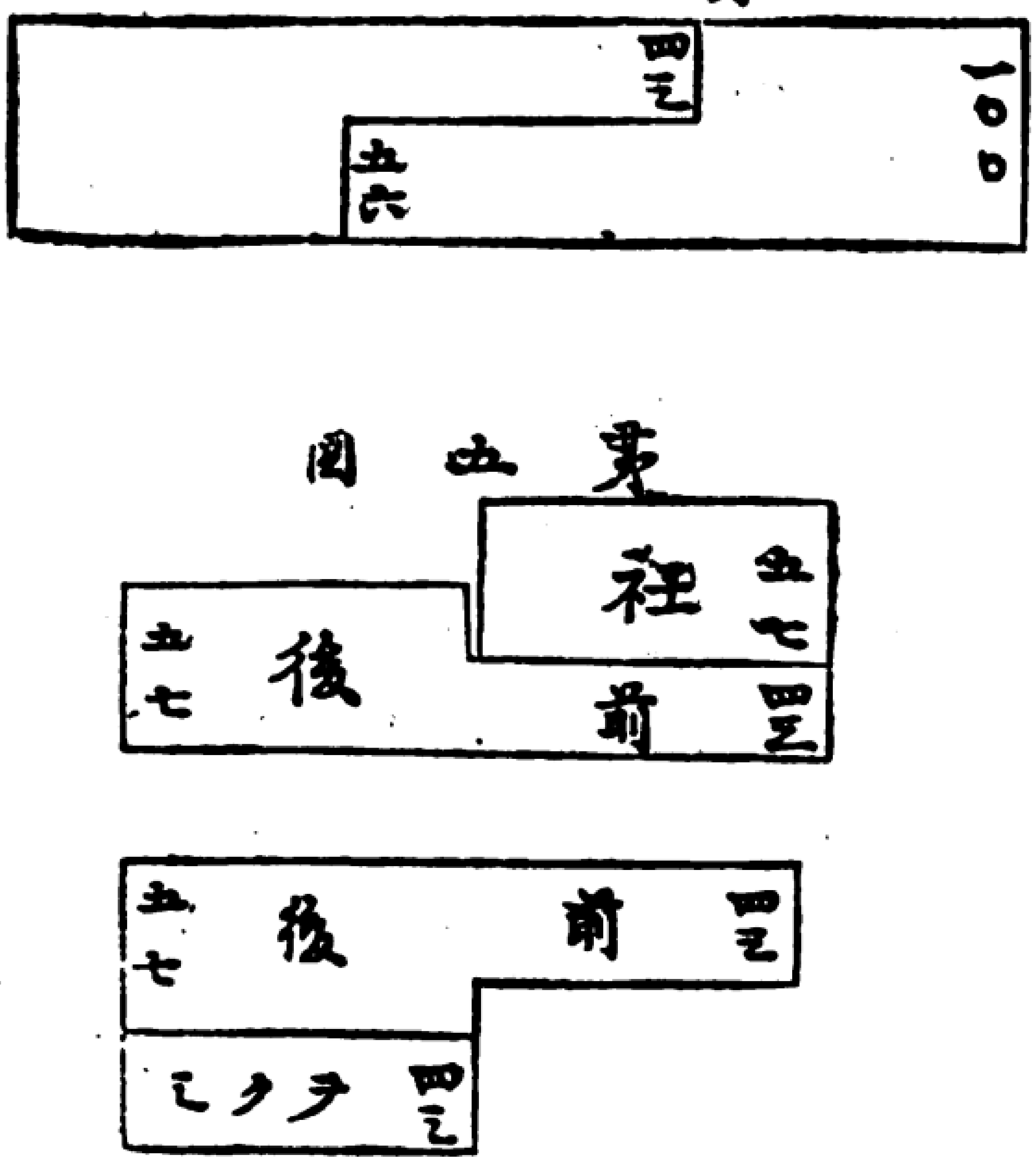


Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

夫れより第四圖の如くにひらき左の切込より眞すぐに縱をさきそして第五圖の如く右にある後巾のきまりし方に續きをる一と巾の處より前巾を四寸三分と極め縱にさき又左にある前巾の極り居る方の續きにて後巾を極め夫れより裁切り兩身頃として殘り四寸巾以上のもの二枚を衽とするのである

第四圖

第五圖



次に袖巾を七寸又は七寸五分巾に狹き殘の二寸五六分巾のものを袖とするのである、そこで何故布巾より衿肩を引きて殘を二つに割り又衿肩を加ふるのであるかと云ふに布巾の如何を問ず始めより後巾をきめをく時は或る時は衿肩のみ廣くして前身が非常にせまく又或る時は前巾のみ廣くして後巾が意外にせまくなるなぞ種々の弊害を生ずるものである故に前項の算式により布巾の廣きものは其の割合又狹きものは其の割合に衿肩の加減をして後前の差を割り出して裁切る時はいつもながら誠につり合よき裁方になるものなれば必ず前項の方法によりて片面の裁方を爲されたきものである

●一つ身單衣

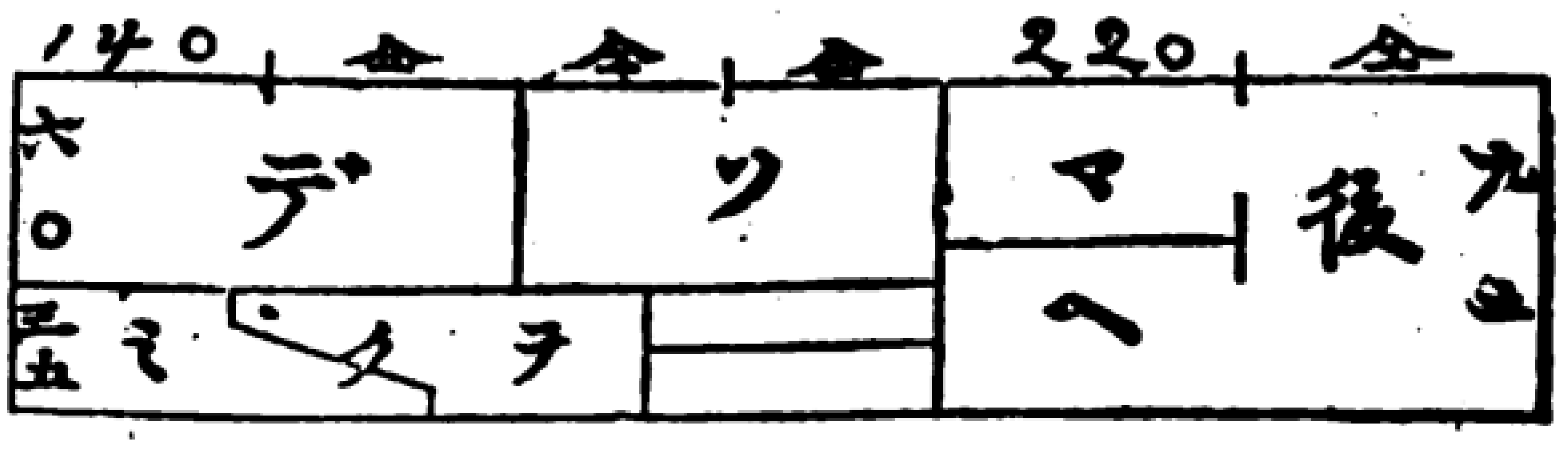
次は一つ身の裁方及縫方であるが斯樣の事は何人もよく承知して居らるゝ事柄には相違なきが併しながら其の方法も種々ありて多少製作上巧拙の關係をも生ずるものでもあり就中人々に敎ゆる責任ある敎師諸君なぞに至りては總ての秩序方法等整頓して居る樣でなくし

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ては授業上甚だ不利益の事のみ多きものなれば易き事とて輕々に看過せず一應よく其の利害を探究せられたきものである

▲一つ身單衣積り方

並巾用布一丈を以て袖丈一尺四寸裁切の一つ身を裁つのには身丈何寸の裁切になるか



用布1000－袖丈140＋4÷2＝身丈220

▲同裁方

裁方は先づ袖を袖丈の四倍とり其の袖巾を六寸巾にさき殘り三寸五分巾の布を以て衿衽とするのであるそこで衽は身丈の一倍半とりて鈎衽と爲し殘りを縦に二つにさき山はぎして衿とするのである又身頃は一たん縦に二つに折り尚は横に二つに折り横の輪は左に縦の輪は手前にして正敷をき夫れより左の手前なる横の輪の處にて衿肩を一寸切込みそれより手前の下なる縦の輪をさき前身とするのである

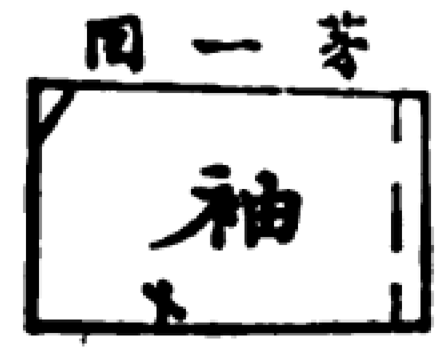
▲同箆附

箆附は先づ袖を外表に一枚づゝ正敷をり第一圖の如くおきそれより袖丈を一ぱいに計り一たん布曲りを正しそれより右の布はしの向ふ前にて二度縫代五分として箆印をつけ次に左の向ふにて袖附四寸と箆をつけ次に左の輪の方に山箆を附けるのである又袖口裂の附く時は第二圖の如く袖口きれの方を一分去らして袖用布の上に乘せて箆附をするのである

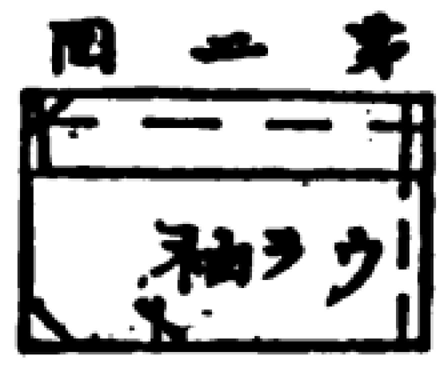
次は身頃であるが身頃の箆附に係る時は第三圖の如く縦の輪を上に衿肩の切込を左の手前にして正敷をき夫れより一たん身丈を一ぱいに計り裾の曲りを正しそれより裾くけ代五分と箆印をつけ

次に左の向ふにて袖附四寸又其の箆よ

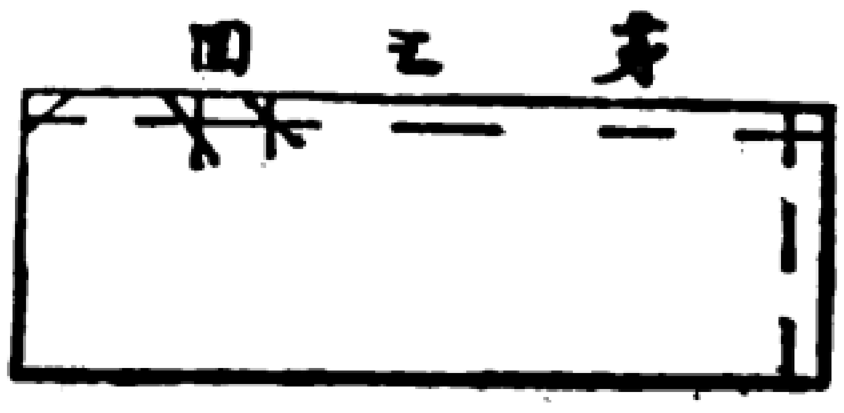
第一圖



第二圖

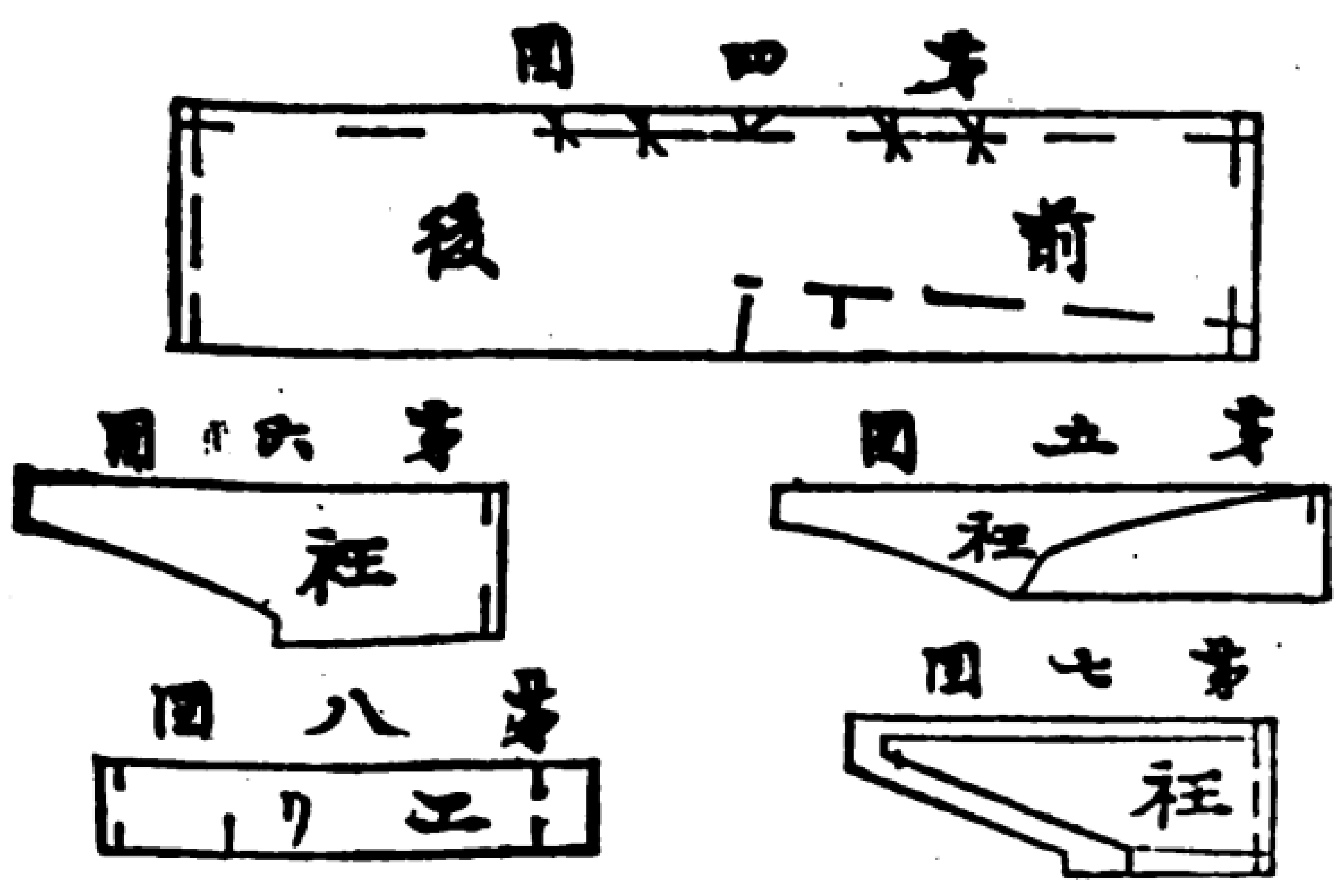


第三圖



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

り下八つ二寸五分と箆をつけ夫れより後巾を布一ぱいにきめ箆印をつけ又左の向ふにて山箆をつけ夫れより後身を左へ除き前身の方へ第四圖の如く一ぱいに衽下り二寸五分の箆をつけ次に前巾を一ぱいに極め又下八つの處にて四分つめとし又衿肩の處にて切込より一分内に縫代の箆をつけ夫れより衽の箆附に移るのであるが先づ衽きれ二枚を中表に重ね第五第六圖の如くにして布曲りを正し夫れより第七圖の如く衽巾を三分位ひのくけ代にして巾一ぱいにきめ夫れより裙くけ代を五分とつけ次に衽丈をきめるのであるが衽丈をきめるには裾より一たん身丈を計り其の内衽下りを引きたる處に劍先の箆印を附けるのである



次は衿丈のきめ方であるが衿丈をきめるには先づ衽下り二寸五分に衿肩一寸廻し二分を加へたる尺度の目を衽劍先の箆にあてそして左の尺度の端しより裙下まで尺度の目を數へたるものが衿丈ある尚は眞の衿丈は其の總尺の内より一分を引きたるものが眞の衿丈である故に衿布には第八圖の如く山はぎのへら及衿丈劍先相箆三寸七分等三ヶ所の箆印をつけるのである

▲同縫方

縫方は先づ兩袖を造り次に兩脇を縫ひ折目は前身の方へ返し次に衽を附け折りは衽の方へ返し夫れより裙下をくけ裾をくけ衿を附け衿先を縫ひ裏にてくけ夫れより袖を附けるのである

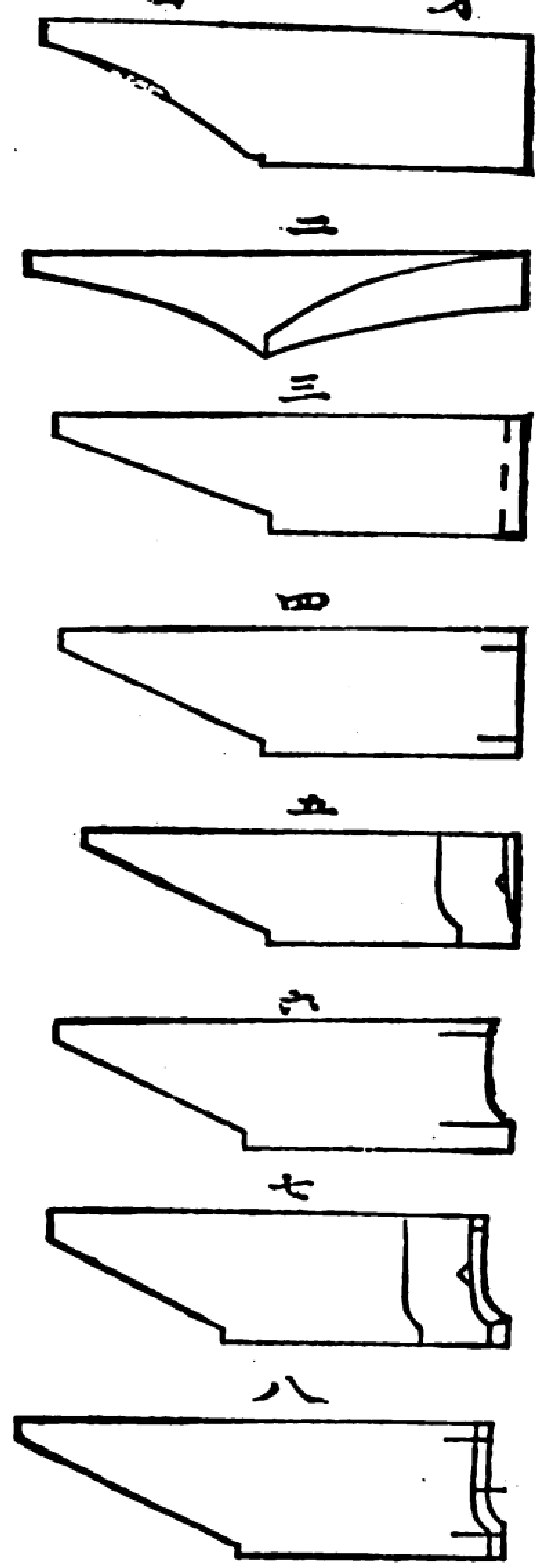
◉流義改良の必要

流義改良の必要については既に前號に記述せし通りの次第ゆゑ毎號少しづゝ記述して讀者諸君の參考に供する考へである因て這回は裙の造り方に附て聊か述ぶる

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

事に致さうと思ふ元來此の裙と言ふものはなか／＼造行にくいものであつて又誠に人の目に附き易き處である然れば斯道に熱心なる婦女子方は餘程心して考究せられたきものである此の造り方も種々ありて實に千差萬別であるが歸着する處は例の外輕内輕の差を明にして裏表の割合を立て表裙の方に於て袵の二分の一切下をする方の派と又更に其れ等の事に頓着せず表裙の方は其の儘にして裏裙の方のみにて無理やりに裙先の完りを造る派との二派に歸着するのであるが是れも慥に表の切下を爲す方が理法に叶ふて居るのである是等の事は論より證據試みに五寸四方位の布四枚を以て各裏表として二種の裙部分縫を試みせらるれば目前に其の利害を解決する事が出來るのであるが表裙に切下をせざる方に比して其の出來ばへと云ひ造りよき加減と云ひ殆んど霄壤の差である然れば一般の婦女子方に於ても充分其利害を考究せられたきものであるがとり分け裁縫教授を以て自から任ずる教員諸師の如きは又一層此の點に留意せられたきものである因ては吾が從來の主義により て茲に其の方法を記述して諸師の御參考に供す積りである

第一圖

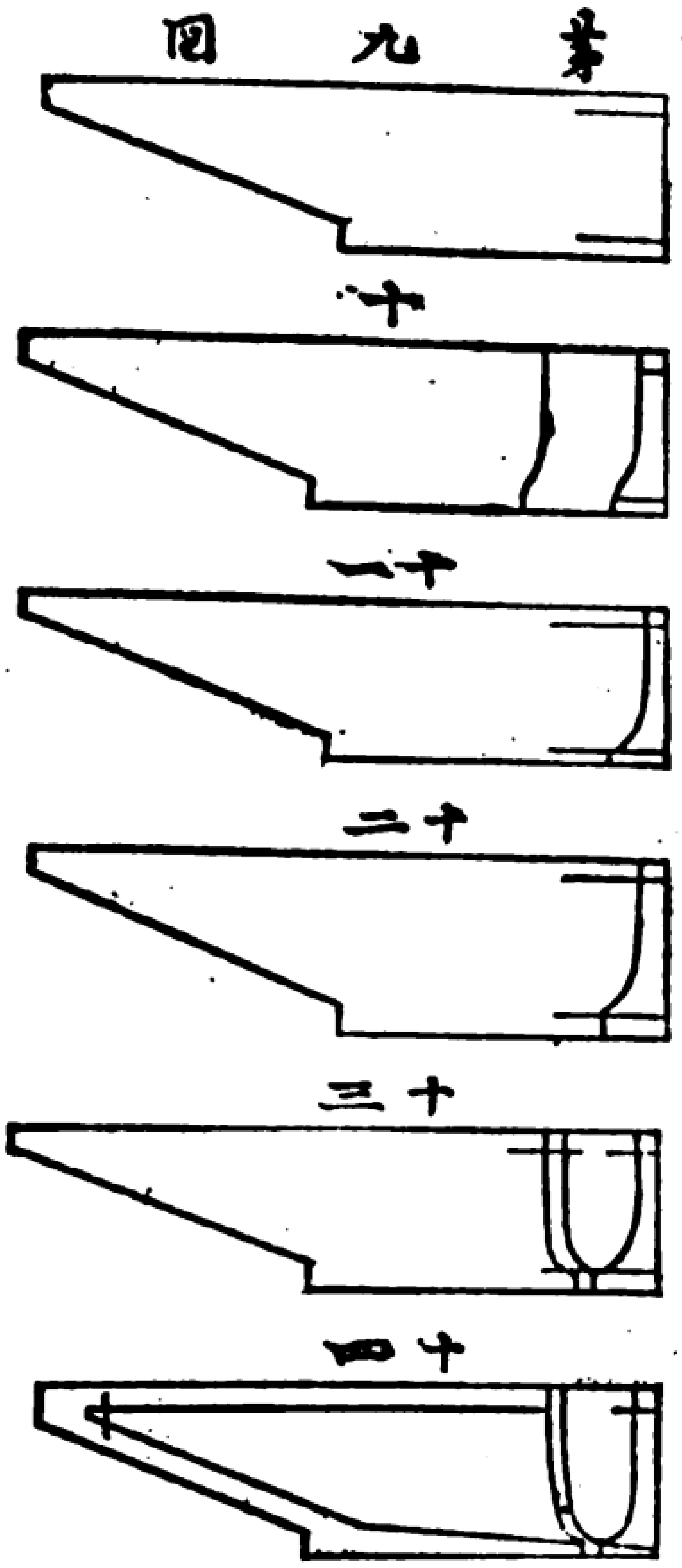


▲裙形使用法

先づ第一圖の如く表衽二枚を重ね鈎を手前にして正敷置次に第二圖の如く右の裙先の方一尺程縱に二つに折り布端しに關らず向ふの四枚になりし處の耳を揃へ右

Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

の向ふの端にて四枚の内短きを定木に鳥渡篦をつけ更に引返す時は第三圖の如く右の向ふ前に篦印が着き居るのである因て其の向ふ前の篦を定木に物指を當て引篦をつけ其の篦より裁ち切るのである之れ布曲りを正すの方法である次に第四圖の如く今布曲りを正せしの布の右の布端にて衽巾を極め向ふ前に巾の篦をするのである次は第五圖の如く裙形を當て表て切り下げの篦印をつけ其の篦より裁ち切り第六圖の如くにして次は第七圖の如く再び裙形を當て纏たいの篦をつけ且切り込の處にていせ込の篦印をつけ第八圖の如くにするのである次は裏衽二枚を中表に重ね前同樣の方法にて布曲りを正敷してそれより第九圖の如く衽巾の篦を向前につけるのである

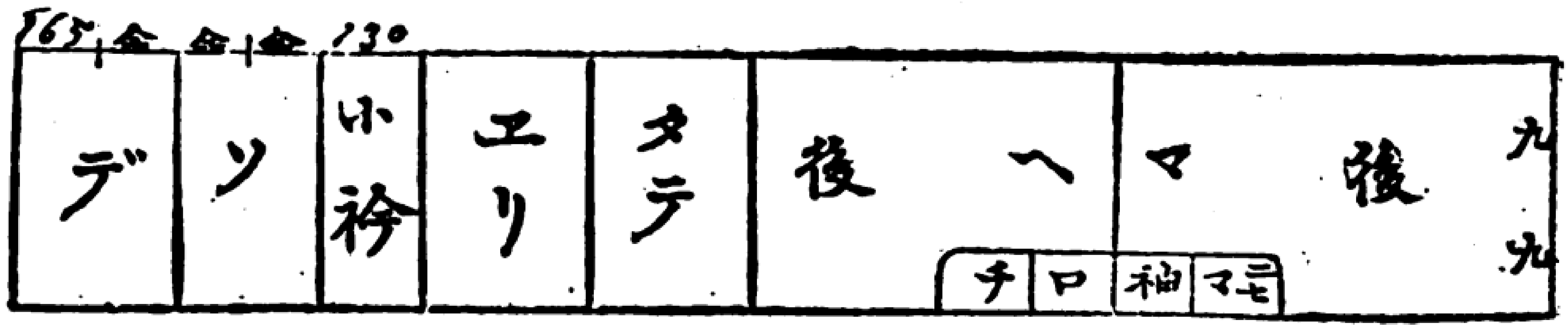


次は第十圖の如く裏裙形の切込の處を手前なる衽巾の篦に當て裙なりの篦をつけ第十一圖の如くにするのである

▲注意

前項の篦附を終りたる後ち衽全體の篦付を爲さんとするには先づ第十二圖の如く向の處にて（三分ふきなれば六分）（五分ふきなれば一寸）と云ふが如く總て諸の縫代よりふきの二倍の寸法に篦印をつけそれより第十三圖の如く表裙先の篦と篦とを合せ針を刺し次に向のふきの二倍の篦と表衽の縫代の篦と合せ針を刺し次に第十四圖の如く衽全體の布を正敷して衽丈を計り剣先の篦印をつけ次に裙下のへらをつけそれより圖の如く剣先にて一分明きを見て全體へ篦印をつけます但引篦を付るのも一寸々々篦をつけるのも隨意です

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



表用布　袖丈　小衿　下の縫代　定

$$2800-(165\times 8+130+210+120)+12=$$

●試験問題

(1)並巾の表地一反（二丈八尺）と裏地一丈三尺を以て袖丈一尺六寸わがりの共小衿の被布を造らふと思ふのであるが身丈は何寸に出來上るで在らうか

裁方罫引及積り方の算式を示されたし

先づ表用布二丈八尺と置き更に袖丈を裏で表八倍して夫れに小衿一尺三寸と身比と竪衿との下りに竪衿と胸はぎとの縫代二尺一寸と定め即ち竪衿下り六寸の二ばい一尺二寸との三種を加へたるものとを表用の二丈八尺より減殘りを十に割れば身丈が出るのである

◎袖珍名著文庫　健全にして趣味ある文學的讀本を家庭に供給するの目的を以てす、體裁は袖珍的小册子なれど編か校訂共に注意の跡見ゆ、第一には芭蕉翁紀行傳及句集、第二に近松淨瑠璃三種を收め、前者は露伴、後者は篁村校訂なれば其價は言ふまでもなし（富山房）

◎家庭雜誌　家庭の新風味の著者堺枯川氏が獨力にて編輯するもの、社會主義を理想として、新らしき趣味を家庭に注入せんとする、好個の雜誌なり

◎家庭の友　婦人記者中の錚々たる羽仁もと子が、其の良人と共に協力編輯するもの、家庭實際の問題を研究するに務め、家庭改良の實効を收むる上に多大の貢献あるべし（内外出版協會）

◎米國教育制度　著者納富忠一氏が米國留學中に於て取調べたる同國學校制度を編述せるもの我邦教育家の參考に供すべく又留學生の案内書ともなるべし（丸善發賣）

◎悲劇詩パリシナ　此の一篇はバイロンの悲劇詩パリシナをバイロン傳の著者木村鷹太郎氏か邦文に譯出したるものなり原詩と譯文とを併せ載せて、對照に便にしたれば、英文研究者の資料に適す

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

次號記事豫告

（第三卷第七號六月五日發行）

每月五日發行

定價表

一册（紙數二百八頁）	金二十錢
四册（三ヶ月分）	前金七十五錢
八册（半ヶ年分）	前金一圓四十五錢
十六册（一ヶ年分）	前金二圓八十錢

内｛定刊數……十二册　增刊四回……三、六、九、十一月價格同一

郵稅　一册　二錢

廣告料

	二十四字詰一行	半頁（卅二行）	一頁（六十四行）
特等			割引三十三圓
一等	四十四錢	十四圓〇八錢	割引二十七圓
二等	三十六錢	十一圓五十二錢	割引二十二圓
三等	二十九錢	九圓二十八錢	割引十八圓

▲等級の位置〆切日等御照會次第御報可致候

注文規署

●本館發行の圖書は都て前金の外送本せず。
●御拂込の前金相切れ候節は送本を停止す。
●郵劵代用は一割增にて五厘一錢の切手に限る。
●總目錄御入用の方は二錢劵相添申込あれ。

不許複製

明治三十六年五月五日發行　第參卷第六號

編輯兼發行人　松原岩五郎
印刷人　水谷景長
印刷所　東京市小石川區久堅町百〇八番地　合資會社博進社工場
發行所　東京市日本橋區本町三丁目　博文館

電話本局　三百三番　千八十八番　二千六百二十番

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

自治機關

公民之友

第壹卷第四號

四月十五日發行

發兌元 博文館

正價一冊十二錢三冊三十五錢六冊六十七錢

十二冊壹圓卅錢增刊一回一價四冊分郵稅壹錢五厘

Digitized by Google

Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

發兌元

新刊圖書

帝國百科全書

仙臺醫學專門學校教授 須田勝三郎先生纂著

（製本既成）

衞生化學

全壹冊洋裝
紙數三百餘頁

一名 飲食物嗜好物日用品檢查法

上製五十錢 郵税十錢
並製卅五錢 郵税八錢

本書は教授が歐英の諸書を參考し多年の經驗により本邦及歐米の飲食物、嗜好物、日用品の性質製法、試驗法、鑑定法を纂著したるものにして特に從來刊行の衞生試驗書には本邦固有の飲食物を記載するものなきを慨し其歷史、製法性質、試驗鑑定法を詳述したるは最も本書の特色とする所なり且又普通の衞生試驗書に記載せざる鑛泉分析法檢尿法をも詳述したるは衞生試驗に從事するもの丶最も便とする所なり醫學家、藥學家、藥業家、衞生行政官、税務監督局技術官科學擔當教育家は勿論苟も衞生の必要を知了せんとする諸君には坐右缺くべからざる珍寶なり

工業叢書

工學士 伍堂卓雄君著

（製本既成）

工業用金屬材料學

全壹冊

洋裝上製
正價六十錢
郵税八錢

目次

第壹章●金屬及其分類……
第貳章●各種金屬の特別なる性質……
第三章●合金一般の製造及性質……
第四章●工業用必要なる合金……
第五章●金屬及合金の鑄物……
第六章●金屬及合金の鎔解……
第七章●器械的作業に由り金屬及合金の性質改良……
第八章●鍛造……
第九章●金屬及合金の接合法……
第十章●金屬面の洗滌及蝕鏤法……
第十一章●ブリキ板及被亞鉛線……
第十二章●合金の成分及金屬中の不純物撿定法……

出來廣告　博文館

商業叢書

理學士藤田外次郎先生著

商業數學

全壹册洋裝　紙數三百余頁

正價 ●上製金七十錢……郵税金拾貳錢
　　 ●並製金五十五錢……郵税金拾錢

普通教育の發達に伴ひ商業算術に關する著書も亦少からず されど其多くは唯單に計算應用に外ならずして其理論の湧出する本原を討究せるもの絶無と稱するも可なり 故に苟も商業に從事し單獨に研究せんと思ふ士に向て能く大要を了解せしむるの良書なき豈に商業の進歩上深く嘆ずべき事ならずや 理學士藤田先生玆に憂ふる所ありて專門を研究せられ、側英を拔き華を摘み煩に走らず冗に失せず能く其綱要を點綴して大成せられたるものは實に本書即ち是なり商業學校に於ける無二の好參考書にして商業算術の指針たるもの本書を措きて又何れにかあらん

工業叢書

法學士佐藤八百巖　工學士河合勇君　著

（製本既成）

工業經濟

全壹册　洋裝上製　正價五十五錢　郵税八錢

夫れ工業は生産業の一にして國民經濟の最要部を形成するは何人も疑はざる處其之れに關聯して發生する問題は蓋し一にして足らざるなり 國家は世上に喧傳せらるゝ勞働者問題を如何に解決すべきか工業教育のこと博覽會開設のこと其他工業の保護奬勵に對して執るべき政策と其經營施設は如何にすべきか私人が工業を營まんとするに當りては個人組織會社組織組合組織中其何れの企業組織によるを以て最も有理なりとする乎殊に會社に就ては合名合資株式株式合資の四社の中 何れを以て優れりとするか其各自の利害得失は如何其他物價貸銀金利營業所得税營業税等の工業經營との關係トラスト 外資輸入工業立國の利害工場法制の如き一として重要ならざるなし以上諸種の問題に對して簡單明瞭の解答を與ふるもの之を本書の特色とす高願の士一讀眞價を知られよ

（後付の三）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

新刊出來

東京帝國大學
法科大學敎授　法學博士　小野塚喜平治先生著

政治學大綱

近時人口を開き筆を執れば乃ち國家社會國體政策內閣議會立憲制等の諸語頻なり然れども其明なる觀念に至りては之れを有する者甚だ鮮少なり是れ主として政治學の發達尚幼弱にして世に未だ良書の出版なきによれり著者曩に大學院にありて政治學を專攻し又官命を奉じて歐洲に留學すること數年歸來東京帝國大學に於て政治學講座を擔任し敎鞭を執らるゝの傍ら世に斯學の良書なきを慨し遂に其大要を著はし以て讀者をして建全なる政治思想を養はしめらる說述簡明懇到近時其比を見ざるの良書なり諸子一本を机上に備へられよ

全部貳册　上卷出來
正價金五十錢
郵稅金六錢

巖谷小波山人著

小波洋行土產

（洋裝上製裝幀意匠斬新優美）

著者が先に伯林大學の招聘を機として、椽大の提げ、遠く獨乙國に遊びしことは世の遍ねく知る所なり。此度新たに歸朝して、齎す所、果して何物ぞ？只見る洋行土產一部二卷、著者が彼地に往來せる、前後二年間、其の鷹の眼に映し其兎耳に觸れしもの、網羅して此裡に蒐せり。彼地に於ける最新式の体裁に鑑みて、意匠を凝らし、裝飾を極め善盡し、美盡す。正に是れ錦上花を添へ、珍器佳肴を盛るの觀あり。世人一たび之を繙かしか、居ながらにして海外の事情に通じ世界の風土を察するを得ん。

全部貳册　上卷出來
正價金一圓廿錢
郵稅金十二錢

發兌元　東京市日本橋區

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

圖書廣告

農學士東條秀吉序文
東京農學園主江原春夢君著（製本既成）

果樹草花 盆栽庭造
續園藝全書

全壹冊洋裝
紙數四百餘頁
正價六十錢
郵稅十錢

曩に園藝全書は上梓して世の好評を博し旬月ならずして數版を重ねたり而して前編は專ら露地（花壇園圃山野）培養を主述せしを以て本篇には盆栽培養法を專敍せり記する所理論を畧して實地經驗の栽培法に則り簡明通俗の文を以て巨多の密圖を挿入し以て前書の闕を補ふ前後併用始めて園藝の妙技に精通するを得べし請ふ陸續御愛讀あらん事を

農學士井上正賀君著（製本既成）

通俗農藝文庫第四編
土壤編

全洋冊洋裝
正價貳拾錢
郵稅四錢

土壤は植物の住宅にして又食物を貯藏するの倉庫なり其土質の作用如何は直に植物の盛衰に關すると言を待たず本書農藝文庫の第四編として刊す文章平易說述懇倒蓋し富國の本源を指示せしものといふべし請ふ精讀あれ

本町三丁目 博文館

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

坪谷水哉君著

日本女禮式大全

●蒔繪函入壹圓小包四百匁
●洋裝上製七十五錢郵税十六錢

本書が世の良妻賢母の友として女學生の良師友として歡迎せられ版を重ぬる十數版に至る著者は玆に更に全文を修訂して益々日本女子の淑德修養に貢献せんとし増訂成る女子の必讀書なり

中島義弌君著

新撰小學女禮式

代價二十五錢郵税六錢

世の開明に連れ時の文化に伴ふて淑女の禮風又改善の域に進まさるべからず中島氏本書を著はして婦女家庭の要義たる禮式を新撰し以て女教の軌範を網羅せり貴女令孃には素より家庭に欠くべからざる禮書なり

下田歌子女史著

女子普通禮式

正價三十五錢郵税八錢

本邦の禮法古式舊格に泥みて實踐に適切ならず故に其之を知るの必要を口にするも其何によりて學ふへきかに惑ふ本書古今東西に適して目下行はるゝ所の者を應用し其注意の要點を指示す

下田歌子女史著

料理手引草

●全壹冊 洋裝並製美本
●正價三拾五錢郵税八錢

本書先つ第一に衛生の注意經濟の注意鹽梅の注意外形の注意器具の注意飲料の撰ひ方食品の撰み方等に始まり献立に就ての心得本邦料理等に至りて委曲を盡して餘す所なし

大橋乙羽君著

和洋禮式

●全壹冊洋裝並製
●正價廿五錢郵税六錢

我國の禮法は治國齊家の基にして世人の須臾も忽にすべからざるものなり此書は冠婚葬祭の四禮は勿論座作行歩君臣父子兄弟朋友間の禮節に至る迄一として盡さゞるなし家庭に意を注く君子淑女是非愛讀あれ

藤本藤陰君著

實用料理法

正價二十五錢郵税六錢

實にして倹節なる主婦は最も料理に注意し價廉にして味ひよき食物を調ふべし此書は此等の人々の爲めに日本支那西洋三國に渉る最も簡便にして又最も實用に適する百般の調理法及献立等を詳記し日常必の需に應す

（後付の六）

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

長井金升君校訂

俗曲大全

正價金六十錢郵稅十六錢

本書は我邦に現存せるあらゆる俗曲を集大成して以て一巻に收む然れども義太夫の如き紙數の許さゞるが爲め其精華を撰拔し一中節河東節富本節園八節清元新内常盤津長唄等は例によりて最も趣味あるもののみ通人雅客の必讀書なり

佐々木孝吉君

西洋料理法

●全壹冊洋裝並製美本
●正價廿五錢郵稅八錢

著者は多年斯道に從事して其精を極めたるの人此書は何人と雖西洋料理の容易に割烹せらるゝ様簡明實用的に説明せられしもの世の交際家本書によらば勞少くして風味よき肉羔を調理するを得ん

博文館編輯局編纂

聲曲自在

●全壹冊 洋裝並製美本
●正價二十五錢郵稅六錢

歌謠聲曲は啻に咽喉に發達をよくして臟腑を整ふるに止まらず無限の趣味快樂あり今や有害の遊興は世に捨てられ其有益なるもの世に迎へられんとす本書は即ち之に應せんか爲めに出版せり

博文館編輯局編纂

茶の湯と生花

正價二十五錢郵稅六錢

斯書斯界の大家筆を執り普く古今の書籍を參酌して考證自在事理明瞭一度本書を讀む時は何人といへども師を求めずして自ら奥儀を究むるとを得べし實に紳士淑女の好師範たるに羞ぢざるの珍書なり

博文館編輯局編纂

琴曲獨稽古

正價二十五錢郵稅六錢

世界の風雅國たる日本第一の樂器は實に琴なり風調高邁音韻精妙最も餘情に富み和漢諸樂器の調一として之に應用せられざるなし此書は其獨習の秘法を平易親切に擧け初歩より其順序に由て助解す閨秀才女の必讀書

江刺家脇一君著

茶の湯大全

●全壹冊總クロース金字入
●實價六十錢郵稅八錢

本書は曩に茶道極傳書を著はし世の好評を博したる有名なる松風庵江刺家空齋宗匠の新編にして凡そ茶道に一切の手續及置合のこと挿圖して平易に詳記したるものなり故に斯道初歩の諸彥と雖も一讀して容易に獨修することを得べし實に古今未曾有の珍書なり

（後付の七）

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

▲寫眞口繪

○トラスト大王モルガン ○安田善次郎と其銀行及手蹟 ○大倉喜八郎氏と大倉商業學校及手蹟 ○東西の實業家 ○大阪造幣局長 ○米國の四大土木會長 ○日平銅山

▲記事要目

實業世界 太平洋

四月十日發行

發兌元 博文館

正價

●一冊金二十五錢●三冊金七十二錢●六冊金壹圓三十八錢●十二冊金貳圓六十五錢●郵稅一冊貳錢五厘要

(後付の八)

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

全世界唯一心臟病根治專門藥

動氣をしづめ數年痼疾の心臟病を根治す

心臟病の徴候

◉心臟病と云ふは心腔に痛ありて壓へらるよう覺え◉溜息すれば動氣高ぶり又は息切し◉胸内をしめるよう覺え◉胸苦しく常に動氣ありて時々息つまり物事に驚き易く又は癇高ふり眠りかね◉小便通じ少なく又は身体手足うきはれ顔色青白く痩衰へ◉俄に發熱又は惡氣立ち手足冷へ又は冷汗出で◉食物進まず身体に元氣なく氣鬱して物事にあき易き等の症候は總て心臟より來るものなれば一日も打捨置く時は不治の症に陷る事多し本劑心臟丸は右の諸症に用ひて効驗確著なる事保證す

Shinzogwan

心臟丸

藥價表

五日分 金三十錢
十日分 金五十錢
廿一日分 金壹圓
四十五日分 金貳圓
七十五日分 金參圓
百廿五日分 金五圓

全國有名藥店に販賣す◉本舖へ御注文は全國無遞送料

◀心臟丸は心臟病一切の專門藥にして百發百中殊に永年病苦に呻吟せし患者を救濟し其感謝禮狀を受くる數萬の多きに達せり是れ心臟丸特有の効にして滿天下唯一の良劑なり論より證據二三週分を試めし玉へ……◉心臟丸は心臟病を根治するのみならず能く肉を肥し身体を強健にし、精神を快活ならしめ、長壽を保全する空前無比の靈藥なり……

買方注意

藥は思ひ立た時に買へ
藥は高きものを買へ
藥は病の輕き時に買へ
藥は用方に注意せよ

丹平

本家 大阪心齋橋八幡筋南 電話特東九百〇一番 丹平商會本店
分店 大阪平野町堺筋北入 電話東千〇三十七番 丹平商會分店

女學世界
毎月壹回五日發行
第參卷第六號
(明治參拾六年五月五日發行)
(明治卅參年拾貳月廿五日第參種郵便物認可)



(定價金貳拾錢)

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

監修
小山静子　KOYAMA Shizuko
京都大学大学院教授

女学世界（じょがくせかい） 明治期復刻版⑲
明治36年4月（第3巻第5号）、5月（第3巻第6号）

2006年12月10日　第1刷発行　　定価（本体20,000円+税）

監　修　小山静子
発行者　富澤凡子
発行所　柏書房株式会社
東京都文京区本駒込1-13-14（〒113-0021）
電話　03-3947-8251［営業］03-3947-8254［編集］
協　力　株式会社博文館新社
印　刷　有限会社オンデマンドジャパン
製　本　有限会社青木製本

ISBN4-7601-3048-9　C3321

Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

B 1,682,108

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN